－茨城県常陸大宮市－

西塙遺跡発掘調査報告書

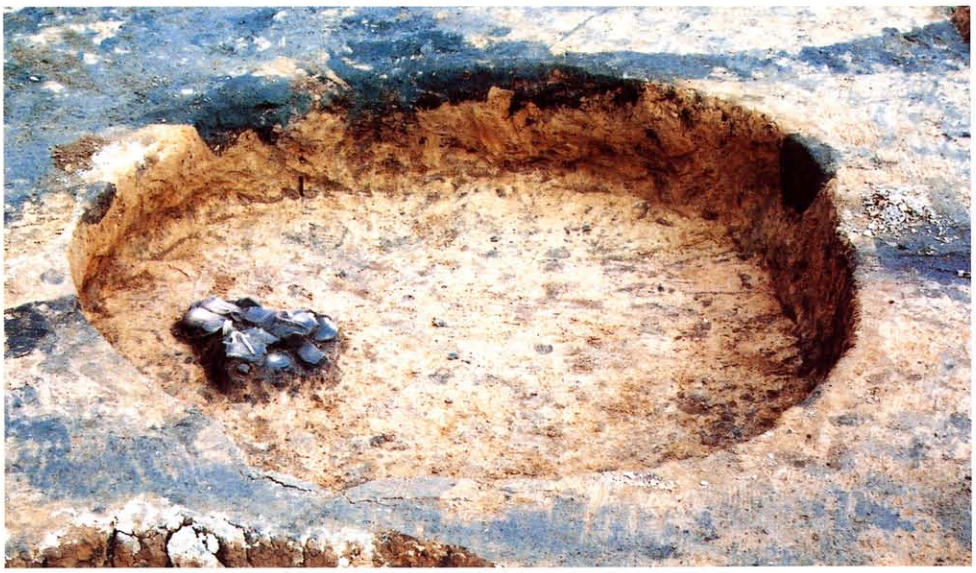
2009

常　陸　大　宮　市
常陸大宮市教育委員会
有限会社　日考研茨城

1. 調査区全景（北から）

2. 調査区全景（西から）

1. 有段竪穴SI06



2. 土坑SK61

3. 土坑SK61

土坑SK01(手前)

土坑SK01出土火炎土器

1

2

3

4

5

6

1. SK16
2. SK77
3. SK86
4. SK42
5. SK155
6. SK22

－茨城県常陸大宮市－

西塙遺跡発掘調査報告書

2009
常　陸　大　宮　市
常陸大宮市教育委員会
有限会社　日考研茨城

ごあいさつ

常陸大宮市は，茨城県の北西部，県都水戸から約20ｋｍの八溝山地及び阿武隈山地の南端と関東平野周縁大地北端の境界部に位置し，東に久慈川，南に那珂川，中央部に緒川，玉川が流れ，市の６割を山林が占めています。

久慈川と那珂川の二大河川の沿岸には，肥沃な土地が開け，豊かな自然に恵まれ古くから人々の生活の場となり，多くの歴史を重ねております。そのためこの地域には，古墳・塚・集落跡など多くの遺跡が存在しております。これらの遺跡は，当時の様子を知る手がかりとなることはもちろんのこと，現代の私たちが豊かに生活をすることができる先人の業績でもあります。

このような貴重な文化遺産を後世に伝えることは，私たちの大切な任務であり，郷土の発展のためにも貴重なことと考えております。

このたびの調査は，道路の拡幅事業に伴い，周知の遺跡である西塙遺跡の発掘調査による記録保存を目的に行ったものであります。遺跡内からは，有段竪穴建物・竪穴住居跡（縄文，平安）・土坑（縄文）・柱穴（縄文）・井戸跡（中世）・縄文土器（中期）・石器（縄文）・土師器（平安）・土師質土器（中世）などが多数検出されました。この調査報告によって地域の祖先の遺業をしのぶことができるとともに，文化財に対する意識がいっそう深まり，遺跡愛護の精神や郷土の文化を培う上で貴重な資料として役立てていただければ幸いであります。

最後になりますが，発掘調査にあたり格別のご指導を賜りました茨城県埋蔵文化財指導員の川崎純徳先生，そしてご協力いただきました地元の関係者，適正かつ慎重な調査をいただいた発掘業者 有限会社 日考研茨城様，各位に心から厚く感謝を申し上げます。

平成21年９月

茨城県常陸大宮市教育委員会

例　言

1．本書は、常陸大宮市の委託を受けて、常陸大宮市教育委員会の指導のもと、有限会社日考研茨城が行った、道路改良工事に伴う記録保存調査を目的とした発掘調査報告書である。

2．本書は、下記の遺跡を収録したものである。

本調査　西塙遺跡（にしはなわいせき）　茨城県常陸大宮市野口2011－8他　17筆

3．発掘調査の現地調査及び整理調査は、下記の期間に実施した。

本調査期間　平成21年２月12日～平成21年５月23日

整理調査　　平成21年６月１日～平成21年９月30日

4．発掘調査組織は下記の通りである。

調査担当者　　大渕　淳志[(有)日考研茨城]　現地

調査員　　遠藤　啓子[(有)日考研茨城]　現地・整理

現地調査作業員　小野豊、佐賀　実、塩澤和紀、相田三郎、露久保三郎、佐藤　實、戸村　均、谷中　昌、岡崎　稔、藤岡　勤、伏見公男、綿引昇市郎、友部政夫、緑川覚吾、沢田すみ江、西宮芳江、皆川典子、島崎清子、大谷和枝、菅原裕子、浜敏子

整理調査作業員　大渕由紀子・大野美佳[以上(有)日考研茨城]

事務局　　常陸大宮市教育委員会　(有)日考研茨城

5．本書の編集執筆は、小川和博、大渕淳志が行った。

6．本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

7．遺構の略称に使用した記号は以下の通りである。

竪穴住居跡・有段竪穴建物：ＳＩ　土坑：ＳＫ　　井戸跡：ＳＥ　　その他の遺構：ＳＸ

撹乱：Ｋ

8．本書中の色調に関する表現は新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修2000年版）に従った。

9．遺構および遺物の写真撮影は大渕淳志・小川和博が行った。

10．記録および出土遺物は、常陸大宮市教育委員会が保管している。

11．発掘調査および報告書の作成にあたり、以下の方々のご教示・ご高配を賜った。記して、深く謝意を表す次第です。（敬称略・順不同）

茨城県教育委員会、取手市埋蔵文化財センター、川崎純徳、瓦吹　堅、宮内良隆　川口武彦

本　文　目　次

ごあいさつ

例言

第Ⅰ章　調査の経緯と経過 …… 1

第１節　調査に至る経緯 …… 1

第２節　調査経過 …… 1

第３節　調査日誌 …… 2

第４節　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 3

第１項　遺跡の位置 …… 3

第２項　周辺の遺跡 …… 4

第Ⅱ章　検出された遺構と遺物 …… 15

第１節　概要 …… 15

第２節　基本層序 …… 15

第３節　旧石器時代の石器 …… 16

第４節　縄文時代の遺構 …… 16

第１項　竪穴住居跡 …… 16

第２項　有段竪穴 …… 17

第３項　土坑 …… 33

第５節　平安時代の遺構と遺物 …… 140

第６節　中世以降の遺構 …… 140

第Ⅲ章　まとめ …… 144

挿図目次

第１図　グリット配置図 …… 2
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡(1:25,000) …… 5
第３図　遺跡周辺の地形図(1:10,000) …… 6
第４図　遺構配置全図 …… 8
第５図　遺構配置図(1) …… 9
第６図　遺構配置図(2) …… 10
第７図　遺構配置図(3) …… 11
第８図　遺構配置図(4) …… 12
第９図　遺構配置図(5) …… 13
第10図　遺構配置図(6) …… 14
第11図　基本層序 …… 15
第12図　旧石器時代の遺物 …… 16
第13図　住居跡SI01実測図 …… 17
第14図　住居跡SI01出土遺物 …… 18
第15図　有段竪穴建物SI03実測図(1) …… 19
第16図　有段竪穴建物SI03実測図(2) …… 20
第17図　有段竪穴建物SI03出土遺物 …… 21
第18図　有段竪穴建物SI04実測図(1) …… 22
第19図　有段竪穴建物SI04実測図(2) …… 23
第20図　有段竪穴建物SI04出土遺物(1) …… 24
第21図　有段竪穴建物SI04出土遺物(2) …… 25
第22図　有段竪穴建物SI05実測図 …… 26
第23図　有段竪穴建物SI05出土遺物 …… 26
第24図　有段竪穴建物SI06実測図(1) …… 27
第25図　有段竪穴建物SI06実測図(2) …… 28
第26図　有段竪穴建物SI06出土遺物(1) …… 29
第27図　有段竪穴建物SI06出土遺物(2) …… 30
第28図　有段竪穴建物SI06出土遺物(3) …… 31
第29図　有段竪穴建物SI06出土遺物(4) …… 32
第30図　有段竪穴建物SI06出土遺物(5) …… 33
第31図　土坑SK01・02・03・62実測図 …… 64
第32図　土坑SK04・05・06・07・08実測図 …… 65
第33図　土坑SK09・10・11・12・13・14・21実測図 …… 66
第34図　土坑SK15・16・21・25・26・36実測図 …… 67
第35図　土坑SK17・18・19・20・22・23実測図 …… 68
第36図　土坑SK24・27・28・29・30・43・44実測図 …… 69
第37図　土坑SK31・32・33・34・35実測図 …… 70
第38図　土坑SK37・38・39・40・42・47・48・57実測図 …… 71
第39図　土坑SK41・45・46・49・50・51・56・69実測図 …… 72
第40図　土坑SK52・53・54・55・58実測図 …… 73
第41図　土坑SK59・60・61・63・64・67実測図 …… 74
第42図　土坑SK65・66・68・70・71・72・73・74実測図 …… 75
第43図　土坑SK75・76・77・78実測図 …… 76
第44図　土坑SK79・80・81・82・83・84・85実測図 …… 77
第45図　土坑SK86・87・88・89・90・91・92・97・98実測図 …… 78

第46図　土坑SK93・94・95・96・99・100実測図 …… 79
第47図　土坑SK101・102・103・104・105実測図 …… 80
第48図　土坑SK106・107・108・109・110・111実測図 …… 81
第49図　土坑SK112・113・114・115・116・117実測図 …… 82
第50図　土坑SK118・119・120・122・123・124実測図 …… 83
第51図　土坑SK125・126・127・128・129・130実測図 …… 84
第52図　土坑SK131・132・133・134・135実測図 …… 85
第53図　土坑SK136・137・138・139・140・141実測図 …… 86
第54図　土坑SK142・143・144・145・146・147実測図 …… 87
第55図　土坑SK148・149・150・151・152・153・154実測図 …… 88
第56図　土坑SK155・156・157・158・159・160実測図 …… 89
第57図　土坑SK161・162・163・164・165・166実測図 …… 90
第58図　土坑SK167・168・169・170・171・172実測図 …… 91
第59図　土坑SK173・174実測図 …… 92
第60図　土坑SK01出土遺物 …… 93
第61図　土坑SK02・03・07(1)出土遺物 …… 94
第62図　土坑SK07(2)・08出土遺物 …… 95
第63図　土坑SK09出土遺物 …… 96
第64図　土坑SK10・11出土遺物 …… 97
第65図　土坑SK13・14(1)出土遺物 …… 98
第66図　土坑SK14(2)・15(1)出土遺物 …… 99
第67図　土坑SK15(2)・16出土遺物 …… 100
第68図　土坑SK17・18・19出土遺物 …… 101
第69図　土坑SK20・21出土遺物 …… 102
第70図　土坑SK22出土遺物 …… 103
第71図　土坑SK23・25・26・27・28(1)出土遺物 …… 104
第72図　土坑SK28(1)・29・30出土遺物 …… 105
第73図　土坑SK31出土遺物 …… 106
第74図　土坑SK32・34・35・36(1)出土遺物 …… 107
第75図　土坑SK36(2)・37・38・40出土遺物 …… 108
第76図　土坑SK42(1) …… 109
第77図　土坑SK42(2)・43出土遺物 …… 110
第78図　土坑SK44・45・47出土遺物 …… 111
第79図　土坑SK46・48出土遺物 …… 112
第80図　土坑SK49・50・51出土遺物 …… 113
第81図　土坑SK52・53・54・55出土遺物 …… 114
第82図　土坑SK56出土遺物 …… 115
第83図　土坑SK58・59・60(1)出土遺物 …… 116
第84図　土坑SK60(2)・61出土遺物 …… 117
第85図　土坑SK62・63・64出土遺物 …… 118
第86図　土坑SK65・66・67・68出土遺物 …… 119
第87図　土坑SK69・70・71・73出土遺物 …… 120
第88図　土坑SK74・75・76・77出土遺物 …… 121
第89図　土坑SK78(1)出土遺物 …… 122
第90図　土坑SK78(2)出土遺物 …… 123
第91図　土坑SK78(3)・79出土遺物 …… 124
第92図　土坑SK80・82・83出土遺物 …… 125
第93図　土坑SK84・85・86(1)出土遺物 …… 126

第94図　土坑SK86(2)・88・89出土遺物 …… 127
第95図　土坑SK90・91出土遺物 …… 128
第96図　土坑SK93・94・95・98・99・101・102・103出土遺物 …… 129
第97図　土坑SK100出土遺物 …… 130
第98図　土坑SK104・105・106・107出土遺物 …… 131
第99図　土坑SK108・109・110・111・112・114・115・116・117・120出土遺物 … 132
第100図 土坑SK121・122・124・125・127出土遺物 …… 133
第101図 土坑SK128・129・134・135・138・139・141・144・149出土遺物 …… 134
第102図 土坑SK153・155・159(1)出土遺物 …… 135
第103図 土坑SK159(2)・160(1)出土遺物 …… 136
第104図 土坑SK160(2)・162・163・164出土遺物 …… 137
第105図 土坑SK165・166・167・169・170・171出土遺物 …… 138
第106図 土坑SK172・174出土遺物 …… 139
第107図 住居跡SI02実測図 …… 141
第108図 住居跡SI02カマド実測図 …… 141
第109図 住居跡SI02出土遺物 …… 142
第110図 井戸跡SE01・02・03・04・05・06実測図 …… 143
第111図 有段竪穴SI06新旧実測図 …… 145
第112図 土坑SK01出土遺物分布図(番号は挿図(第60図)番号と一致) …… 145

表目次

Tab.1　西塙遺跡と周辺遺跡一覧

写真図版目次

巻頭図版1　1.調査区全景（北から）　2.調査区全景（西から）
巻頭図版2　1.有段竪穴SI06　2.土坑SK61　3.土坑SK61
巻頭図版3　土坑SK01(手前)　土坑SK01出土火炎土器
巻頭図版4　1.SK16　2.SK77　3.SK86　4.SK42　5.SK155　6.SK22
PL.1　1.調査区全景（西から）　2.調査区全景（西から）
PL.2　1.調査区全景（北から）　2.調査区全景（南から）
PL.3　1.調査区近景（Ⅲ区）　2.調査区近景（Ⅰ区）　3.調査区近景（Ⅰ区）
PL.4　1.調査区（Ⅱ区）　2.調査区（Ⅱ区）　3.調査区（Ⅱ区）
PL.5　1.住居跡SI01　2.有段竪穴SI03　3.有段竪穴SI04
PL.6　1.有段竪穴SI05　2.有段竪穴SI06新期　3.有段竪穴SI06旧・新期
PL.7　1.土坑SK29・30・35・37・38・40・43・44・47付近
　　2.土坑SK45・46・56・69付近　3.土坑SK49・52・54・55・63・70・108付近
PL.8　1.土坑SK01・02・59・58・61・62付近　2.土坑SK64～68付近
　　3.土坑SK74～75付近
PL.9　1.住居跡SI01、土坑SK89・90・92・97・98付近
　　2.土坑SK100・102・103・104・109付近　3.土坑SK01

PL.10　1.土坑SK07　2.土坑SK09　3.土坑SK14
PL.11　1.土坑SK15　2.土坑SK16(1)　3.土坑SK16(2)
PL.12　1.土坑SK17　2.土坑SK22　3.土坑SK31
PL.13　1.土坑SK43　2.土坑SK46　3.土坑SK51
PL.14　1.土坑SK60　2.土坑SK61　3.土坑SK64
PL.15　1.土坑SK69　2.土坑SK78　3.土坑SK80
PL.16　1.土坑SK86　2.土坑SK100　3.土坑SK107
PL.17　1.土坑SK159　2.土坑SK160　3.土坑SK160・161・162付近
PL.18　1.土坑SK164　2.土坑SK165　3.基本層序
PL.19　1.住居跡SI02　2.井戸SE02　3.井戸SE03
PL.20　旧石器時代遺物　住居跡SI01　有段竪穴SI03
PL.21　有段竪穴SI04
PL.22　有段竪穴SI06(1)
PL.23　有段竪穴SI06(2)　有段竪穴SI03
PL.24　有段竪穴SI04　有段竪穴SI06
PL.25　土坑SK01
PL.26　土坑SK07　土坑SK09
PL.27　土坑SK10　土坑SK14(1)
PL.28　土坑SK14(2)　土坑SK15
PL.29　土坑SK16　土坑SK17　土坑SK22
PL.30　土坑SK30　土坑SK31
PL.31　土坑SK34　土坑SK36　土坑SK42(1)
PL.32　土坑SK42(2)　土坑SK42・SK43
PL.33　土坑SK45　土坑SK46　土坑SK48
PL.34　土坑SK60(1)　土坑SK60(2)　土坑SK61
PL.35　土坑SK64　土坑SK68・79・83　土坑SK73
PL.36　SK77　SK78
PL.37　土坑SK80　土坑SK86
PL.38　土坑SK88　土坑SK89　土坑SK91
PL.39　土坑SK94　土坑SK100
PL.40　SK107　SK121　SK155　SK159
PL.41　土坑SK160　土坑SK174　住居跡SI02

第Ⅰ章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は，道路の建設に伴う事前調査である。平成20年２月13日に常陸大宮市長 矢数 浩 から常陸大宮市教育委員会に埋蔵文化財の所在の有無の照会が提出され，それに基づき，市教育委員会は同年10月21日から10月29日に建設予定地内に試掘調査を実施した。調査はトレンチ方式で行い，試掘の結果は竪穴住居跡・土坑・遺構・土器片等が検出され，遺構はかなり密集していることが確認できた。明らかに古代の集落が所在することが判明した。平成20年11月19日に茨城県教育委員会との協議により，本調査を実施することとなり，その後入札により，有限会社 日考研茨城に調査依頼を行う。その後，常陸大宮市教育委員会・常陸大宮市・有限会社 日考研茨城は三者協議を行い，確認調査の結果に基づき平成21年２月６日から平成21年４月30日まで本調査を実施した。

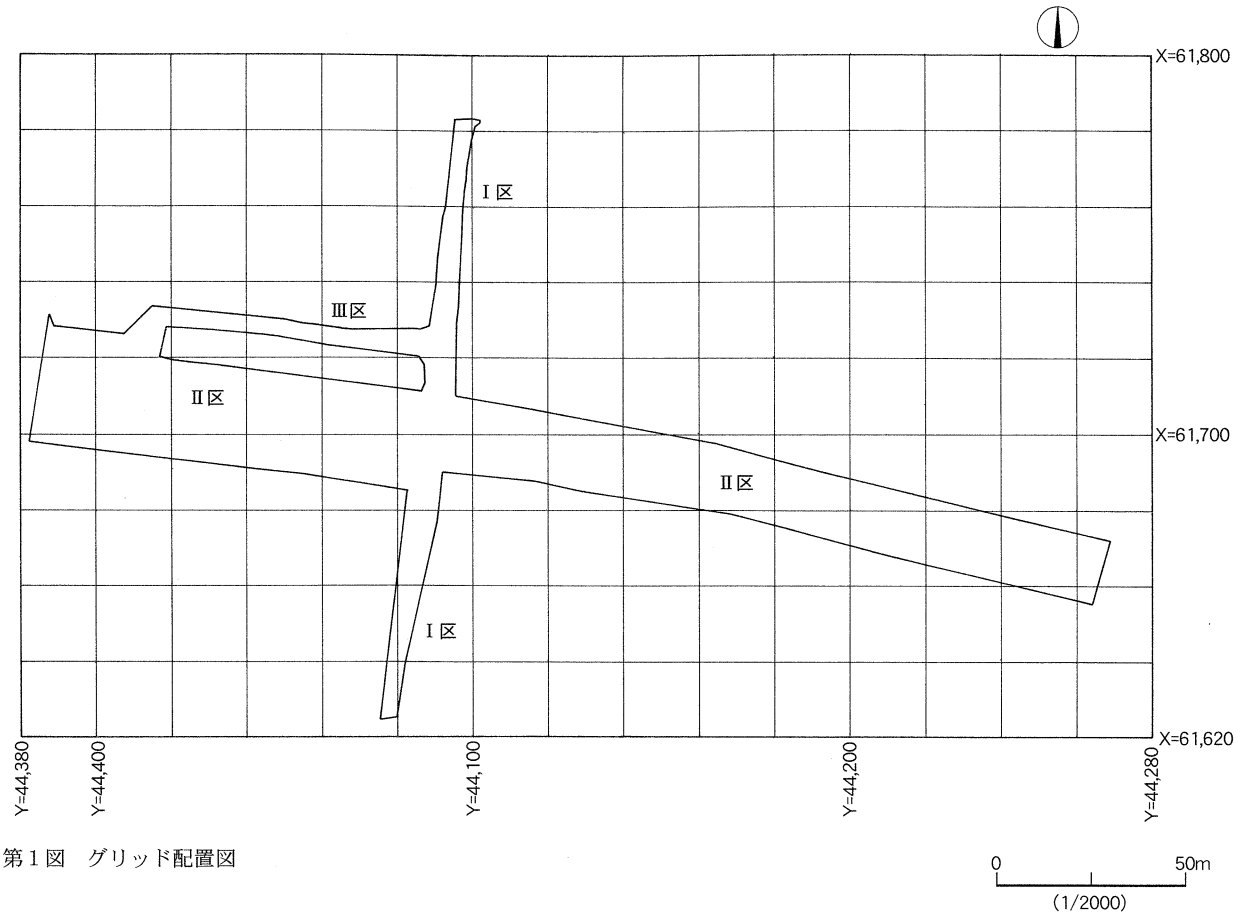
（常陸大宮市教育委員会）

第２節　調査経過

西塙遺跡の本調査は、平成21年２月12日から５月23日まで実施した。調査は昨年10月開発予定地に対し試掘トレンチを設定し、ほぼ全域から縄文時代中期の遺構および遺物を検出している。この報告を基に開発予定地の全域7,650㎡を調査することとなった。また工事工程の都合により調査対象区を大きく２期に分割して実施した。第１期は既存の道路下部を対象とした。ここは以前発掘調査された第１次調査区との接続する部分で、南北既存道路であり、さらに東西に通る幅５～10m前後の農道である。いずれも現在畑地や墓地に行く生活道路でもある。また本道はすでに砂利舗装され、道路下は水道管が埋設されているなど調査範囲は限定されているものの、掘削については十分注意を払う必要が生じた。少なくとも水道管の埋設部と水道管保護のためにその周辺の掘削は不可能であった。それでもまず重機による表土除去から開始し、遺構確認のための精査を人力により行った。第１次調査で既に把握されていたとはいえ、黒色土の落ち込みである遺構は、ほぼ隙間なく分布していることが判明したため、さらに丁寧な精査を繰り返すこととなった。検出される遺構はいずれも円形もしくは略円形といった円系統で径１m前後がもっとも多く、３mを越すものもいくつか存在し、逆に１m以下も多かったが、これら大半は縄文中期の土坑であった。また南北道路南側から比較的大きく、方形を呈する遺構を確認した。床面までの深度は浅く、土坑覆土の状態ではないため住居跡(SI01)とした。さらに東西道路も同様に黒色の落ち込みが隙間なく分布し、いずれも土坑と判断できるものばかりであった。上面の遺構確認精査後、覆土断面を観察すため、基軸線を東西とするセンターセクションラインを設定し、南側の床土除去から遺構調査を開始した。覆土堆積の実測・写真撮影の後、北側の床土除去し遺構の全掘をし、平面図、写真撮影を行い、３月23日に第１期調査を完了する。

第２期は新道建設のため現存畑地が対象となった。本調査区は東西に通る幅20～26m、長さ290mで、幅広く距離があるため市教育委員会が試掘調査を実施した区域である。東側から重機による表土層除去を開始した。この新道部分は全体的に既存道路部とは異なり、遺構の分布が比較的希薄で、とくに大きな撹乱の影響を受けた東側は遺構がほとんど検出できず、わずかに南側の未調査区域に延びる有段竪穴の一部が確認できた程度あった。この東西道路部分については既存の南北道路と接する中央部分に土坑が集中するものの、西側も遺構密度からみるとかなり薄い。しかし、この東西道路部分の中央から西側にかけては有段竪穴と称される遺構が３軒検出されている。しかも西端では９世紀代の竪穴住居跡１軒が確認された。また縄文土坑も少なくはないが先の１期調査区と比較するとその比ではない。住居跡は土坑調査と同じく上面の遺構確認精査後、覆土断面を観察するため、基軸線を東西と南北の２本をセンターセクションラインとして設定し、覆土を４分割して床土除去から調査を開始した。覆土堆積の実測・写真撮影の後、いわゆるセクションベルトを除去し全掘をし、平面図、写真撮影を行う。また中央部分から中世の井戸跡が３基と柱穴群検出されている。

以上検出された遺構として、縄文時代の住居跡１軒と有段竪穴４軒、平安時代の竪穴住居跡１軒、縄文土坑152基、中世の井戸跡６基、柱穴状遺構である。またこれら遺構から検出される遺物も豊富で、縄文土坑から出土する土器のうち完存するもの、あるいは一部完存し復元できるものは20個体以上あり、大型破片は多数出土している。また石



第１図　グリッド配置図

器類も多く、とくに磨石類は圧倒的な数を占めており、出土石器の９割以上は凹石、敲石といった磨石類で、そのほか磨製石斧・打製石斧・石皿・台石・石鏃はいずれも数点である。これらはいずれも土坑覆土中からの出土である。

なお東西新道路西側の北側で、高位面である北側調査区に旧石器文化層を確認するための深堀グリッド２×２ｍを設定し調査を実施する。すでに調査中において縄文土坑から剥片であるが、旧石器の石器が４点検出できた。

（小川和博）

第３節　調査日誌

2009年２月12日～５月23日

２・12　準備作業。調査区を設定する。

２・13　重機による表土層除去を開始する。（～４・22まで実施する）

２・16　人力による精査作業を開始。

２・17～２・25　表土層除去作業および遺構検出作業。

２・26　土坑(SK01～15)を検出し、セクションベルトを設定し床土除去作業。

３・２　土坑(SK06～21)の検出作業。測量杭打ち作業。

３・３　土坑(SK10～30)を検出し、セクションベルトを設定し床土除去作業。

３・４　土坑(SK10～31)を検出し、セクションベルトを設定し床土除去作業。

３・５　土坑(SK20～46)を検出し、セクションベルトを設定し床土除去作業。

３・７　土坑(SK30～55)を検出し、セクションベルトを設定し床土除去作業。

３・９　土坑(SK40～67)検出作業。

３・10　土坑(SK50～82)検出作業。

3・11　土坑(SK60～99)検出作業。住居跡(SI01)の検出作業。
3・12　土坑(SK80～102)を検出し、床土除去作業。
3・13　土坑(SK90～116)の検出作業。住居跡(SI02)検出作業。
3・16　土坑各セクション実測・写真撮影。
3・17　土坑のセクションベルト除去作業。
3・18　土坑(SK116～120)の検出作業。住居跡(SI02・03)検出作業
3・19　土坑(SK116～120)の検出作業。住居跡(SI02・03)検出作業。セクション実測。
3・21　住居跡(SI03)の検出作業。セクション・平面図実測・写真撮影。
3・23　住居跡(SI03)の検出作業。セクション・平面図実測。
3・24　平面図実測。清掃後写真撮影(完掘・遺物出土状況)。
3・25　平面図実測。清掃後写真撮影(完掘)。
3・26　平面図・エレベーション図実測。
3・27　平面図・エレベーション図。全測図実測。遺物取り上げ作業。
4・1　全測図実測。住居跡(SI04)、土坑(SK122～129)、ピット(Pit04)群検出作業。
4・2　住居跡(SI04・05)、土坑(SK129～133)検出作業。
4・3　住居跡(SI05)、土坑(SK132～134)検出作業。セクション実測・写真撮影。
4・6　土坑セクションベルト除去作業。遺構写真撮影。
4・7　住居跡(SI06)検出作業。
4・8　住居跡(SI06)検出作業。エレベーション・平面図実測。
4・9　住居跡(SI06・02カマド)、土坑(SK135～153)検出作業。セクション図実測・写真撮影。
4・10　住居跡SI02カマド調査、土坑(SK154～158)検出作業。ベルト除去後写真撮影。
4・13　全測図作成。遺構写真撮影。
4・14　土坑(SK157～160)検出作業。清掃後写真撮影。
4・15　土坑(SK159～164)検出作業。セクション図実測・写真撮影。
4・16　土坑(SK164)、ピット群、井戸跡(SE02)検出作業。
4・20　土坑(SK108・124・164～166)検出作業。旧石器時代グリッド調査を開始する。
4・21　土坑(SK164・167～172)検出作業。
4・22　各土坑ベルト除去作業。平面図・全測図実測。
4・23　住居跡(SI06)、井戸跡(SE04～06)検出作業。土坑完掘写真撮影。
4・24　測量調査。住居跡(SI06)　写真撮影。住居跡(SI02)貼床除去作業。土坑(SK173)、
　　井戸跡(SE04～07)検出作業。平面図・エレベーション図実測。
4・27　住居跡(SI03～05)の貼床除去作業。
4・28　住居跡(SI06)の貼床除去作業。旧石器時代確認グリッド調査・セクション実測。
4・30　航空写真撮影。茨城県教育委員会による終了確認。
5・2　重機による埋め戻し作業開始する。(～5・21まで)
5・7　地元野口小学校(約30名)による遺跡見学会。
5・22　常陸大宮市による完了に伴う立合い検査。
5・23　本日にて西塙遺跡の発掘作業を終了する。重機および機材類の搬出。

(大渕淳志・小川和博)

第4節　遺跡の位置と周辺の遺跡

第1項　遺跡の位置

西塙遺跡は茨城県の北部、常陸大宮市野口2011-8番地他に所在する。北緯36度33分6秒、東経140度19分45秒に位置する。ここは平成16年の市町村合併前は御前山村にあたり、もともと村は中央を東西流する一級河川那珂川に

よって大きく南北に画されていた。北側が緒川村、南側が桂村、西側は栃木県茂木町に接していた。

この西塙遺跡は中央を東西流する那珂川の左岸で旧村の東側に位置し、大きく開析された河岸段丘上に立地する。ここは北側に標高100mの丘陵を後背地にもち、那珂川に向かって急傾斜していくが、野口地先付近で傾斜が急に緩くなり、遺跡はこの緩傾斜面ほぼ全面に形成されている。周知されている遺跡の大きさは南北500m、東西550mの規模をもち、中心地の標高は60m前後でやや北側が高く、南側が低い、その比高差は約２mである。さらに遺跡の南端は急崖となり那珂川の河川敷に至り、標高差は40m前後にも達する。なお、河岸段丘は大きく発達した１段のみで、東側は緒川によって開析された小さな湾状地形がみられ、西側は小支谷による傾斜面で、遺跡の占地する台地を画している。

（小川和博）

第２項　周辺の遺跡

旧御前山村での発掘調査については、一昨年本遺跡と同じ西塙遺跡のみで平成９年野田市場塚の測量調査以外は主と調査は行われていない。しかし、現在までに旧教育委員会による分布調査が実施されており、97ヶ所の遺跡が周知されている。ここでは旧石器時代として大倉遺跡(1)で１ヶ所、縄文時代は多く55ヶ所、弥生時代は少なく２ヶ所、古墳時代集落跡７ヶ所、古墳１基、旧村内で最も多い奈良・平安時代が71ヶ所、さらに城跡等を含め中世遺跡は24ヶ所が確認されている。しかし、既述したように正式な調査記録がないため、合併後の常陸大宮市を総括して、周辺の遺跡について触れておきたい。

まず旧石器時代の遺跡については「梶巾遺跡」で調査され、槍先形尖頭器が出土し、「小野天神前遺跡」でも細石核が採集されている。そのほか市内最古といわれている「小野高ノ倉遺跡」および上坪遺跡、鷹巣戸内遺跡が知られている。次ぎの縄文時代では比較的よくまとまっている。「梶巾遺跡」をはじめ、「諏訪台遺跡」「宮中遺跡」「富士山遺跡」が知られており、とくに中期の大集落として確認された「坪井上遺跡」「高ノ倉遺跡」では本遺跡とほぼ同時期の集落跡である。まず昭和51、58年に調査された「梶巾遺跡」では土坑16基が検出され、平成２年に調査された「諏訪台遺跡」では住居跡が1軒、土坑が16基、竪穴状遺構2基検出された。「坪井上遺跡」は、平成5年に調査され、住居跡19軒、土坑75基が検出された。とくにヒスイ製の大珠が8点確認されており、特筆される。「高ノ倉遺跡」は平成16年に調査が行われ土坑が223基検出された。また正式な調査は行われていないが、「河井台遺跡」では多量の石鏃が採集されている。また縄文早期・中期から弥生時代に営まれた「小野天神前遺跡」は、主となる晩期段階で土偶や亀形土製品をはじめ石剣、石棒、独鈷石等祭祀具が多数出土している。そして当遺跡は県内でも数少ない弥生時代中期前半まで継続され、市内に限らず県内を代表する遺跡のひとつとなっている。そのほか周辺地域では、後期の「富士山遺跡」や「梶巾遺跡」が著名である。以上のほか弥生時代の遺跡は明確ではないものが多い。

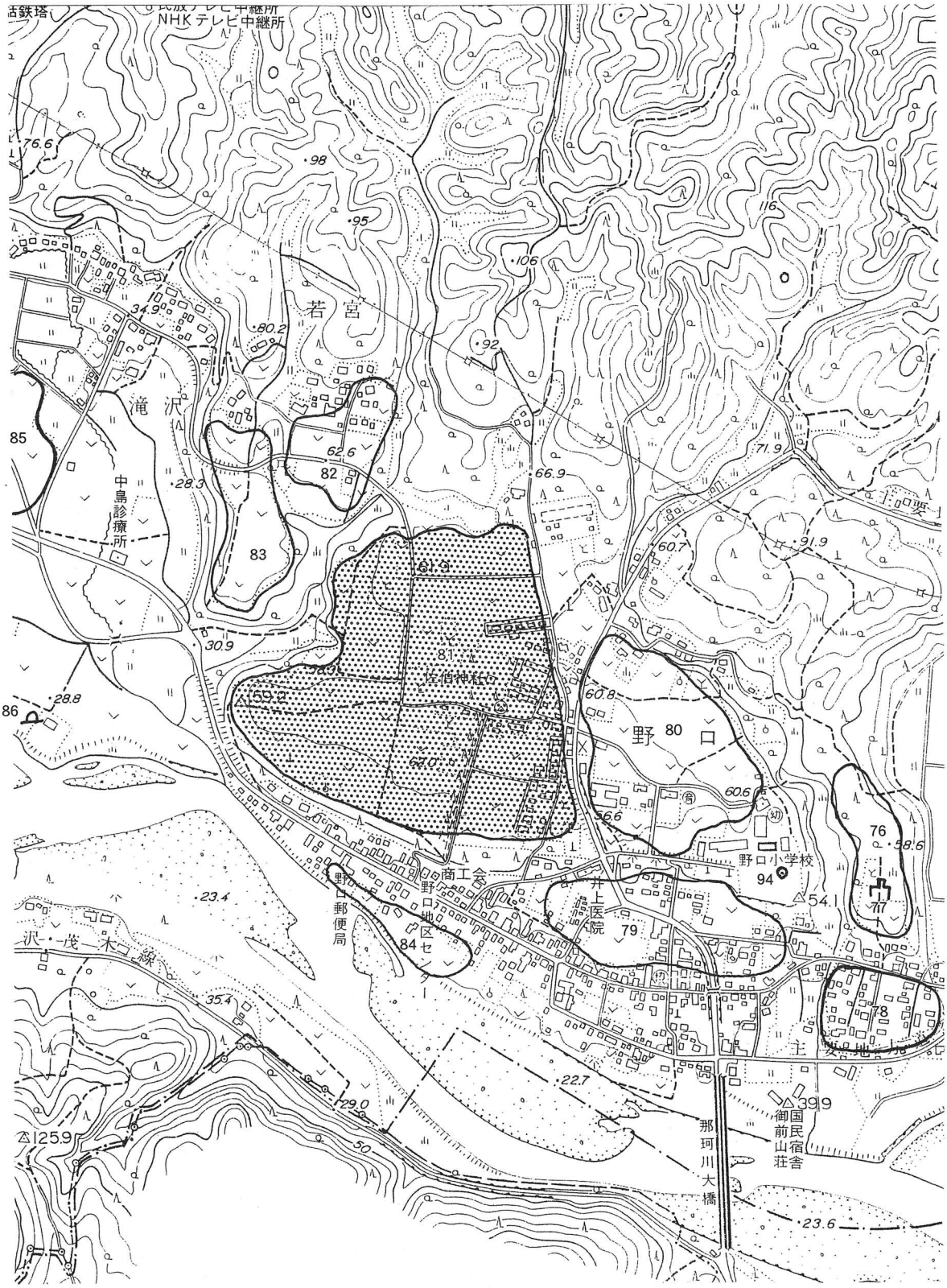
古墳時代では須恵器や形象埴輪を含めた豊富な埴輪の出土が知られている「鷹巣古墳群(023)」のほか、前方後方墳である「富士山４号墳」は墳長38mを測り、県内でも最古の古墳のひとつとして周知されている。また「糠塚古墳(022)」は80mの大形古墳である。また集落跡も数は少ないが報告されている。「梶巾遺跡(007)」では前・中期の住居跡が検出されている。さらに玉川左岸には「雷神山横穴群(091)」と「岩欠横穴群(139)」があり、いずれも５基ずつ確認されている。次ぎの奈良・平安時代の遺跡は全体的に多く、「鷹巣(原)遺跡(010)」では８世紀中葉から10世紀にかけて32軒の住居跡が確認されている。さらに隣接して「鷹巣瓦窯跡(042)」が知られており、ここで焼かれた瓦が住居跡のカマド構築材として利用されていた。そのほか最近調査された「上宿上坪遺跡(094)」や「上坪遺跡(033)」では明確な集落跡として注目されている。

最後に中世では城跡として旧御前山村においては「川野辺城(076)」が周知されている。川野辺城跡は藤原通直が991年頃に築城し、川野辺氏を名乗って居城したことから川野辺城と呼ばれている。西塙遺跡の東側、那珂川左岸の段丘上に造築された平山城である。そのほか野口古城(015)、桧山古館(030)、要害城跡(056)、時雍館跡が知られている。またそのほか市内には「宇留野城跡(038)」や「菅又城跡(100)」が知られているが、先に調査した「上宿上坪遺跡(094)」では明瞭な館跡は確認できなかったが、溝や土坑から古瀬戸の平碗・茶壷、志戸呂の擂鉢、常滑の亀や内耳土器、さらに硯の出土が報告されている。

（小川和博）

81：西塙遺跡

第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1：25,000）

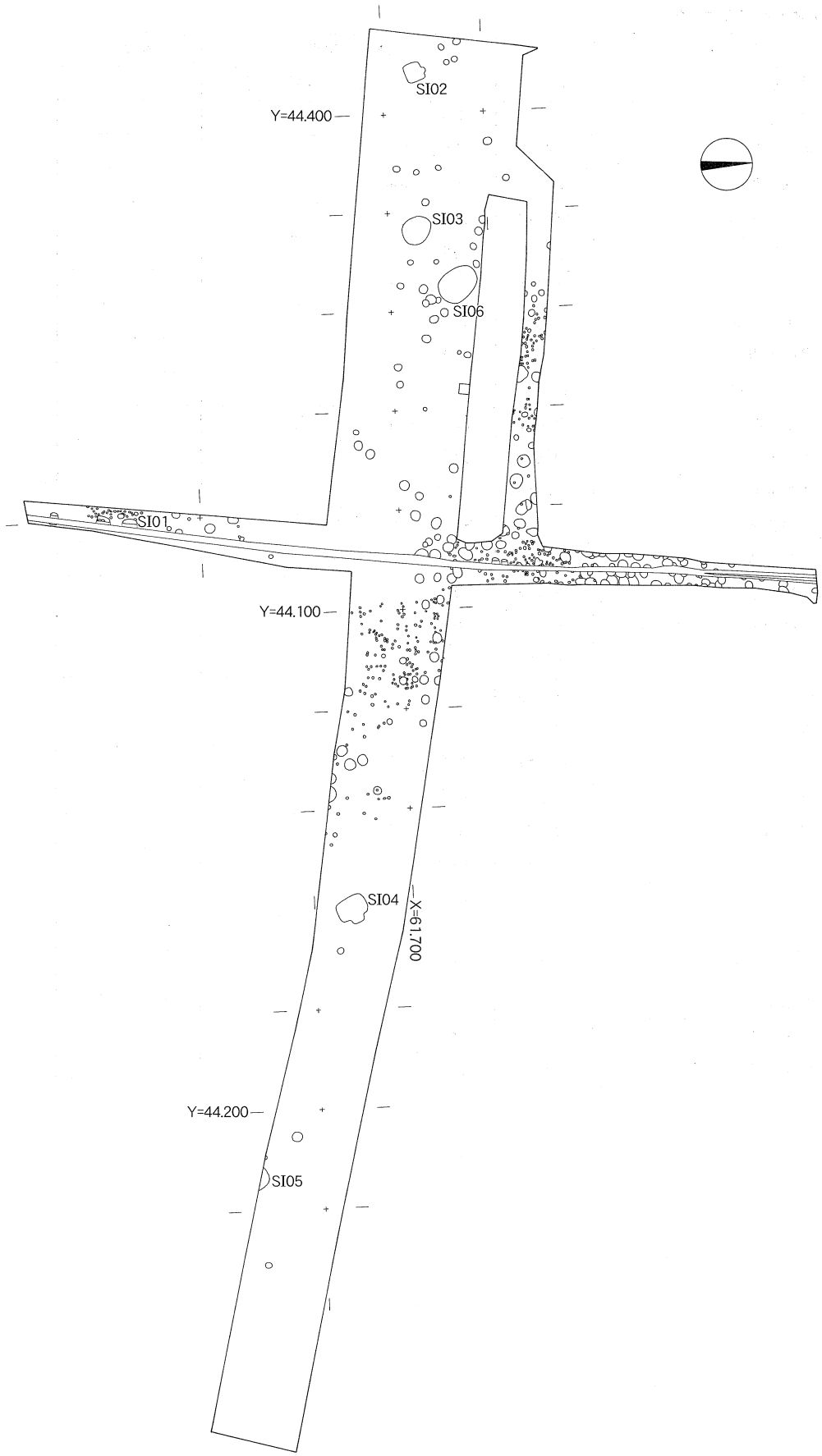


81：西塙遺跡　76：川野辺城跡　77：御城遺跡　78：館遺跡　79：内古屋遺跡　80：西塙遺跡　82：若宮戸遺跡
83：若宮遺跡　84：上宿遺跡　85：上川原遺跡　86：高塚塚　94：時雍館跡

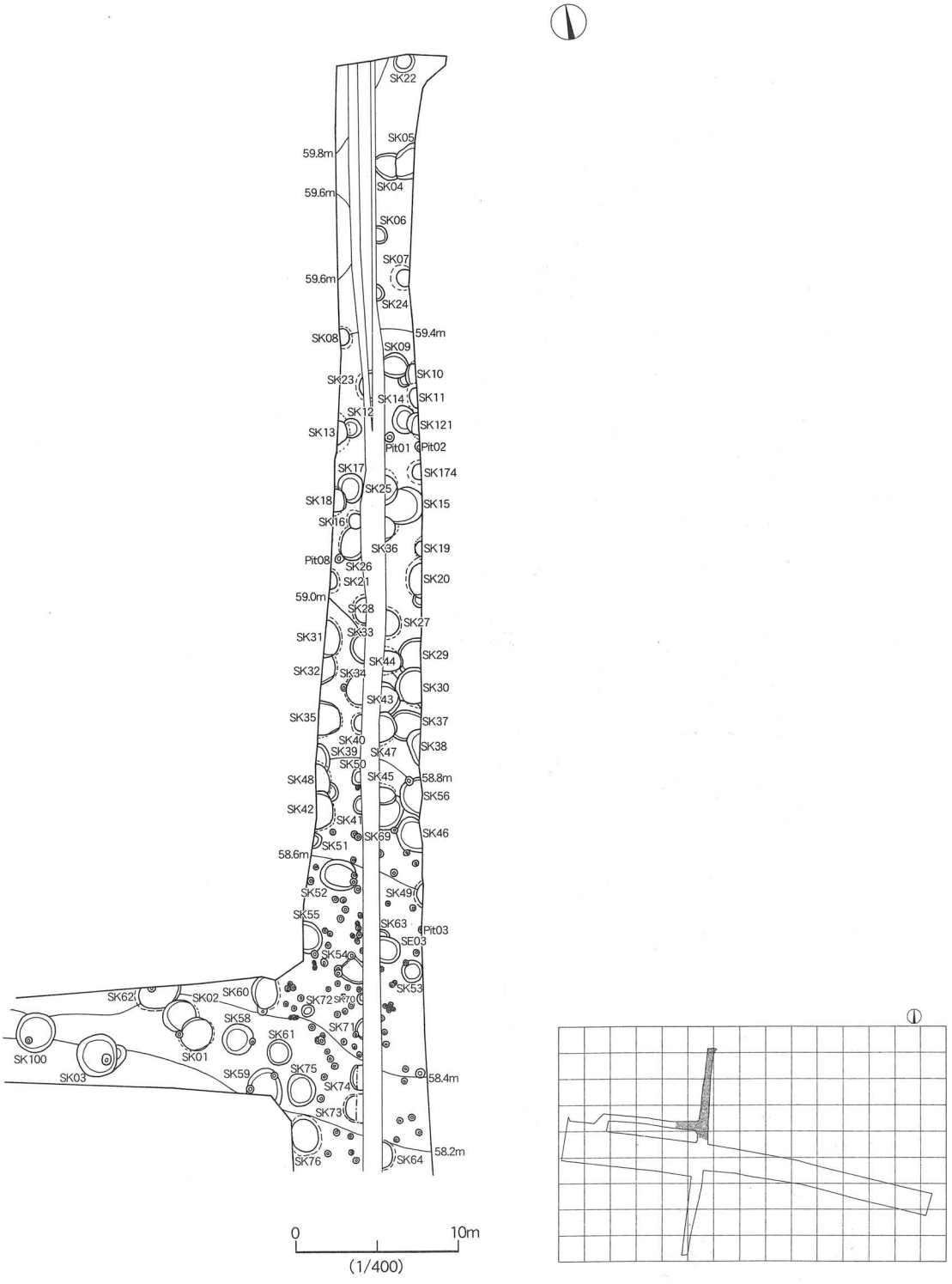
第3図　遺跡周辺の地形図（1：10,000）

Tab. 1　西塙遺跡と周辺遺跡一覧

番号	遺　跡　名	種　類	時代・時期	備　考
０８１	西塙遺跡	集落跡	縄文、古墳、奈平、中世、近世	
０６０	葛野遺跡	包蔵地	奈平	
０６１	中平遺跡	集落跡	縄文、奈平	
０６２	萩崎遺跡	集落跡	縄文、奈平	
０６３	井戸上遺跡	集落跡	縄文、奈平、近世	
０６４	清水遺跡	集落跡	奈平	
０６５	森前遺跡	集落跡	縄文、奈平	
０６６	下平道添遺跡	集落跡	奈平	
０６７	榎内古墳	古墳	古墳	
０６８	京銭内遺跡	集落跡	古墳	
０６９	山根遺跡	集落跡	縄文、弥生、古墳、奈平	
０７０	片セ田遺跡	包蔵地	奈平	
０７２	成井遺跡	包蔵地	奈平	
０７３	岡原遺跡	集落跡	縄文、古墳、奈平	
０７４	矢口遺跡	集落跡	縄文、弥生、奈平	
０７５	八幡遺跡	集落跡	奈平	
０７６	川野辺城跡（野口城跡）	館跡	中世	
０７７	御城遺跡	集落跡	奈平	
０７８	館遺跡	集落跡	奈平	
０７９	内古屋遺跡	集落跡	奈平、中世、近世	
０８０	西塙遺跡(野口)	集落跡	縄文、古墳、奈平、中世、近世	
０８２	若宮戸遺跡	集落跡	縄文、奈平	
０８３	若宮遺跡	集落跡	縄文、奈平	
０８４	上宿遺跡	集落跡	縄文、奈平	
０８５	上川原遺跡	集落跡	奈平	
０８６	高塚塚	塚		湮滅
０８７	津波東遺跡	集落跡	縄文、奈平	
０９３	八幡塚	塚		現在、未確認
０９４	時雍館跡	館跡	近世	
０９６	新京寺館跡（野口平館跡）	館跡	近世	


SI02
Y=44.400
SI03
SI06
SI01
Y=44.100
SI04
X=61.700
Y=44.200
SI05
0
20m

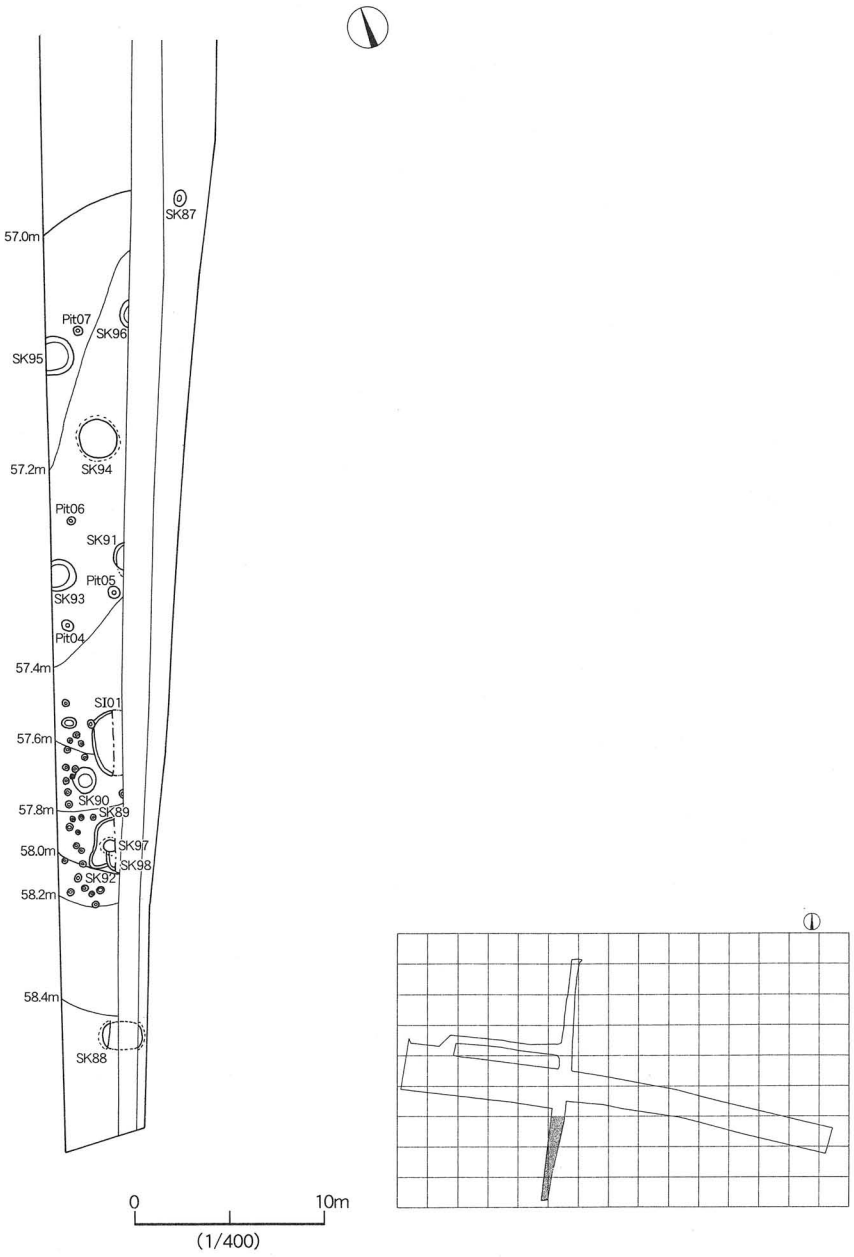
第４図　遺構配置全図


SK22
SK05
59.8m
SK04
59.6m
SK06
SK07
59.6m
SK24
SK08
59.4m
SK09
SK10
SK23
SK14
SK11
SK12
SK121
SK13
Pit01
Pit02
SK17
SK174
SK18
SK25
SK15
SK16
SK36
SK19
Pit08
SK26
SK20
SK21
59.0m
SK28
SK27
SK31
SK33
SK29
SK44
SK32
SK34
SK30
SK43
SK35
SK37
SK40
SK39
SK47
SK38
SK50
SK48
SK45
58.8m
SK56
SK42
SK41
SK69
SK46
SK51
58.6m
SK52
SK49
SK55
SK63
Pit03
SE03
SK54
SK53
SK62
SK02
SK60
SK72
SK70
SK58
SK71
SK61
SK100
SK01
SK59
SK75
58.4m
SK03
SK74
SK73
SK76
SK64
58.2m
0
10m
(1/400)

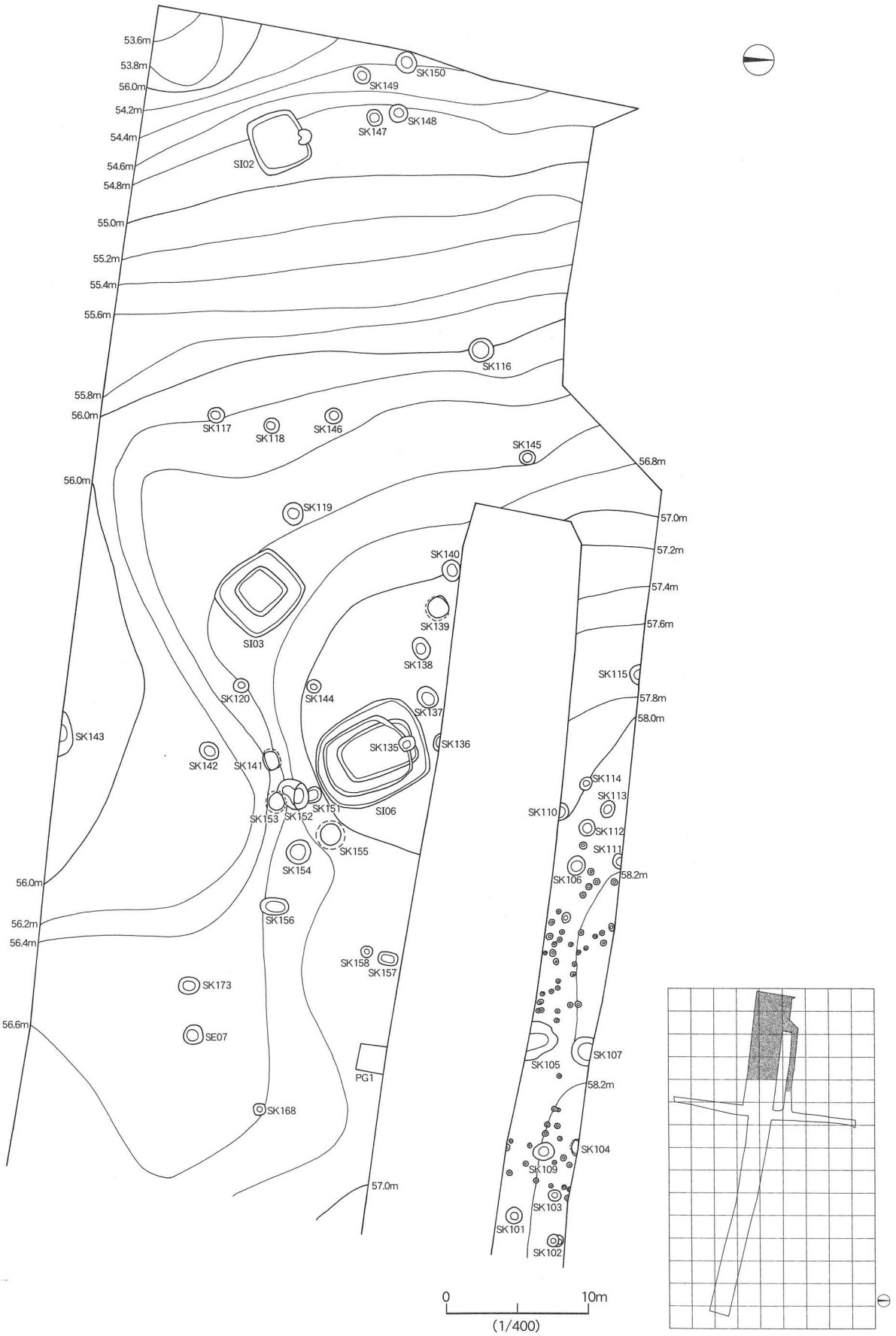
第５図　遺構配置図(1)

SE06
SE05
SE04
SK167
Pit09
SK172
SK171
SK170
SK169
SK84
SK82
SK79
SK85
SK80
SK78
SK86
SK83
SK81
SK77
SK99
56.8m
57.0m
SK65
SK68
SK67
SK66
57.2m
SK108
SK166
57.4m
SK165
57.6m
SK124
SK164
SK161
SK163
SK160
SK162
SE02
57.8m
SK159
SE01
SK134
58.0m
58.2m
SK122
SK123
SK126
SK125
58.4m
SK127
SK129
SK128
0
10m
(1/400)

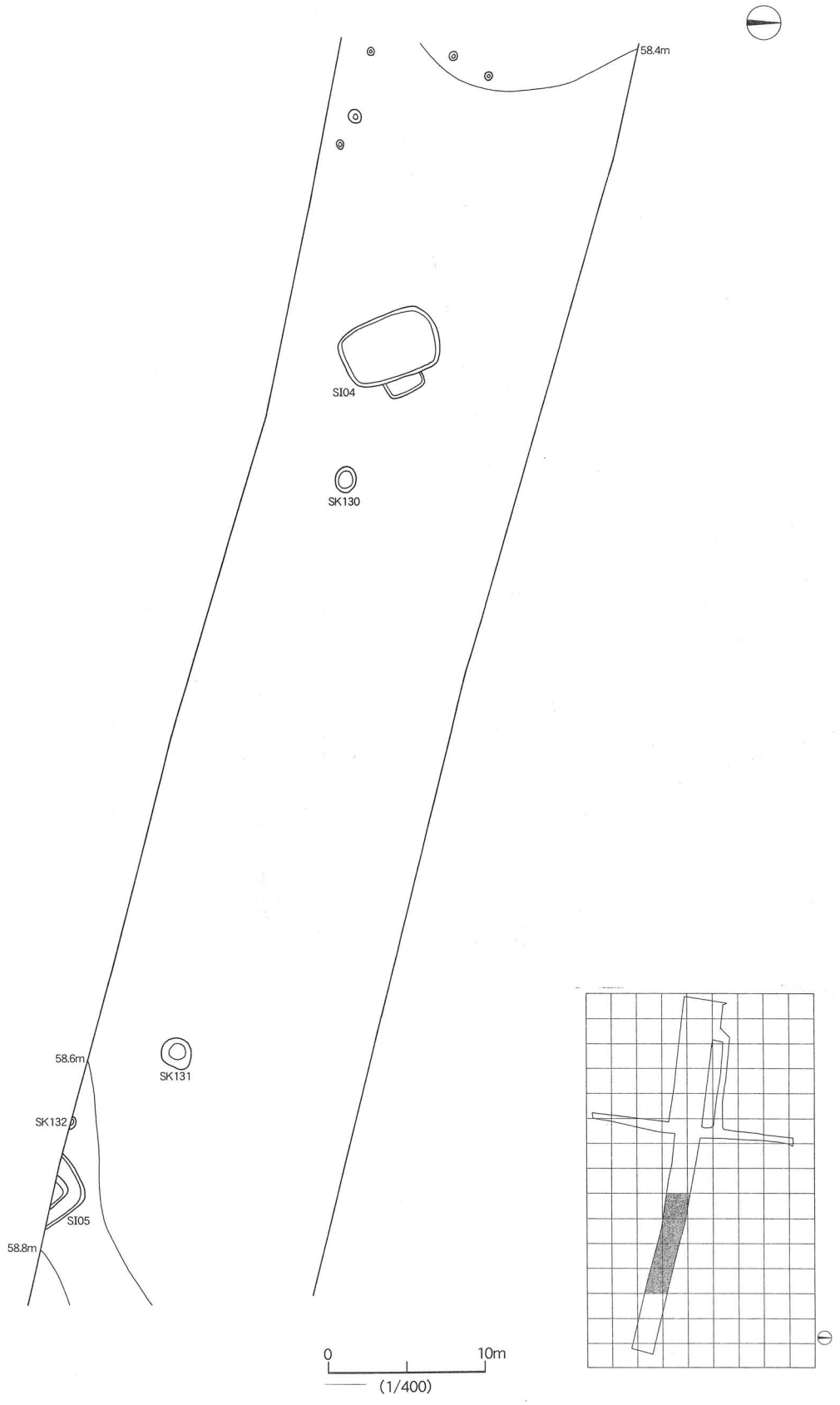
第6図　遺構配置図(2)


SK87
57.0m
Pit07
SK96
SK95
SK94
57.2m
Pit06
SK91
Pit05
SK93
Pit04
57.4m
SI01
57.6m
SK90
57.8m
SK89
SK97
58.0m
SK98
SK92
58.2m
58.4m
SK88
0
10m
(1/400)
①

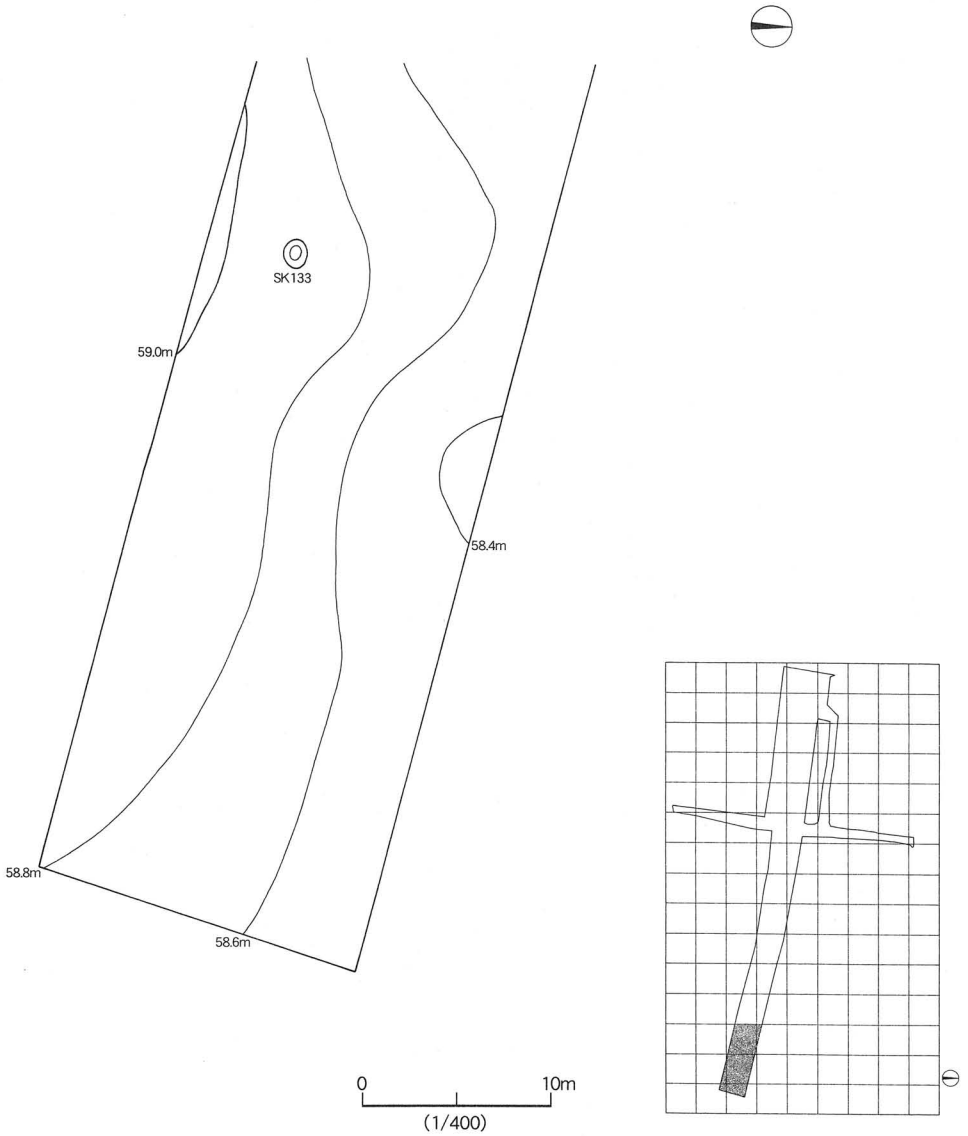
第７図　遺構配置図(3)


53.6m
53.8m
56.0m
54.2m
54.4m
54.6m
54.8m
55.0m
55.2m
55.4m
55.6m
55.8m
56.0m
56.0m
56.0m
56.2m
56.4m
56.6m
56.8m
57.0m
57.2m
57.4m
57.6m
57.8m
58.0m
58.2m
58.2m
57.0m
SK150
SK149
SK147
SK148
SI02
SK116
SK117
SK118
SK146
SK145
SK119
SK140
SK139
SK138
SI03
SK120
SK144
SK137
SK135
SK136
SK143
SK142
SK141
SK153
SK152
SK151
SI06
SK155
SK154
SK156
SK158
SK157
SK173
SE07
SK168
PG1
SK115
SK114
SK113
SK110
SK112
SK111
SK106
SK107
SK105
SK104
SK109
SK103
SK101
SK102
0
10m
(1/400)

第8図　遺構配置図(4)



第９図　遺構配置図(5)



第10図　遺構配置図(6)

第Ⅱ章　検出された遺構と遺物

第１節　概要（第３図）

常陸大宮市野口に所在する西塙遺跡は、旧御前山村の東側、那珂川左岸の標高約60mの河岸段丘上に立地する。ここは南側に流れをもつ那珂川によって形成された河岸段丘が大きく広がり、東側が緒川に画せられる。段丘上には平坦面は少なく、北側から南側へ緩傾斜し、さらに西側の溺れ谷に向かって傾斜していく。遺跡はこの河岸段丘上ほぼ全面に広がっており、今回既存道路下と新規計画の道路予定地7,650㎡を調査し、縄文時代中期中葉から後葉の時期を中心とする住居跡１軒、有段竪穴４軒と土坑152基、さらに平安時代の竪穴住居跡１軒、中世の井戸跡６基と土坑20基が検出された。

第２節　基本層序（第４図）

今回の調査で、旧石器時代に係る文化層を確認するために、深掘調査を実施した。すでに縄文時代の土坑覆土中から旧石器時代の石器が４点確認されたため、遺構の希薄である調査区西側に２×２mのグリッドを設定して調査した。あいにく明確な旧石器文化層や遺物は検出できなかったものの、市内の資料蓄積としてローム層の調査を行い、今後の調査の資料に供したい。設定した地点は本調査区の高位面にあたり、段丘緩傾斜で、標高58.10mを最高位とする。なお鍵層はⅨ層の鹿沼軽石堆積層である。

Ⅰ層　耕作土・黒褐色土層(10YR2/3)　締りに欠け、粘性に欠ける。

Ⅱ層　黒色土層(10YR2/1)　ローム粒子を僅かに含み、締りがあり、粘性がある。遺物包含層である。

Ⅲ層　灰黄褐色硬質ローム層(10YR5/2)　暗いハードローム層。粘性があり、堅緻で締りがある。鹿沼軽石粒子を少量含む。層厚は25～32cm前後を測る。

Ⅳ層　橙色硬質ローム層(10YR5/4)　明るいハードローム層。堅緻で締りがある。赤色スコリア粒子を多量に含む。層厚は25～32cm前後を測る。

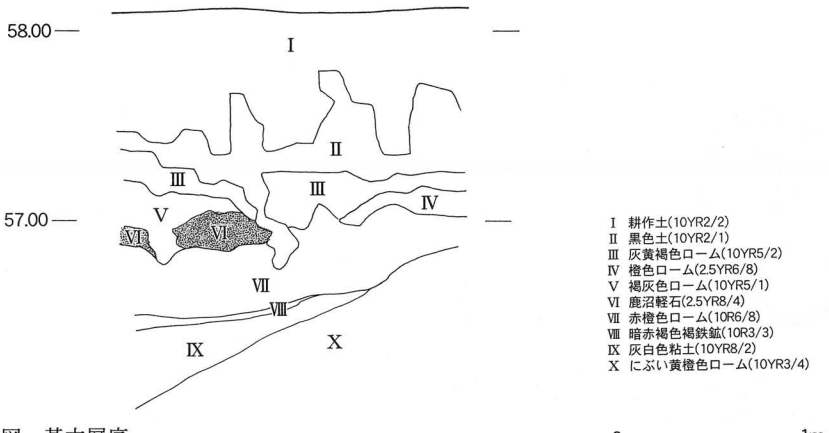
Ⅴ層　褐灰色硬質ローム層(10YR5/1)　ハードローム層。締りがある。層厚は28～35cmを測る。鹿沼軽石粒子を少量含む。

Ⅵ層　淡黄色軽石層(10Y3/3)　鹿沼軽石層。締りがあり、粘性が強い。層厚は25cm前後としっかりした層位を示す。白色粒子を少量含む。

Ⅶ層　赤橙色硬質ローム層(10R6/8)　全体的に赤系のハードローム層。締りがある。赤色スコリア粒子を多く含む。層厚は最大28cmを測る。

Ⅷ層　暗赤褐色褐鉄鉱層(10R3/3)　褐鉄鉱層、堅緻で締りがある。

Ⅸ層　灰白色粘土層(10YR８/２)　粘土層。締りがあり、粘性が強い。



第11図　基本層序

X層　にぶい黄橙色ローム層(10YR3/3)　締りがあり、粘性が強い。白色粒子を少量含む。
検出された遺構はいずれもⅢ層の上面で確認されている。

（小川和博）

第３節　旧石器時代の石器（第12図）

１はホルンフェルス製の中型の石刃状剥片で、縦長剥片を素材とする。上面に打面を残し、おおむね上位方向からの剥離面で構成され、表面下部には礫面が残置している。中央横断面は三角形を呈する。大きさは長さ7.784cm、最大幅3.239cm、最大厚1.074cm、重量28.98gを測る。柱穴状遺構群出土。２もホルンフェルス製の剥片であるが、やや大きな石刃状剥片である。縦長剥片を素材とし、上面に打面を大きく残し、ほぼ上位方向からの剥離面で構成されている。中央横断面は三角形を呈する。大きさは長さ8.219cm、最大幅5.584cm、最大厚1.538cm、重量78.4gを測る。柱穴状遺構群出土。３は安山岩製の中型剥片。上面に打面を残し、おおむね上位方向からの剥離面で構成され、表面には礫面が残置している。中央横断面は三角形を呈する。大きさは長さ5.673cm、最大幅4.487cm、最大厚1.166cm、重量22.20gを測る。土坑SK35覆土出土。４は頁岩製の横長剥片。やはり上面に打面を残し、上位および横位方向からの剥離面で構成されている。大きさは長さ2.759cm、最大幅4.891cm、最大厚0.807cm、重量9.56gを測る。土坑SK35覆土出土。

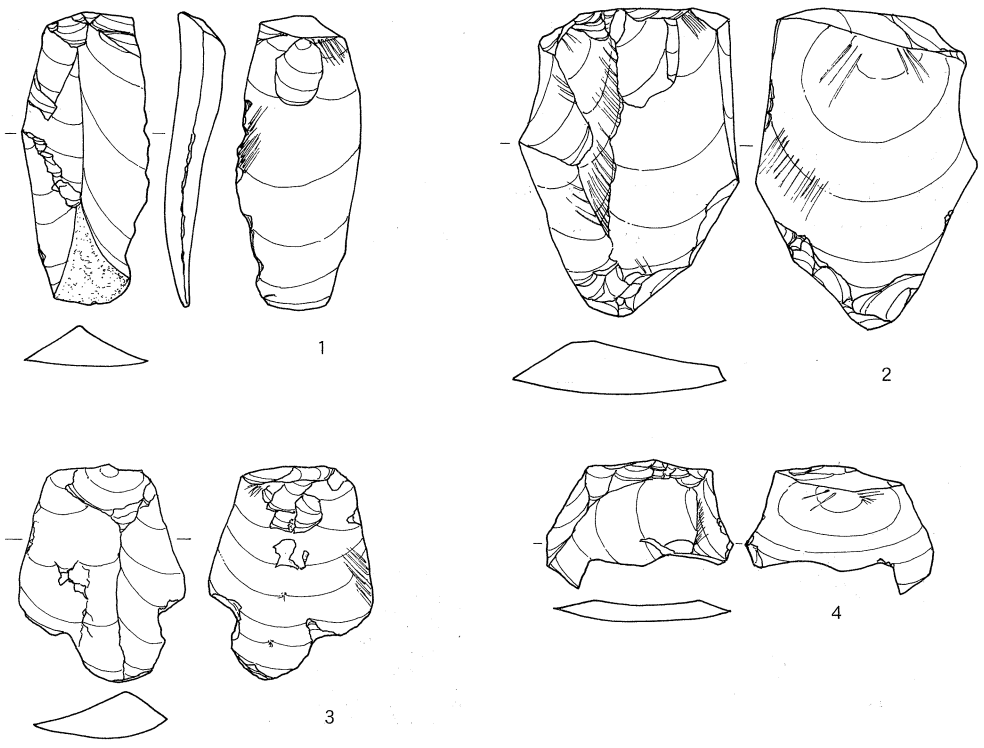
（小川和博）

第４節　縄文時代の遺構

第１項　竪穴住居跡

１）竪穴住居跡SI01（第13図～第14図）

調査区南側、Ⅰ区南端に位置する。立地する標高は57.52～57.61m。東側Ⅰ区半分が未調査区域に延びている。検出された東西軸2.40m、南北軸2.53mと南北に長い楕円形を呈する。南北軸を通る主軸方位はN－25°－Wを指す。壁高は６～12cmを測り、比較的良好な掘り込みである。床面はほぼ平坦で、僅かに貼床部が検出できた。壁溝



第12図　旧石器時代の遺物

は北側壁に掘削されている。幅12～18.0cm、深さ５～11.0cmである。柱穴は西壁際に１本検出された。大きさは径16.0×18.0cm、深さは27.5cmを測る。さらに居住内の北壁中に土坑状の柱穴が穿ってあるが、本跡に伴うものではないであろう。因みに径50×66cm、深さ83.5cmである。炉跡は確認できなかった。住居覆土はほぼ全面を黒褐色土で覆われているが、レンズ状の堆積状態を示す自然堆積層である。

覆土中より出土した土器は中期中葉の土器で、大木８ａ式期である。また石製品として磨石類１点が出土している。

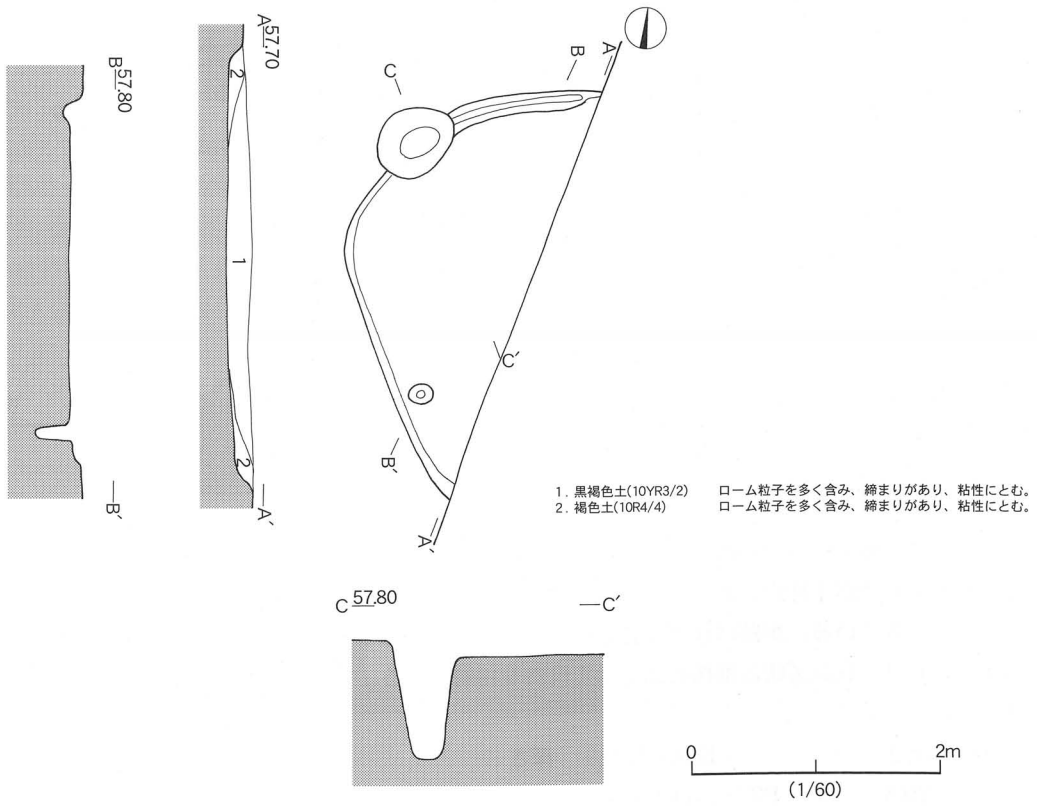
１は小突起をもつ深鉢。突起部を基点に縄文施文された隆帯が巡る。２は波状口縁で円孔の穿った山形突起に隆帯上は縄文施文され、角押文によって区画される。口縁部は無文帯となり、刻みにある平行沈線文を区画文とする。口辺部が一もしくは２条沈線文による区画内に一列の刻文帯が施文されるもので、さらに口縁部は縄文帯と無文帯をもつ深鉢である。３は縄文地文に貼り付け隆帯により、頚部は連続コの字文を巡らし、胴部は渦巻き文とそれに連結する懸垂文および意匠文が垂下する。４は口唇部に沈線による渦巻文が施文される。５は口縁部上端で貼付隆帯上に連続押捺文が施されている。６・７は深鉢胴部破片。平行沈線による意匠文。８は浅鉢の口縁。頚部で内側に強く屈曲する。隆帯による楕円形区画文。10は輝緑岩製の磨石類で、敲石である。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
10	輝緑岩	12.45	7.42	5.11	12.50

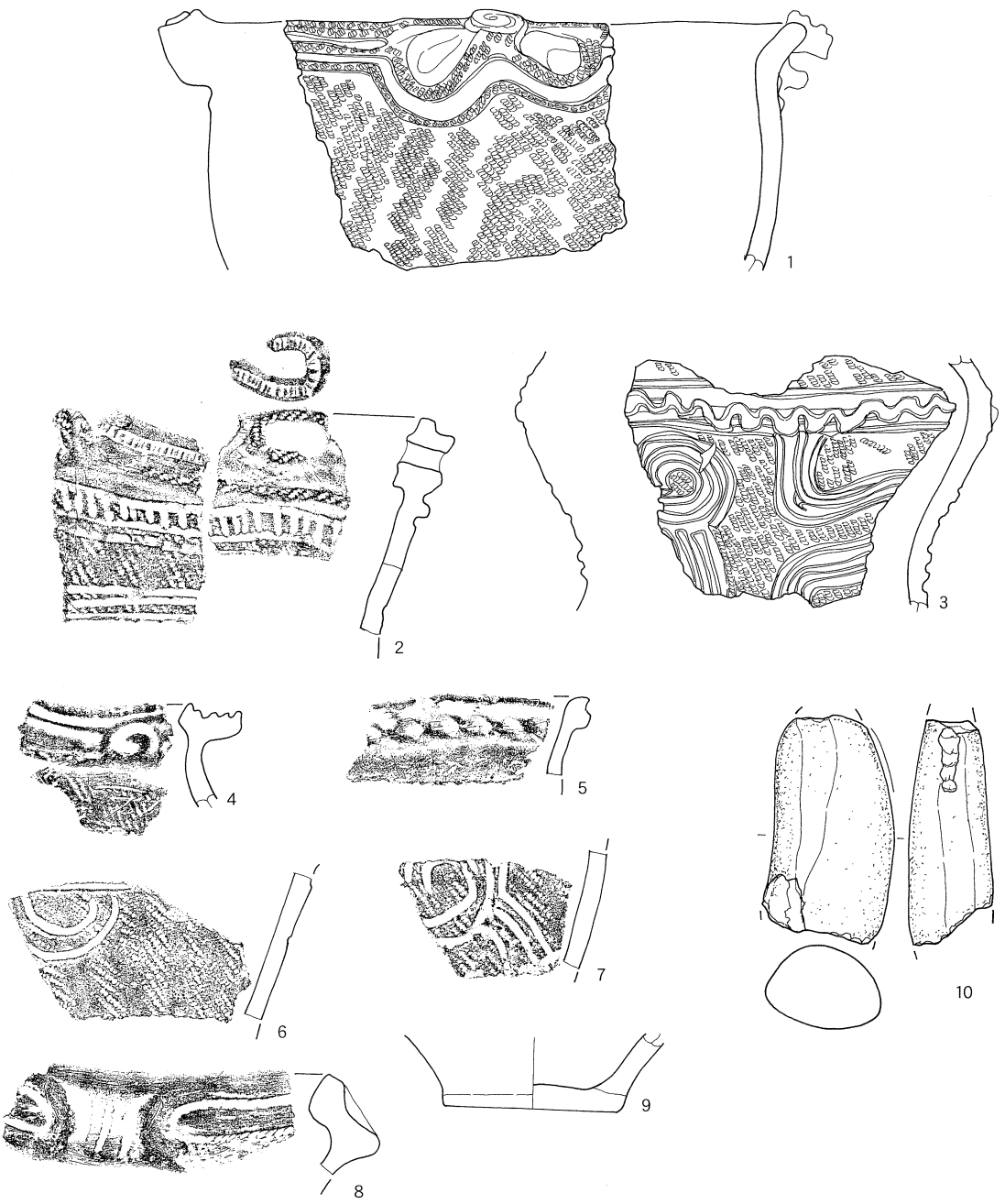
第２項　有段竪穴建物

１）有段竪穴建物SI03（第15図～第17図）

調査区西側、Ⅳ区端に位置する有段竪穴建物である。立地する標高は55.48～55.65mを測る。検出された外周である上床部東西軸5.17m、南北軸5.95m。内周である下床部東西軸3.14m、南北軸3.61mと南北に長い楕円形を呈する。南北軸を通る主軸方位はＮ－45°－Ｗを指す。壁高は上床部５～20cm、上床部と下床部との比高差31cmを測り、良好な掘り込みである。上床および下床面ともほぼ平坦で、部分的に貼床部が検出されるものの顕著ではない。上壁および下壁面伴にほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は上床部で部分的に間欠するもののほぼ全周する。また下床部で



第13図　住居跡SI01実測図

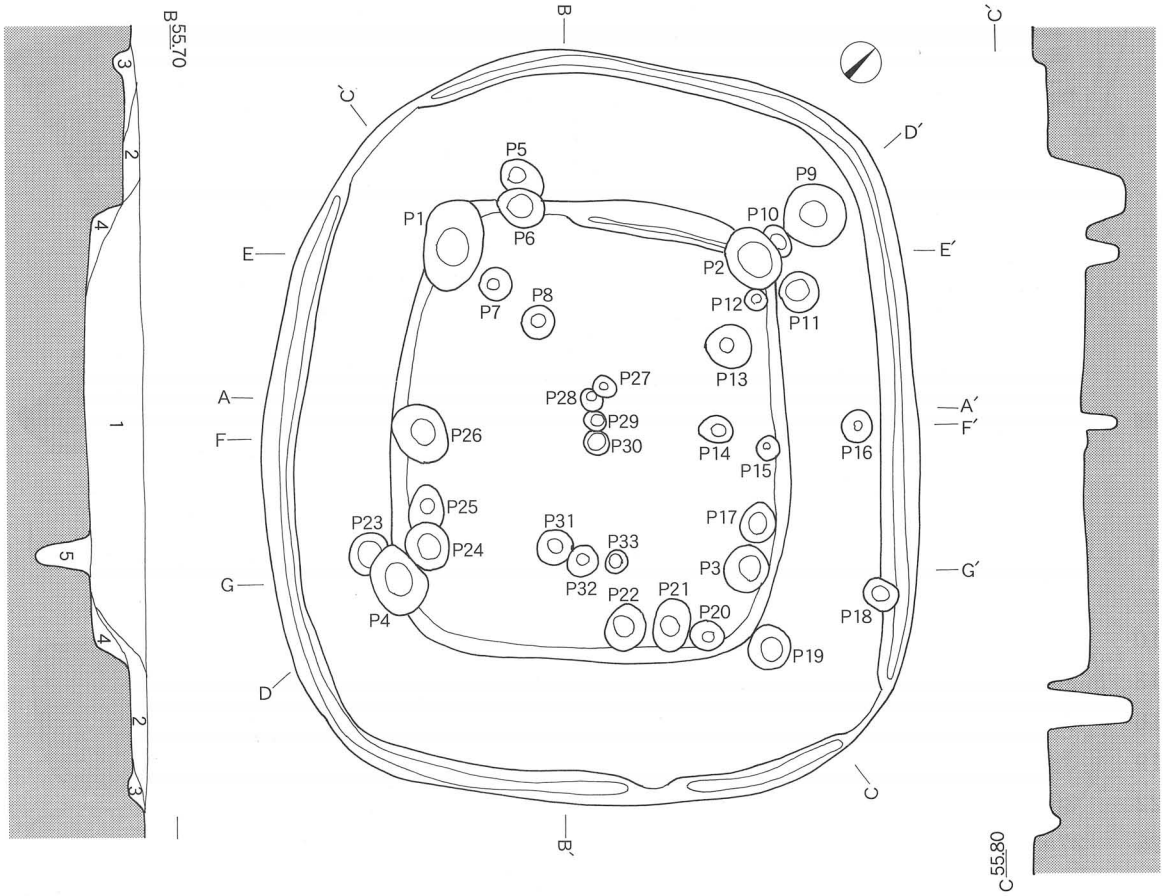


第14図　住居跡SI01出土遺物

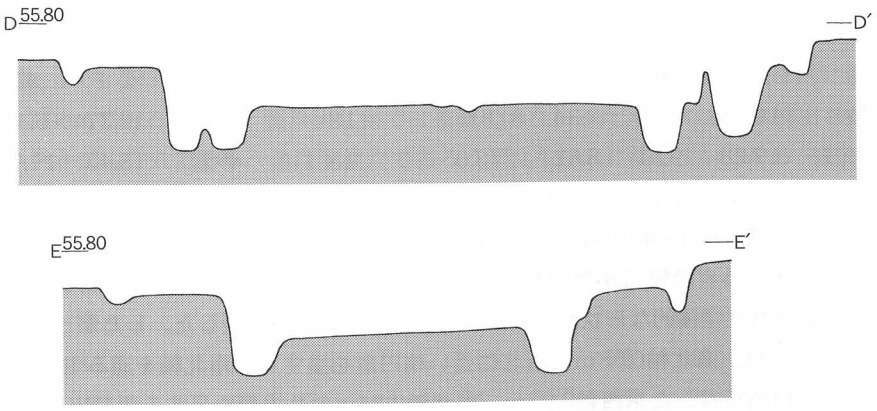
は北壁部に掘削されている。幅14～34.0cm、深さ５～26.0cmである。柱穴は33本検出されているが、上床部と下床部の接する４隅のＰ１～Ｐ４が主柱穴である。他は支柱穴であろうが、主柱穴に接している柱穴群については建替え柱穴の痕跡ではないかとみている。炉跡は検出できなかった。遺構覆土は５層に分層可能であったが、例外なく全面を黒褐色土で覆われており、レンズ状の堆積状態を示す自然堆積層である。

柱穴計測値（単位cm）

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	74×46	29.8	P2	54×41	36	P3	36×35	33.5

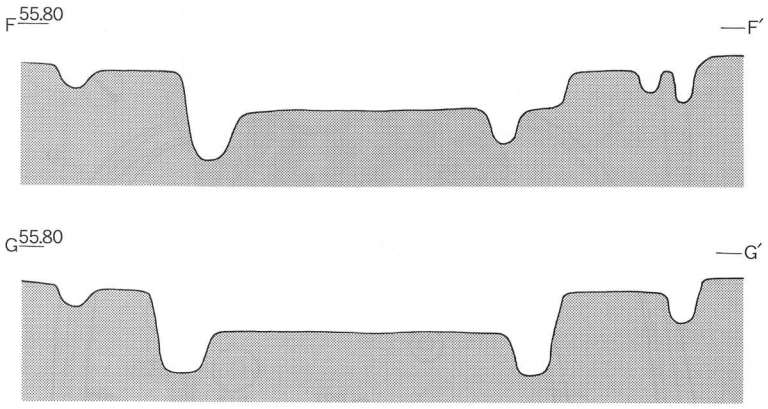


1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



第15図　有段竪穴建物SI03実測図(1)

0　2m
(1/60)



第16図　有段竪穴建物SI03実測図(2)

0　2m
(1/60)

P4	38×36	32	P5	30×(20)	44.5	P6	37×32	20.5
P7	30×20	24.4	P8	31×26	29.5	P9	52×48	52.4
P10	30×(12)	22.5	P11	32×30	50.5	P12	18×16	37.5
P13	35×34	18	P14	31×19	26.5	P15	22×15	31.5
P16	25×22	16.3	P17	30×29	29.5	P18	27×23	100
P19	33×30	64.5	P20	24×23	8.3	P21	41×29	19.7
P22	35×32	21	P23	33×20	8.8	P24	36×35	32
P25	27×(29)	31	P26	45×40	37.5	P27	18×16	5
P28	17×15	36	P29	16×14	24.5	P30	21×18	37
P31	30×25	38	P32	24×23	19	P33	21×16	27

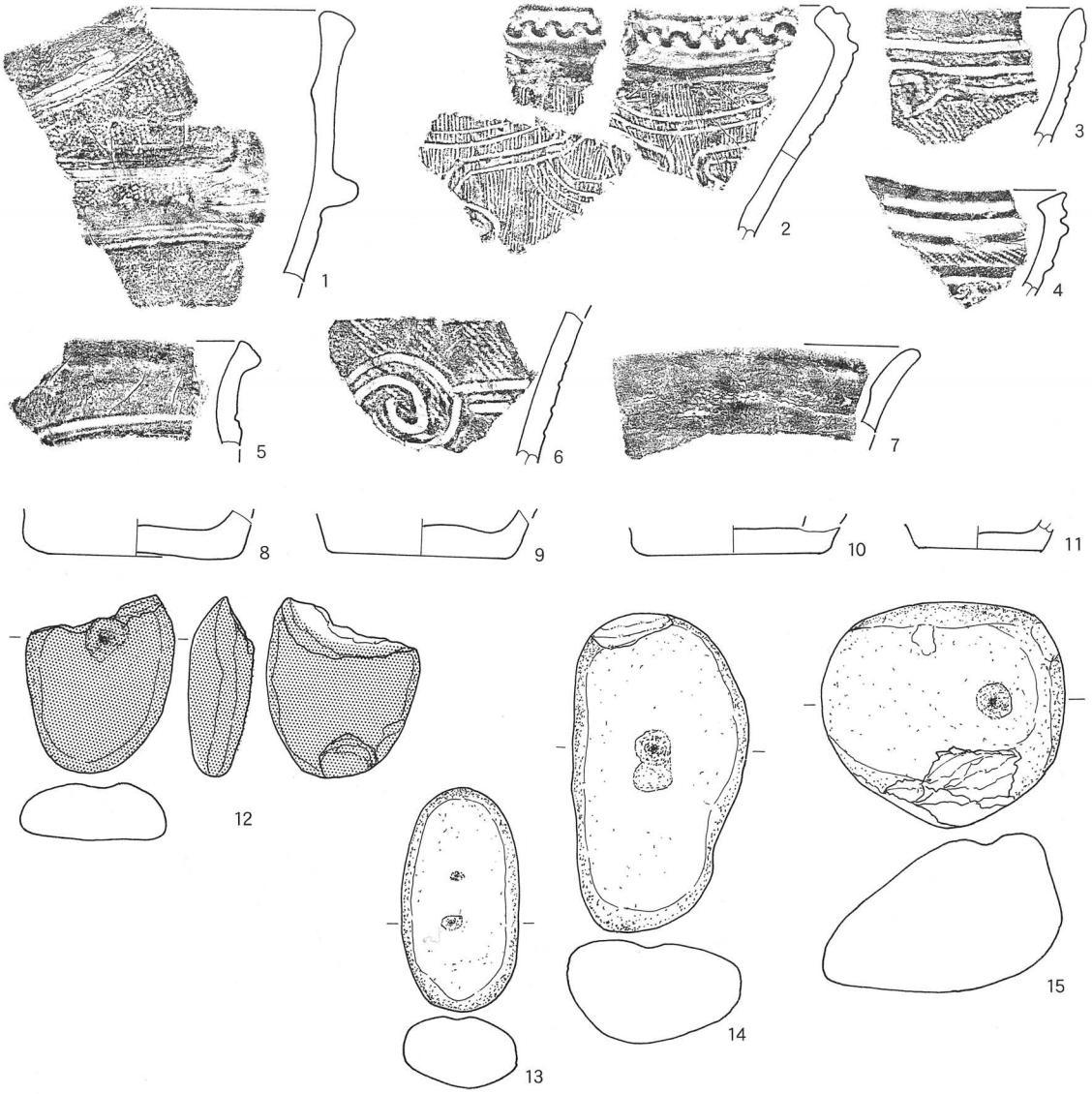
覆土中より出土した土器は中期中葉の土器で、阿玉台Ⅳ式、大木８ａ・ｂ式期である。また石製品として赤彩の付着した磨石のほか、凹孔をもつ磨石類３点が出土している。

１は波状口縁の深鉢。頂部部から口縁部上端に縄文施文された隆帯が巡り、頚部では三角形区画文が配する。２は口縁上端が連続コの字文を巡らし、胴部は平行沈線文による意匠文。３は口縁部上端が幅狭い無文帯となり、沈線により区画される。４は隆帯による枠状区画文。５は沈線により区画された口縁部は無文帯である。６は縄文地文に平行沈線による渦巻文。７は内側に稜を有する浅鉢。12はほぼ半分を欠損しているが、ほぼ前面赤彩痕で覆われていた。素材となる赤彩を作出していたものであろう。13・14は凹孔をもつ磨石類で、磨石としても使用していた。15は凹石である。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
12	安山岩	10.08	8.19	3.34	318.0	13	安山岩	12.37	6.48	4.02	452.0
14	凝灰質泥岩	17.28	9.51	8.62	1273.0	15	砂岩	13.45	11.75	8.26	1792.0

２）有段竪穴建物SI０４（第18図～第20図）

調査区東側、Ⅱ区に位置する有段竪穴建物である。立地する標高は58.33～58.56mを測る。外周壁と上床面は検出できなかったが、確認された全体的な形状から判断して有段竪穴建物と判断した。したがって上床部は不明で、内周である下床部東西軸4.14m、南北軸6.08mと南北に長い楕円形を呈する。南北軸を通る主軸方位はＮ－22°－Ｗを指す。また東側には一段高くなった東西軸0.97m、南北軸2.34mの長方形を呈する張り出し部が付設されている。まず下床部の壁高は4.9～19.5cmを測り、張り出し部と比高差3.0cmで、全体的に良好な掘り込みである。下床面および張り出し部ともほぼ平坦で、部分的に貼床部が検出されるものの顕著ではない。壁面は下床部および張り出し部



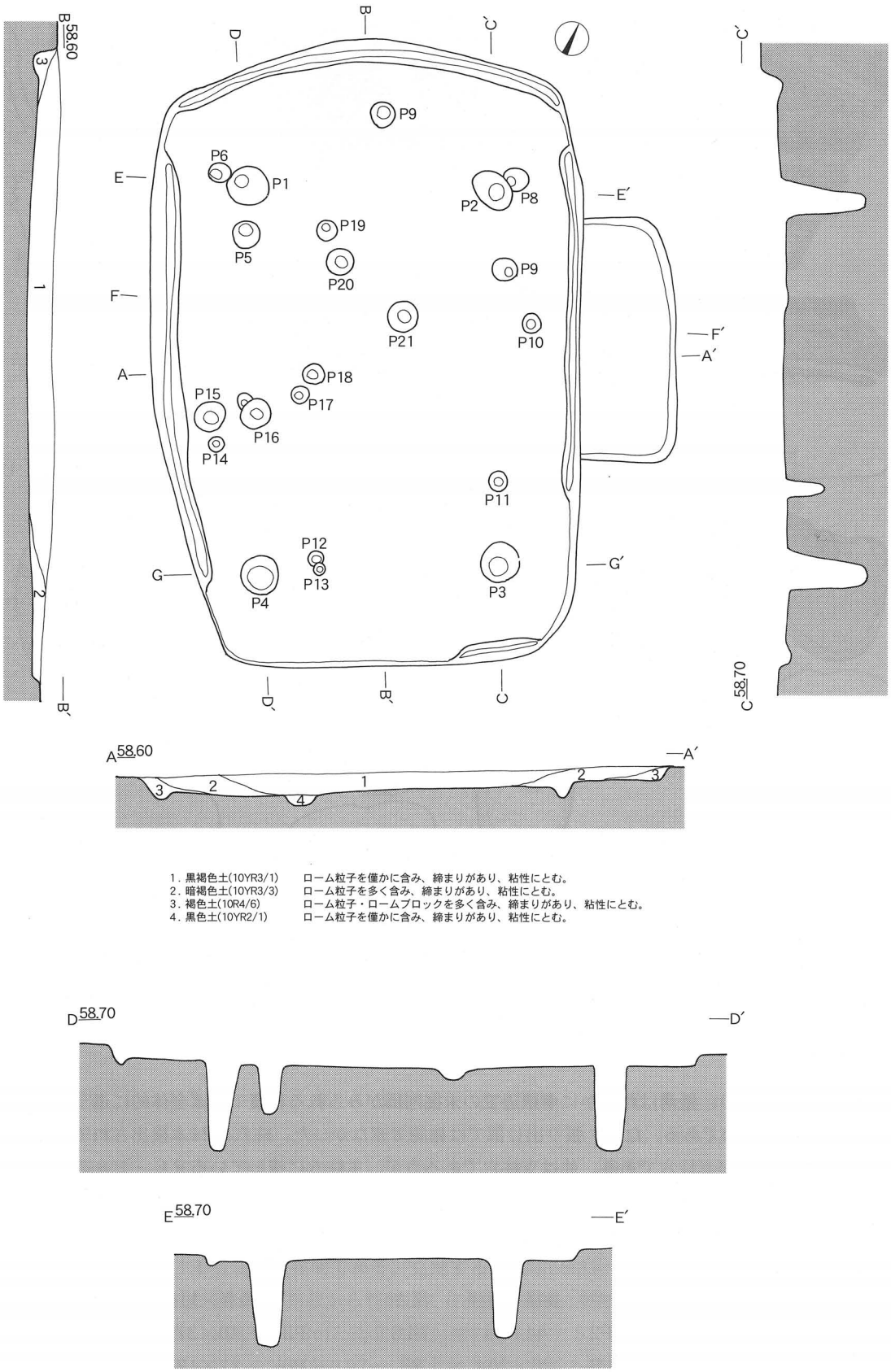
第17図　有段竪穴建物SI03出土遺物

0　10cm
(1/4)

伴にほぼ垂直に立ち上がり、壁溝はわずかに南壁辺での未掘削部がみられる程度でほぼ全体的に巡っている。幅９～30.0cm、深さ2.5～7.0cmである。なお、張り出し部では確認できなかった。柱穴は21本検出されているが、下床部の対角線上のＰ１～Ｐ４が主柱穴である。他は支柱穴であろうが、主柱穴に接しているＰ６・Ｐ８の柱穴は抜き取り痕ではないかとみている。炉跡は検出できなかった。遺構覆土は４層に分層可能であったが、例外なく全面を黒褐色土で覆われており、レンズ状の堆積状態を示す自然堆積層である。

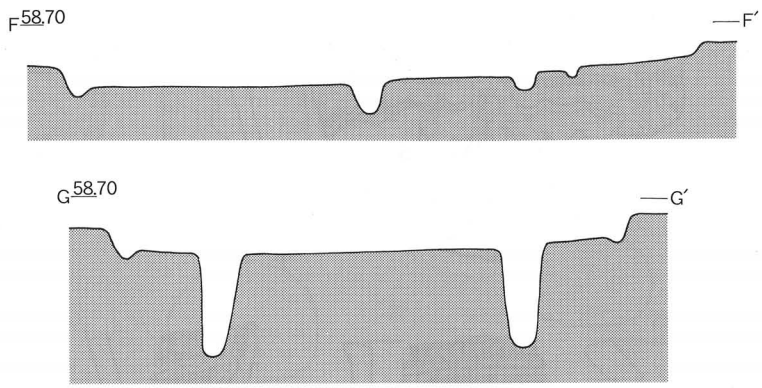
柱穴計測値（単位cm）

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	29×27	82.8	P2	44×31	74.5	P3	40×37	73.5
P4	38×37	82	P5	26×204	38	P6	22×17	42
P7	24×21	15	P8	22×21	37.5	P9	25×20	39.5
P10	18×17	8.5	P11	20×19	36	P12	17×12	8.5



1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/6)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒色土(10YR2/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第18図　有段竪穴建物SI04実測図(1)



第19図　有段竪穴建物SI04実測図(2)

0　2m
(1/60)

P13	11×10	7.5	P14	16×15	6	P15	29×27	5
P16	32×18	10	P17	17×15	3	P18	20×17	12.5
P19	19×18	20.5	P20	26×24	17.5	P21	31×30	22

覆土中より出土した土器は中期中葉の土器で、阿玉台Ⅱ式式期である。また石製品として凹孔をもつ磨石類５点、磨石面のみの磨石３点が出土している。

１は平縁の深鉢。口縁部は波状沈線を巡らし、頚部は隆帯により区画され、隆帯に沿って二列の角押文が施文され、隆帯区画内に波状沈線を充填させる。２・４・６～９は隆帯区画文に沿って角押文を施文する。10は口縁部を隆帯区画により無文帯とする。11～13は押捺圧痕の隆帯を垂下させ、刻目文を施文する。16は浅鉢で、双頭状の波状口縁をもち、口唇部と波頂部の隆帯上に刻目を施す。17 ～21は凹孔をもつ磨石類で、磨石としても使用していた。22～24は磨面のみの磨石で、24には筋状の擦痕がみられる。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
17	安山岩	12.1	8.67	5.78	907.0	18	砂岩	14.10	7.79	4.13	648.0
19	安山岩	13.94	8.49	5.81	719.0	20	安山岩	7.58	8.38	3.75	368.0
21	安山岩	10.88	5.97	4.19	351.0	22	安山岩	13.29	7.78	6.32	1038.0
23	安山岩	12.03	7.87	5.07	781.0	24	安山岩	11.82	9.09	5.43	867.0

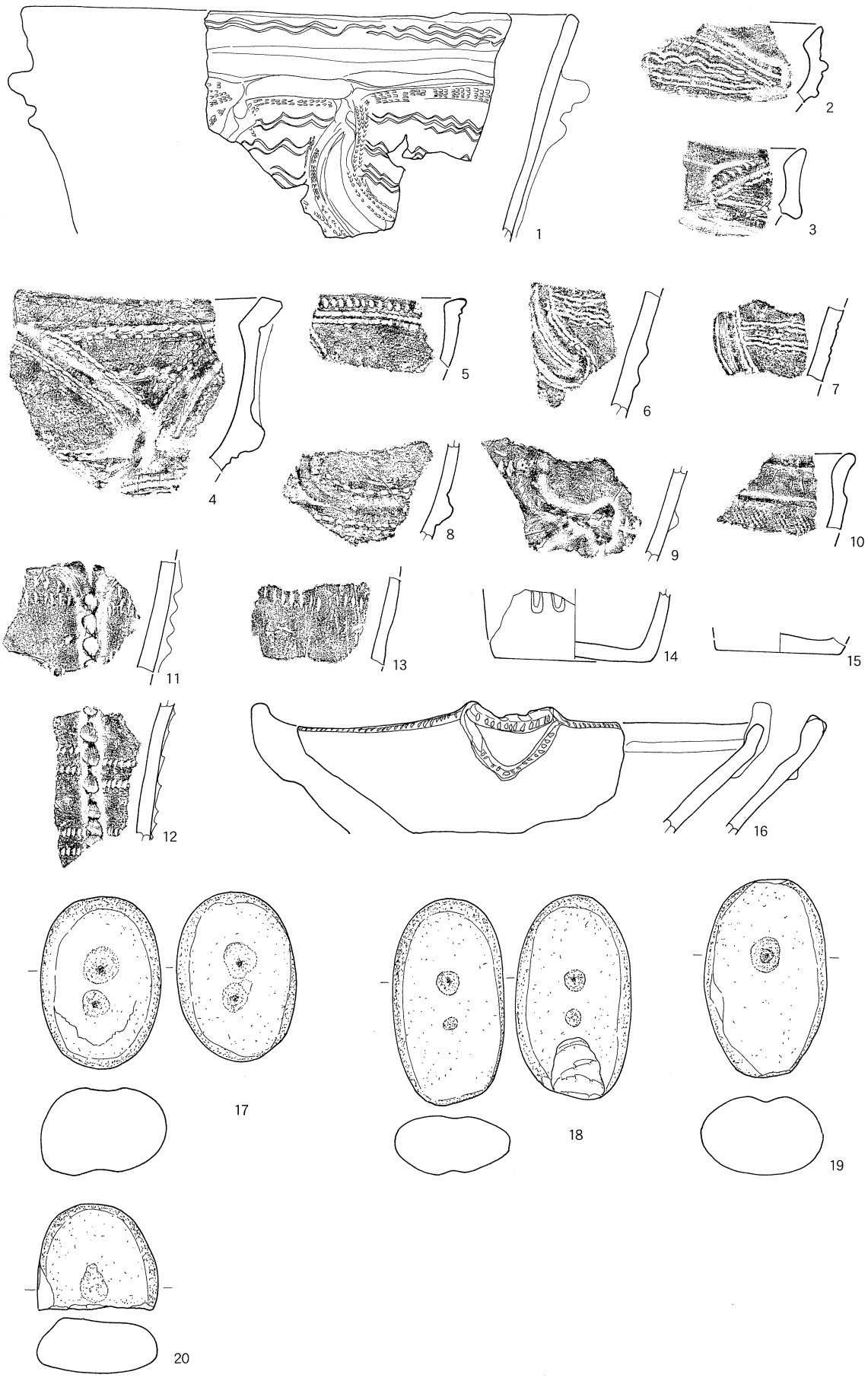
３）有段竪穴建物SI05（第22図・第23図）

調査区西側、Ⅱ区に位置する有段竪穴建物である。立地する標高は58.44～58.64mを測る。南側の大半が未調査区域に延びており、検出面は北隅側である。計測可能な外周である上床部東西軸1.77m、南北軸2.28m。内周である下床部東西軸1.03m、南北軸1.26mと南北に長い楕円形を呈する。南北軸を通る主軸方位はＮ－44°－Ｗを指す。壁高は上床部8.6～22.5cm、上床部と下床部との比高差17.4cmを測り、良好な掘り込みである。上床面および下床面ともほぼ平坦で、部分的に貼床部が検出されるものの顕著ではない。上壁および下壁面伴にほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は確認できなかった。

柱穴は３本検出されているが、下床部の北隅に接するＰ１が主柱穴で、上床部の２本は支柱穴である。炉跡は検出できなかった。遺構覆土は３層に分層可能であったが、床土全面を黒褐色土で覆われたレンズ状の堆積状態を示す自然堆積層である。

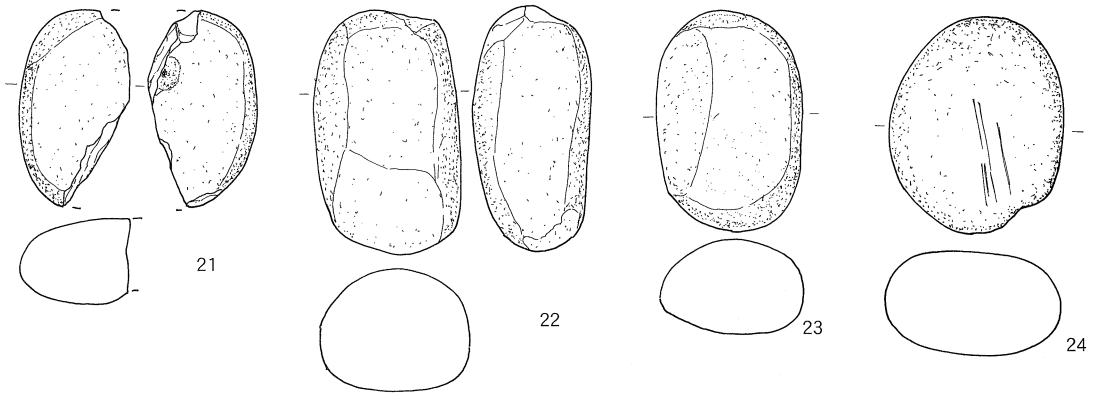
柱穴計測値（単位cm）

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	30×30	42	P2	20×16	19	P3	20×17	15.5



第20図　有段竪穴建物SI04出土遺物(1)

0　10cm
(1/4)



第21図　有段竪穴建物SI04出土遺物(2)

0　10cm
(1/4)

覆土中より出土した遺物は土器はなく、磨石１点のみであった。1は使用痕である敲打孔をもつ磨石類で、棒状磨石である。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
1	安山岩	16.72	6.91	5.30	1019.0

４）有段竪穴建物（SI06）（第24図～第30図）

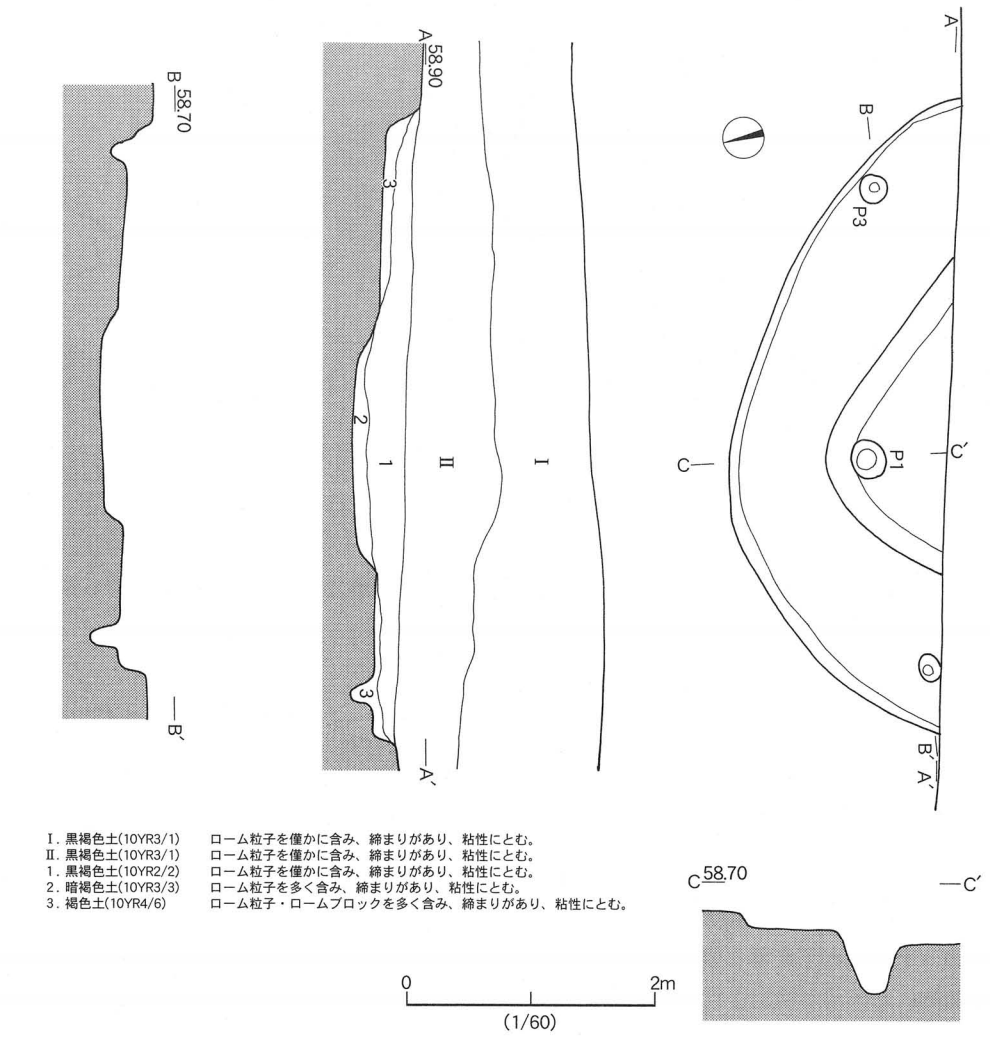
調査区西側、Ⅱ区に位置する有段竪穴建物である。立地する標高は57.03～57.38mを測る。新旧２期の建替えがみられ、北側に拡張していた。まず新期と確認された外周である上床部東西軸6.28m、南北軸7.91m。内周である下床部東西軸4.07m、南北軸5.97mと南北に長い楕円形を呈する。南北軸を通る主軸方位はＮ－19°－Ｗを指す。壁高は上床部12～32cm、上床部と下床部との比高差28.5cmを測り、良好な掘り込みである。上床および下床面ともほぼ平坦で、ほぼ全面的に貼床部が検出される。上壁および下壁面伴にほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は上床部で北壁辺から東壁辺の北側で掘削されており、幅13.5～27cm、深さ4～15cmを測る。また下床部では東壁部から南壁部にかけて、さらに西壁面の中央部に掘削されている。幅10～28.0cm、深さ2.5～18.0cmである。柱穴は10本検出されているが、下床部の接する４隅のＰ１～Ｐ４が主柱穴である。径40～70cm、深さは上床部から62～93cm、下床部から31～36cmである。なお、この主柱穴に接している柱穴群については建替え柱穴の痕跡であり、抜き取り穴の可能性が高いが明瞭な貼床は確認できなかった。やはり炉跡はない。遺構覆土は６層に分層可能で、覆土上面を１層黒褐色土が、下層で２層暗褐色土が覆っており、レンズ状の堆積状態を示す自然堆積層である。

また古期は壁溝の貼床行為によって検出できたもので、新期上床部に巡る壁溝が古期上床部に属するものと判断した。したがって東西軸5.72m、南北軸6.50mで壁高は新期と同様12～32cmを測る。

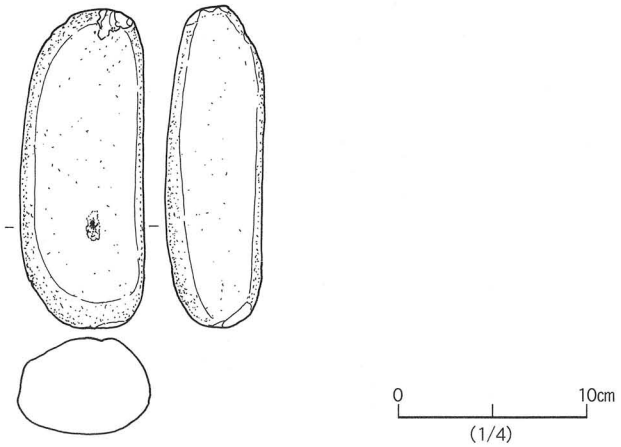
下床面は新期とほぼ重複するが、南壁に２重壁溝がみられ、貼床されていたことから内側溝が古期の壁溝である。また東壁辺でも北東隅辺でやはり２重壁溝が検出されており、やはり内側が貼床されていることから古期壁溝と判明した。柱穴は新期の南東隅Ｐ３および南西隅Ｐ４が柱穴掘削部において重複しているが、内側が古期の柱穴であろう。また北西隅柱はＰ５、北東隅柱はＰ６が古期の主柱穴である。

柱穴計測値（単位cm）

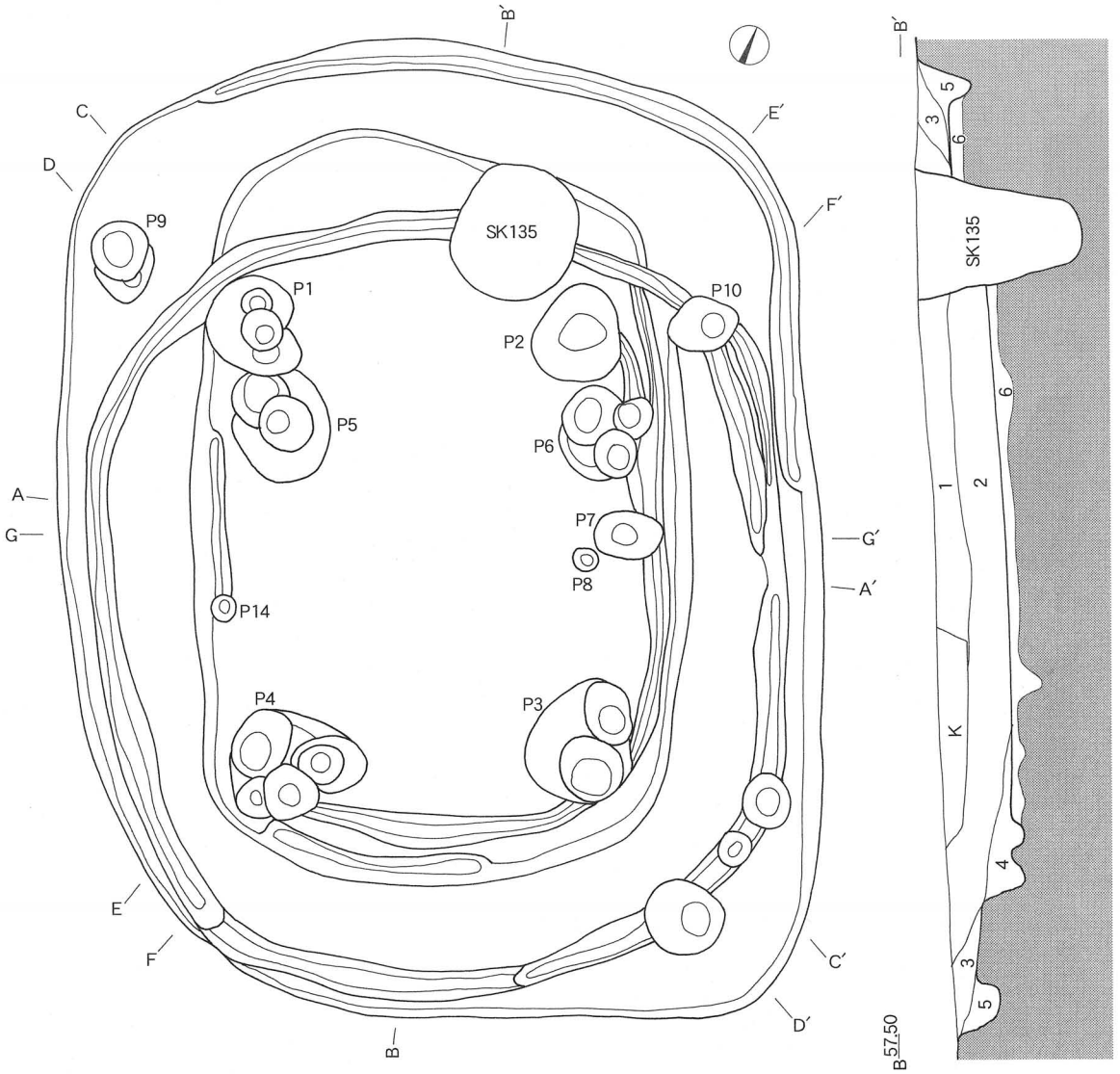
	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	84×70	21	P2	82×69	82	P3	103×87	64.3
P4	113×91	67.3	P5	96×78	67.8	P6	75×70	54
P7	60×35	13.2	P8	22×20	25.5	P9	69×48	60.3
P10	60×46							



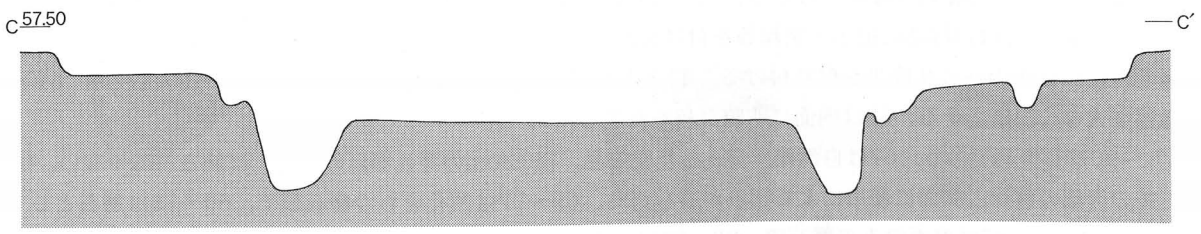
第22図　有段竪穴建物SI05実測図



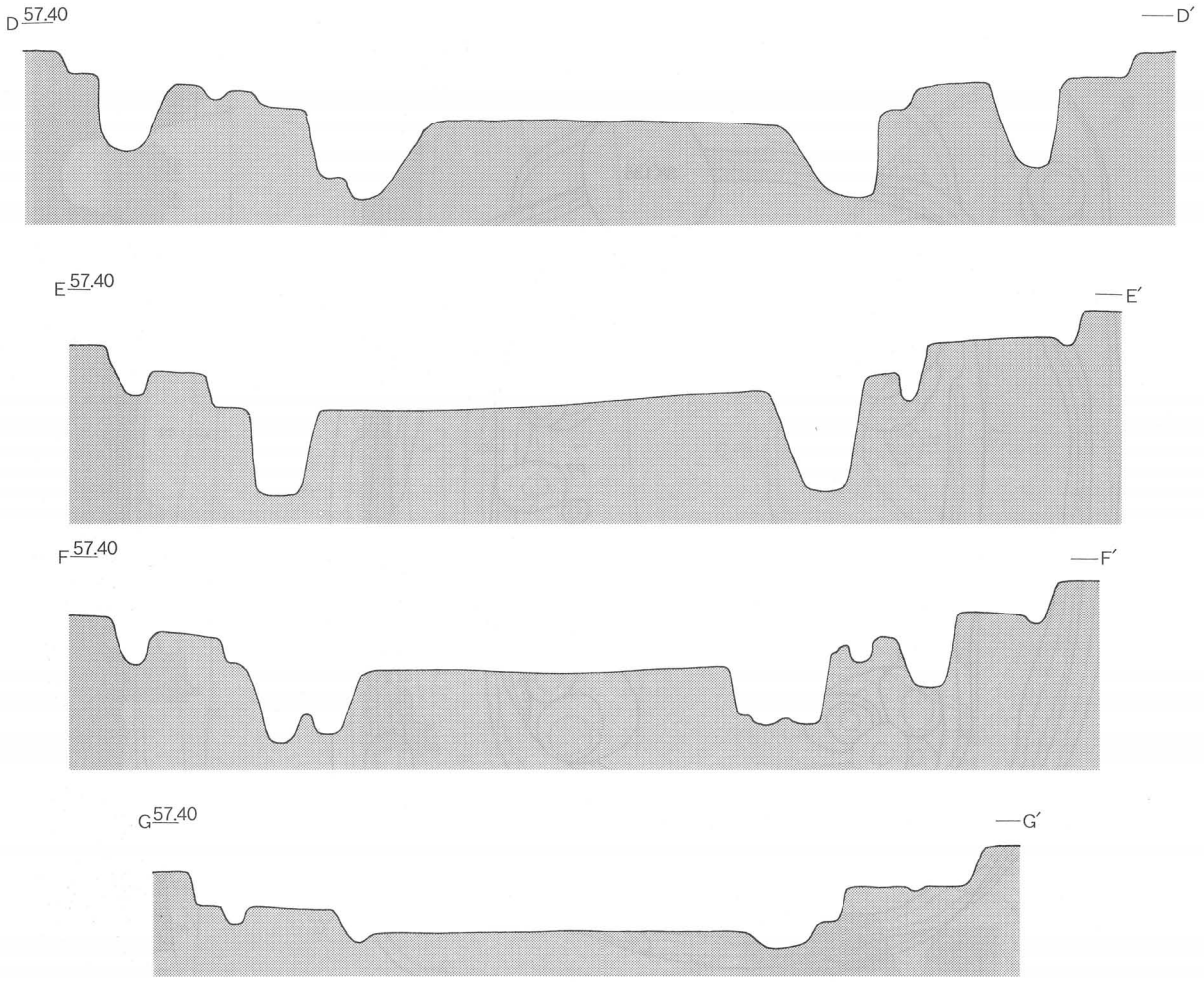
第23図　有段竪穴建物SI05出土遺物



1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



第24図　有段竪穴建物SI06実測図(1)

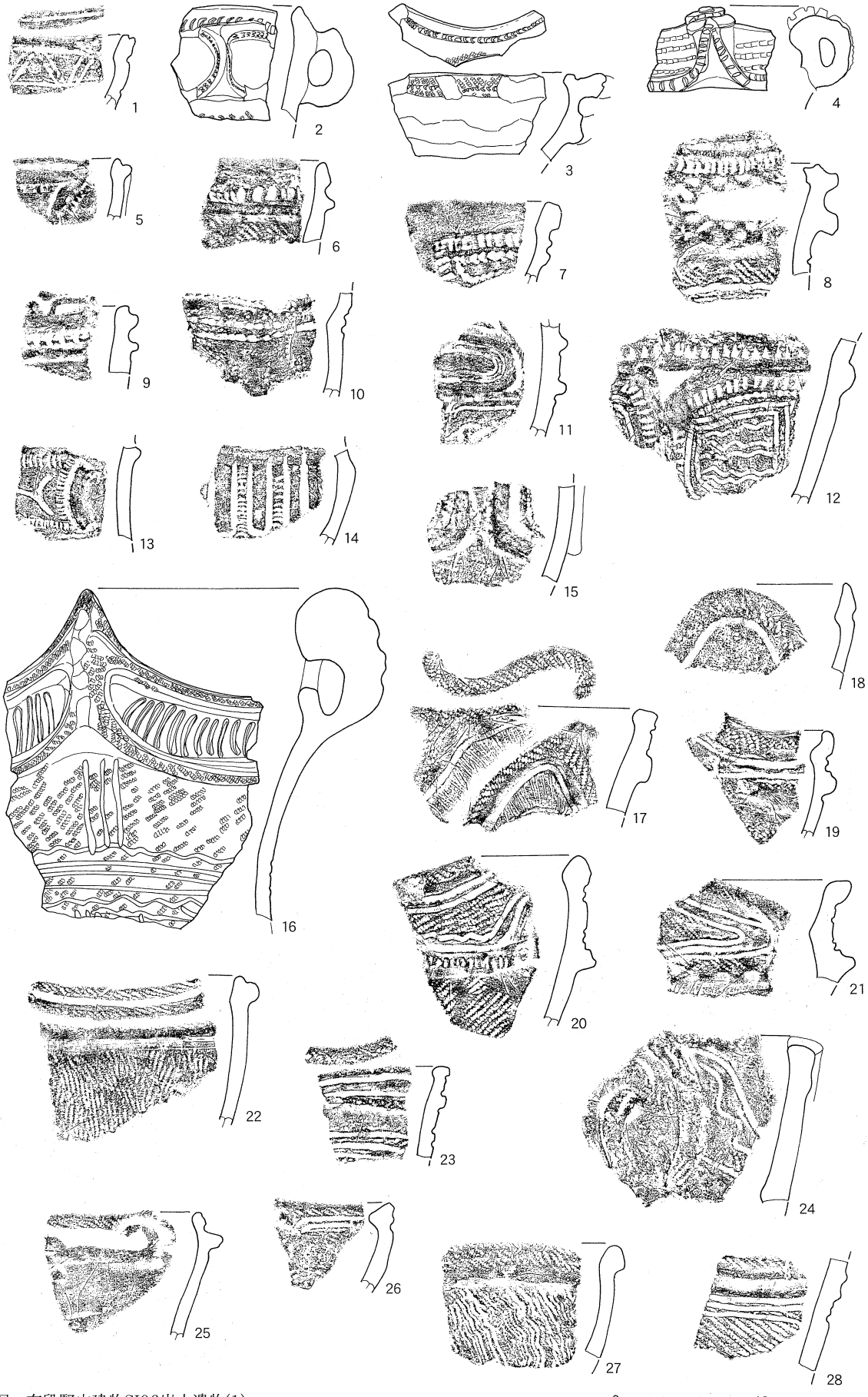


第25図　有段竪穴建物SI06実測図(2)

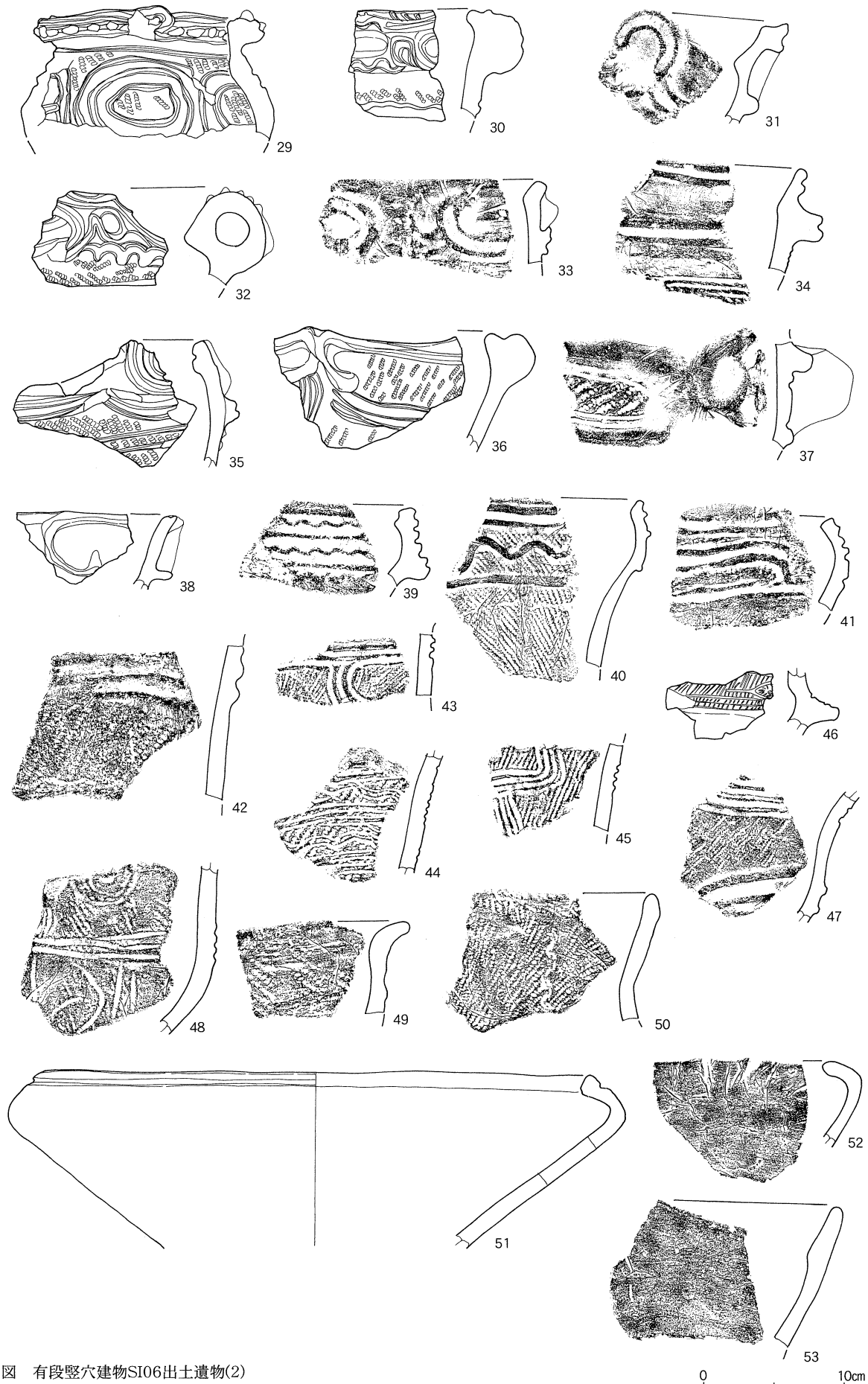
覆土中より出土した土器は中期中葉の土器で、阿玉台Ⅱ～Ⅳ式、大木８ａ・ｂ式期である。また石製品として垂飾り、磨製石斧のほか、大半が磨石類で凹孔をもつ磨石類９点、磨面のみの磨石10点、多孔石１点、石皿１点、台石１点が出土している。

１は口縁部区画内に有節線文による鋸歯状の装飾文。阿玉台Ⅱ式。３～10・12は角押文を施文している。２は隆帯による楕円形区画文に沿って角押文を施文し、３・８は口唇部上に、４は隆帯区画文上に刻目を加え、区画内は角押文を充填させる。阿玉台Ⅲ式。13は爪形文による区画内に三叉文を配する。14は沈線間に刻目を施す。勝坂式の新しい部分。16～28は隆帯区画文上に縄文施文するもので、17～22は波状口縁となる。25は横Ｓ字状隆帯を施文する。27の胴部は波状条線文を垂下させる。16は山形把手を有する深鉢。隆帯区画上には縄文施文され、区画内は縦位の沈線を充填させる中峠タイプとなろう。29～39は大木８ａ式。29は樽形の深鉢。胴部は縄文地文に沈線による同心円文。30～33は口縁部に把手・突起等を付け装飾している。40～50は大木８ｂ式。40はキャリパー形の深鉢。口縁部は隆帯区画内に波状隆帯を貼り付ける。41・43は背割り隆帯によるクランク文。51～53は浅鉢。51・52は口縁部を大きく内傾させる。53は内面に明瞭な稜を有する。

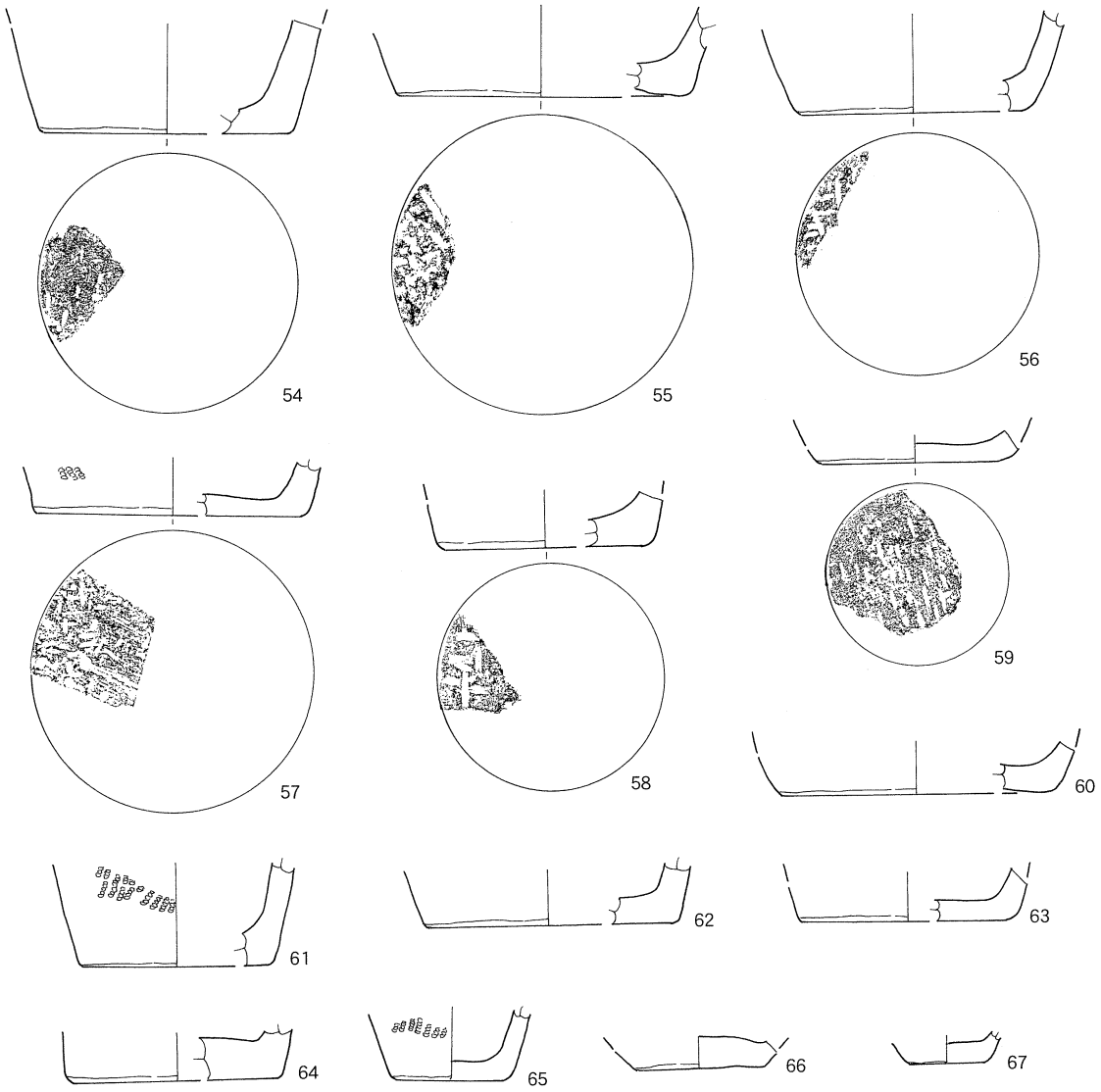
67 ～90は石製品である。67は自然礫に穿孔した垂飾品。径0.3cmの穿孔部以外に加工は施されていない。69は磨製石斧の刃部の破片。側面に使用による凹みがみられる。69～77は凹孔をもつ磨石類で、69～75は磨石としても使用していた。78～87は磨面のみの磨石で、86・87は小型である。89は円形に研磨した円礫に表裏面に多数の凹部を



第26図　有段竪穴建物SI06出土遺物(1)



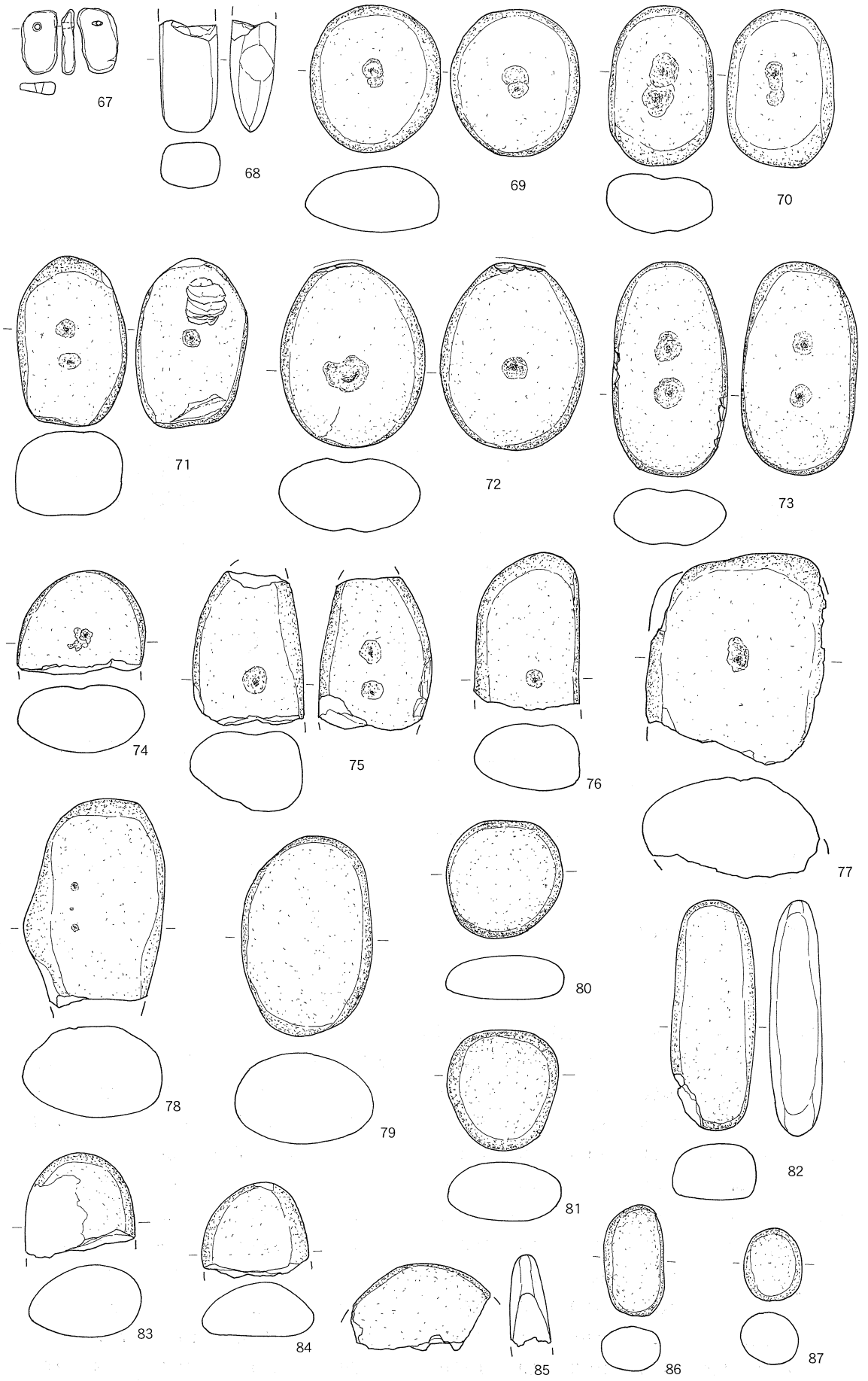
第27図　有段竪穴建物SI06出土遺物(2)



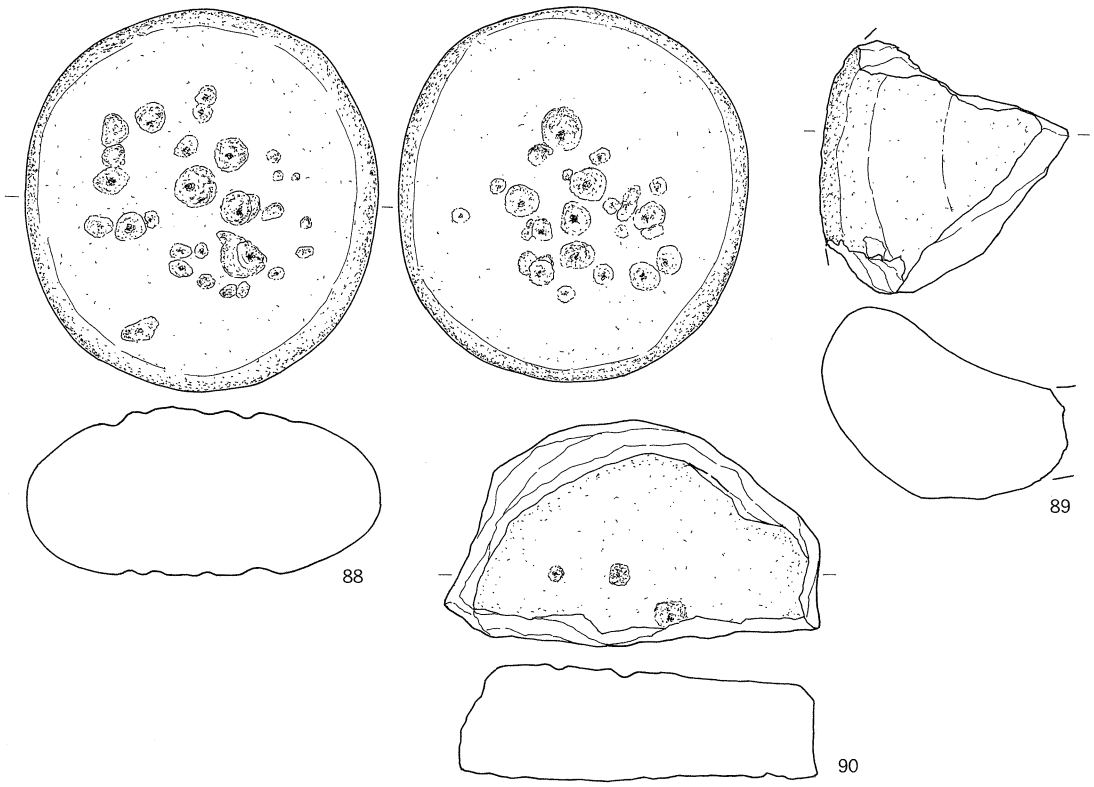
第28図　有段竪穴建物SI06出土遺物(3)

作出している。89は石皿の破片。90は台石で凹部を有する。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
67	チャート	4.60	2.50	1.04	21.30	68	砂岩	7.58	4.22	3.39	194.0
69	砂岩	10.88	9.32	4.58	642.0	70	安山岩	11.41	7.60	4.17	451.0
71	凝灰質砂岩	11.98	8.05	5.96	809.0	72	凝灰質砂岩	13.38	10.39	5.30	989.0
73	砂岩	15.47	7.97	3.98	781.0	74	安山岩	7.62	8.83	4.56	448.0
75	安山岩	10.70	7.72	5.81	728.0	76	安山岩	11.05	7.44	4.92	678.0
77	閃緑岩	14.91	12.37	7.02	1632.0	78	安山岩	14.16	9.90	6.26	1259.0
79	砂岩	14.66	9.59	6.43	1242.0	80	安山岩	8.54	8.51	3.03	301.0
81	砂岩	8.96	8.09	4.50	479.0	82	安山岩	16.32	5.84	3.78	602.0
83	安山岩	7.10	7.88	5.14	364.0	84	砂岩	6.66	7.93	3.86	298.0
85	凝灰質砂岩	6.29	10.05	2.99	194.0	86	安山岩	7.83	4.23	2.88	148.0



第29図　有段竪穴建物SI06出土遺物(4)



第30図　有段竪穴建物SI06出土遺物(5)

0　10cm
(1/4)

87	安山岩	5.17	4.20	3.64	103.0	88	安山岩	19.85	18.67	8.73	1355.0
89	安山岩	13.65	13.05	6.52	1058.0	90	凝灰質砂岩	11.88	19.73	5.98	1675.0

第３項　土坑

１）1号土坑（SK01）（第31・60図）

調査区の中央Ⅲ区、標高58.22～58.36 mに位置し、SK02を切っている。規模は上場長軸2.08m短軸1.84m。底面長軸2.09m、短軸2.08mの円形で、深さ51.3cmを測る。底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がり、袋状を呈する。覆土は黒褐色土を主とする３層からなる自然堆積層である。遺物は、火炎土器および阿玉台Ⅲ式期の土器、磨石類が上層１層から出土している。60図１は火炎土器で覆土上層１層から出土したものである。約1/4程度が遺存しており底部から口縁部に至るまで復元実測することができた。なお接合することができなかったが、残存する破片があり、別個体ではなく同一個体と判断した。これは県内において良好な資料である。大きさは計測できる口径29.0cm、器高31.8cm、底径16.0cmを測り、口縁部が内彎するキャリパー形を呈する。文様は複雑で、まず口辺部に環状把手が付く。単位は不明であるが口縁部下の袋状突起を伴う橋状把手の単位から判断して４単位であろう。把手孔部は楕円形を呈し、把手上辺部に鋸歯状突起が上下対称に付き、刻目隆帯が挟まれる。また下部鋸歯状突起にも刻目が施されている。なお環状把手裏面には沈線が施文され、口辺部にも鋸歯状突起が巡る。口縁部下に小さな橋状把手が付き、これを起点に隆帯渦巻文が施文される。袋状突起を伴う橋状把手は現存で３単位確認できることから全周８単位の存在が推定される。隆帯渦巻文下部は横Ｓ字状文を基調とする三角形区画文で口縁部と胴部を区画する。胴部は隆帯横Ｓ字状文から派生する隆線懸垂文が密集垂下する。底部は丁寧なナデ成形により平坦である。胴上部の隆帯横Ｓ字状文や懸垂文には刻目が施されている個所がある。胎土に石英・長石・黒色粒子を比較的多く含み、色調は黄橙色(7.5YR8/1)をなす。焼成は器面全体からみて不良で脆い。火炎中期段階に相当する。２～７は角押文を施文する。

8は扇状把手、隆帯に沿って角押文が施される。8は口唇部に刻目が巡る。11は無節1を地文にIR縄の側面圧痕文による区画文とする。12は縄文施文。17は浅鉢で赤彩がわずかに認められる。18～23は磨石類。18は浅い凹部をもつ。19・20は棒状敲打石。21はチャート製で球形の磨面が認められる。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
18	砂岩	9.73	7.97	5.06	468.0	19	砂岩	9.79	5.25	3.62	337.0
20	安山岩	11.25	5.99	2.85	224.0	21	チャート	7.31	6.95	5.88	437.0
22	安山岩	8.25	5.90	4.90	398.0	23	砂岩	15.86	5.89	3.98	668.0

2）2号土坑（SK02）（第31・60図）

調査区の中央Ⅲ区、標高58.35～58.44mに位置し、土坑SK01に切られ、土坑SK62を切っている。規模は上場長軸2.01m、短軸1.59m。底面長軸2.02m、短軸1.48mの円形で、深さ38.8cmを測る。底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がり、袋型を呈する。覆土は黒色土と黄褐色土の埋戻し土層。遺物は、阿玉台式期。60図1は小突起をもち、口縁部に角押文が巡る。

3）3号土坑（SK03）（第31・61図）

調査区の中央Ⅲ区、標高58.12～58.33mに位置する。規模は上場長軸3.33m、短軸2.48m。底面長軸2.42m、短軸2.36mの円形で、深さ43.5cmを測る。底面は平坦で、南東側に柱穴(径40.0×38.0cm、深さ41.6cm)を伴う。壁は垂直気味に立ち上がる円筒型を呈する。覆土は3層で自然堆積層である。遺物は、覆土中層から出土。1は角押文による区画文内に有節線文が施文される。3。4は楕円形区画文に沿って角押文が巡る。阿玉台Ⅱ式。61図9は火炎系の把手破片。13・14は大木8a式。16は有孔壺。18・19は磨石である。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
18	砂岩	9.73	7.97	5.06	468.0	19	砂岩	9.79	5.25	3.62	337.0

4）4号土坑（SK04）（第32図）

調査区の北側、I区、標高59.56～59.71mに位置し、南東側で土坑SK05に切られている。規模は上場長軸1.90m短軸1.70m。底面長軸1.57m、短軸1.55mの楕円形で、深さ25.3cmを測る。底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は2層からなる自然堆積層である。遺物は検出できなかったが、縄文中期に比定される。

5）5号土坑（SK05）（第32図）

調査区の北側、I区、標高59.46～59.62mに位置し、北西側で土坑SK04を切っている。規模は上場長軸2.33m。底面長軸2.12m、短軸1.00mの楕円形で、深さ19.0cmを測る。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は3層からなる自然堆積層である。遺物は検出できなかったが、縄文中期に比定される。

6）6号土坑（SK06）（第32図）

調査区の北側、I区、標高59.50～59.58mに位置し、西側半分が撹乱を受けている。規模は上場長軸0.92m。底面長軸0.89mの円形を呈するものと推定する。深さ13.7cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は暗褐色土層の単一層からなる。遺物は検出できなかったが、中世以降に比定される。

7）7号土坑（SK07）（第32・61・62図）

調査区の北側、I区、標高59.43～59.49mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.19m、短軸1.10m。底面長軸2.07m、短軸1.82mの円形を呈する。深さ90.4cmを測り、底面は平坦で、東側にピットを伴う。大きさは41.0×40.0cm、深さ14.0cmを測る。壁は大きく内傾するフラスコ型。覆土は9層からなる自然堆積層。遺物は、中層4層から出土している。61図1は口縁部が幅狭い文様帯で、突起状の渦巻き隆帯を起点に波状隆帯を貼り付ける。大木8a式。2は口唇部に2列の角押文を巡らし、胴部下部は沈線区画文。3・4は有節沈線を直線お

よび波状に巡らす。大木７ｂ式。５は口縁部に貼付隆帯による突起をつける。7は口径32.6cmを測る大型のキャリパー形深鉢。口縁部上部に剥離しているが２条の隆帯が巡り、胴部は縄文地文に平行沈線による連結した角張ったＳ字状文を想定させる懸垂文を垂下させる。大木８ａ式。17～20は磨石類である。19は端部に凹部をもち、20は棒状敲打石である。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
17	安山岩	15.15	9.12	6.30	1231.0	18	砂岩	15.20	8.90	5.98	1142.0
19	安山岩	13.64	9.33	6.85	1078.0	20	安山岩	12.70	6.33	4.64	473.0

８）８号土坑（SK08）（第32・62図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.36～59.39mに位置し、西側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸0.94m、短軸0.59m。底面長軸1.40m、短軸1.11mの円形を呈する。深さ98.5cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾するフラスコ型。覆土は７層から自然堆積層。遺物は中層５層から出土している。62図１は断面三角形の貼付隆帯が平行して垂下する。２は有節線文による弧状文。３は角押文による楕円形区画文。５は浅い凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
5	安山岩	10.98	8.35	4.82	720.5

９）９号土坑（SK09）（第33・63図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.30～59.39mに位置し、西側がわずかに未調査区域に延び、南東隅が土坑SK10によって切られている。規模は上場長軸1.49m、短軸1.36m。底面長軸1.29m、短軸1.26mの円形を呈する。深さ40.2cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる円筒型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は、底面近くの３層中から出土。全体的に若干浮いていた。63図１は波状口縁で角押文による枠状区画文。４は貼付隆帯が蛇行垂下する阿玉台Ⅱ式。２は小突起をもち、角押文により区画され口縁部を無文帯とする。５～９は磨石類。10は石皿である。５は両面に凹部をもつ。10は凝灰岩製で石皿の作業部は楕円形で底面も丁寧な弧面を呈する。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
5	砂岩	10.29	7.38	4.14	431.0	6	安山岩	(9.88)	7.37	4.16	332.0
7	安山岩	7.51	4.54	3.57	134.0	8	砂岩	(15.96)	7.33	4.13	701.0
9	砂岩	15.20	9.29	5.28	1041.0	10	凝灰岩	24.81	31.41	7.49	6550.0

10）10号土坑（SK10）（第33・64図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.28～59.35mに位置し、東側が未調査区域に延び、北西隅に土坑SK09を切っている。規模は上場長軸1.20m、短軸0.75m。底面長軸1.07m、短軸0.62mの円形を呈する。深さ51.3cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は、床面に近い２層中に纏まっていた。64図１は口縁部に押捺を加えた隆帯が巡り、胴部は縄文地文に角押文の区画文と3本一組の沈線文による意匠文。３は隆帯による楕円形区画文。４の突起は隆帯による横Ｓ字文。６は波状口縁で口縁部の隆帯上に縄文施文し、隆帯に沿って爪形文が巡る。７は口縁部上が幅狭い無文帯。口縁部は隆帯区画内は角押文と横位の波状沈線が施文される。10は口縁部が大きく内傾する浅鉢。

11）11号土坑（SK11）（第33・64図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.24～59.56mに位置し、東側が未調査区域に延び、北隅に土坑SK10を切っている。規模は上場長軸1.65m、短軸0.60m。底面長軸2.04m、短軸0.75mの円形を呈する。深さ71.7cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾するフラスコ型。覆土は５層からなる自然堆積層。遺物は、中層３層に纏まっていた。64図１は胴部に刻目が巡る。２は口縁部がやや内傾する。４は刻目の有する円形把手。５は全面赤彩が施された浅鉢。７・８は磨石類で、７は図の裏面が平坦で、凹部を有する。８は棒状敲打石の完存品。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量

7	安山岩	11.72	9.00	6.55	904.0	8	砂岩	22.18	6.76	4.69	998.0

12）12号土坑（SK12）（第33図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.25～59.29mに位置し、西側で土坑SK13によって切られている。規模は上場長軸1.21m、短軸0.73m。底面長軸1.00m、短軸0.59mの円形を呈する。深さ30.4cmを測り、底面は平坦で、３本のピットを伴う。ピットの計測は下記のとおりである。壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる、覆土は２層の自然堆積層。遺物は検出できなかった。

P1　16.0×13.0×18.5cm　　P2　21.0×21.0×25.8cm　　P3　28.0×21.0×21cm

13）13号土坑（SK13）（第33・65図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高29.24～29.29mに位置し、西側約半分が未調査区域に延び、東側の土坑SK12を切っている。規模は上場長軸1.38m、短軸0.82m。底面長軸2.29m、短軸0.98mの円形を呈する。深さ70.7cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は褐色土層７層からなる自然堆積層。遺物は覆土中層から出土した。65図１は波状口縁で尖頭状の把手が付く。２は隆帯に沿って角押文が巡る。５は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
5	安山岩	11.41	7.45	3.77	401.0

14）14号土坑（SK14）（第33・65・66図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.21～59.32mに位置し、南東側で土坑SK13を切っている。規模は上場長軸1.97m、短軸0.94m。底面長軸1.22m、短軸0.86mの円形を呈する。深さ43.2cmを測り、底面は平坦で、壁はわずかに外傾して立ち上がる。覆土は４層からなる自然堆積層である。遺物は、壁際中層３層中で出土した。65図１・３・４は大形山形把手を有するもので隆帯に沿って角押文が施文される。２・15は楕円区画文内に縦位の沈線を充填させる。５は胴部破片。貼付隆帯が懸垂文として垂下する。阿玉台Ⅲ式。66図９は大型の橋状把手に角押文が巡る。10は横Ｓ字文。大木８ａ式。12は縄文地文に沈線による懸垂文。13は３本一組の方形区画文。大木８ｂ式。14は隆帯区画上に角押文を施文する。

15）15号土坑（SK15）（第34・66・67図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.14～59.21mに位置し、西側が未調査区域に延び、北側が土坑SK25、南側の土坑SK36に切られている。規模は上場長軸2.21m、短軸2.16m。底面長軸2.14m、短軸2.12mの円形を呈する。深さ61.1cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は４層からなる。遺物は、下層４層から出土。66図１は４単位の大型山形把手をもつ。把手部および口縁部は隆帯による区画文で、隆帯に沿って二列の角押文が巡り、区画内に波状沈線が充填する。２は３単位の山形把手をもつ。３は口唇部が押捺による波状口縁となる。５は胴部で隆帯によるＸ字状文で、隆帯に沿って角押文が施文される。阿玉台Ⅱ式。67図９は赤彩が施されている浅鉢。隆帯による弧文。10・11は大木８ａ式。12は網代痕。13～16は磨石類。いずれも凹部をもつ。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
13	安山岩	15.99	8.70	4.63	551.0	14	安山岩	13.14	7.14	4.51	584.0
15	安山岩	12.59	7.60	4.45	551.0	16	安山岩	(8.79)	8.20	3.99	313.0

16）16号土坑（SK16）（第34・67図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.00～59.15mに位置し、東側約半分が未調査区域に延び、南側の土坑SK26を切っている。規模は上場長軸1.50m、短軸0.91m。底面長軸1.98m、短軸1.04mの円形を呈する。深さ50.2cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾するフラスコ型。覆土は５層からなる自然堆積層。遺物は中層３層中から出土。67図１は扇状の大型把手をもち、隆帯による区画文に沿って二列の角押文が施文される。胴部も懸垂文の隆帯に沿って角押文を施す。阿玉台Ⅱ式。２は円形把手に隆帯上は刻目が施される。６・７は磨石類。６は浅い凹部をもつ。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
6	砂岩	(7.86)	4.94	4.72	298.0	7	安山岩	6.53	5.85	4.51	225.0

17）17号土坑（SK17）（第35・68図）

調査区のⅠ区北側、標高59.14～59.23mに位置し、東側の一部が未調査区域に延びており、西側は土坑SK18によって切られている。規模は上場長軸1.85m、短軸1.47m。底面長軸1.52m、短軸1.23mの円形を呈する。深さ17.6cmを測り、底面は平坦で２本のピット(P１　28.0×25.0×16.7cm　P２　33.0×29.0×52.5cm)を穿っている。壁は内傾して立ち上が袋型。覆土は５層からなる自然堆積層。遺物は中層４層から出土している。

68図１・２は波状口縁の深鉢の山形把手。逆Ｔ字状の区画は顎状に迫り出す。口辺の隆帯区画上に縄文施文し、区画内は爪形文が沿う。阿玉台Ⅲ式。４は口縁部に沿って二列の角押文が巡る。５は隆帯に沿って沈線が施文される。阿玉台Ⅳ式。６は隆帯区画上に刻目がみられる。７の深鉢底部は網代痕を残置する。８は磨面のみの磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
8	安山岩	8.81	7.81	4.94	448.0

18）18号土坑（SK18）（第35・68図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.07～59.18mに位置し、西側が未調査区域に延びており、東側は土坑SK17を切っている。規模は上場長軸1.43m、短軸0.94m。底面長軸1.58m、短軸0.85mの円形を呈する。深さ58.0cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は覆土１層から出土している。

68図１は口縁部に二列の角押文が巡る。３は隆帯に沿って沈線が施文される。４は深鉢の底部破片。隆帯に沿って爪形文が施される。

19）19号土坑（SK19）（第35・68図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.11～59.16mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.05m、短軸0.56m。底面長軸1.28m、短軸0.58mの円形を呈する。深さ31.9cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は３層からなる。遺物は、２層から出土している。

68図１は磨面のみの磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
1	安山岩	15.35	8.70	3.44	701.0

20）20号土坑（SK20）（第35・69図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.11～59.13mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.70m、短軸0.85m。底面長軸2.20m、短軸1.25mの円形を呈する。深さ95.6cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は７層からなる自然堆積層。遺物は、床面上６層から出土している。

69図１は隆帯区画内に斜行する有節線文。２は口縁に沿って爪形文が施文される。３は口縁部に沿って波状の角押文が施される。４・５は角押文。６は縄文地文に沈線による懸垂文が垂下する。７～９は網代痕が残置する。10～12は磨石類。10・11は凹部を伴う。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
10	砂岩	15.36	9.16	4.78	1029.0	11	安山岩	(10.00)	7.72	3.20	398.0
12	安山岩	6.36	5.83	3.14	192.0						

21）21号土坑（SK21）（第34・69図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.90～59.03mに位置し、西側は未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.58m、短軸0.89m。底面長軸2.12m、短軸1.25mの円形を呈する。深さ69.3cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾するフラスコ型。覆土は７層からなる。遺物は、下層６層から出土している。

69図１は口縁部に沿って二列の角押文。２も隆帯に沿って角押文が施文される。４は網代痕を残置する。６・７は磨石類。６は凹部をもつ。７は棒状磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
6	安山岩	(6.84)	11.82	6.63	527.0	7	砂岩	(7.54)	3.91	2.91	149.0

22）22号土坑（SK22）（第35・70図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.65～59.76mに位置し、北側の一部が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.35m、短軸1.30m。底面長軸1.91m、短軸1.51mの円形を呈する。深さ69.5cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は６層からなる自然堆積層。遺物は中層５層から出土している。

70図１はキャリパー形を呈する深鉢。扇状の小突起と橋状突起をもつ。隆帯による枠状区画内は縄文地文に浅い波状沈線を充填させ、さらに隆帯に沿って巡る角押文が連携して渦巻文となる。この浅い沈線による波状文は頚部、胴部にも施文される。施文順位は縄文→隆帯区画・隆帯懸垂文→波状沈線→角押文となる。２は口縁部に円孔を伴う。二列の角押文。３も二列の角押文。５は波状口縁の山形把手、隆帯上に刻目を施し、隆帯に沿って角押文が施文される。６は口縁部を無文帯とし、隆帯区画文に沿って角押文が施文される。７は有節線文。８は隆帯による楕円形区画文に沿って角押文。９は無文地に断面三角形の枠状区画文。10は沈線による区画文。11は重畳する楕円形区画文に沿って角押文が巡る。12は縄文地文に沈線による渦巻文。15は二列の有節線文による意匠文。18は隆帯上に押捺圧痕を加えた紐線文。20～22は磨石類で20・22は凹部をもつ。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
20	安山岩	10.56	8.76	4.69	571.0	21	石英斑岩	11.44	7.82	4.77	621.0
22	輝緑岩	7.31	6.74	4.53	341.0						

23）23号土坑（SK23）（第35・71図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.33～59.36mに位置し、東側の一部が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.40m、短軸1.00m。底面長軸1.81m、短軸1.12mの楕円形を呈する。深さ78.2cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は６層からなる自然堆積層。遺物は５層から出土している。

71図１は隆帯に沿って角押文。２は縄文地文に平行沈線による曲線文。

24）24号土坑（SK24）（第36図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.38～59.48mに位置し、西側のが未調査区域に延びている。規模は上場長軸0.99m、短軸0.51m。底面長軸0.80m、短軸0.45mの隅丸方形を呈する。深さ20.7cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は出土しなかった。中世以降に比定される。

25）25号土坑（SK25）（第34・71図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.18～59.21mに位置し、西側は未調査区域に延びており、南側は土坑SK15を切っている。規模は上場長軸1.72m、短軸0.57m。底面長軸1.87m、短軸0.91mの円形を呈する。深さ68.3cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾するフラスコ型。覆土は４層からなる。遺物は中層２層から出土している。

71図１は縄文地文に隆帯と蛇行沈線の懸垂文。２・３は浅鉢。赤彩が施されている。４～６は磨石類。４の側面に磨面がみられる。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
4	砂岩	15.79	7.00	4.71	831.0	5	安山岩	13.08	10.57	5.21	949.0
6	安山岩	8.00	8.66	4.62	429.0						

26）26号土坑（SK26）（第34・71図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.98～59.07mに位置し、東側は未調査区域に延びており、北側は土坑SK16によって

切られている。規模は上場長軸1.97m、短軸1.65m。底面長軸1.74m、短軸1.73mの円形を呈する。深さ61.6cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋状。覆土は３層から自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

71図１は縄文地文に半截竹管工具による懸垂文。

27）27号土坑（SK27）（第36・71図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.04～59.08mに位置し、西側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.71m、短軸0.97m。底面長軸2.07m、短軸1.17mの円形を呈する。深さ78.0cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は６層からなる自然堆積層。遺物は中層４層から出土している。

71図１はひだ状調整痕。

28）28号土坑（SK28）（第36・71・72図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.97～59.04mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.81m、短軸1.35m。底面長軸2.32m、短軸1.49mの円形を呈する。深さ61.8cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は５層からなる自然堆積層。遺物は中層３層から出土している。

71図1は波状口縁の山形把手。隆帯に沿って二列の角押文。２は縄文地文に沈線文を施文する。３は沈線区画文。４は口縁部に沿って二列の角押文。裏面にも角押文を巡らす。５は小突起に連結する楕円形区画文内に角押文を巡らす。８～11は磨石類で、８は小凹部をもつ。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
8	石英粗面岩	12.68	9.60	4.84	853.0	9	安山岩	(4.51)	8.00	3.45	151.0
10	安山岩	7.20	6.81	1.69	131.0	11	凝灰質砂岩	6.20	5.66	2.83	135.0

29）29号土坑（SK29）（第36・72図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.02～59.07mに位置し、東側が未調査区域に延びており、西側は土坑SK44によって切られている。規模は上場長軸2.16m、短軸1.73m。底面長軸1.95m、短軸1.60mの円形を呈する。深さ49.1cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋状。覆土は５層からなる自然堆積層。遺物は中層３層から出土している。

72図１は二列の有節線文による鋸歯文。２は縄文地文に沈線による渦巻文。３は縄文地文に半截竹管による平行沈線を密集施文する。４・５は磨石類。４は凹部をもつ。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
4	安山岩	11.65	9.24	4.98	689.0	5	安山岩	12.28	8.49	6.33	893.0

30）30号土坑（SK30）（第36・72図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.99～59.05mに位置し、東側の一部が未調査区域に延びており、西側は土坑SK43を切っている。規模は上場長軸2.01m、短軸1.75m。底面長軸2.12m、短軸1.55mの円形を呈する。深さ60.6cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は５層からなる自然堆積層。遺物は中層４層から出土している。

72図１は波状口縁の波頂部が多角状を呈し、波頂部に刻目が入る。口縁部に沿って角押文が巡る。５も同一個体。２も波状口縁であるが、隆帯に沿って平行沈線が巡る。３は隆帯による楕円形区画文。口唇部に沈線が施文される。４は縄文地文に縄の側面圧痕が加わる。９は小型の打製石斧。表面に礫皮面を残す。10～13は磨石類。13は棒状磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
9	粘板岩	8.16	5.26	1.40	76.0	10	砂岩	4.94	8.74	4.71	301.0
11	石英斑岩	9.58	6.55	3.83	329.0	12	安山岩	7.51	8.33	4.75	468.0
13	砂岩	(5.60)	4.97	3.36	162.0						

31）31号土坑（SK31）（第37・73図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.94～58.96mに位置し、西側が未調査区域に延びており、南側は土坑SK32を切っている。規模は上場長軸2.21m、短軸1.10m。底面長軸2.40m、短軸1.25mの円形を呈する。深さ55.0cmを測り、底面は平坦で、センターピットとサイドピットの２本が穿ってある（P１（20.0)×15.0×23.9cm、P２　35.0×(19.0)×24.0cm)。壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は９層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

73図１～４は波状縁の大型把手。５はキャリパー形の深鉢。波状口縁で橋状把手をもつ。隆帯による枠状区画文。口縁部下は波状隆帯がめぐる。８は口径20.0cmを測るキャリパー形の深鉢。縄文地文に口縁部は貼付隆帯による二列クランク文。胴部は半截竹管による横位区画文。13・14は浅鉢。13に赤彩が施されている。15・16は磨面のみの磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
15	砂岩	11.59	7.71	4.58	598.0	16	砂岩	11.51	9.28	2.79	469.0

32）32号土坑（SK32）（第37・74図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.93～58.95mに位置し、西側が未調査区域に延びており、北側は土坑SK31に切られている。規模は上場長軸1.90m、短軸0.99m、底面長軸1.85m、短軸1.06mの円形を呈する。深さ29.3cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。74図１は縄文地文に沈線による渦巻文。２は浅鉢で赤彩が施されている。

33）33号土坑（SK33）（第37図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.98～59.04mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.85m、短軸0.65m。底面長軸1.72m、短軸0.52mの円形を呈する。深さ20.5cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

34）34号土坑（SK34）（第37・74図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.91～59.07mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸2.51m、短軸1.25m。底面長軸2.75m、短軸1.25mの円形を呈する。深さ53.1cmを測り、底面は平坦で東壁際に柱穴が穿ってある（P１　50.0×39.0×123.0cm)。、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は６層からなる自然堆積層。遺物は下層４層から出土している。

74図１は隆帯区画文に沿ってハの状刺突文。２は隆帯に沿って二列の角押文。３は貼付隆帯による波状文。４は有節線文。５は口唇部が肥厚する浅鉢。６～８は磨石類。６は敲打による凹部をもつ。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
6	安山岩	14.53	7.96	5.93	912.0	7	安山岩	4.66	8.73	4.34	819.0
8	安山岩	11.22	9.42	6.21	879.0						

35）35号土坑（SK35）（第37・74図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.81～58.91mに位置し、西側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸2.40m、短軸1.82m。底面長軸2.22m、短軸1.91mの円形を呈する。深さ45.8cmを測り、底面は平坦で３本の柱穴が穿ってある（P１　20.0×18.0×29.6cm、P２　27.0×19.0×11.0cm、P３　20.0×20.0×39.1cm)。壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は下層２層から出土している。

74図１は浅鉢。口縁部は無文帯。頸部は縄文地文に沈線による枠状区画文に波状沈線を充填する。外面に赤彩が施されている。２は二列の角押文による区画文。４はヒダ状圧痕。

36）36号土坑（SK36）（第34・74・75図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.05～59.14mに位置し、西側は未調査区域に延びており、北側は土坑SK15を切っている。規模は上場長軸1.60m、短軸0.84m。底面長軸1.16m、短軸0.88mの円形を呈する。深さ62.3cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾するフラスコ型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は、中層３層から出土している。

74図１は口縁部破片で縄の側面圧痕を横位に施文している。２は横位の隆帯。４は網代痕を残置させる。６は石皿の破片。５・７～９は磨石類。５は側面に磨面を有する。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
5	安山岩	8.31	7.13	3.97	346.0	6	砂岩	11.82	12.79	5.82	1318.0
7	砂岩	15.85	8.41	4.79	898.0	8	安山岩	13.43	8.38	6.30	988.0
9	安山岩	15.37	8.62	6.54	1091.0						

37）37号土坑（SK37）（第38・75図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.87～59.00mに位置し、東側が未調査区域に延びており、南側は土坑SK38に、西側は土坑SK47に切られている。規模は上場長軸1.93m。底面長軸1.77m、短軸1.44mの楕円形を呈する。深さ31.1cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる円筒型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は下層２層から出土している。75図１は隆帯による楕円形区画の内側に角押文が施文される。２・３は縄文地文に細い隆帯が垂下する。

38）38号土坑（SK38）（第38・75図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.80～58.85mに位置し、東側が未調査区域に延びており、北側は土坑SK37を切っている。規模は上場長軸2.34m、短軸0.91m。底面長軸2.13m、短軸0.87mの円形を呈する。深さ42.5cmを測り、底面は平坦で柱穴が穿ってある(P１　44.0×(24.0)×67.5cm）。壁はほぼ垂直気味に立ち上がる円筒型。覆土は５層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。75図１は口縁部に沿って二列の角押文が巡る。２・３も隆帯に沿って角押文が施文される。４は横位に連続する刻目列。５は半截竹管による意匠文。

39）39号土坑（SK39）（第38図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.68～58.84mに位置し、西側が未調査区域に延びており、南側は土坑SK48を切っている。規模は上場長軸1.16m、短軸1.16m。底面長軸1.04m、短軸1.01mの円形を呈する。深さ19.0cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直して立ち上がる円筒型。覆土は褐色土の単一層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

40）40号土坑（SK40）（第38・75図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.88～58.93mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.08m、短軸0.69m。底面長軸1.48m、短軸0.88mの円形を呈する。深さ73.8cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

75図１は上下貼り付けた三角形突起に、有節線文による楕円形区画内に斜行する有節線文を充填させる。２～４は同一個体と推定される。波状口縁の山形把手。波頂部から垂下する隆帯上には刻目が施され、口縁部は角押文による区画文に有節線文を充填させる。５は口唇部は肥厚し、沈線文を垂下させる。６は口唇部に刻目を巡らす。

41）41号土坑（SK41）（第39図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.75～58.85mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.62m、短軸0.81m。底面長軸1.22m、短軸0.64mの円形を呈する。深さ25.9cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

42）42号土坑（SK42）（第38・76・77図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.60～58.69mに位置し、西側が未調査区域に延びており、北側は土坑SK48・57を切り、南側で柱穴に切られている。規模は上場長軸1.94m、短軸1.36m。底面長軸2.33m、短軸1.79mの円形を呈する。深さ92.3cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は７層からなる自然堆積層。遺物は中層３層から出土している。

77図１は浅鉢で完存品である。Ｓ字状文から派生した環状把手を口縁部脇に対で付け、さらに把手部の付かない部分には隆帯Ｓ字状文を対に配する。それぞれＳ字状文には有節線文が施文される。また口縁部には有節線文による渦巻文。胴部も貼付隆帯による渦巻文と懸垂文を垂下させる。内外面ともに赤彩が施されている。２は隆帯による橋状把手を板状に組み合わせた把手をもち、頚部に平行沈線による区画文。３も口縁部上部に文様帯を集約させる。鍔状に突出した口縁部に沈線による枠状文。４はＣ状隆帯による橋状把手。隆帯上には沈線が施文され、口縁部下は平行隆帯による横に長いＳ字状文。５は大型把手。隆帯による渦巻文に角押文が沿う。６・７は顎状に迫り出した隆帯に二条の沈線がめぐり、区画内に波状沈線を充填する。10は肥厚する口縁部は貼付隆帯。頚部に隆帯による区画文。胴部は有節線文によるモチーフ。21は隆帯区画文に沿って二条沈線が巡る。22は波状口縁で交互刺突文が巡る。28は橋状把手が付く浅鉢。僅かに赤彩が認められる。29も波状口縁の浅鉢。赤彩が施されている。30は凹部をもつ磨石。31 は側面に磨面をもつ。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
30	安山岩	13.46	7.88	4.59	668.0	31	砂岩	12.62	7.85	5.09	785.0

43）43号土坑（SK43）（第36・77図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.97～58.99mに位置し、西側が未調査区域に延びており、北東側は土坑SK30によって切られている。規模は上場長軸2.12m、短軸1.35m。底面長軸1.93m、短軸1.14mの円形を呈する。深さ36.8cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

77図１は浅鉢。太い隆帯による楕円形区画文内に爪形文が沿い、さらに区画内はペン先刺突文に波状文が充填する。２は隆帯。３は沈線区画内に斜行沈線が充填する。４はＶ字状隆帯。５は浅鉢で赤彩が認められる。６は礫石斧である。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
6	珪質砂岩	8.38	2.54	1.61	63.5

44）44号土坑（SK44）（第36・78図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.02～59.06mに位置し、西側の一部が未調査区域に延びており、東側は土坑SK29を切っている。規模は上場長軸1.16m、短軸1.06m。底面長軸1.69m、短軸1.01mの楕円形を呈する。深さ99.1cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は４層からなる自然堆積層む。遺物は下層３層から出土している。

78図１・２は同一個体である。波状口縁の山形把手。波頂部は小渦巻きから刻目の隆帯が垂下し、角押文による枠状区画内に三角形文を配す。３は隆帯区画に沿って角押文が施文される。４は隆帯が垂下し、縄の側面圧痕を横位に施す。６はヒダ状圧痕。７は沈線区画ないに円形刺突文を充填させる。10は浅鉢で口唇部に凹帯が巡り、赤彩が認められる。

45）45号土坑（SK45）（第39・78図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.78～58.80mに位置し、西側が未調査区域に延びており、南側は土坑SK69に切られている。規模は上場長軸1.16m、短軸0.85m。底面長軸1.25m、短軸0.92mの円形を呈する。深さ63.3cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は中層３層から出土している。

78図１は口縁部の突起。刻目と角押文が施文される。２は隆帯に押捺を加え、ヒダ状圧痕。３は縄文地文に半截

竹管による平行沈線。５は浅鉢。７・８は凹部をもつ磨石。９は多孔石である。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
7	安山岩	12.41	8.09	3.90	516.0	8	凝灰質砂岩	11.82	6.02	3.97	3720
9	凝灰岩	16.64	11.84	5.71	701.0						

46）46号土坑（SK46）（第39・79図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.64～58.76mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸2.25m、短軸1.76m。底面長軸1.99m、短軸1.66mの円形を呈する。深さ27.0cmを測り、底面は平坦で、北側に柱穴２本が穿ってある(P１　60.0×45.0×47.2cm、P２　58.0×(37).0×52.0cm)。壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は５層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

79図１は波頂部が双頭状を呈する山形把手を有する深鉢。２は隆帯区画に沿って角押文が施文される。３は背割り隆帯区画内に連続する押捺圧痕文を施す。８は浅鉢で赤彩が施されている。10は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
10	安山岩	17.72	9.12	4.31	1058.0

47）47号土坑（SK47）（第38・78図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.59～58.89mに位置し、西側が未調査区域に延びており、東側で土坑SK37を切っている。規模は上場長軸1.68m、短軸1.18m。底面長軸1.70m、短軸1.07mの円形を呈する。深さ48.0cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は中層３層から出土している。

78図１は双頭状の大型把手。２はヒダ状圧痕。

48）48号土坑（SK48）（第38・79図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.63～58.68mに位置し、西側が未調査区域に延びており、北側は土坑SK39、南側で土坑SK42に切られ、南東側で土坑SK57を切っている規模は上場長軸1.33m、短軸1.23m。底面長軸1.51m、短軸1.43mの円形を呈する。深さ57.5cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は中層15層から出土している。

79図１は環状空中把手。口縁部に沿って貫通する。胴部は隆帯に沿って角押文が施文される。２は隆帯による楕円形区画文に角押文が沿う。３は刻目のある突起部の上部に浅い波状沈線が巡る。５は左右盲孔のある突起。６は縄文施文された隆帯による楕円形区画文内は平行沈線が沿う。７は沈線による円形モチーフ。７は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
7	安山岩	13.76	8.01	5.08	779.0

49）49号土坑（SK49）（第39・80図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.57～58.66mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.35m、短軸0.75m。底面長軸1.48m、短軸0.85mの円形を呈する。深さ30.4cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は３層からなる自然堆積層。中央部が耕作により撹乱を受けている。

80図１は口縁部上隆帯に縄文施文。２～４は縄文地文に沈線による区画文、懸垂文。５は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
5	安山岩	8.43	7.76	4.66	458.0

50）50号土坑（SK50）（第39・80図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.77～58.89mに位置し、東側が未調査区域に延び、南側で柱穴が切っている。規模は上場長軸1.25m、短軸0.78m。底面長軸1.06m、短軸0.57mの円形を呈する。深さ12.5cmを測り、底面は平坦で、

壁は内傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

80図１は波状口縁に隆帯による枠状区画文。区画内に波状沈線と角押文を施文する。２は深鉢の胴部下半。縄文地文に沈線による上下対象の弧線モチーフ。３は隆帯懸垂文に角押文が沿う。４・５は同一個体。縄文地文に隆帯が垂下し、隆帯に沿って角押文が施文される。

51）51号土坑（SK51）（第39・80図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高59.18～59.25mに位置し、西側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.27m、短軸0.45m。底面長軸2.01m、短軸0.61mの円形を呈する。深さ93.7cmを測り、底面は平坦で東側に柱穴が穿ってある。壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は上層１層から出土している。

80図１は縄文地文に平行沈線区画文に、沈線モチーフ。２は浅鉢の小破片。わずかに赤彩が認められる。

52）52号土坑（SK52）（第40・81図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.54～58.70mに位置する。規模は上場長軸2.83m、短軸2.34m。底面長軸2.57m、短軸2.04mの円形を呈する。深さ50.0cmを測り、底面は平坦で東西に柱穴が穿ってある(P１　29.0×27.0×15.4cm、P２　44.0×42.0×65.5cm)。壁は外傾して立ち上がるタライ型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

81図１は橋状把手に爪形文が施文され、口縁部枠状区画文内も爪形文で充填する。２は円形把手に沿って爪形文が施文される。３は縄文地文に有節線文による渦巻文。６は押捺を加えた隆帯が垂下する。

53）53号土坑（SK53）（第40・81図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.43～58.56mに位置し、東側の一部が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.50m、短軸1.40m。底面長軸1.42m、短軸1.35mの円形を呈する。深さ26.9cmを測り、底面は平坦で西側で柱穴が穿ってある(P1　35.0×27.0×21.6cm)。壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

81図１は波状口縁で口縁部に沿って半截竹管による波状文と二列の角押文が施文される。２は隆帯による突起。４は刻目列。５は貼付隆帯による波状文。６は打製石斧。図裏面に礫皮面を残置させる。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
6	凝灰岩	12.87	6.62	2.45	253.0

54）54号土坑（SK54）（第40・81図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.46～58.52mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.87m、短軸1.17m。底面長軸1.69m、短軸1.04mの不正円形を呈する。深さ39.5cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は上層１層から出土している。

81図１は波状口縁で、口縁部は隆帯区画に沿って角押文が施文される。２は波状沈線文。３は沈線による懸垂文。４は網代痕を残置する。

55）55号土坑（SK55）（第40・81図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.45～58.54mに位置し、西側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.94m、短軸1.22m。底面長軸1.75m、短軸1.12mの円形を呈する。深さ26.4cmを測り、底面は平坦、南東側で柱穴が穿ってある(P１　50.0×40.0×27.0cm)。壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は中層から出土している。

81図１は波状口縁で口縁部に沿って角押文が施文される。２～４は縄文地文に懸垂文が垂下する。

７は縄文地文に貼付隆帯による楕円形モチーフを連携する。８は沈線による連弧文。

56）56号土坑（SK56）（第39・82図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.71～58.81mに位置し、東側が未調査区域に延びており、南西側は土坑SK69を切っている。規模は上場長軸1.95m、短軸1.18m。底面長軸1.77m、短軸1.05mの円形を呈する。深さ33.6cmを測り、底面は平坦でほぼ中央に柱穴が穿ってある(P1　33.0×32.0×32.5cm)。壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は3層からなる自然堆積層。遺物は中層から出土している。

82図1は波頂部を欠損するもののほぼ完形に近い深鉢。波状口縁を呈する深鉢で、波頂部からV字状隆帯が貼り付けられ橋状把手となる。口縁部から胴部にかけて隆帯懸垂文が垂下する。隆帯に沿って二列の角押文が施文される。2は胴部破片。隆帯によるモチーフ。3は波状口縁。隆帯に沿って角押文が施文される。4は高まりのある隆帯による楕円形区画文に胴部も横位の隆帯を貼り付ける。5は隆帯による波状文。6は口縁部上部に沈線による波状文をワンポイントに配する。底部は網代痕。

57）57号土坑（SK57）（第38図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.69～58.73mに位置し、北側は土坑SK48に、南西側が土坑SK42を切っている。する。規模は上場長軸0.71m、短軸0.48m。底面長軸0.60m、短軸0.36mの円形を呈する。深さ29.5cmを測り、底面は平坦で、2本のピットが検出できた(P1　27.0×23.0×41.0　　P2　15.0×14.0×11.5)。壁は外傾して立ち上がる。覆土は黒褐色土層の単一層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

58）58号土坑（SK58）（第40・83図）

調査区の中央、Ⅲ区、標高58.28～58.40mに位置する。規模は上場長軸2.17m、短軸1.98m。底面長軸2.11m、短軸1.92mの円形を呈する。深さ40.5cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がるタライ型。覆土は2層からなる自然堆積層。遺物は上層から出土している。

83図1は刻目列。2は隆帯に沿って角押文が施文される。3・4は同一個体。縄文地文に沈線による波状文、渦巻きモチーフ。6・7は浅鉢。いずれも赤彩が施されている。

59）59号土坑（SK59）（第41・83図）

調査区の中央、Ⅲ区、標高58.26～58.33mに位置し、南西側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.91m、短軸1.69m。底面長軸1.69m、短軸1.57mの円形を呈する。深さ35.9cmを測り、底面は平坦で東西に柱穴を伴う(P1　34.0×(25.0)×16.0cm、P2　28.0×27.0×25.2cm)。壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は2層からなる自然堆積層。遺物は上層1層から出土している。

83図1は隆帯による楕円形区画に沿って角押文が施文される。　2は高まりのある隆帯上に刻目が施され、隆帯に沿って沈線が巡り、区画内は斜行する沈線が充填する。3は波状口縁で角押文が沿う。4も波状口縁。隆帯に沿って角押文が施文される。5も波状口縁。角押文による区画文。6は縄文地文に隆帯が施文され、隆帯に沿って角押文が施される。11は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
11	安山岩	11.97	6.72	4.49	469.0

60）60号土坑（SK60）（第41・83・84図）

調査区の中央、Ⅲ区、標高58.33～58.49mに位置し、北側の一部が未調査区域に延びている。規模は上場長軸2.24m、短軸2.16m。底面長軸2.38m、短軸2.30mの円形を呈する。深さ57.1cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は4層からなる自然堆積層。遺物は中層2層から出土している。

83図1は大型の波状口縁となる山形把手。隆帯上に縄文施文され、隆帯に沿って二列の角押文が施文され、波頂部の円形区画内も角押文が充填する。2は大型の環状把手が付く。口縁部は2列隆帯によるクランク文。大木8b式。3～5・8は隆帯に沿って角押文。7は橋状把手。9は隆帯に沿って角押文が巡り、区画内も角押文を充填させる。10・11はヒダ状圧痕。14は口唇部に押捺を加える。16は櫛歯状文を垂下させる。18・19は浅鉢。わずかに赤彩痕

が認められる。20は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
20	安山岩	12.98	8.36	4.59	601.0

61）61号土坑（SK61）（第41・84図）

調査区の中央、Ⅲ区、標高58.31～58.36mに位置する。規模は上場長軸1.79m、短軸1.75m。底面長軸1.72m、短軸1.70mの円形を呈する。深さ39.0cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる円筒型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

84図１は大型の山形把手をもつ波状口縁の深鉢。波頂部から刻目のある隆帯が垂下し、口縁部下はやはり刻目のある隆帯を波状に区画する。区画内は隆帯に沿って二列の角押文と波状沈線文を充填する。２は爪形文を区画文に、区画内は角押文を充填させる。３は有節線文。４は二列の角押文。５は二列の有節線文と波状沈線。７は浅鉢で赤彩が施されている。

62）62号土坑（SK62）（第26・85図）

調査区の中央、Ⅲ区、標高58.38～58.55mに位置し、側が未調査区域に延びており、北側は土坑SKに切られている。する。規模は上場長軸2.09m、短軸1.09m。底面長軸2.02m、短軸1.16mの円形を呈する。深さ46.7cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

85図１は縄文地文。

63）63号土坑（SK63）（第41・85図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.47mに位置し、西側が未調査区域に延びており、南側は井戸SE03に切られている。規模は上場長軸0.65m、短軸0.62m。底面長軸0.57m、短軸0.53mの円形を呈するものと推定される。深さ22.0cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

85図１は波状口縁の山形把手。口縁部に沿って刻目が巡り、波頂部から瘤上突起が付く。２も波状口縁。波頂部から背割り隆帯が垂下し、区画文となり、隆帯に沿って角押文が巡る。３は渦巻き状の小ラッパ把手。４は波状隆帯上に角押文が施文され、頚部にも角押文が複数施文される。５・６も隆帯に沿って角押文が施文される。９は磨面のみの磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
9	石英斑岩	13.38	8.45	4.89	811.0

64）64号土坑（SK64）（第41・85図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.06～58.18mに位置し、西側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.98m、短軸1.09m。底面長軸2.30m、短軸1.23mの円形を呈する。深さ43.9cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は８層からなる自然堆積層。遺物は６・８層から出土している。

85図１は隆帯による楕円形区画内に二列の角押文。２・３・９は山形把手。隆帯に沿って角押文が施文される。４は円形を呈する山形把手。５は小把手を伴う。幅狭い隆帯区画内に縄の側面圧痕を配する。６も縄の側面圧痕文。７は口縁部と胴部に角押文による区画文を配し、連携して角押文を垂下させる。８の口縁部は隆帯による楕円区画文。11は浅鉢。内外面とも丁寧なヘラミガキが施され、わずかに赤彩の痕跡が認められる。12も波状口縁の浅鉢。赤彩が施されている。

65）65号土坑（SK65）（第42・86図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高59.88～60.03mに位置し、西側の一部が未調査区域に延びており、南側は土坑SK61の底部付近と重複している。規模は上場長軸1.92m、短軸1.83m。底面長軸2.20m、短軸2.10mの円形を呈する。深さ

40.8cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

86図１・２は同一個体。扇状の小把手をもつ。有節線文による区画文に、胴部は隆帯による懸垂文。３は隆帯による楕円形区画文に沿って有節線文が巡る。４は隆帯に沿って沈線区画され、区画内に斜行沈線を充填する。５は磨面のみ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
5	安山岩	5.00	8.74	3.53	194.0

66）66号土坑（SK66）（第42・86図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高59.90～59.99mに位置し、北西側で土坑SK65と底部で重複している。規模は上場長軸1.69m、短軸1.56m。底面長軸1.65m、短軸1.53mの円形を呈する。深さ45.5cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

86図１は口縁部破片。隆帯に沿って二列の角押文が施文される。５は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
5	凝灰質砂岩	9.32	6.93	4.04	332.0

67）67号土坑（SK67）（第41・86図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高59.71～59.89mに位置する。規模は上場長軸2.04m、短軸1.71m。底面長軸1.91m、短軸1.57mの楕円形を呈する。深さ24.8cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

86図１は縄文地文に３本単位の沈線文が垂下する。２は縄文地文に半截竹管による沈線文が区画文となる。

68）68号土坑（SK68）（第42・86図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高59.54～59.71mに位置する。規模は上場長軸1.99m、短軸1.77m。底面長軸1.84m、短軸1.62mの楕円形を呈する。深さ29.4cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

86図１は橋状把手をもつ深鉢で、隆帯上に縄文施文される。２は隆帯上に刻目が施され、胴部は波状沈線が巡る。４は多孔石である。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
4	安山岩	19.45	13.65	10.68	1980.0

69）69号土坑（SK69）（第39・87図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.64～58.80mに位置し、西側が未調査区域に延びており、北側は土坑SK45を切っている。規模は上場長軸1.81m、短軸1.60m。底面長軸1.60m、短軸1.54mの円形を呈する。深さ36.1cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は上層から出土している。

87図１は波頂部が多角する山形把手。波頂部に刻目が入り、口縁部は隆帯による円形区画文。隆帯に沿って二列の角押文が施文される。２は縄文地文に半截竹管による沈線と隆帯が施文される。５は底部付近の破片。

70）70号土坑（SK70）（第42・87図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.39～58.41mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸0.93m、短軸0.37m。底面長軸0.71m、短軸0.28mの円形を呈する。深さ44.3cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は中層２・３層から出土している。

87図１は縄文施文。２は沈線区画文。

71）71号土坑（SK71）（第42・87図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.42～58.46mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸0.97m、短軸0.53m。底面長軸0.78m、短軸0.45mの円形を呈する。深さ21.1cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。

87図１は隆帯による楕円形区画文に二列の角押文が沿う。

72）72号土坑（SK72）（第42図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.34～58.40mに位置する。規模は上場長軸0.89m、短軸0.72m。底面長軸0.59m、短軸0.42mの楕円形を呈する。深さ17.8cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は褐色土の単一層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

73）73号土坑（SK73）（第42・87図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.12～58.24mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.47m、短軸0.75m。底面長軸1.90m、短軸0.91mの円形を呈する。深さ59.0cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は８層からなる自然堆積層。遺物は４・５層から出土している。

78図１は波状口縁で突起を有する。隆帯による区画文に沿って二列の角押文が施文され、さらに区画内に角押文が配される。２は隆帯に沿って爪形文が施文される。３も双頭状を呈する山形把手。爪形文が施文される。５はＶ字状隆帯による楕円形区画文に沿って角押文が巡る。６は波状口縁で角押文区画内に波状沈線が巡る。11は円孔のある浅鉢。赤彩が認められる。12は磨面のみの磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
12	砂岩	14.16	9.56	5.21	1019.0

74）74号土坑（SK74）（第42・88図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.37～58.40mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸0.70m、短軸0.22m。底面長軸0.52m、短軸0.14mの円形を呈するものと推定される。深さ25.3cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は４層からなる自然堆積層。

88図１は隆帯による楕円形区画文に沿って角押文が施文される。２は渦巻き状把手。３は隆帯による楕円形区画文内に沈線区画文が充填する。

75）75号土坑（SK75）（第43・88図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高58.15～58.32mに位置する。規模は上場長軸2.01m、短軸1.96m。底面長軸1.70m、短軸1.64mの円形を呈する。深さ26.4cmを測り、底面は平坦、東側で柱穴が穿ってある(Ｐ１　35.0×27.0×11.8cm)。壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

88図１は山形把手の波頂部から押圧の加えられた隆帯が垂下する。２は隆帯区画内に有節線文が充填する。３は刻目列。４は無文土器。

76）76号土坑（SK76）（第43・88図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高57.99～58.14mに位置する。規模は上場長軸1.74m、短軸1.73m。底面長軸2.05m、短軸1.92mの円形を呈する。深さ46.5cmを測り、底面は平坦、東側でサイドピットが穿ってある(Ｐ１　28.0×27.0×20.3cm)。壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は上層から出土している。

88図１は幅広い隆帯から渦巻文を派生させ、沈線文を集約させる。新巻類型土器。２は波状口縁で沈線区画文。３は波状口縁に沿って角押文が施文される。４は有節波状線文が巡る。10は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
10	砂岩	15.98	9.47	6.02	1351.0

77）77号土坑（SK77）（第43・88図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高57.79～57.96mに位置し、北側は土坑SK78に切られている。規模は上場長軸2.40m、短軸1.98m。底面長軸2.03m、短軸1.67mの円形を呈する。深さ26.4cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

88図１は底部が欠損するだけの円筒形を呈した深鉢。口縁部は隆帯の貼付による枠状把手で突出させる。胴部は縄文地文に貼付隆帯による懸垂文から派生する渦巻文モチーフで、隆帯に沿って沈線が施文される部分と沈線のみによってモチーフを抽出する。大木8a 式。２は円孔に沿って渦巻文が施文される山形把手が付き、口縁部は把手から派生する隆帯による枠状区画文。口縁部下は縄文地文に貼付隆帯による波状文が施される。６は多角状把手で隆帯上に縄文施文し、隆帯に沿って沈線文が施文される。

78）78号土坑（SK78）（第43・89・90・91図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高57.79～57.98mに位置し、西側が未調査区域に延びており、南側は土坑SK78を切っている。規模は上場長軸2.19m、短軸1.76m。底面長軸2.43m、短軸1.90mの円形を呈する。深さ85.4cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は６層からなる自然堆積層。遺物は中層３・５層から出土している。

89図１は口縁部の一部と底部を欠損する。口縁部は4単位の枠状区画文に二列の角押文が施文され、頚部を無文帯とする。胴部も隆帯による枠状区画文内に角押文が巡り、胴下半部の楕円形区画文には刻目列が施される。２も口縁部の一部欠損するのみでほぼ完形品。口縁部が角押文による直線文と波状線文が巡り、胴部は二列の角押文による対抗するU字状文。３は波状口縁の深鉢、把手部を欠損している。隆帯による枠状区画文に沿って角押文が施文され、頚部も区画文ないは角押文によるモチーフで充填される。４も底部を欠損するのみでほぼ完存する。４単位の山形把手に波頂部は縦長の瘤状突起が付く。口縁部上、頚部、胴部３段にわたって刻目列が巡り、細い貼付隆帯が垂下する。５も口縁部と把手の一部を欠損するのみでほぼ完存する。把手部は太い隆帯によるハート状の渦巻文で、隆帯上には円形刺突文が付く。波頂部から垂下する隆帯は橋状を呈し、連結して胴部区画文となる。胴部区画の隆帯上も円形刺突文が施され、V字状の波状となる。口縁部は弧状隆帯に沿って角押文が巡り、胴部の区画隆帯にも二列の角押文が巡る。６は約半分を欠損するものの、口縁部から底部まで残存していた。口縁部文様帯は幅狭く、隆帯による枠状区画文に口唇部は刻目と鋸歯突起が付く。頚部に隆帯と2条の沈線によって区画される。７は山形把手。隆帯に沿って二列の角押文が施文される。12・13は縄文地文に角押文による楕円形区画文。16は隆帯に沿って角押文と波状沈線が巡る。33は波状口縁。44・45は浅鉢で、わずかに赤彩が認められる。48は磨面のみ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
48	安山岩	10.08	7.31	5.31	394.0

79）79号土坑（SK79）（第44・91図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高57.51～57.69mに位置し、北側の一部が未調査区域に延びており、東側は土坑SK80に切られている。規模は上場長軸1.73m、短軸1.51m。底面長軸1.68m、短軸1.59mの円形を呈する。深さ36.6cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は上層から出土している。

91図１は大型の深鉢。口縁部は隆帯により区画され、角押文が施文される。３は二列の角押文。７は撥形の打製石斧。完存品である。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
7	千枚岩	9.69	7.29	1.27	111.0

80）80号土坑（SK80）（第44・92図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高57.44～57.69mに位置し、西側で土坑SK79を切っている。規模は上場長軸2.23m、短

軸2.00m。底面長軸2.17m、短軸2.07mの円形を呈する。深さ49.3cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は３層から出土している。90図１は楕円形の枠状把手で橋状を呈する。

90図１は枠状を呈した橋状把手。把手上には渦巻文が配される。２は押捺の加えた隆帯が巡る。３は口唇部に縄文施文され、隆帯には刻目が巡り、角押文が沿う。７は大型の浅鉢。隆帯による枠縄文に突起を付す。赤彩が施されている。18は磨面のみの磨石。19は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
18	安山岩	6.52	7.78	4.43	289.0	19	砂岩	16.54	8.75	5.87	1283.0

81）81号土坑（SK81）（第44図）

調査区の中央、Ⅰ区標高57.65～57.72mに位置する柱穴状を呈する。西側で土坑SK80を切っている。規模は上場長軸0.72m、短軸0.60m。底面長軸0.37m、短軸0.36mの円形を呈する。深さ68.3cmを測る。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

82）82号土坑（SK82）（第44・92図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高57.34～57.50mに位置する。規模は上場長軸1.58m、短軸1.54m。底面長軸1.40m、短軸1.36mの円形を呈する。深さ21.1cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。

92図１は口縁部に隆帯により鍔状に張り出し、押捺圧痕が加えられている。２は隆帯による楕円形区画内に波状沈線が施文される。

83）83号土坑（SK83）（第44・92図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高57.44～57.66mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.95m、短軸1.56m。底面長軸1.85m、短軸1.59mの円形を呈する。深さ37.8cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は６層からなる自然堆積層。遺物は中層４層から出土している。

92図３は隆帯区画文上に縄文施文される。５は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
5	安山岩	13.88	7.66	4.48	661.0

84）84号土坑（SK84）（第44・93図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高57.23～57.36mに位置し、南側で土坑SK85に切られている。規模は上場長軸1.44m、短軸1.15m。底面長軸1.25m、短軸1.00mの円形を呈する。深さ18.0cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。

93図１は押捺圧痕のある隆帯が巡る。２～６は縄文地文に沈線によるモチーフ。

85）85号土坑（SK85）（第44・93図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高57.23～57.33mに位置し、北側で土坑SK84を切っている。規模は上場長軸1.51m、短軸1.36m。底面長軸1.44m、短軸1.40mの円形を呈する。深さ24.5cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は上層から出土している。

93図１は口縁に沿って角押文が施文される。

86）86号土坑（SK86）（第45・93・94図）

調査区の中央、Ⅰ区、標高57.28～57.46mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸2.10m、短軸1.34m。底面長軸1.93m、短軸1.24mの円形を呈する。深さ51.4cmを測り、底面は平坦で３本のサイドピット

が穿ってある(P１　17.0×16.0×14.3cm、P２　26.0×23.0×21.0cm、P３　27.0×36.0×18.3cm)。壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は７層からなる自然堆積層。遺物は３層から出土している。

93図１は４単位の円孔ある山形把手に橋状把手が付く。口縁部は刻目の隆帯が巡る。２は橋状把手。縄文施文の隆帯区画に沿って角押文が巡り、波状沈線が施される。３は円形および枠状区画文に沿って角押文が巡る。４は口縁部に波状の貼付隆帯。５は横Ｓ字状隆帯上に縄文施文される。94図15～19は浅鉢。16は沈線による渦巻文。赤彩が施されている。17は埦形の完形品。口唇部が肥厚する。僅かに赤彩が認められる。18・19も埦形を呈し、赤彩がわずかに認められる。

87）87号土坑（SK87）（第45図）

調査区の南側、Ｉ区、標高57.11～57.13mに位置し、柱穴状を呈する。規模は上場長軸0.69m、短軸0.54m。底面長軸0.50m、短軸0.36mの円形を呈する。深さ16.3cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

88）88号土坑（SK88）（第45・94図）

調査区の南側、Ｉ区、標高58.42～58.46mに位置し、ほぼ中央は撹乱を受けている。規模は上場長軸2.38m、短軸1.55m。底面長軸2.52m、短軸1.70mの円形を呈する。深さ64.8cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は4層からなる自然堆積層。遺物は中層2層から出土している。

94図１は大型の橋状把手をもち、口縁部から胴部に掛けて二列隆帯による渦巻文が施文される。

89）89号土坑（SK89）（第45・94図）

調査区の南側、Ｉ区、標高57.75～57.81mに位置し、東側が未調査区域に延びており、ほぼ中央で土坑SK97に切られている。規模は上場長軸1.85m、短軸1.18m。底面長軸1.62m、短軸1.03mの円形を呈する。深さ42.3cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は2層からなる自然堆積層。

94図１は波状口縁で、爪形文による渦巻文。胴部は縄文地文に沈線区画文と懸垂文。２は隆帯区画文。３は浅鉢。鍔状に迫り出した隆帯による区画は渦巻文を呈し、区画内は有節線文によるモチーフ。４は大きく迫り出した枠状把手に橋状把手が連携する。９は浅鉢の底部。わずかに赤彩が認められる。

90）90号土坑（SK90）（第45・95図）

調査区の南側、Ｉ区、標高57.59～57.66mに位置する。規模は上場長軸1.27m、短軸1.21m。底面長軸1.20m、短軸1.00mの円形を呈する。深さ39.4cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は褐色土の単一層からなる自然堆積層。

95図１は口唇部に対弧状隆帯を貼付け、胴部は縄文施文に沈線施文。

91）91号土坑（SK91）（第45・95図）

調査区の南側、Ｉ区、標高57.35～57.39mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.22m、短軸0.33m。底面長軸1.10m、短軸0.25mの円形を呈するものと推定される。深さ32.7cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

95図１は波状口縁をもつ大型の深鉢。枠状把手に橋状把手を繋ぐ把手が４単位配し、口縁部は無文帯。胴部は無文地に有節沈線による横Ｓ字状文を基調に蛇行文、渦巻文を組み合わせたモチーフ。

92）92号土坑（SK92）（第45図）

調査区の南側、Ｉ区、標高57.85～58.03mに位置し、北東側で土坑SK98に切られている。規模は上場長軸1.26m、短軸1.02m。底面長軸1.12m、短軸0.79mの楕円形を呈する。深さ13.3cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は褐色土の単一層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

93）93号土坑（SK93）（第46・96図）

調査区の南側、Ⅰ区、標高57.28～57.30mに位置し、西側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.67m、短軸0.92m。底面長軸1.39m、短軸0.82mの円形を呈する。深さ15.0cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は3層からなる自然堆積層。遺物は上層から出土している。

96図１は縄文地文に背割り隆帯による渦巻文。４の浅鉢には赤彩が認められる。

94）94号土坑（SK94）（第46・96図）

調査区の南側、Ⅰ区、標高57.27～57.31mに位置する。規模は上場長軸2.13m、短軸2.09m。底面長軸2.19m、短軸2.19mの円形を呈する。深さ56.4cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は５層からなる自然堆積層。遺物は2層から出土している。

96図１は口縁部が肥厚する深鉢。口縁部に沿って二列隆帯上に刻目を巡らし、胴部は沈線区画内に波状沈線を入れる。２は口唇部に粘土紐を貼り付ける。4は凹部をもつ磨石。５・６は磨面のみの磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
4	安山岩	7.44	6.10	4.21	318.0	5	砂岩	10.89	8.73	5.87	911.0
6	安山岩	6.03	8.04	4.05	298.0						

95）95号土坑（SK95）（第46・96図）

調査区の南側、Ⅰ区、標高57.12～57.22mに位置し、西側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸2.23m、短軸1.24m。底面長軸1.95m、短軸1.06mの円形を呈する。深さ38.4cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は６層からなる自然堆積層。遺物は中層４・５層から出土している。

96図１は背割り隆帯による枠状区画文。

96）96号土坑（SK96）（第46図）

調査区の南側、Ⅰ区区、標高57.18～57.24mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.57m、短軸0.58m。底面長軸1.28m、短軸0.51mの円形を呈する。深さ23.0cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

97）97号土坑（SK97）（第45図）

調査区の南側、Ⅰ区、標高57.65～57.67mに位置し、東側が未調査区域に延びており、南側で土坑SK98に切られている。規模は上場長軸0.89m、短軸0.75m。底面長軸1.06m、短軸0.91mの円形を呈する。深さ31.9cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

98）98号土坑（SK98）（第45・96図）

調査区の南側、Ⅰ区、標高57.70～57.93mに位置し、東側が未調査区域に延びており、北側で土坑SK97を切っている。規模は上場長軸0.94m、短軸0.57m。底面長軸0.82m、短軸0.48mの円形を呈するものと推定される。深さ23.8cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。

98図１は無文地。

99）99号土坑（SK99）（第46・96図）

調査区の西側、Ⅲ区、標高57.76～57.80mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸0.96m、短軸0.37m。底面長軸1.32m、短軸0.54mの円形を呈する。深さ55.7cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

96図１～３は縄文地文に角押文によるモチーフ。

100）100号土坑（SK100）（第46・97図）

調査区の西側、Ⅲ区調査区の側、区、標高58.18～58.37mに位置する。規模は上場長軸2.43m、短軸2.41m。底面長軸2.24m、短軸2.20mの円形を呈する。深さ29.8cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は下層3層から出土している。

97図１は底部のみを欠損する深鉢。縄文地文に口縁部は沈線による半円文を配する。２は隆帯に沿って角押文を施文する。２は押捺圧痕の隆帯による区画文に有節線文を充填させる。４は隆帯による枠状区画文内に有節線文を沿う。５は山形把手部に角押文を施文し、口縁部には爪形文を配する。６は縄文施文の隆帯に沿って爪形文が巡る。７は口縁部を無文帯とし、頚部は隆帯区画文に沿って角押文が施文される。８・９も隆帯に角押文が沿う。10は有節線文によるモチーフ。11は角押文。12は刻目列。13・14は押捺圧痕の隆帯に、13は角押文が施文される。18は口唇部に刻目を入れ、有節線文によるモチーフ。21は浅鉢で赤彩が認められる。22～24は凹部をもつ磨石。25はチャート製の石鏃。完存品である。凹基型で、表裏面とも比較的丁寧に剥離調整を施している。26は小型の磨製石斧である。刃部には刃こぼれがみられるが、完存品である。表裏および側面に研磨痕が明瞭に残置されている。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量	図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
22	安山岩	15.58	8.34	4.52	925.0	23	含角礫砂岩	10.59	10.07	4.12	619.0
24	砂岩	7.08	6.84	3.77	287.0	25	チャート	2.09	1.21	0.37	785.0
26	砂岩	6.46	2.93	1.49	668.0						

101）101号土坑（SK101）（第47・96図）

調査区の西側、Ⅲ区、標高58.00～58.11mに位置する。規模は上場長軸1.24m、短軸1.15m。底面長軸0.96m、短軸0.89mの円形を呈する。深さ42.8cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

96図１は口縁部に沿って角押文が巡る。

102）102号土坑（SK102）（第47・96図）

調査区の西側、Ⅲ区、標高58.29～58.33mに位置する。規模は上場長軸0.76m、短軸0.74m。底面長軸0.39m、短軸0.39mの円形を呈する。深さ87.5cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は黒褐色土の単一層からなる自然堆積層。中世以降に比定される。

96図１は半截竹管による沈線文。

103）103号土坑（SK103）（第47・67図）

調査区の西側、Ⅲ区、標高58.25～58.34mに位置する。規模は上場長軸1.21m、短軸1.08m。底面長軸0.77m、短軸0.74mの円形を呈する。深さ45.3cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は中層2層から出土している。

96図１は角押文による区画文。２は半截竹管による沈線文。

104）104号土坑（SK104）（第47・98図）

調査区の西側、Ⅲ区、標高58.35～58.41mに位置し、北側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.28m、短軸0.34m。底面長軸1.26m、短軸0.47mの円形を呈する。深さ42.0cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋状。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は下層３層から出土している。

98図３は網代痕を残置している。

105）105号土坑（SK105）（第47・98図）

調査区の西側、Ⅲ区、標高57.93～58.14mに位置し、南側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸2.73m、短軸2.29m。底面長軸1.61m、短軸1.00mの不正楕円形を呈する。深さ72.4cmを測り、底面は鍋底状で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は6層からなる自然堆積層。形状、土層状況から判断して風倒木痕と推定できる。覆土中に縄文土器が出土している。時期は不明である。

106）106号土坑（SK106）（第48・98図）

調査区の西側、Ⅲ区、標高57.99～58.08mに位置する。規模は上場長軸1.57m、短軸1.32m。底面長軸1.28m、短軸1.03mの不正円形を呈する。深さ38.6cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は3層からなる自然堆積層。遺物は上層1層から出土している。

98図1は有節線文。2は隆帯が垂下する。

107）107号土坑（SK107）（第48・98図）

調査区の西側、Ⅲ区、標高58.00～58.29mに位置し、北側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸2.61m、短軸1.92m。底面長軸2.41m、短軸1.70mの円形を呈する。深さ29.5cmを測り、底面は平坦で南東側にサイドピットを伴う(P1　24.0×22.0×21.2cm)。壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は4層からなる自然堆積層。遺物は中層2層から出土している。

98図1は1単位の突出する扁平円形把手。口縁部上は刻目を施し、3本の沈線を沿う。2は山形把手。縄文施文に隆帯に沿って沈線が巡る。3は角押文。5・6は波状条線文。7は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
7	安山岩	12.30	8.18	6.26	807.0

108）108号土坑（SK108）（第48・99図）

調査区の中央、Ⅱ区、標高58.03～58.11mに位置する。規模は上場長軸1.68m、短軸1.66m。底面長軸1.52m、短軸1.40mの円形を呈する。深さ24.0cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は2層からなる自然堆積層。遺物は1層から出土している。

99図1は爪形文。2は刻目列。3は角押文。5は磨面のみ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
5	安山岩	6.82	8.58	4.38	128.0

109）109号土坑（SK109）（第48・99図）

調査区の西側、Ⅲ区、標高58.08～58.21mに位置する。規模は上場長軸1.80m、短軸1.67m。底面長軸1.28m、短軸1.16mの円形を呈する。深さ39.9cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は4層からなる自然堆積層。遺物は3層から出土している。

99図1は背割り隆帯による枠状区画文内に縦位の沈線を充填する。

110）110号土坑（SK110）（第48・99図）

調査区の西側、Ⅲ区、標高57.94～57.97mに位置し、南側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.33m、短軸0.80m。底面長軸0.98m、短軸0.67mの円形を呈する。深さ24.0cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は3層からなる自然堆積層。遺物は中層2層から出土している。

99図1は角押文。

111）111号土坑（SK111）（第48・99図）

調査区の西側、Ⅲ区、標高58.18～58.22mに位置し、北側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.16m、短軸0.63m。底面長軸0.85m、短軸0.46mの隅丸方形を呈する。深さ35.8cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して

立ち上がる。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。
99図１は無文地。

112）112号土坑（SK112）（第49・99図）
調査区の西側、Ⅲ区、標高58.01～58.07mに位置する。規模は上場長軸1.43m、短軸1.35m。底面長軸1.19m、短軸1.13mの円形を呈する。深さ58.0cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる円筒型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。
99図１は隆帯。２は縄文地文に沈線による平行懸垂文。

113）113号土坑（SK113）（第49図）
調査区の西側、Ⅲ区、標高58.09～58.13mに位置する。規模は上場長軸1.09m、短軸1.03m。底面長軸0.65m、短軸0.52mの円形を呈する。深さ30.4cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

114）114号土坑（SK114）（第49・99図）
調査区の西側、Ⅲ区、標高57.99～58.04mに位置する。規模は上場長軸1.11m、短軸1.10m。底面長軸0.78m、短軸0.75mの円形を呈する。深さ47.1cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は下層から出土している。
99図１は平行する沈線間を磨消懸垂文としている。加曽利Ｅ３式。

115）115号土坑（SK115）（第49・99図）
調査区の西側、Ⅲ区、標高57.84～57.87mに位置し、北側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.23m、短軸0.96m。底面長軸1.04m、短軸0.79mの楕円形を呈する。深さ27.8cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味立ち上がる円筒型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。
99図１は縄文地に二列の角押文。

116）116号土坑（SK116）（第49・99図）
調査区の西側、Ⅲ区、標高55.93～56.07mに位置する。規模は上場長軸1.75m、短軸1.65m。底面長軸1.68m、短軸1.56mの円形を呈する。深さ21.3cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。
99図１はキャリパー形の深鉢。口縁部は沈線による渦巻文。２は磨消懸垂文。３は条線文。加曽利Ｅ３式。

117）117号土坑（SK117）（第49・99図）
調査区の西側、Ⅱ区、標高56.20～56.27mに位置する。規模は上場長軸0.98m、短軸0.97m。底面長軸0.82m、短軸0.81mの円形を呈する。深さ20.8cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。
99図１は隆帯区画に角押文が沿い、二列の波状角押文が巡る。

118）118号土坑（SK118）（第50図）
調査区の西側、Ⅱ区、標高56.27～56.35mに位置する。規模は上場長軸1.15m、短軸1.14m。底面長軸1.05m、短軸1.05mの円形を呈する。深さ17.5cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

119）119号土坑（SK119）（第50図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.57～56.60mに位置する。規模は上場長軸1.54m、短軸1.47m。底面長軸1.29m、短軸1.20mの円形を呈する。深さ15.3cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

120）120号土坑（SK120）（第50・99図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.57～56.64mに位置する。規模は上場長軸1.17m、短軸1.05m。底面長軸0.96m、短軸0.87mの円形を呈する。深さ15.5cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

99図１は隆帯による枠状区画文内に沿って縄の側面圧痕を施文する。縦位の隆帯上には刻目が施されている。

121）121号土坑（SK21）（第33・100図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高59.24～59.27mに位置し、東側約半分が未調査区域に延び、西側の土坑SK14を切っている。規模は上場長軸1.26m、短軸0.69m。底面長軸1.37m、短軸0.54mの円形を呈する。深さ45.0cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は、覆土中層２層中から出土。

100図１は胴部破片。縄文地文に隆帯によるＪ字状隆帯に沿って角押文が施文される。

122）122号土坑（SK22）（第50・100図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.01～58.25mに位置する。規模は上場長軸2.35m、短軸2.17m。底面長軸2.25m、短軸2.00mの円形を呈する。深さ26.4cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がるタライ型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は１・２層から出土している。

100図１は押捺の加えた隆帯が垂下し、隆帯に沈線が沿う。３は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
3	安山岩	13.02	9.77	7.06	1109.0

123）123号土坑（SK123）（第50図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.25～58.28mに位置し、南側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.05m、短軸0.70m。底面長軸0.66m、短軸0.53mの円形を呈するものと推定される。深さ38.0cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

124）124号土坑（SK124）（第50・100図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.04～58.12mに位置する。規模は上場長軸1.57m、短軸1.35m。底面長軸1.63m、短軸1.41mの円形を呈する。深さ33.1cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は２層から出土している。

100図１は波頂部に渦巻文を配し、口縁に沿って交互刺突文が巡り、隆帯による横Ｓ字状区画文。２は突起をもち、有節線文の区画文。３～６は同一個体。沈線による渦巻文を基調にモチーフを描く。７は隆帯に沿って角押文が施文される。

125）125号土坑（SK125）（第51・100図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.16～58.22mに位置する。規模は上場長軸2.50m、短軸2.39m。底面長軸2.38m、短軸2.18mの円形を呈する。深さ9.7cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がるが、横断面は不明。覆土は１層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

100図１は隆帯に沿って角押文が施文される。２は浅鉢。赤彩が認められる。

126）126号土坑（SK126）（第51・100図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.12～58.19mに位置する。規模は上場長軸2.54m、短軸2.37m。底面長軸2.41m、短軸2.15mの円形を呈する。深さ2.1cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がるが、横断面は不明。覆土は１層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

100図１は無文地。

127）127号土坑（SK127）（第51・100図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.31～58.41mに位置し、南側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.58m、短軸0.49m。底面長軸1.85m、短軸0.52mの円形を呈するものと推定される。深さ41.5cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は５層からなる自然堆積層。遺物は中層２・３層から出土している。

100図２は刻目列。

128）128号土坑（SK128）（第51・101図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.31～58.49mに位置し、南側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸2.53m、短軸1.45m。底面長軸2.30m、短軸1.38mの円形を呈する。深さ14.4cmを測り、底面は平坦で、西側で柱穴１本が穿ってある(P１　25.0×19.0×9.5cm)。壁は外傾して立ち上がるが、横断面は不明。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

101図１は縄文地文に波状沈線文。

129）129号土坑（SK129）（第51・101図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.26～58.32mに位置する。規模は上場長軸1.40m、短軸1.34m。底面長軸1.10m、短軸1.10mの円形を呈し、深さ29.9cmを測る。さらにほぼ中央に径55.0×50.0cm、深さ63.0cmの柱穴が穿ってある。底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は６層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

101図１は隆帯に沿って二列の角押文。２・３は同一個体。縄文地文に二列隆帯による渦巻文。

130）130号土坑（SK130）（第51図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.43～58.48mに位置する。規模は上場長軸1.41m、短軸1.37m。底面長軸1.28m、短軸1.23mの円形を呈する。深さ11.3cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は褐色土の単一層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

131）131号土坑（SK131）（第52図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.23～58.27mに位置する。規模は上場長軸1.93m、短軸1.75m。底面長軸1.08m、短軸1.04mの円形を呈する。深さ120.0cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。壁際に沿って柱穴が穿ってある(P１　24.0×20.0×44.1cm、P２　30.0×28.0×26.1cm、P３　39.0×29.0×82.4cm)。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

132）132号土坑（SK132）（第52図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.58～58.59mに位置する。規模は上場長軸0.67m、短軸0.35m。底面長軸0.32m、短軸0.18mの円形を呈する。深さ17.9cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

133）133号土坑（SK133）（第52図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.70～58.75mに位置する。規模は上場長軸1.22m、短軸0.97m。底面長軸1.03m、短軸0.79mの楕円形を呈する。深さ27.6cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

134）134号土坑（SK134）（第52・101図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高58.25～58.28mに位置する。規模は上場長軸1.50m、短軸1.30m。底面長軸1.41m、短軸1.23mの円形を呈する。深さ6.6cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は褐色土の単一層からなる自然堆積層。

101図１は隆帯に爪形文が沿う。２は縄文地文に半截竹管による沈線区画文。

135）135号土坑（SK135）（第52・101図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.76～57.10mに位置し、柱穴状を呈する。規模は上場長軸1.11m、短軸0.97m。底面長軸0.54m、短軸0.48mの隅丸方形を呈する。深さ96.0cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は褐色土の単一土層からなる自然堆積層。中世以降に比定される。

101図１は浅鉢。わずかに赤彩が認められる。

136）136号土坑（SK136）（第53図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高57.36～57.38mに位置し、北側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸0.92m、短軸0.29m。底面長軸0.75m、短軸0.22mの円形を呈するものと推定される。深さ20.8cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

137）137号土坑（SK137）（第53図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高57.24～57.30mに位置する。規模は上場長軸1.49m、短軸1.37m。底面長軸1.32m、短軸1.23mの円形を呈する。深さ14.6cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

138）138号土坑（SK138）（第53・101図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高57.07～57.15mに位置する。規模は上場長軸1.31m、短軸1.24m。底面長軸1.03m、短軸1.01mの円形を呈する。深さ19.1cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

101図１・２は縄文施文。

139）139号土坑（SK139）（第53・101図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高57.01～57.08mに位置する。規模は上場長軸1.58m、短軸1.54m。底面長軸1.62m、短軸1.61mの円形を呈する。深さ33.3cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は１・２層から出土している。

101図１は波状口縁で、円孔を伴う突起上に刺突文と沈線区画文。

140）140号土坑（SK140）（第53図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.93～57.23mに位置する。規模は上場長軸1.43m、短軸1.30m。底面長軸1.21m、短軸1.09mの円形を呈する。深さ68.8cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる袋型。覆土は２層からなる埋戻し土層。遺物は検出できなかった。

141）141号土坑（SK141）（第53・101図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.44～56.66mに位置する。規模は上場長軸1.59m、短軸1.30m。底面長軸1.59m、短軸1.41mの円形を呈する。深さ18.8cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は下層から出土している。

101図１は両端部に敲打痕を有する磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
1	安山岩	12.20	8.03	5.46	801.0

142）142号土坑（SK142）（第54図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.30～56.23mに位置する。規模は上場長軸1.46m、短軸1.29m。底面長軸1.25m、短軸1.11mの円形を呈する。深さ19.9cmを測り、ほぼ中央に径78.0×65.0cm、深さ14.5cmの掘り込みがみられる。壁は外傾して立ち上がる。覆土は4層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

143）143号土坑（SK143）（第54図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高55.97mに位置し、南側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.85m、短軸0.78m。底面長軸87.0m、短軸0.51mの楕円形を呈する。深さ263.0cmを測り、底面はなべ底状で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は３層からなる自然堆積層。形状および覆土から判断して風倒木痕と推定される。遺物は検出できなかった。時期は不明である。

144）144号土坑（SK144）（第54・101図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高57.03～57.08mに位置する。規模は上場長軸0.99m、短軸0.85m。底面長軸0.83m、短軸0.71mの円形を呈する。深さ56.0cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

図１は凹部をもつ磨石。表裏面および片側面に凹部を有する。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
1	安山岩	13.93	6.75	5.74	551.0

145）145号土坑（SK145）（第54図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.59～56.63mに位置する。規模は上場長軸0.99m、短軸0.92m。底面長軸0.86m、短軸0.83mの円形を呈する。深さ9.5cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は暗褐色土の単一層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

146）146号土坑（SK146）（第54図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.37～56.40mに位置する。規模は上場長軸1.38m、短軸1.28m。底面長軸1.25m、短軸1.16mの円形を呈する。深さ15.4cmを測り、底面は平坦で北側に柱穴が穿ってある(P１　25.0×24.0×9.3cm)。壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は褐色土の単一層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

147）147号土坑（SK147）（第54図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高54.75～54.89mに位置する。規模は上場長軸1.14m、短軸1.13m。底面長軸1.03m、短軸1.00mの円形を呈する。深さ15.0cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

148）148号土坑（SK148）（第55図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高54.64～54.77mに位置する。規模は上場長軸1.32m、短軸1.23m。底面長軸1.23m、短軸1.16mの円形を呈する。深さ20.3cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

149）149号土坑（SK149）（第55・101図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高54.43～54.61mに位置する。規模は上場長軸1.30m、短軸1.23m。底面長軸1.19m、短軸1.10mの円形を呈する。深さ27.4cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は黒褐色土の単一層からなる自然堆積層。

101図１は深鉢の底部破片。

150）150号土坑（SK150）（第55図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高54.24～54.44mに位置する。規模は上場長軸1.36m、短軸1.30m。底面長軸1.29m、短軸1.23mの円形を呈する。深さ40.1cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる円筒型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかったが、縄文時代に比定される。

151）151号土坑（SK151）（第55図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.91～56.99mに位置し、南側で土坑SK152に切られている。規模は上場長軸0.93m、短軸0.87m。底面長軸0.78m、短軸0.68mの長方形を呈する。深さ30.8cmを測り、底面は平坦で、西側で柱穴が穿ってある(P１　39.0×19.0×16.0cm)。壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

152）152号土坑（SK152）（第55図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.78mに位置し、北側で土坑SK151を切っている。規模は上場長軸1.67m、短軸1.42m。底面長軸1.29m、短軸0.70mの隅丸方形を呈する。深さ44.0cmを測り、底面はなべ底状で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は黒褐色土の単一層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

153）153号土坑（SK153）（第55・102図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.47～56.70mに位置し、北西側で土坑SK152に切られている。規模は上場長軸1.77m、短軸1.28m。底面長軸2.02m、短軸1.71mの楕円形を呈する。深さ44.7cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は黒褐色土の単一層からなる自然堆積層。

102図１は隆帯に角押文が沿う。

154）154号土坑（SK154）（第55図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.66～56.72mに位置する。規模は上場長軸1.87m、短軸1.81m。底面長軸1.78m、短軸1.71mの円形を呈する。深さ14.0cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がり、横断面形は不明。覆土は黒褐色土の単一層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

155）155号土坑（SK155）（第56・102図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.83～56.93mに位置する。規模は上場長軸1.48m、短軸1.38m。底面長軸2.30m、短軸2.30mの円形を呈する。深さ91.0cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は中層２・３層から出土している。

102図１は口縁部の一部と底部を欠損している。４単位の山形把手をもつキャリパー形の深鉢・口縁部は隆帯による楕円形区画文に沿って二列の角押文が巡る。胴部は４単位の隆帯懸垂文が垂下し区画文なり、区画内には二条沈線による対弧線文が配される。２は角押文による直線文と波状文が巡る。３は隆帯に角押文が沿う。４は隆帯によるＹ字状懸垂文が蛇行懸垂文となる。

156）156号土坑（SK156）（第56図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.47～56.60mに位置する。規模は上場長軸2.00m、短軸1.05m。底面長軸1.75m、短軸0.87mの長方形を呈する。深さ21.0cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自

然堆積層。遺物は１層から出土している。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

157）157号土坑（SK157）（第56図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高57.06～57.17mに位置する。規模は上場長軸1.31m、短軸0.80m。底面長軸1.20m、短軸0.67mの長方形を呈する。深さ15.3cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

158）158号土坑（SK158）（第56図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.94～57.02mに位置し、柱穴状を呈する。規模は上場長軸0.80m、短軸0.74m。底面長軸0.44m、短軸0.43mの円形を呈する。深さ73.5cmを測り、底面は丸く、壁はほぼ垂直気味に立ち上がる。覆土は黒褐色土の単一層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

159）159号土坑（SK159）（第56・102・103図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.29～58.35mに位置する。規模は上場長軸1.92m、短軸1.70m。底面長軸1.85m、短軸1.63mの円形を呈する。深さ22.9cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がるが、横断面形は不明。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は下層２層から出土している。

102図１・２は同一個体。波状口縁で重層沈線。赤彩が施されている。３は口縁部が縄の側面圧痕。頚部が隆帯により区画され、角押文が施文される。５は押捺圧痕の隆帯。７は隆帯に沿って角押文が施文される。10は体部の一部を欠損している深鉢。口縁部横Ｓ字状の隆帯を貼付突起とし、口縁部上に押捺を加えた隆帯がめぐる。11は縄文地文に半截竹管によるモチーフ。12は押捺を施した隆帯が垂下する。13は深鉢底部。網代痕を残置する。14は棒状磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
14	安山岩	13.52	4.65	4.05	334.0

160）160号土坑（SK160）（第56・103・104図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.27～58.30mに位置する。規模は上場長軸2.18m、短軸2.12m。底面長軸2.42m、短軸2.30mの円形を呈する。深さ30.1cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は下層２層から出土している。

103図１は隆帯による楕円形区画文に沿って二列の角押文が施文される。２は枠状文に有節線文。３は隆帯に二列の角押文が沿う。４の口縁部は爪形文が施文され、太い隆帯による枠状区画文。５は波状口縁で押捺圧痕の隆帯。９・10は大型の深鉢胴部破片。縄文地文に二列の貼付隆帯による渦巻きを伴う区画文。14は磨面のみの磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
14	石英斑岩	8.69	8.85	4.04	417.0

161）161号土坑（SK161）（第57図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.25～58.27mに位置する。規模は上場長軸1.05m、短軸1.00m。底面長軸0.93m、短軸0.87mの円形を呈する。深さ16.4cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

162）162号土坑（SK162）（第57・104図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.27～58.28mに位置し、北側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸2.23m、短軸1.17m。底面長軸2.31m、短軸1.23mの円形を呈する。深さ34.0cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は６層からなる自然堆積層。遺物は中層３・４層から出土している。

104図１・２は爪形文に、胴部は沈線による波状区画文。３は大型波状口縁の浅鉢。わずかに赤彩が認められる。

163）163号土坑（SK163）（第57・104図）

調査区の東側、Ⅱ区、標高58.12～58.23mに位置する。規模は上場長軸1.95m、短軸1.65m。底面長軸1.87m、短軸1.65mの楕円形を呈する。深さ42.8cmを測り、底面は平坦で柱穴が4本穿ってある(P１　22.0×20.0×17.0cm、P２　33.0×27.0×5.8cm、P３　32.0×22.0×38.0cm、P４　33.0×29.0×15.5cm)。壁は内傾して立ち上がる。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

104図１は刻目の施された隆帯に沿って角押文が施文される。３はヒダ状圧痕。

164）164号土坑（SK164）（第57・104図）

調査区の中央、Ⅱ区、標高58.23～58.26mに位置する。規模は上場長軸2.01m、短軸1.96m。底面長軸2.27m、短軸2.22mの円形を呈する。深さ46.0cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は５層からなる自然堆積層。遺物は中層３層から出土している。

104図１は交互刺突文が巡り、赤彩が認められる。２は口唇部に円形刺突文が施文される。３は隆帯に沿って二列の角押文が施される。４は浅鉢で隆帯による円形文。赤彩が認められる。

165）165号土坑（SK165）（第57・105図）

調査区の中央、Ⅱ区、標高58.20～58.28mに位置する。規模は上場長軸1.67m、短軸1.53m。底面長軸1.44m、短軸1.37mの円形を呈する。深さ39.6cmを測り、底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる円筒型。覆土は２層からなる自然堆積層。遺物は下層２層から出土している。

105図１は把手部に縄文施文。２は爪形文。

166）166号土坑（SK166）（第57・105図）

調査区の中央、Ⅱ区、標高57.87～57.99mに位置する。規模は上場長軸1.77m、短軸1.65m。底面長軸1.88m、短軸1.87mの円形を呈する。深さ35.9cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は３層からなる自然堆積層。遺物は１層から出土している。

105図１は無文地。

167）167号土坑（SK167）（第58・105図）

調査区の中央、Ⅲ区、標高57.18～57.25mに位置する。規模は上場長軸2.09m、短軸1.83m。底面長軸2.34m、短軸2.13mの円形を呈する。深さ42.3cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は中層２層から出土している。

105図１は口縁部内側が突出する。角押文による区画内に隆帯による波状文。２は口唇部に押捺を施し波状とする。３は角押文によるモチーフ。４は角押文にヒダ状圧痕。５は浅鉢で隆帯による枠状区画。赤彩が僅かに認められる。

168）168号土坑（SK168）（第58図）

調査区の西側、Ⅱ区、標高56.58～56.61mに位置する。規模は上場長軸0.90m、短軸0.80m。底面長軸0.74m、短軸0.63mの円形を呈する。深さ18.0cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は褐色土の単一層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。中世以降に比定される。

169）169号土坑（SK169）（第58・105図）

調査区の中央、Ⅱ区、標高57.34～57.76mに位置する。規模は上場長軸1.99m、短軸1.70m。底面長軸2.19m、短軸1.88mの円形を呈する。深さ62.5cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は４層からなる自然堆積層。遺物は中層３層から出土している。

105図１は縄文施文された隆帯の楕円形区画文。隆帯に沿って角押文が施文される。２は爪形文。３はヒダ状圧痕。

4は浅鉢。内面に隆帯による渦巻文。5は凹部をもつ磨石。

図版番号	材質	長さ	幅	厚さ	重量
5	砂岩	9.82	5.48	3.20	271.0

170）170号土坑（SK170）（第58・105図）

調査区の中央、Ⅱ区、標高57.07～57.11mに位置する。規模は上場長軸1.77m、短軸1.56m。底面長軸1.97m、短軸1.77mの円形を呈する。深さ36.0cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は褐色土の単一層からなる自然堆積層。

105図1は口縁部に沿って刻目列が巡り、角押文が平行する。2も縦位の角押文。3は隆帯に沿って有節線文が巡り、ヒダ状圧痕。5は押捺圧痕のある隆帯区画文。

171）171号土坑（SK171）（第58・105図）

調査区の中央、Ⅱ区、標高57.09～57.14mに位置する。規模は上場長軸1.72m、短軸1.60m。底面長軸1.73m、短軸1.62mの円形を呈する。深さ35.0cmを測り、底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は2層からなる自然堆積層。遺物は2層から出土している。

105図1は大型の双頭状山形把手。波頂部から刻目にある隆帯が垂下し、区画内は半截竹管の沈線が沿う。2は押捺圧痕が施された隆帯が区画文となる。3は隆帯に沿って角押文が巡る。

172）172号土坑（SK172）（第58・106図）

調査区の中央、Ⅱ区、標高56.90～56.94mに位置する。規模は上場長軸1.81m、短軸1.78m。底面長軸1.60m、短軸1.58mの円形を呈する。深さ23.8cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる円筒型。覆土は2層からなる自然堆積層。遺物は1層から出土している。

106図1は口唇部に二列の角押文が巡り、口縁部は押捺圧痕の隆帯。2は表裏面とも隆帯による枠状区画文。3は隆帯に二列の角押文が沿う。4は隆帯に沿って沈線文が巡る。6は浅鉢。8は網代痕を残置している。

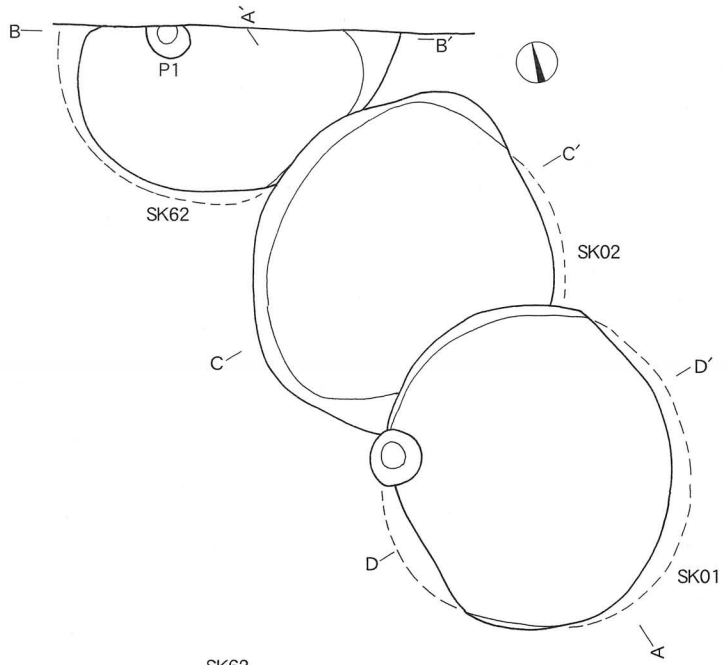
173）173号土坑（SK173）（第59図）

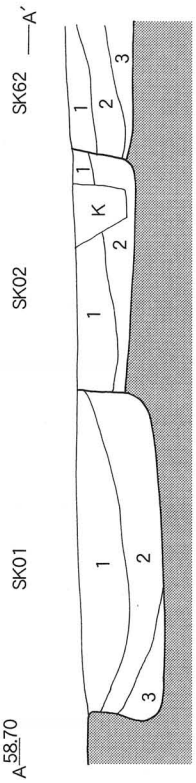
調査区の西側、Ⅱ区、標高56.42～56.46mに位置する。規模は上場長軸1.47m、短軸1.02m。底面長軸1.10m、短軸0.73mの楕円形を呈する。深さ29.0cmを測り、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は褐色土の単一層からなる自然堆積層。遺物は検出できなかった。

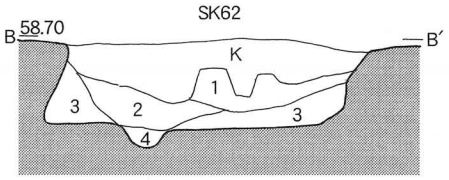
174）174号土坑（SK174）（第59・106図）

調査区の北側、Ⅰ区、標高58.58～58.63mに位置し、東側が未調査区域に延びている。規模は上場長軸1.13m、短軸0.66m。底面長軸1.00m、短軸0.57mの円形を呈するものと推定される。深さ23.9cmを測り、底面は平坦で、壁は大きく内傾して立ち上がるフラスコ型。覆土は6層からなる自然堆積層。遺物は中層3層から出土している。

106図1は口縁部の一部を欠損している。口縁部に小突起をもち、口縁部に爪形文を巡らせ、角押文が沿う。頸部に二列の角押文と波状角押文が区画文とし、角押文と蛇行角押文が懸垂文として垂下する。2は波状口縁で、突起部には刻目がある。縄文地文に沈線によるモチーフを描く。



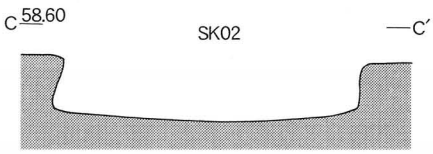


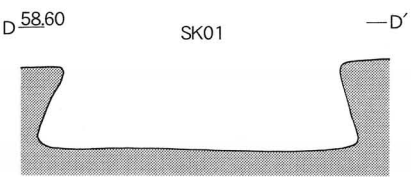


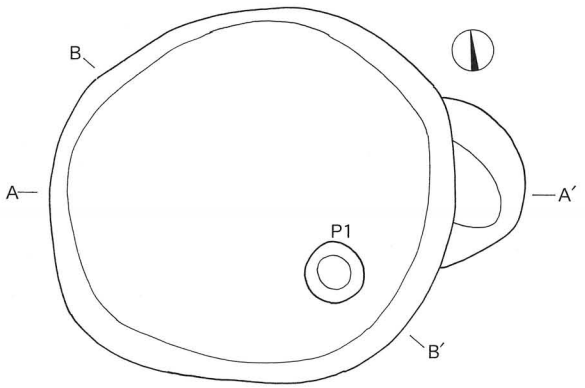
SK62
1．にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。

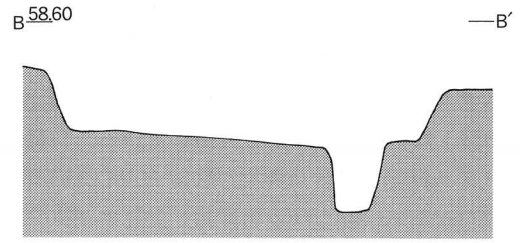
SK01
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK02
1．黒色土(10YR2/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

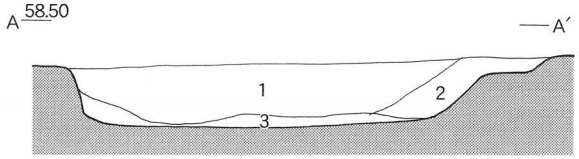




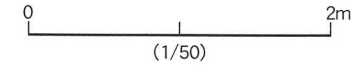


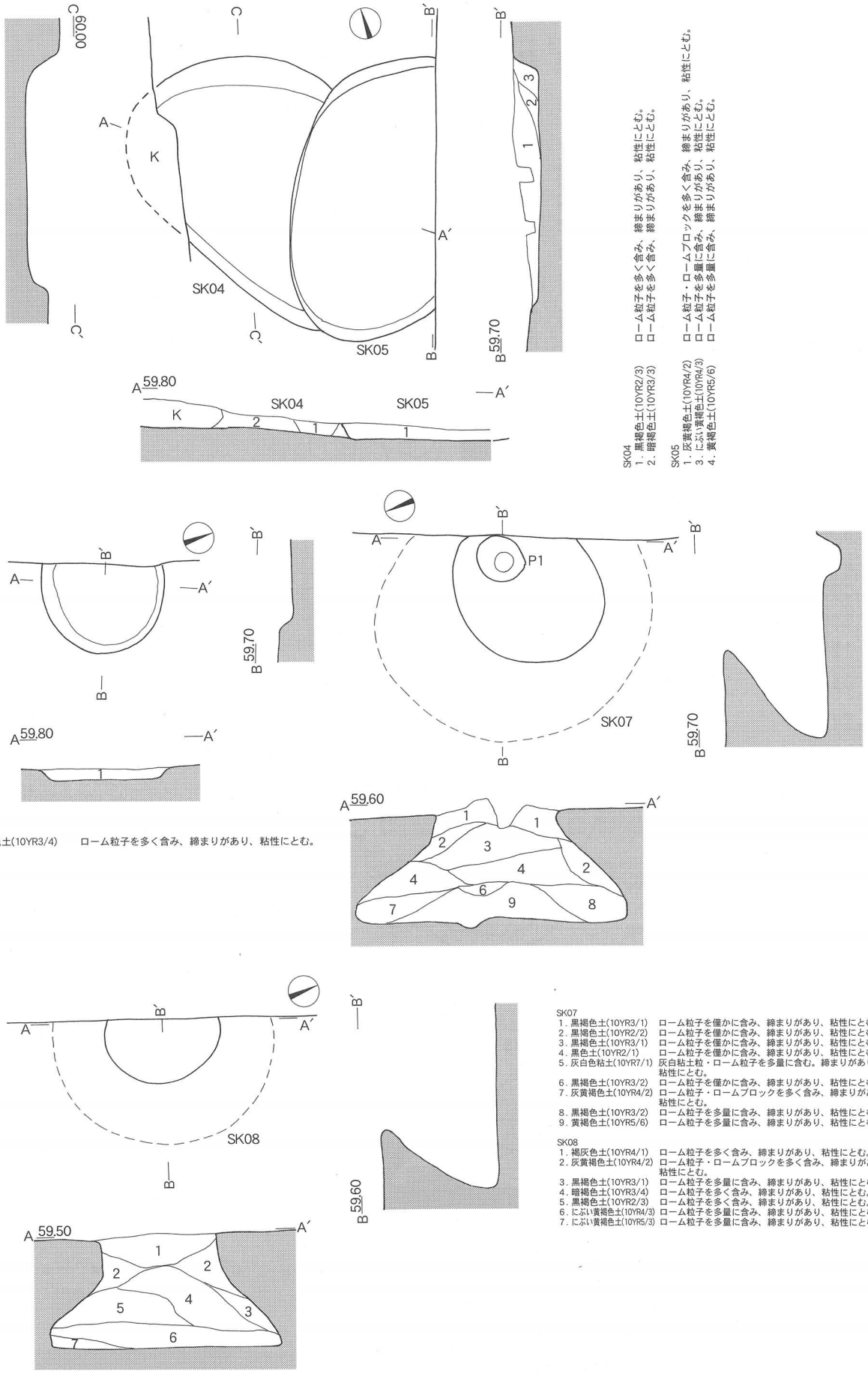


SK03
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

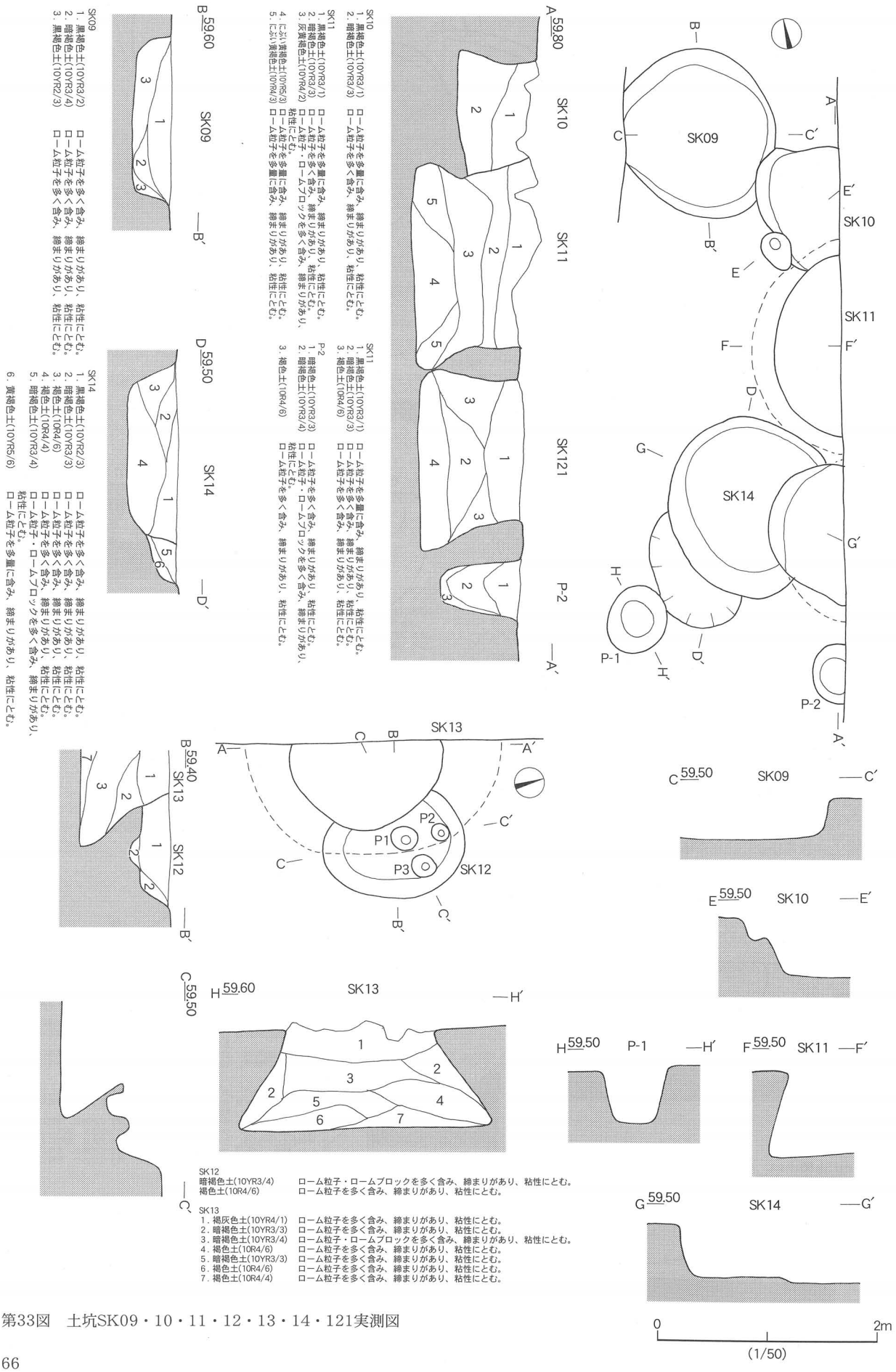


第31図　土坑SK01・02・03・62実測図

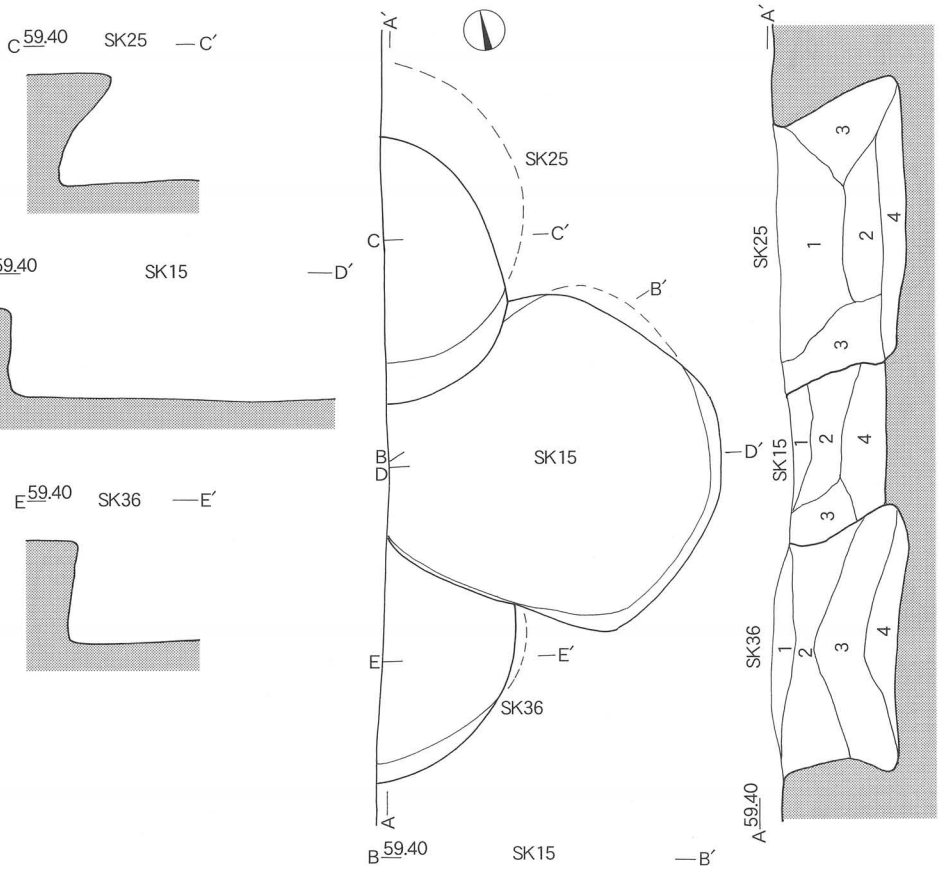




第32図　土坑SK04・05・06・07・08実測図



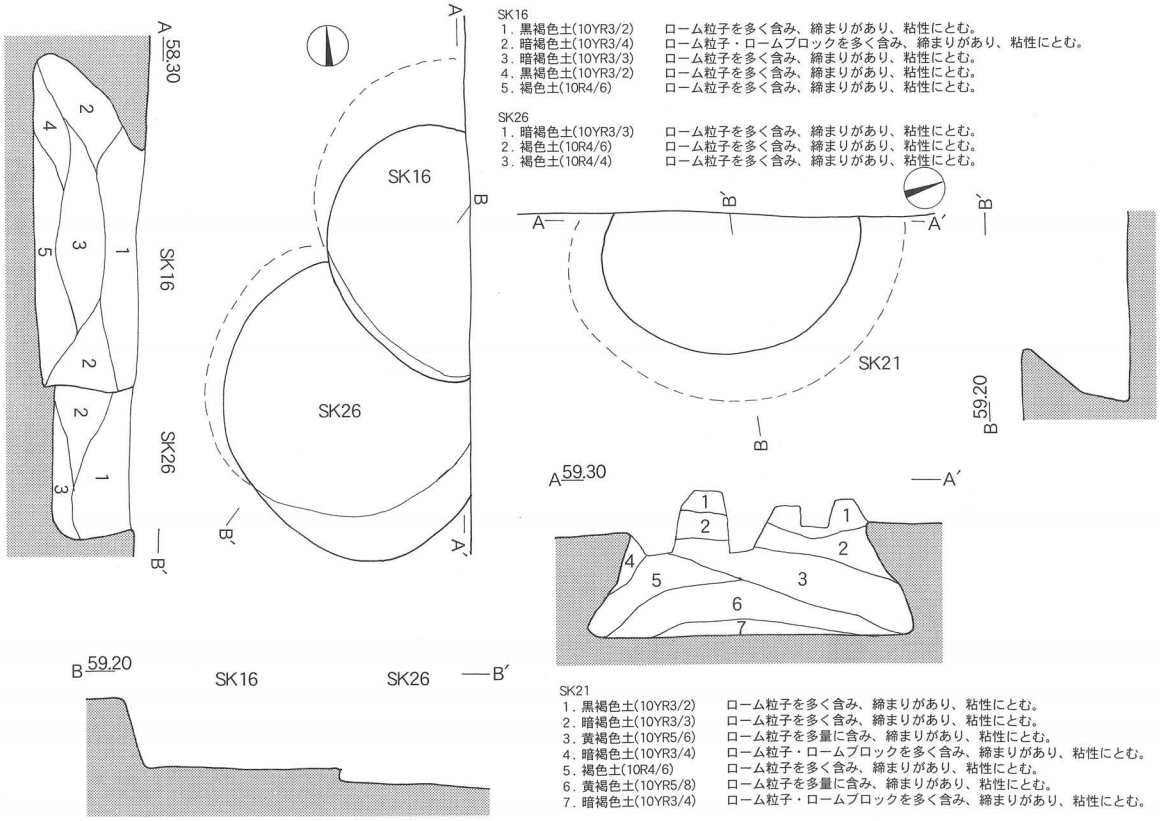
第33図　土坑SK09・10・11・12・13・14・121実測図



SK25
1．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK36
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK15
1．黒褐色土(10YR3/2)
　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)
　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/4)
　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．にぶい黄褐色土(10YR4/3)
　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。



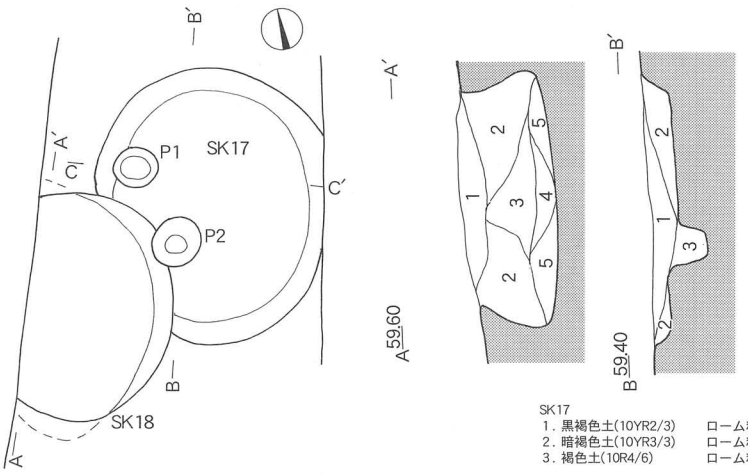
SK16
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK26
1．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK21
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．黄褐色土(10YR5/8)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
7．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

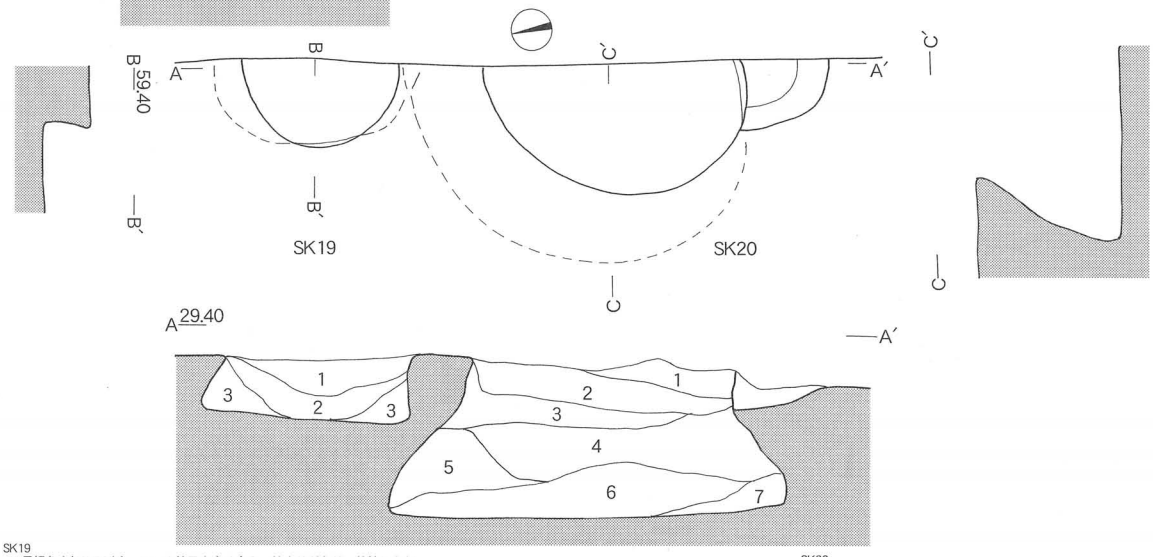
第34図　土坑SK15・16・21・25・26・36実測図

0　2m
(1/50)



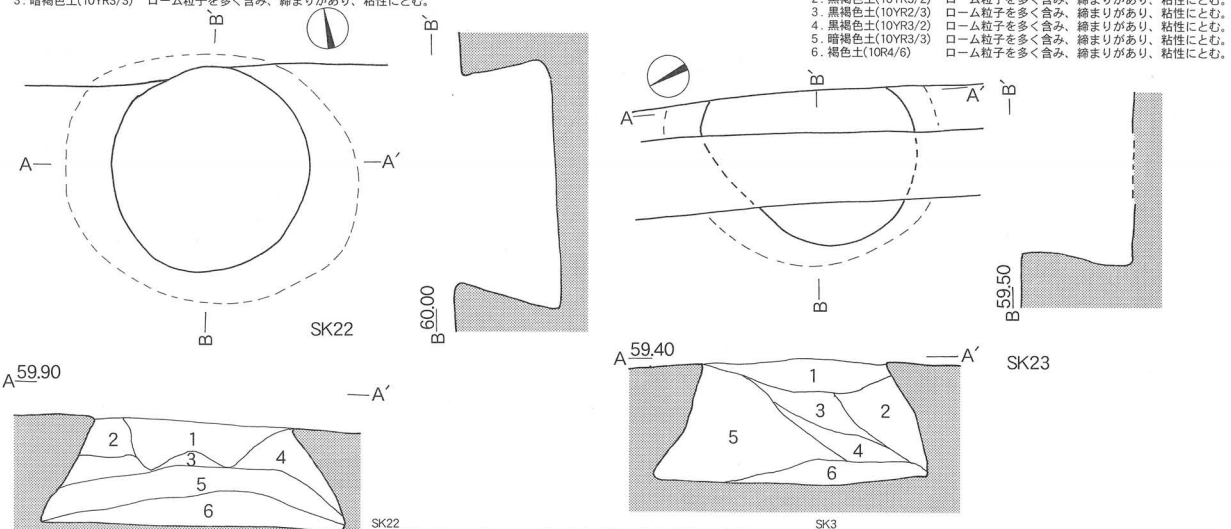
SK17
1．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10YR4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK18
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK19
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK20
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

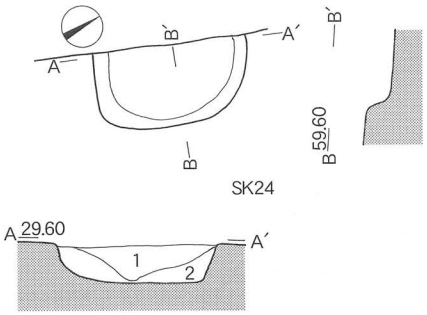


SK22
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

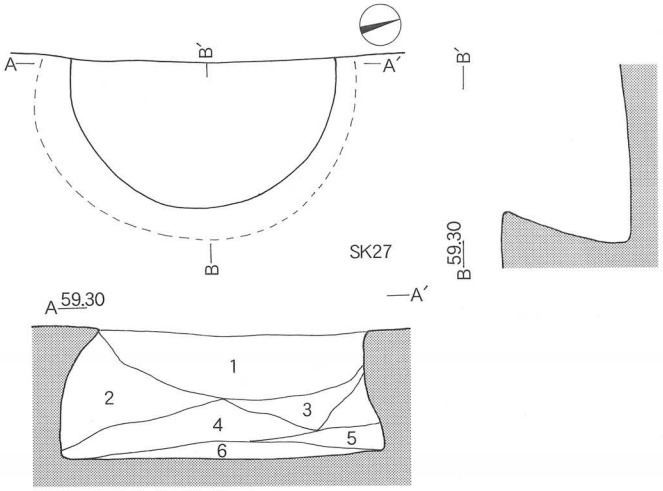
SK3
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第35図　土坑SK17・18・19・20・22・23実測図

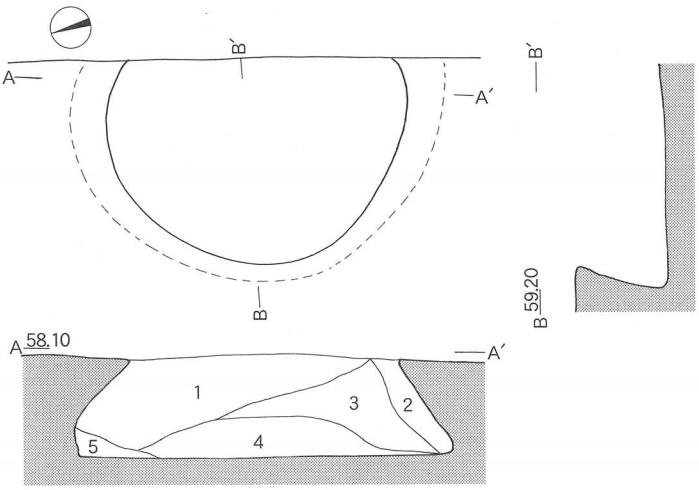
0　2m
(1/50)



SK24
1．褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

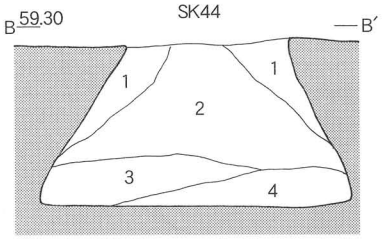


SK27
1．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

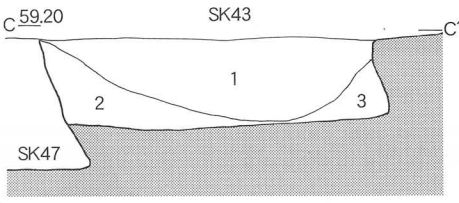


SK28
1．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

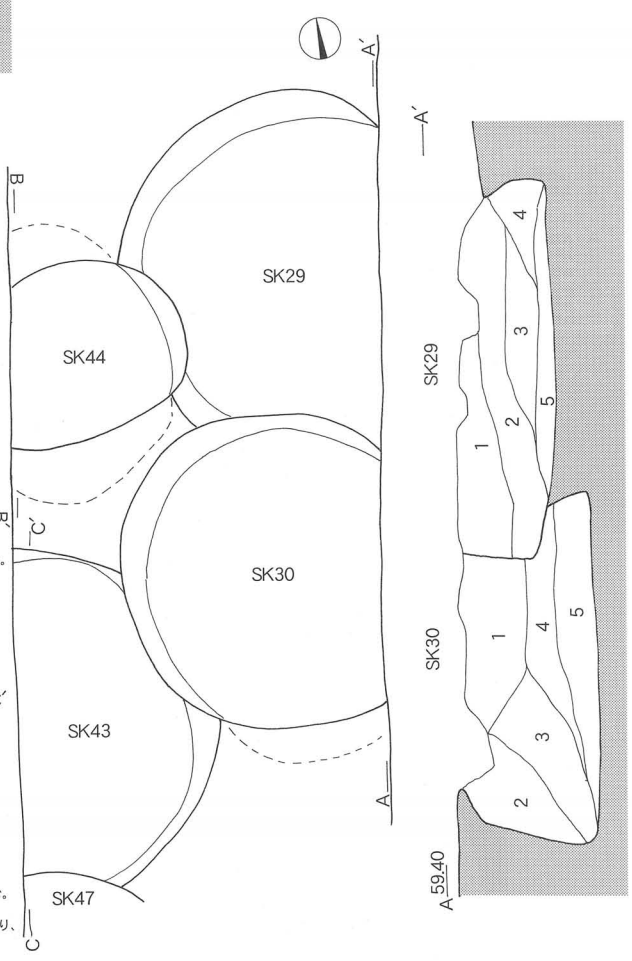
SK29
1．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK44
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



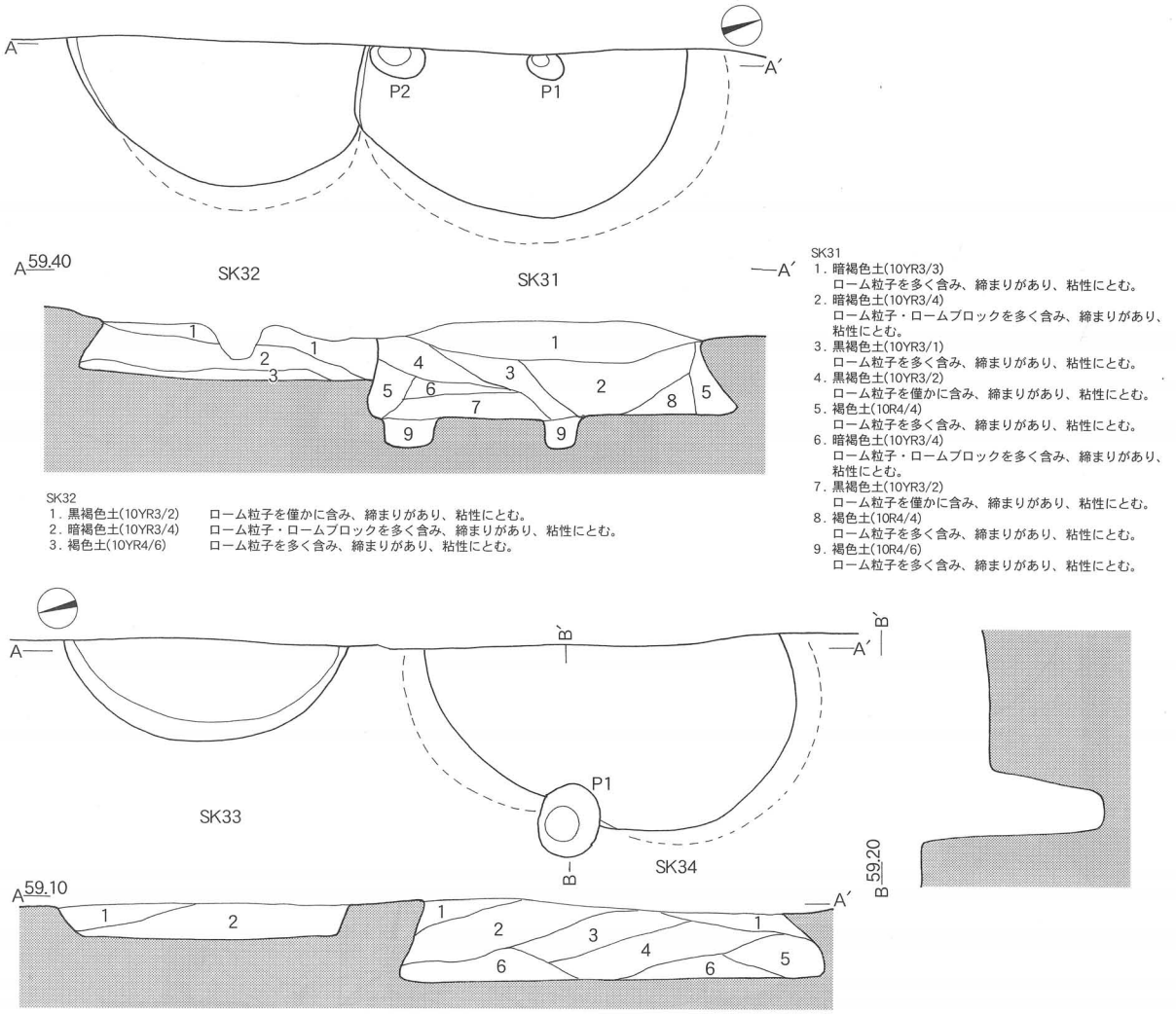
SK43
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK30
1．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第36図　土坑SK24・27・28・29・30・43・44実測図

0　2m
(1/50)



SK31
1．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
7．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
8．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
9．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

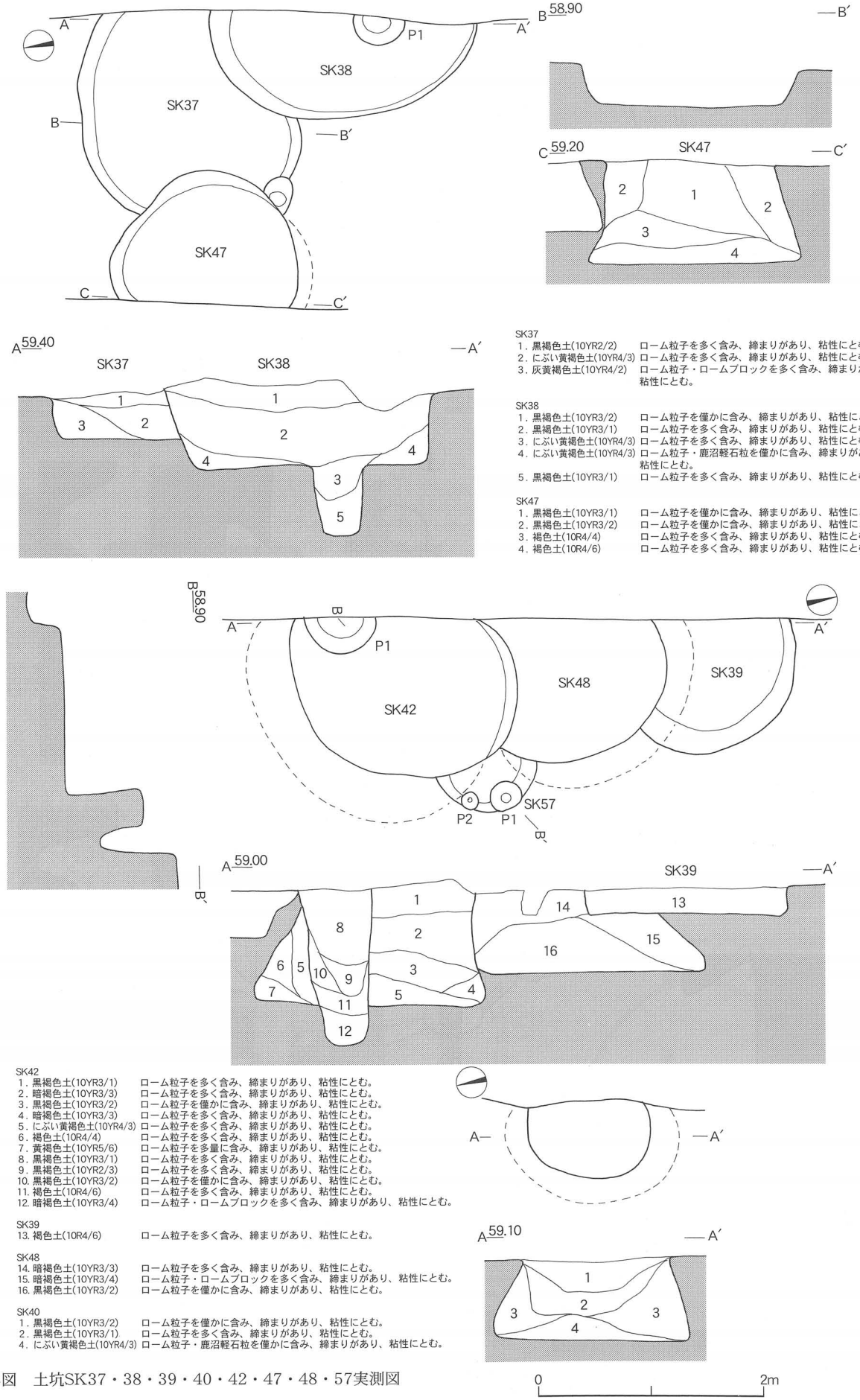
SK32
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10YR4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK33
1．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK34
1．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK35
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第37図　土坑SK31・32・33・34・35実測図



SK37
1．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK38
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子・鹿沼軽石粒を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK47
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK42
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
7．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
8．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
9．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
10．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
11．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
12．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

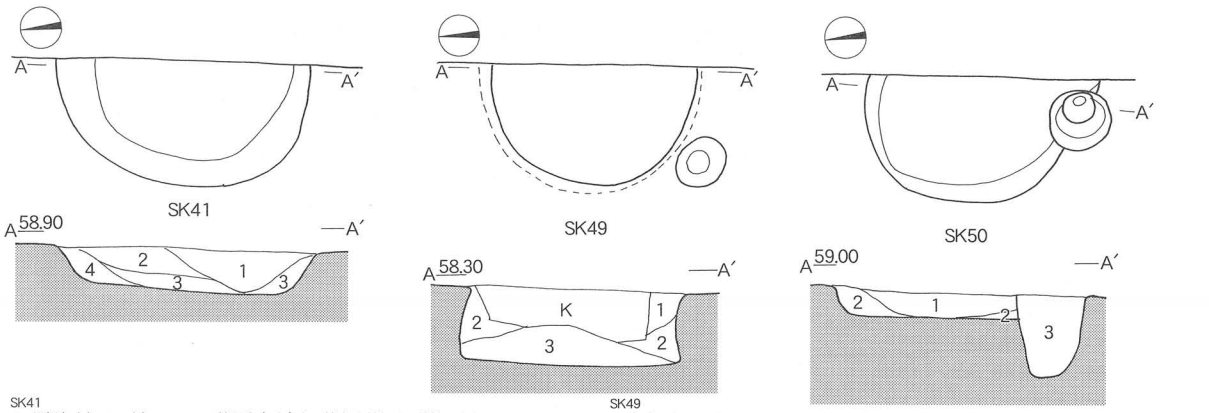
SK39
13．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK48
14．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
15．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
16．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK40
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子・鹿沼軽石粒を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第38図　土坑SK37・38・39・40・42・47・48・57実測図

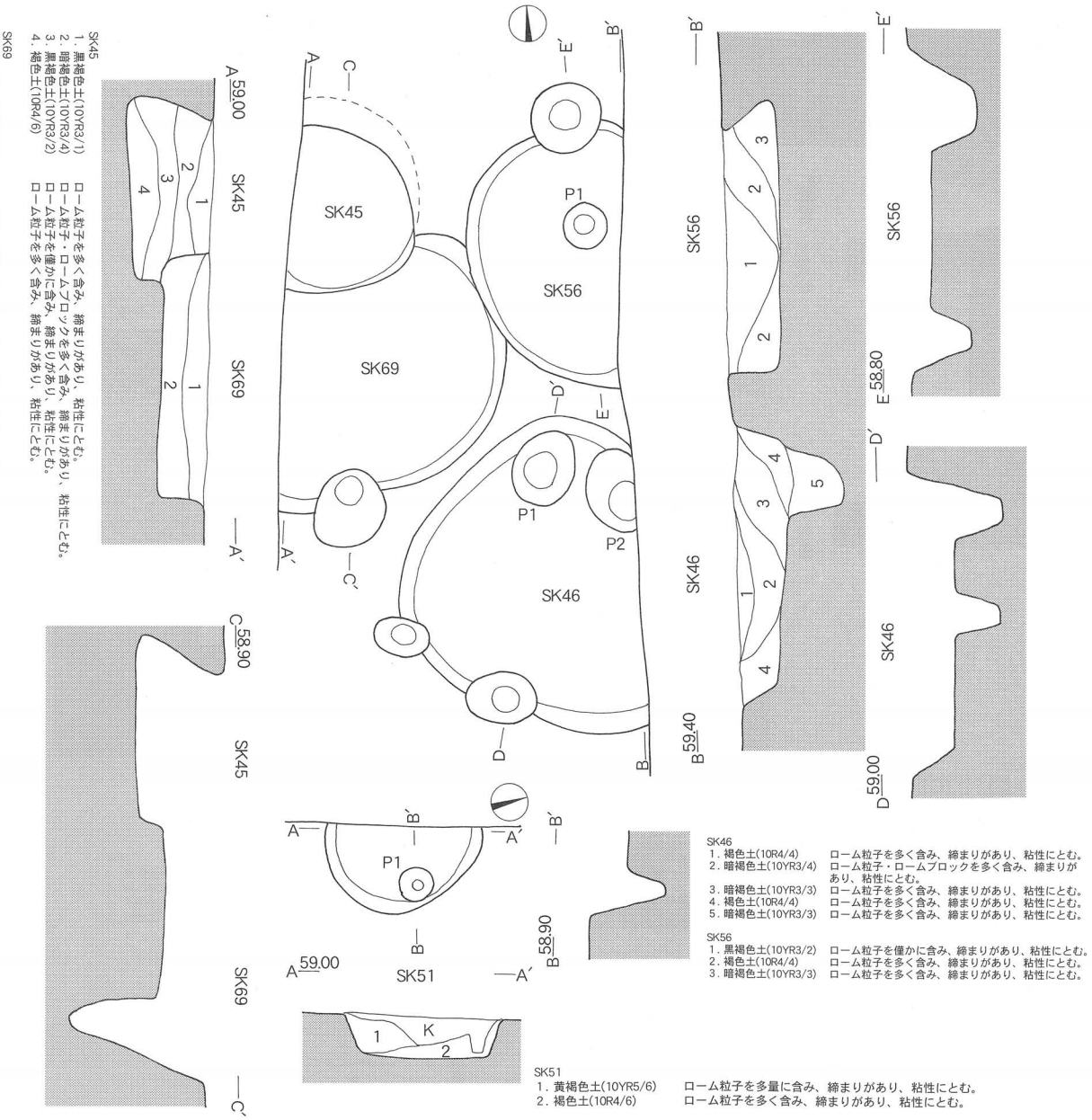
0　2m
(1/50)



SK41
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK49
1．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK50
1．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK45
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK69
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

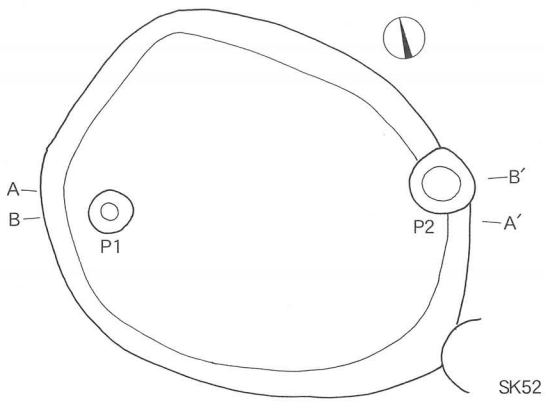
SK46
1．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

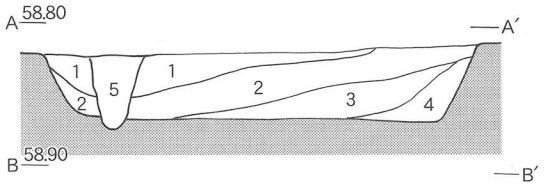
SK56
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

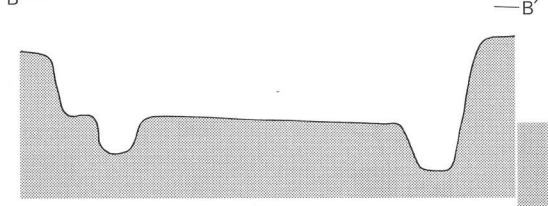
SK51
1．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第39図　土坑SK41・45・46・49・50・51・56・69実測図

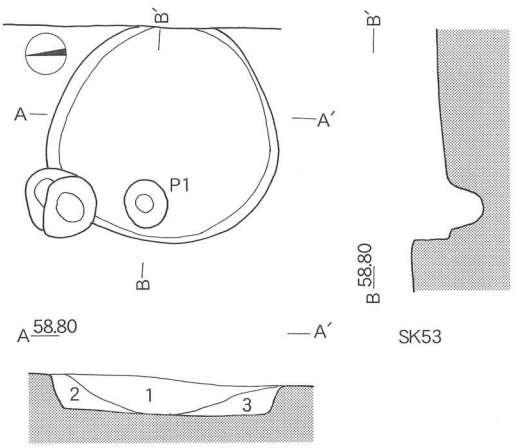
0　2m
(1/50)



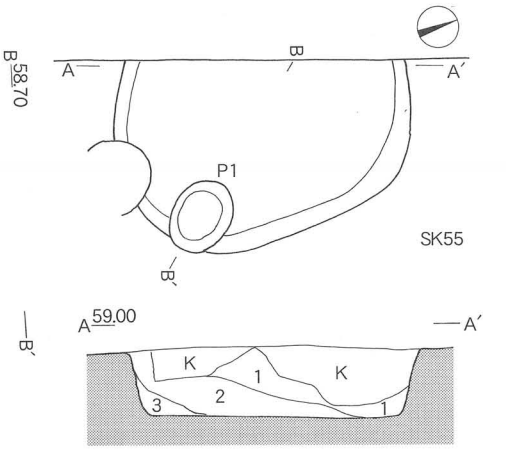




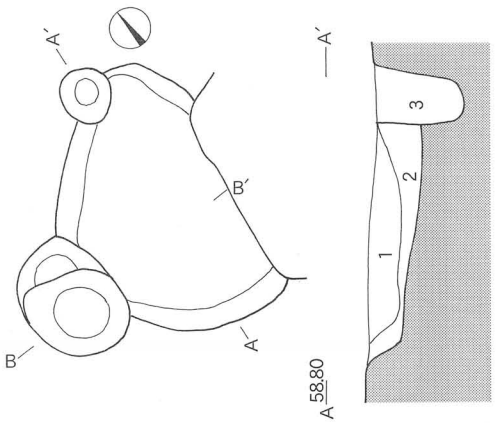
SK52
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、にとむ。
3．黒色土(10YR2/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



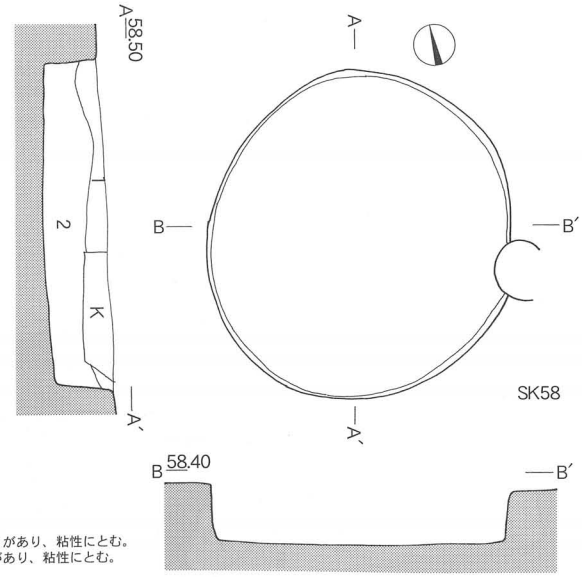
SK53
1．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK55
1．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



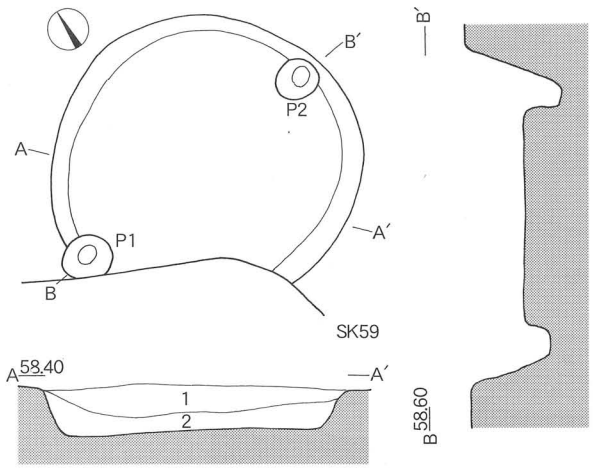
SK54
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



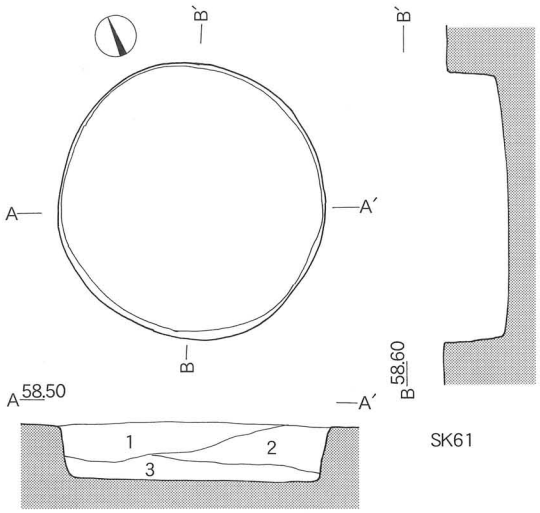
SK58
1．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第40図　土坑SK52・53・54・55・58実測図

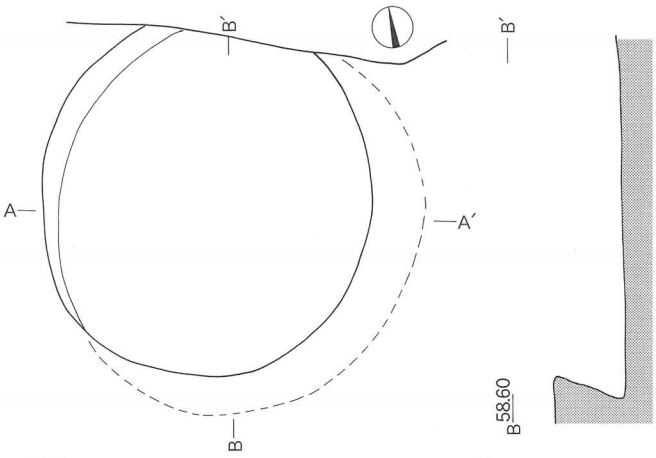
0　2m
(1/50)



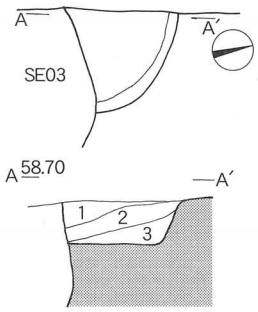
SK59
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



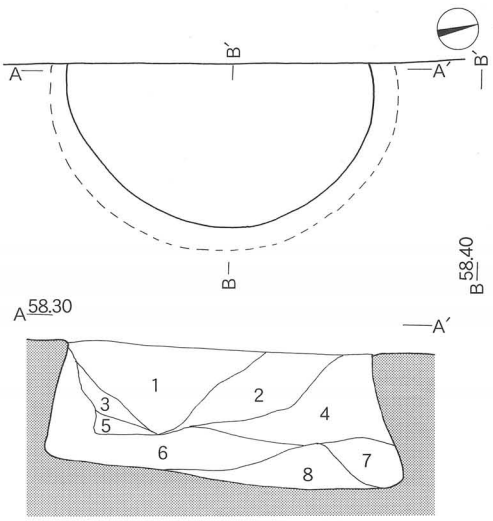
SK61
1．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



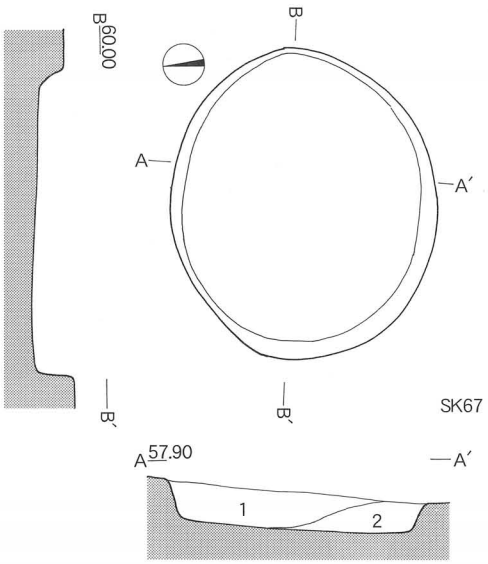
SK60
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK63
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。



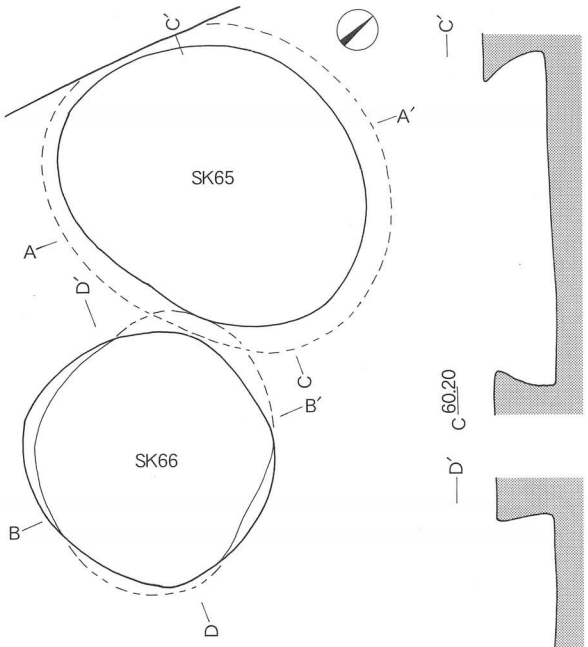
SK64
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
7．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
8．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK67
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

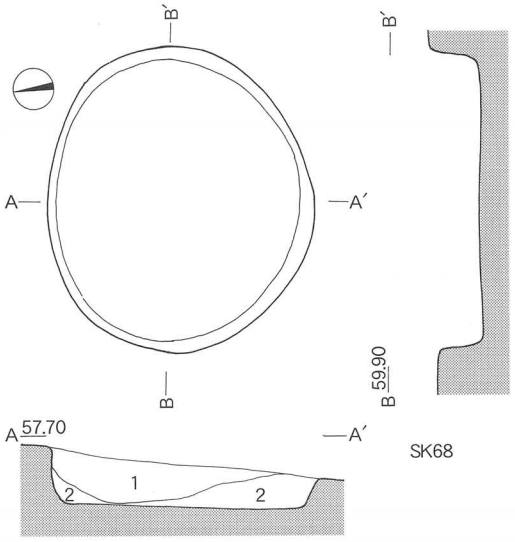
第41図　土坑SK59・60・61・63・64・67実測図

0　2m
(1/50)

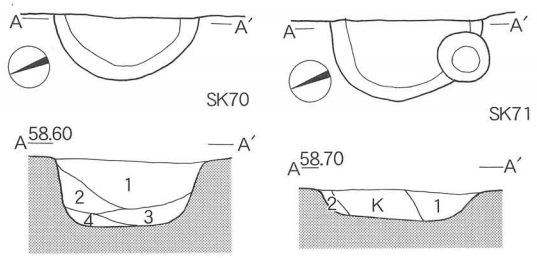


SK65
1．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK66
1．黒色土(10YR2/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。

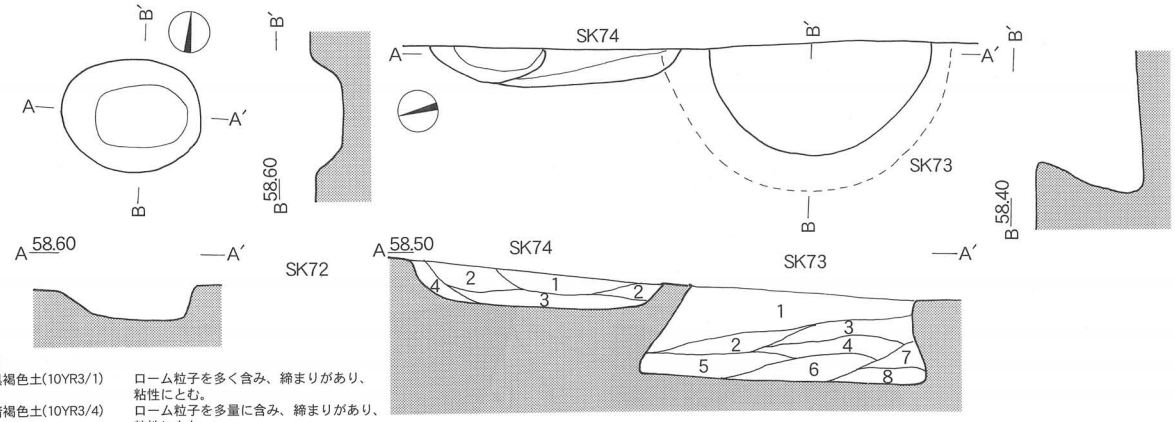


SK68
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK70
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK71
1．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

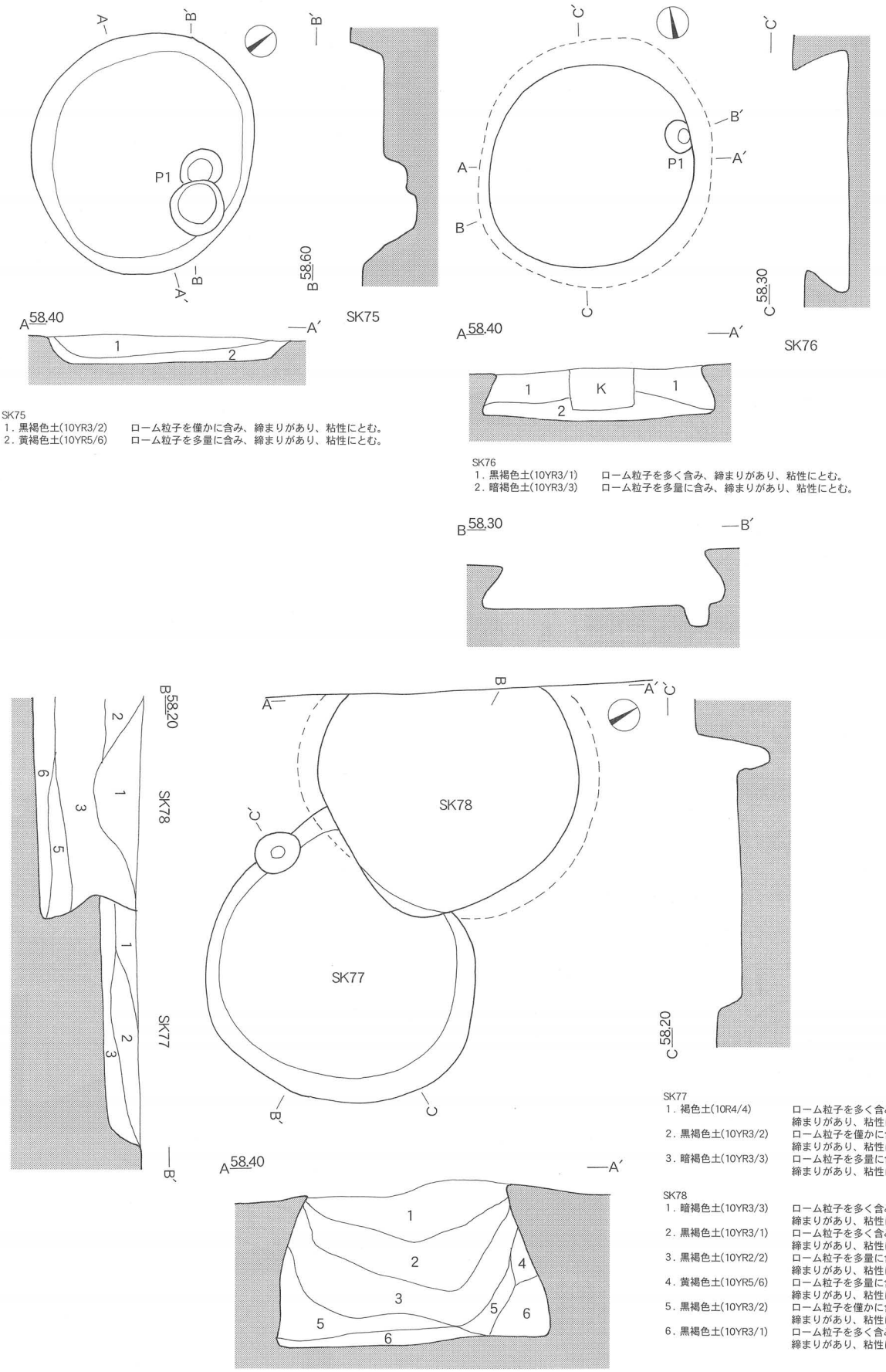


SK73
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
7．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
8．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK74
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第42図　土坑SK65・66・68・70・71・72・73・74実測図

0　2m
(1/50)



SK75
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

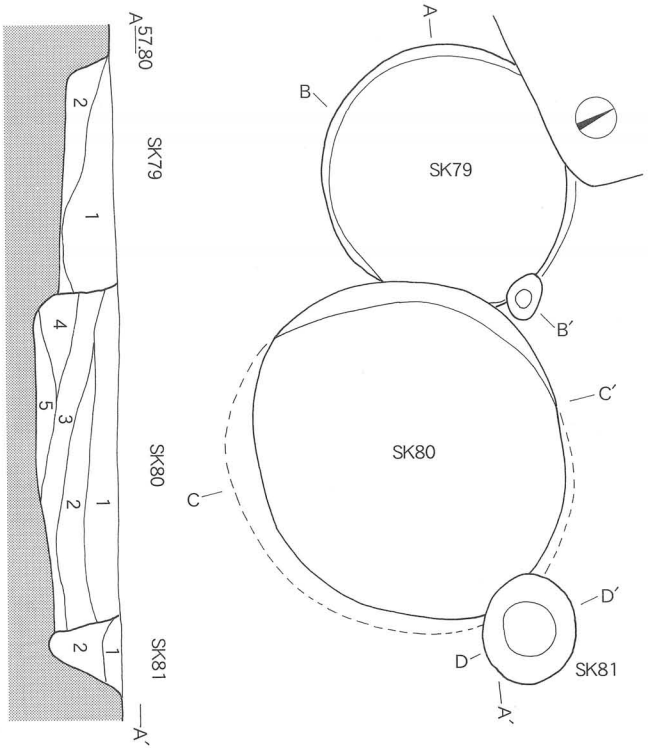
SK76
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

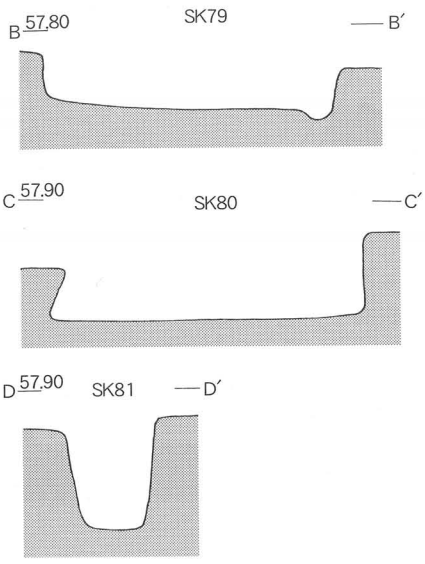
SK77
1．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK78
1．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第43図　土坑SK75・76・77・78実測図

0　2m
(1/50)

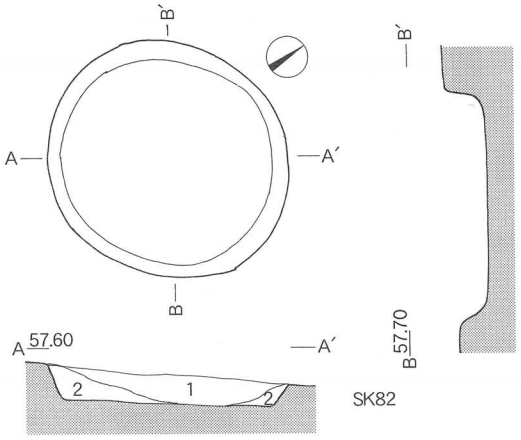




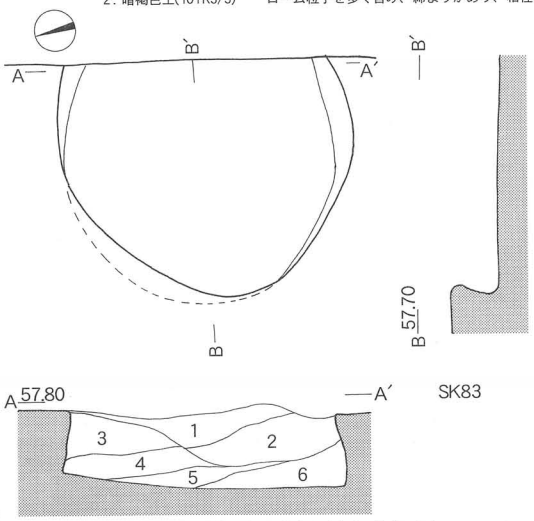
SK79
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK80
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

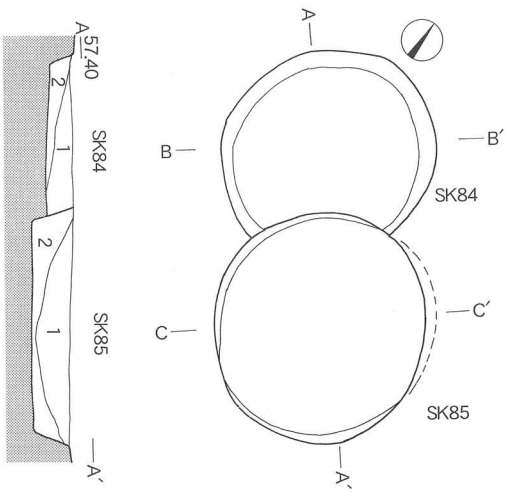
SK81
1．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

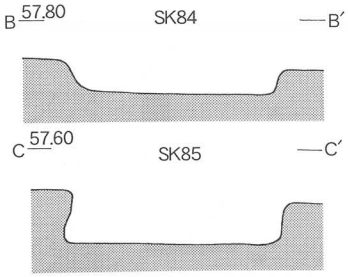


SK82
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK83
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



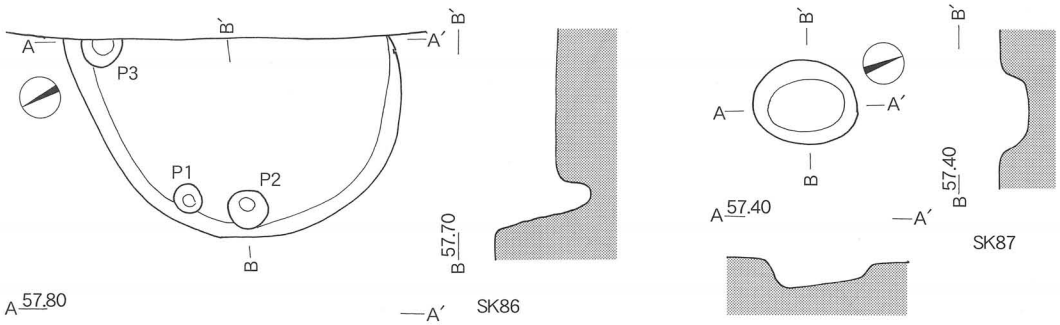


SK84
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

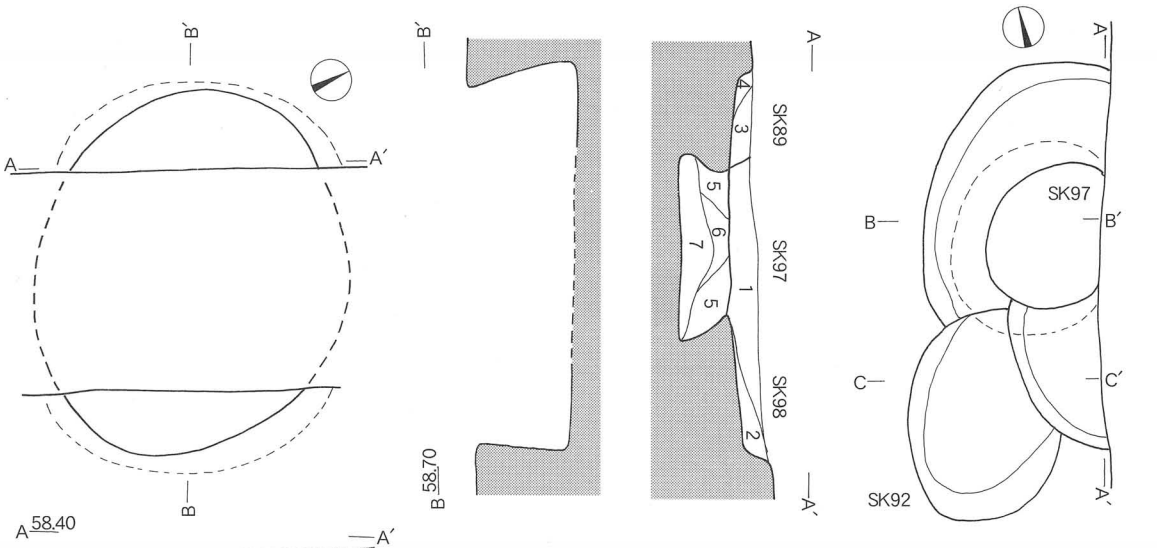
SK85
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第44図　土坑SK79・80・81・82・83・84・85実測図

0　2m
(1/50)



SK86
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
7．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

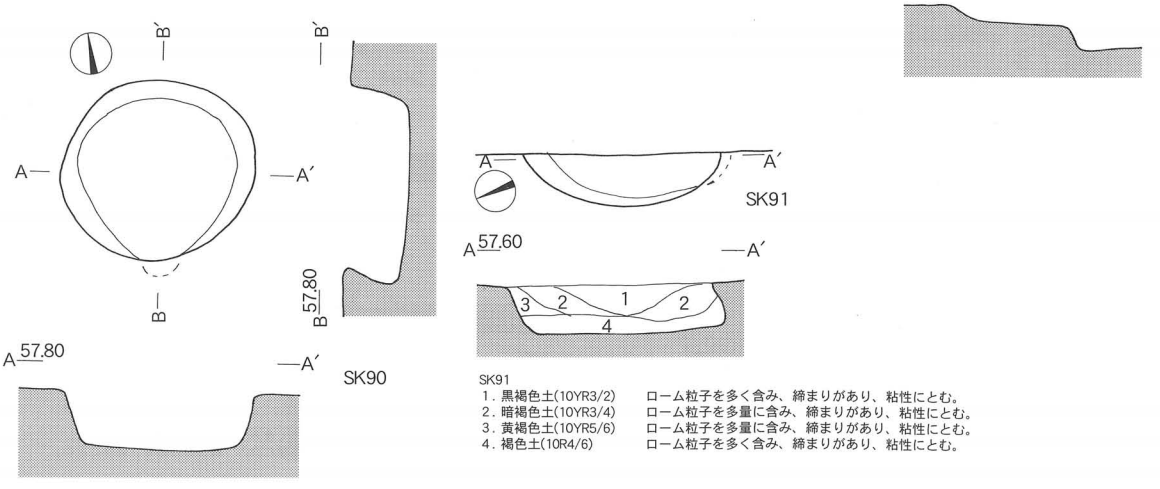


SK88
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK98
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK89
3．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

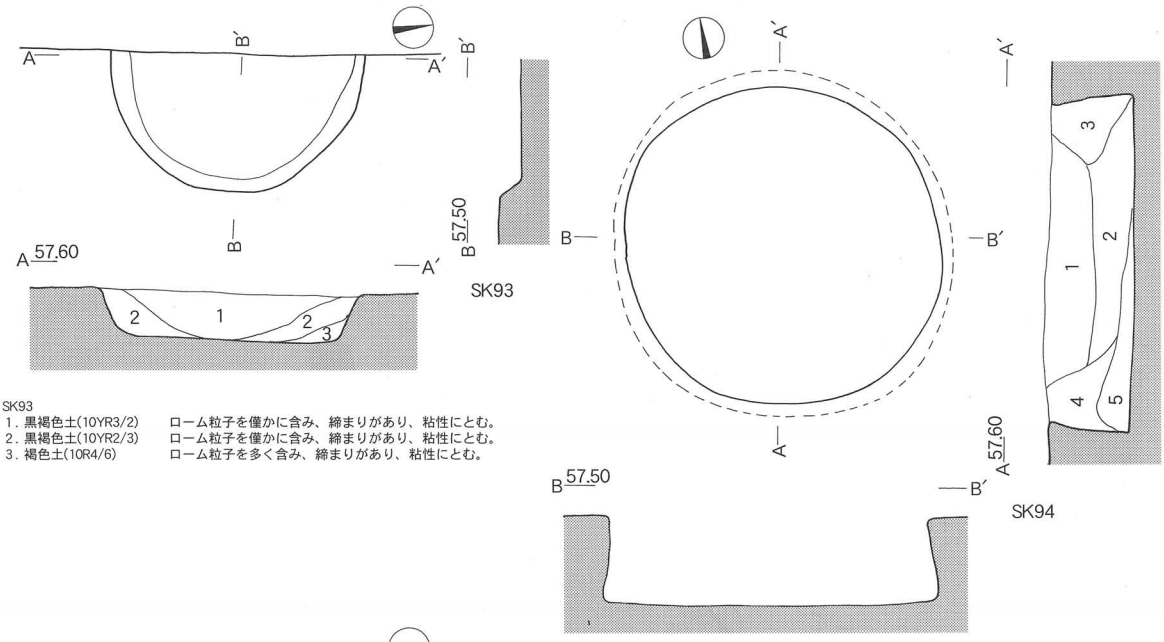
SK97
5．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
7．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK91
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

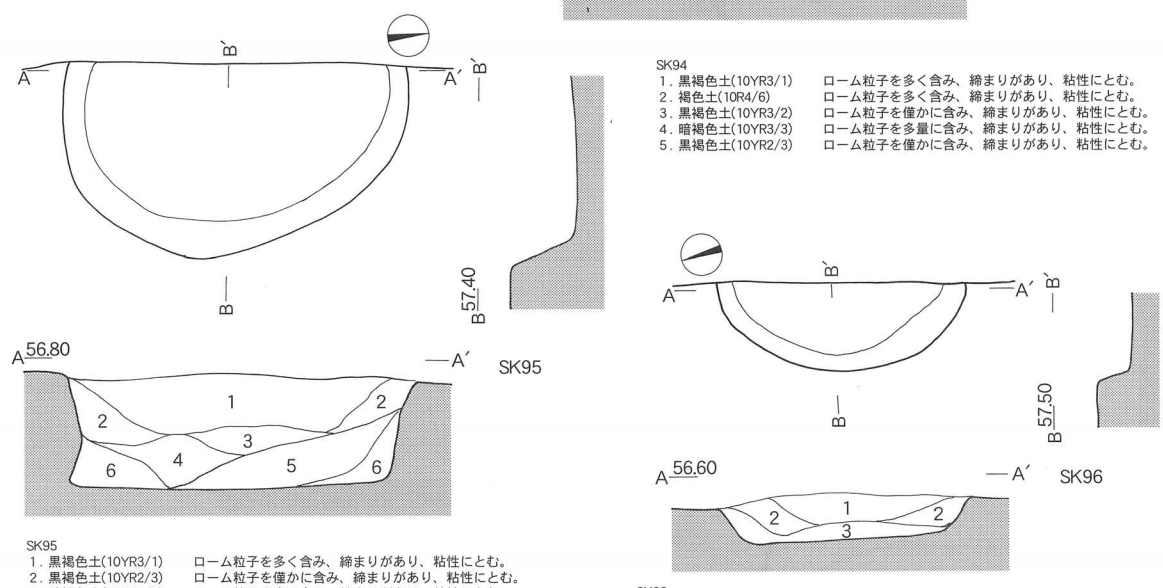
第45図　土坑SK86・87・88・89・90・91・92・97・98実測図

0　2m
(1/50)



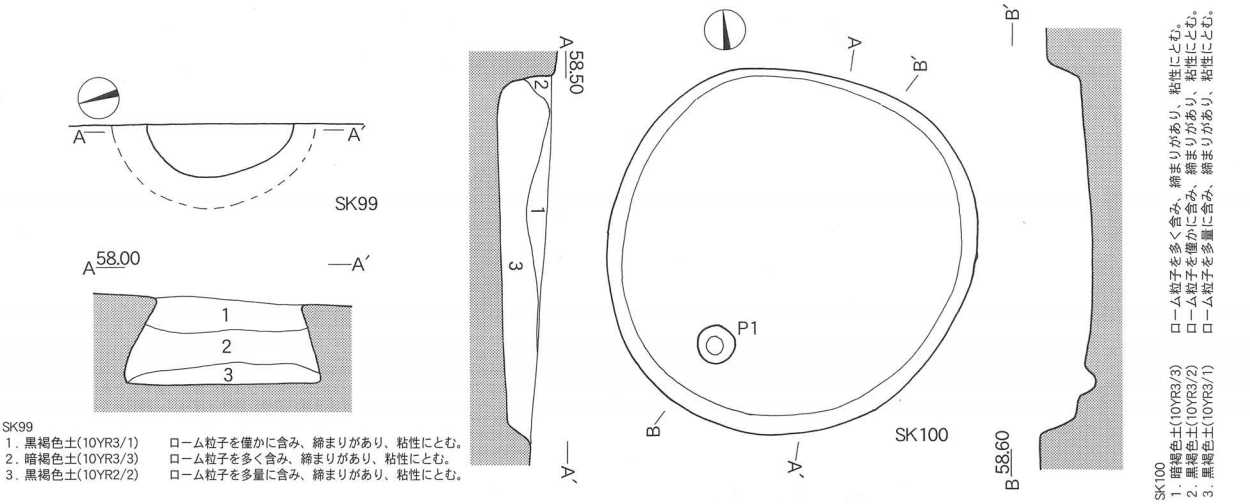
SK93
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK94
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK95
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK96
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

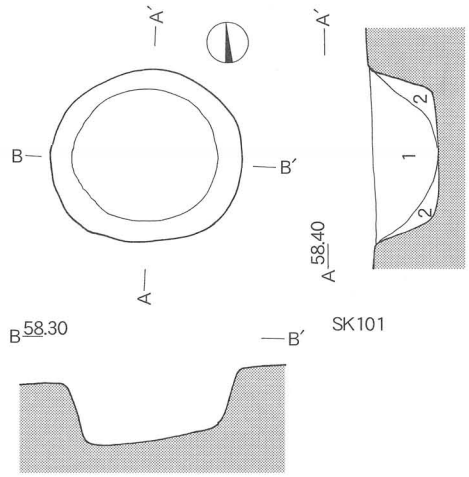


SK99
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

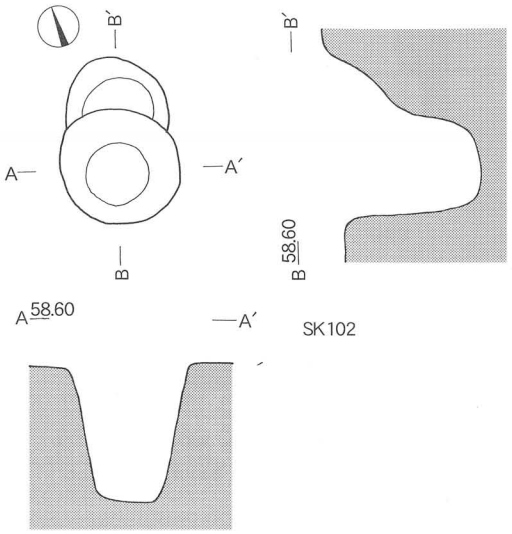
SK100
1．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

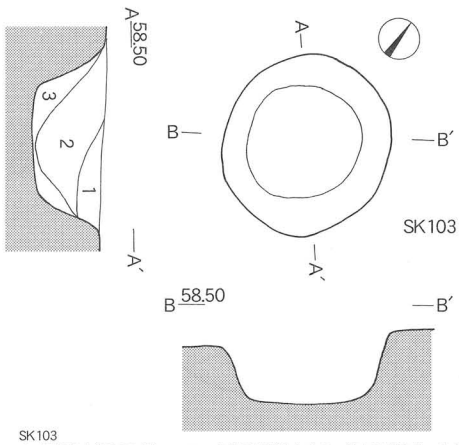
第46図　土坑SK93・94・95・96・99・100実測図

0　2m
(1/50)

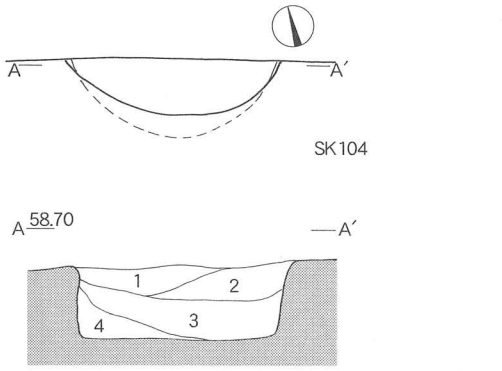


SK101
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

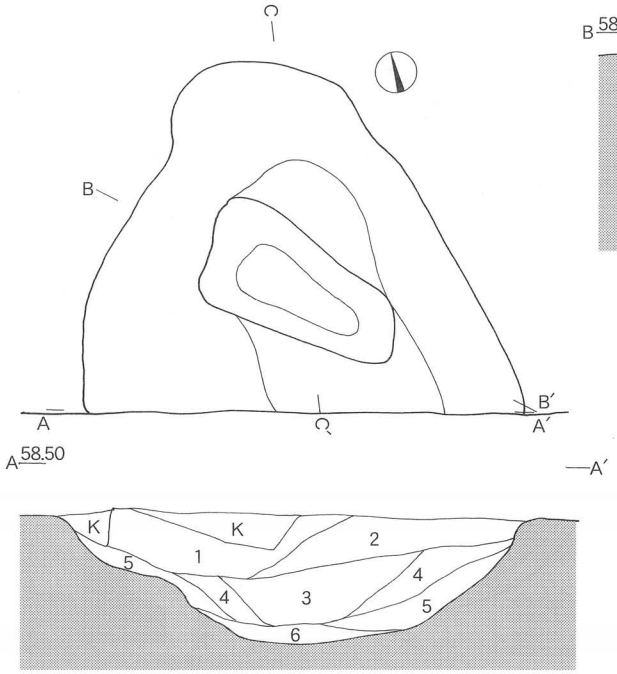


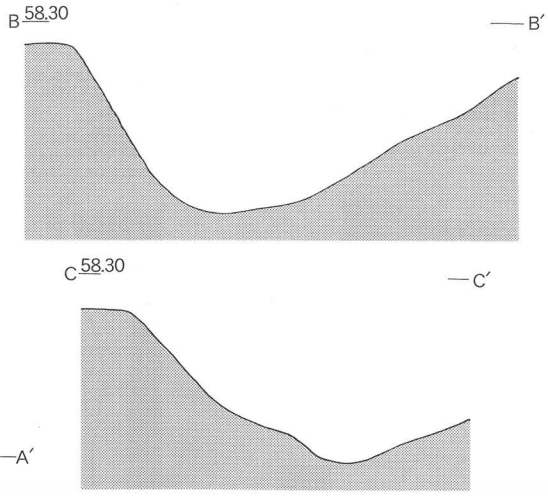


SK103
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK104
1．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10YR4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/6)　ロームブロックを多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10YR4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

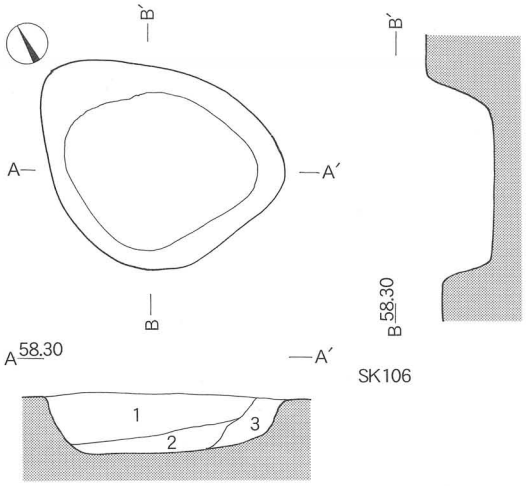




SK105
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．褐色土(10YR4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

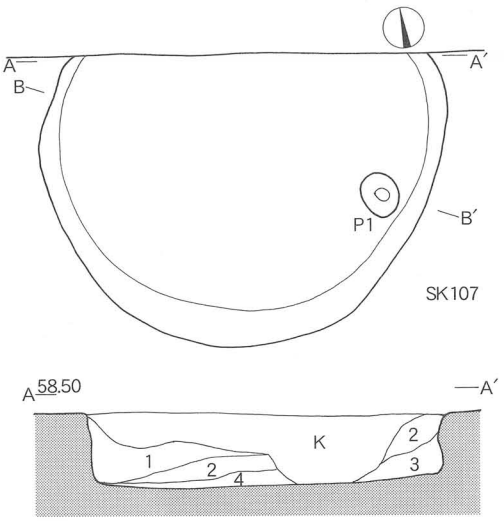
第47図　土坑SK101・102・103・104・105実測図

0　2m
(1/50)



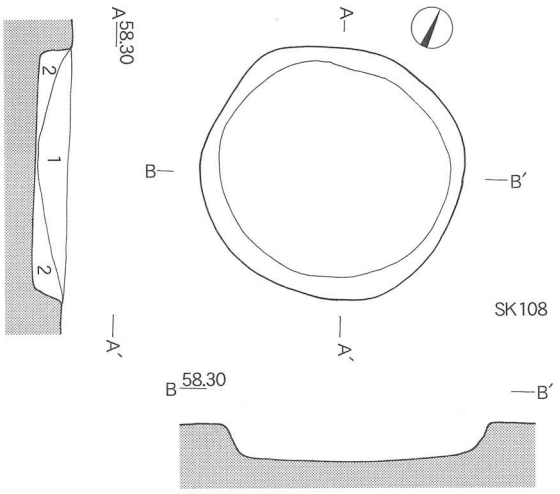
SK106

SK106
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

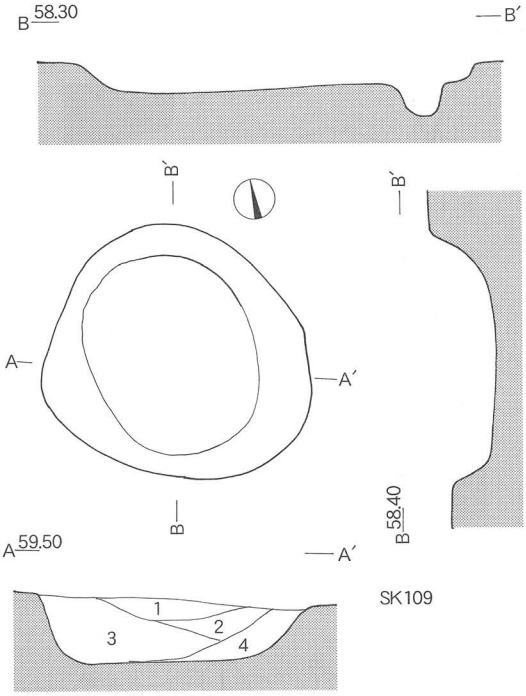


SK107

SK107
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

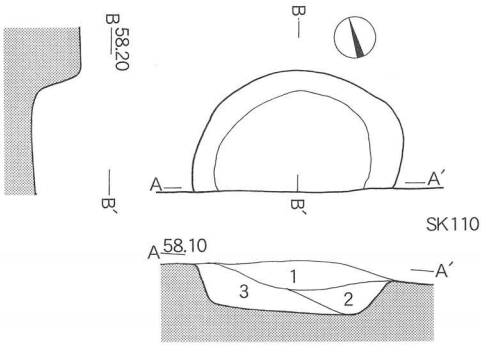


SK108
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



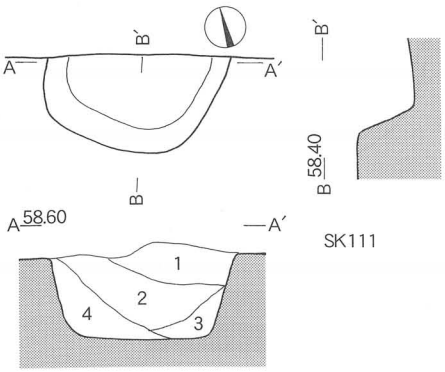
SK109

SK109
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK110
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

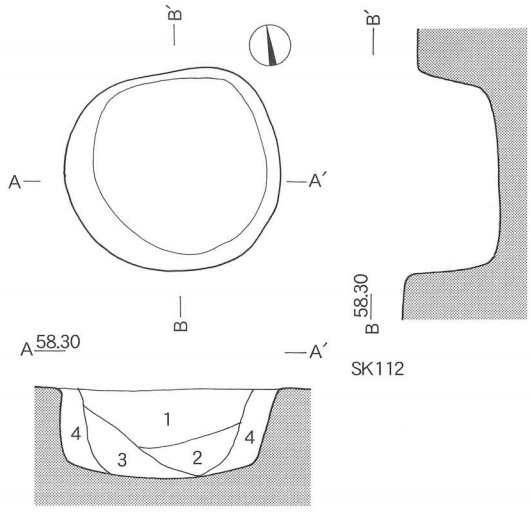
SK111
1．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK111

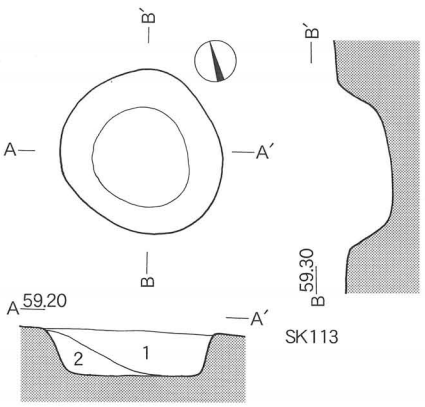
第48図　土坑SK106・107・108・109・110・111実測図

0　2m
(1/50)



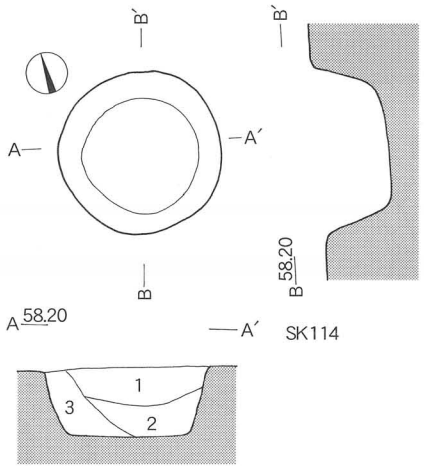
SK112

SK112
1．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10YR4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



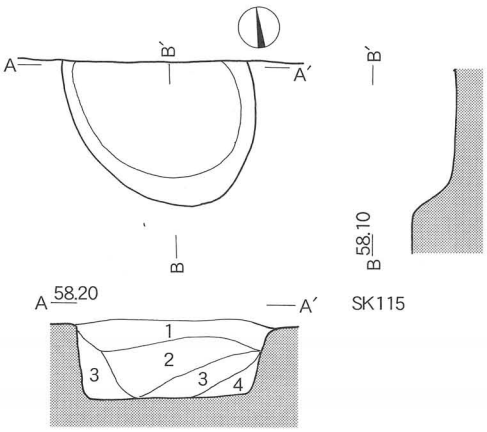
SK113

SK113
1．灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。



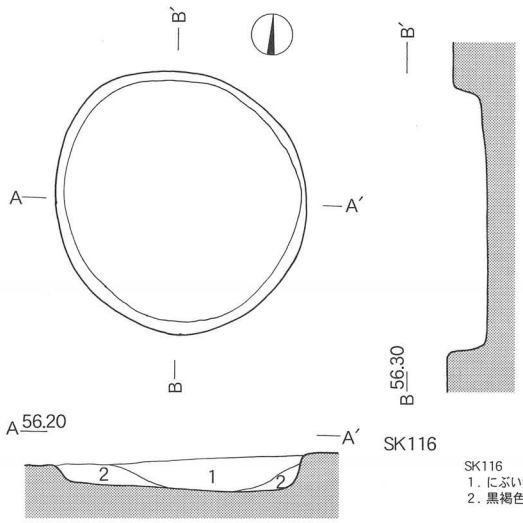
SK114

SK114
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



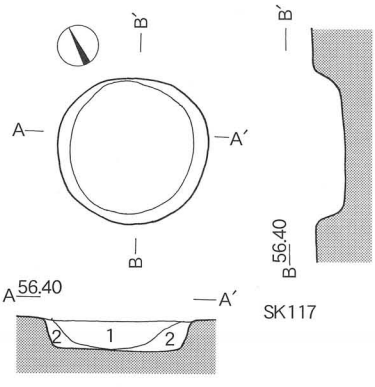
SK115

SK115
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10YR4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10YR4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK116

SK116
1．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。

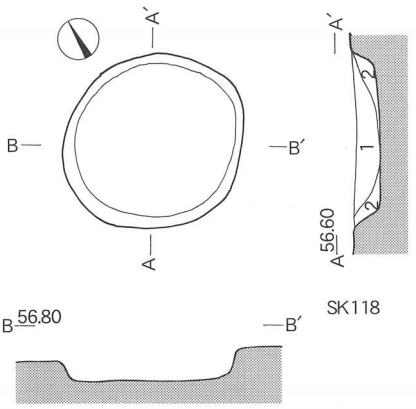


SK117

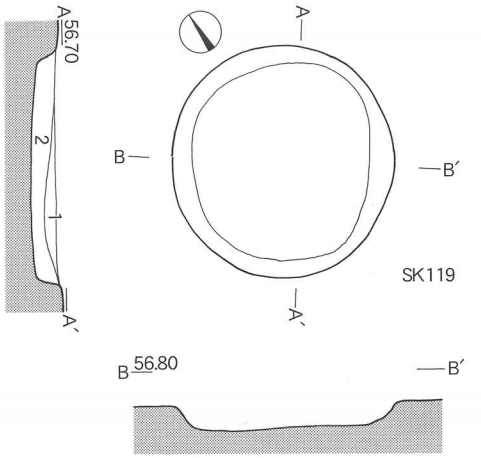
SK117
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10YR4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第49図　土坑SK112・113・114・115・116・117実測図

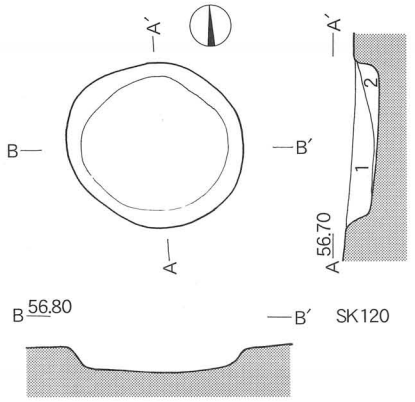
0　2m
(1/50)



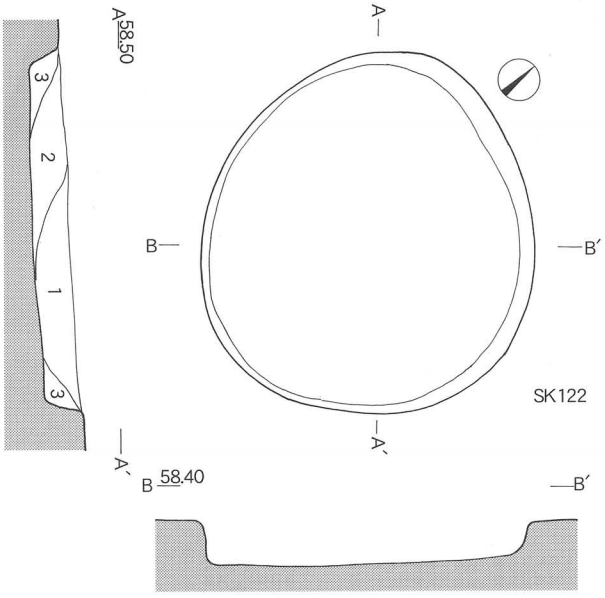
SK118
1．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10YR4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



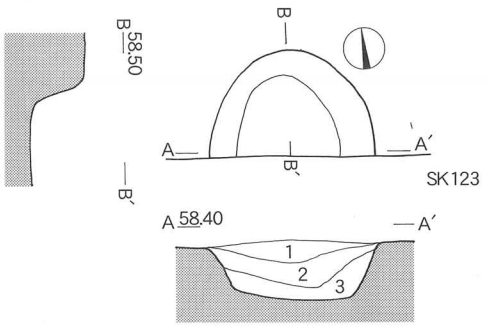
SK119
1．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10YR4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



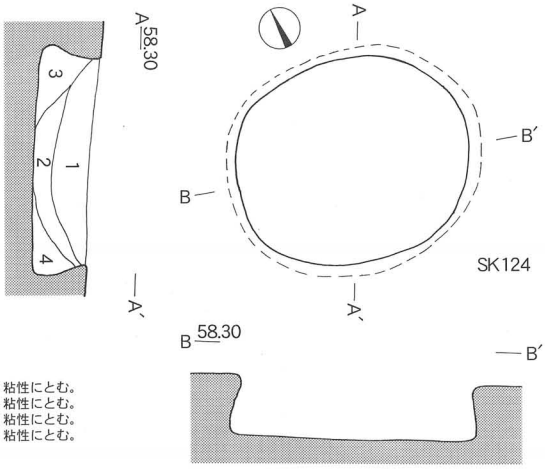
SK120
1．褐色土(10YR4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10YR4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK122
1．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10YR4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



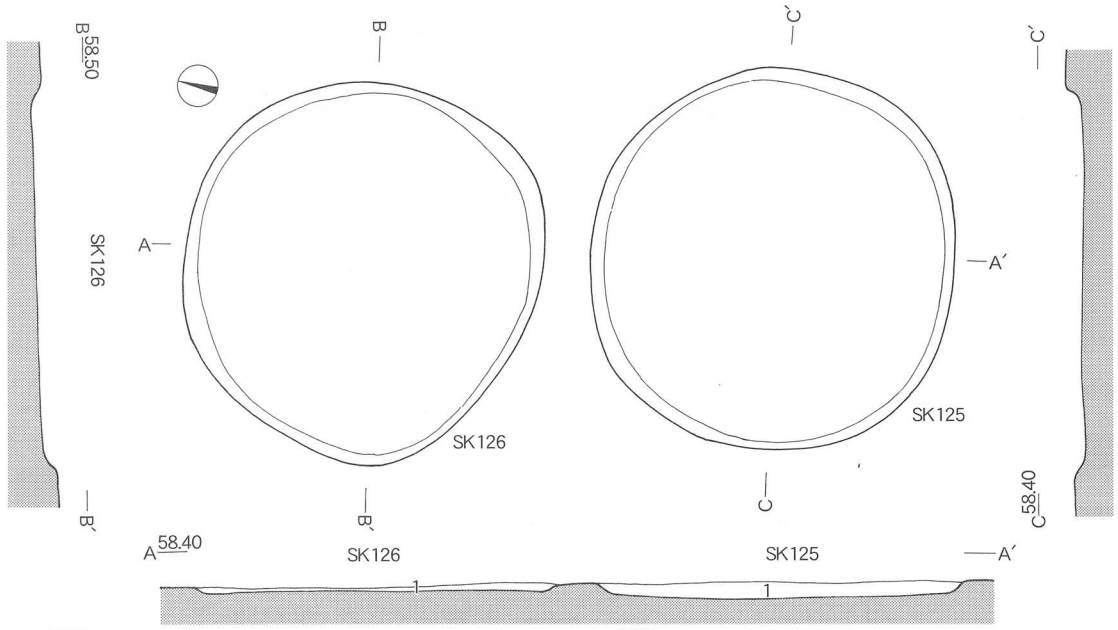
SK123
1．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10YR4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK124
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10YR4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

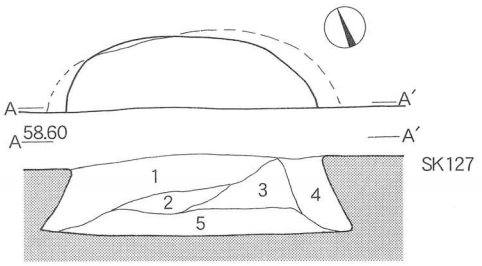
第50図　土坑SK118・119・120・122・123・124実測図

0　2m
(1/50)

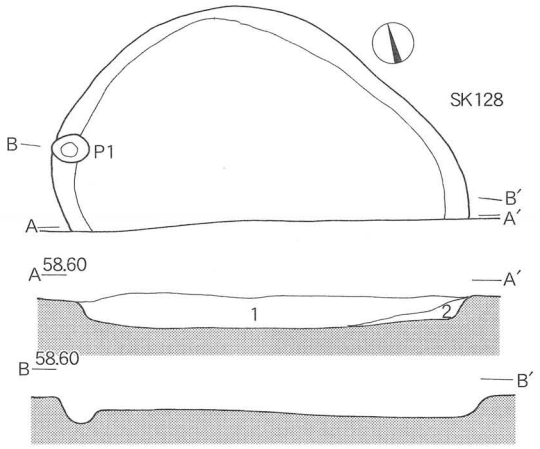


SK126
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

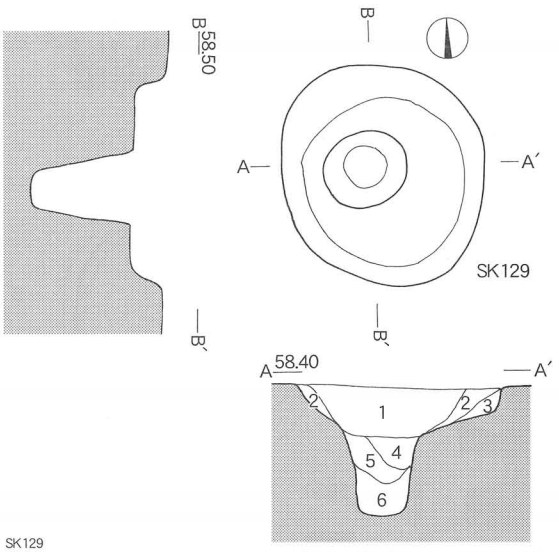
SK125
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



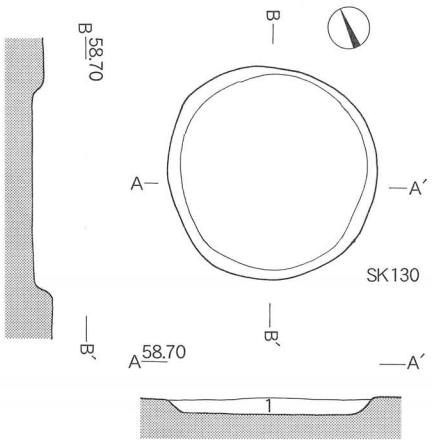
SK127
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK128
1．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



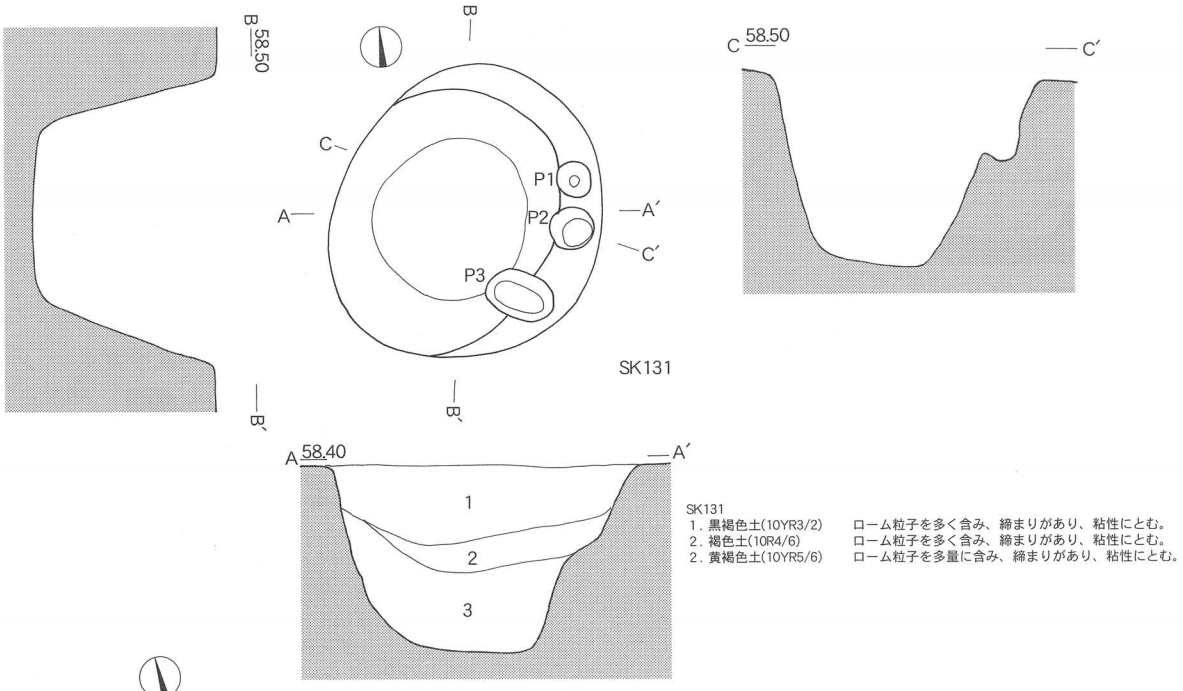
SK129
1．褐色土(10R4/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



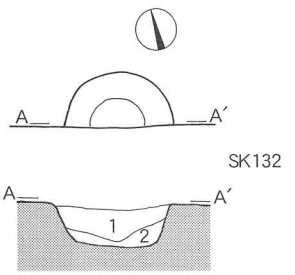
SK130
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第51図　土坑SK125・126・127・128・129・130実測図

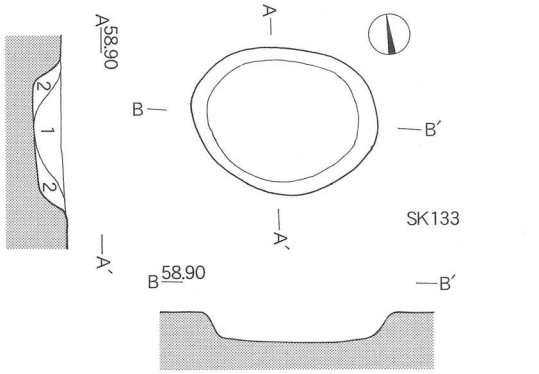
0　2m
(1/50)



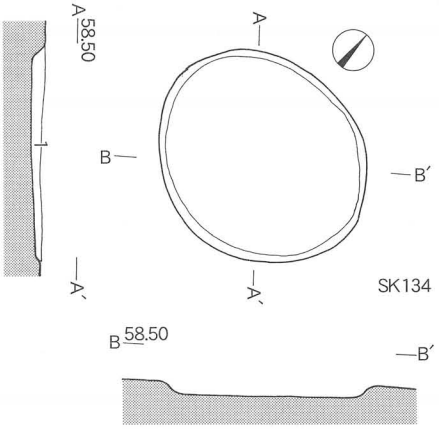
SK131
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。



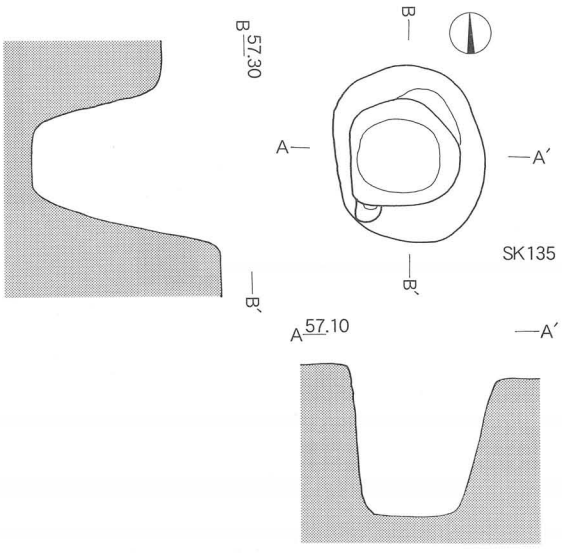
SK132
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK133
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

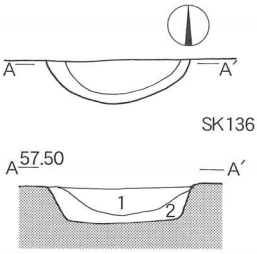


SK134
1．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

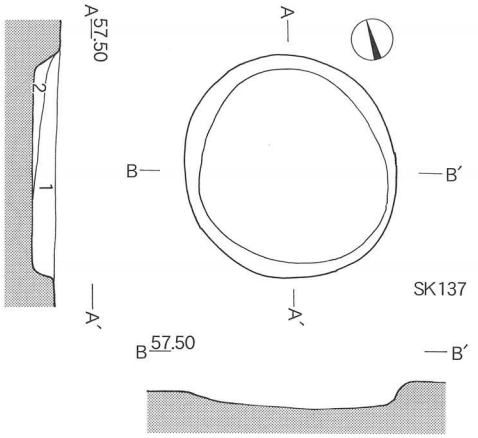


第52図　土坑SK131・132・133・134・135実測図

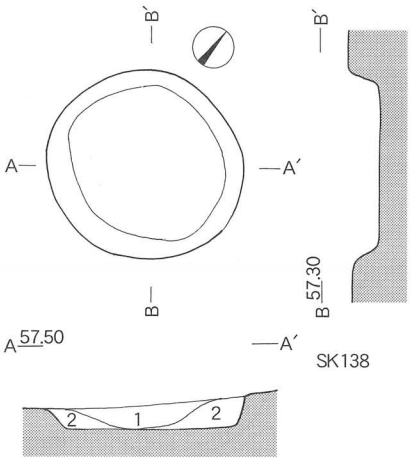
0　2m
(1/50)



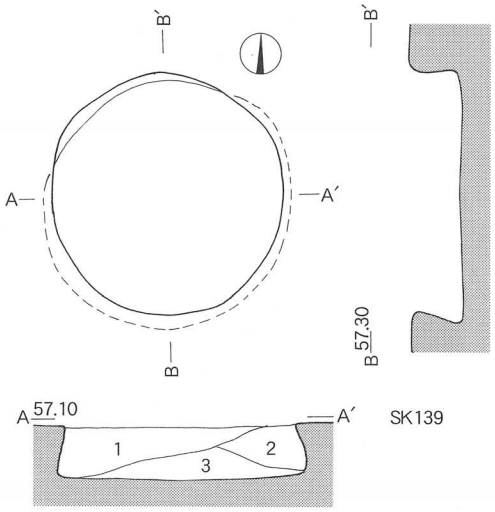
SK136
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



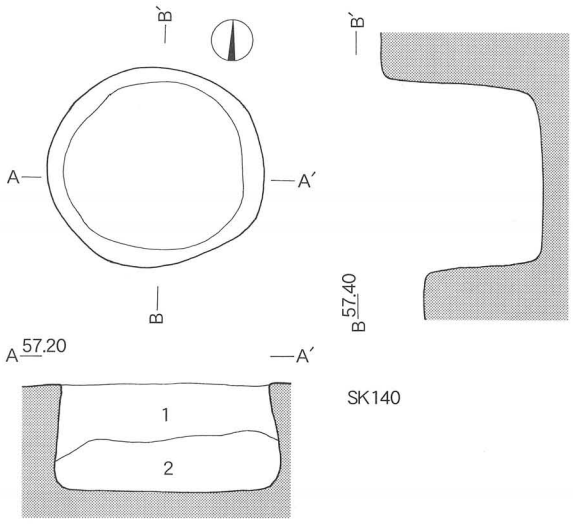
SK137
1．褐色土(10R4/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



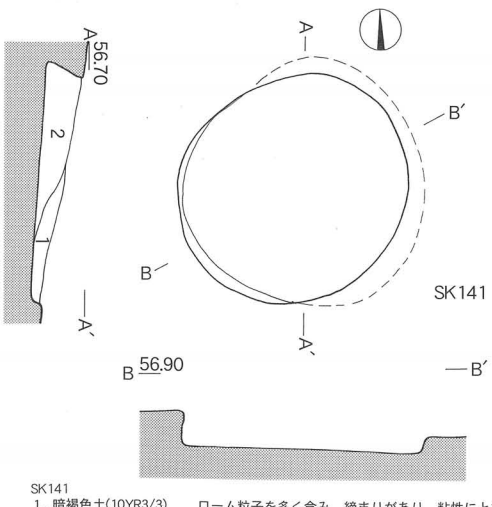
SK138
1．褐色土(10R4/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK139
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。



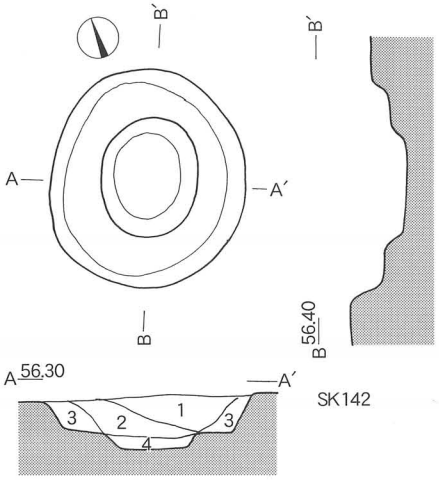
SK140
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



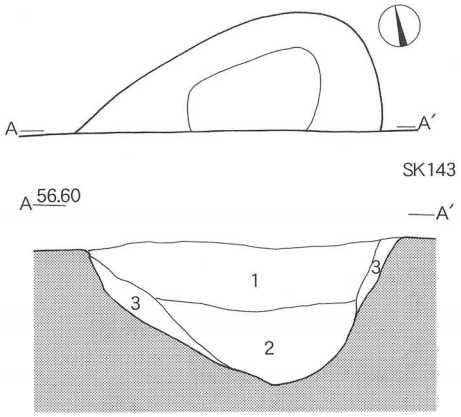
SK141
1．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第53図　土坑SK136・137・138・139・140・141実測図

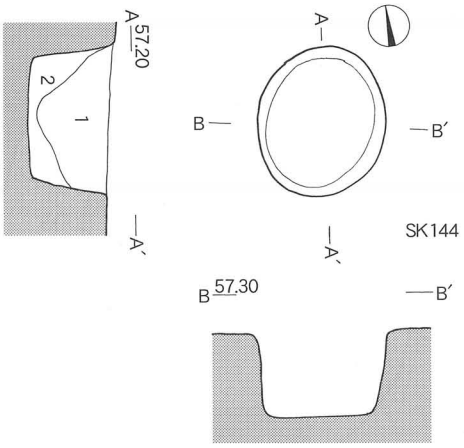
0　2m
(1/50)



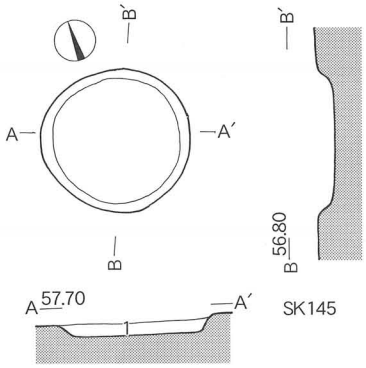
SK142
1．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



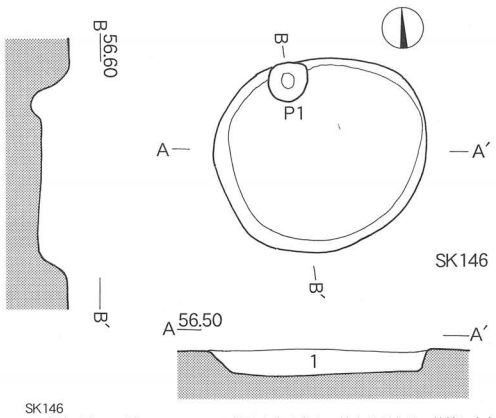
SK143
1．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒色土(10YR2/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



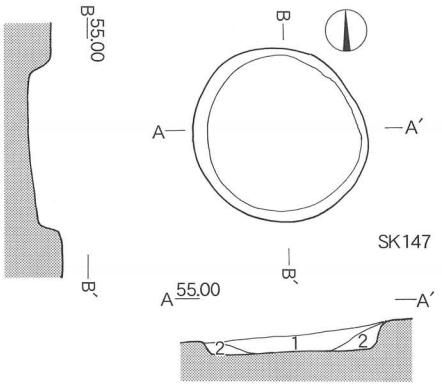
SK144
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK145
1．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



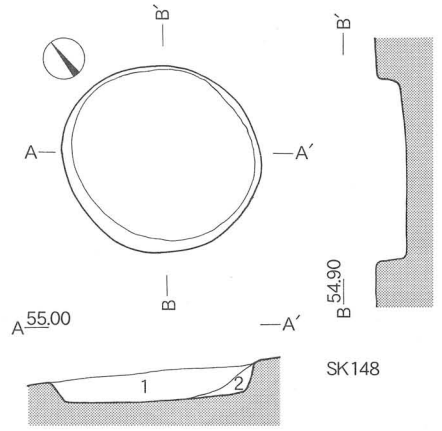
SK146
1．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



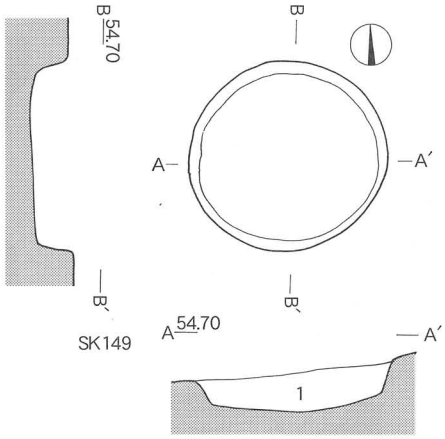
SK147
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第54図　土坑SK142・143・144・145・146・147実測図

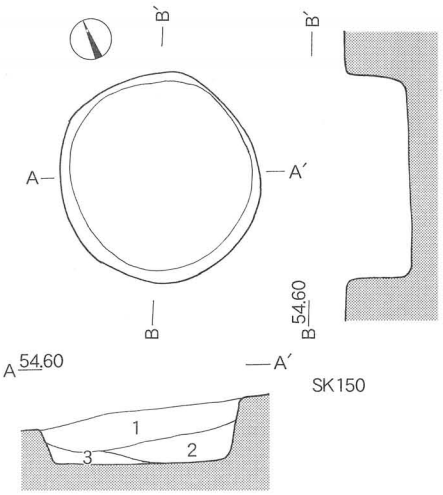
0　2m
(1/50)



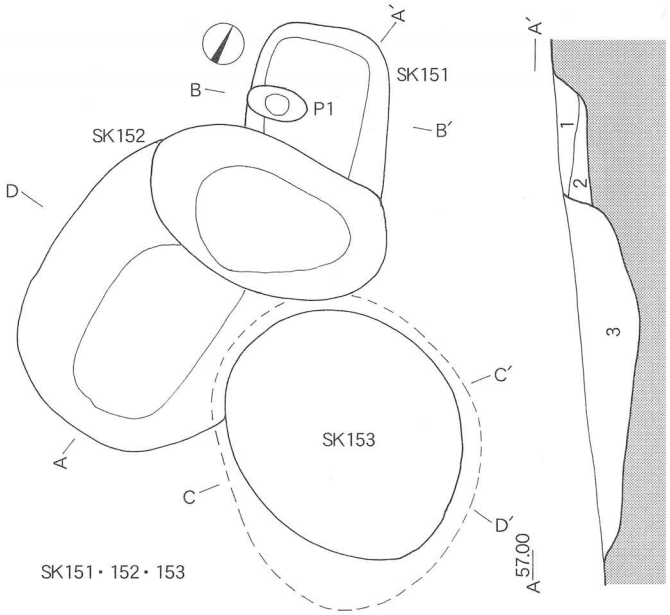
SK148
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



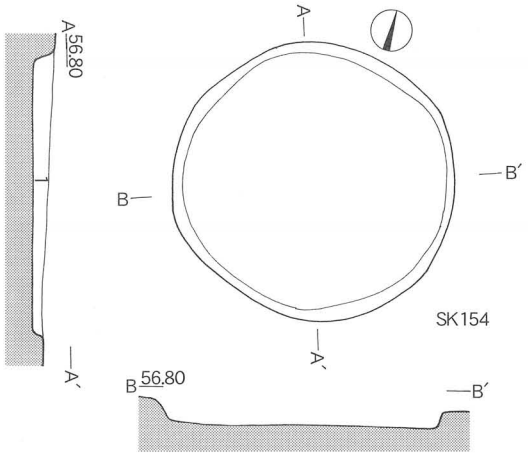
SK149
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



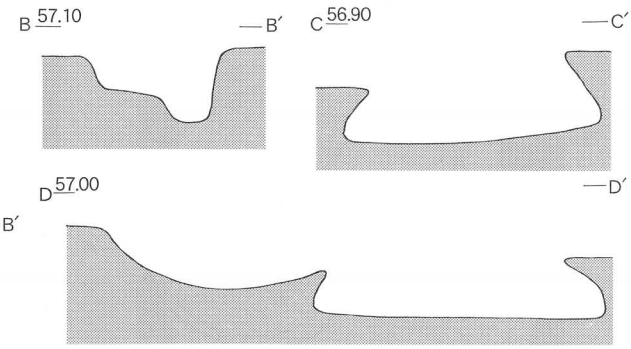
SK150
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK151・152・153



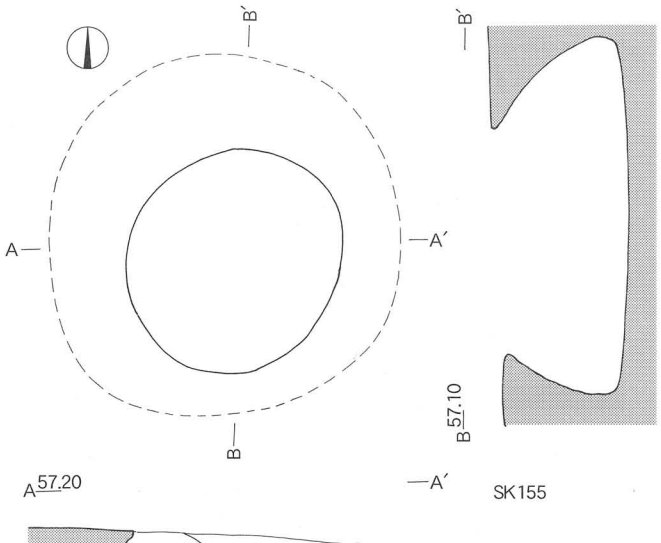
SK154
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



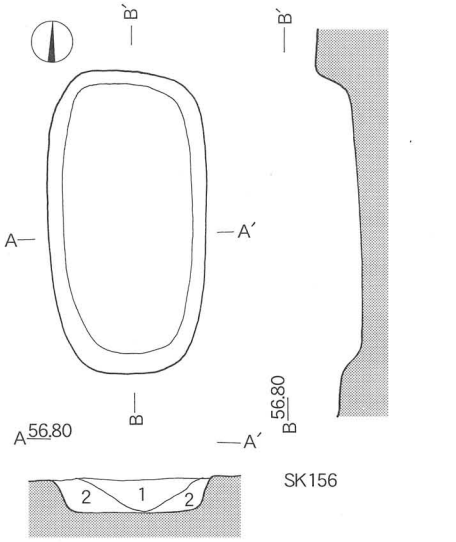
SK151・152
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第55図　土坑SK148・149・150・151・152・153・154実測図

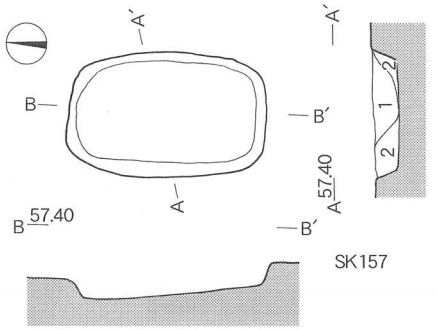
0　2m
(1/50)



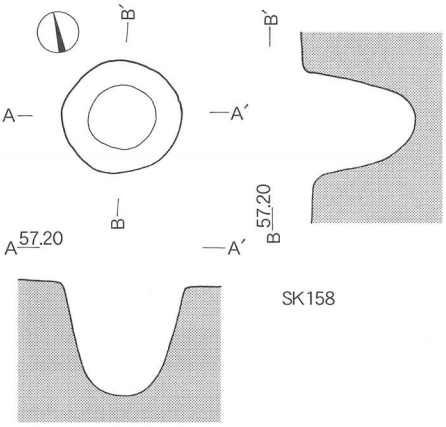
SK155
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。

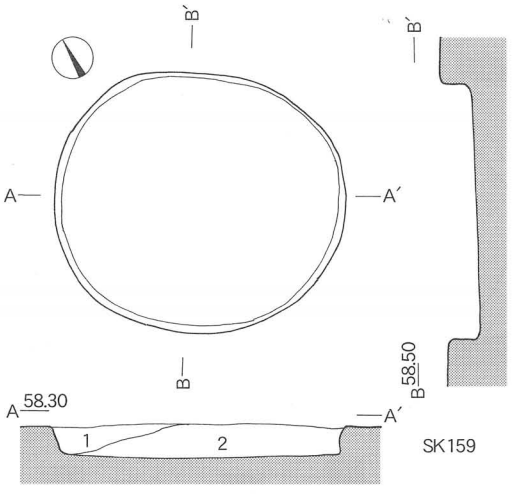


SK156
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

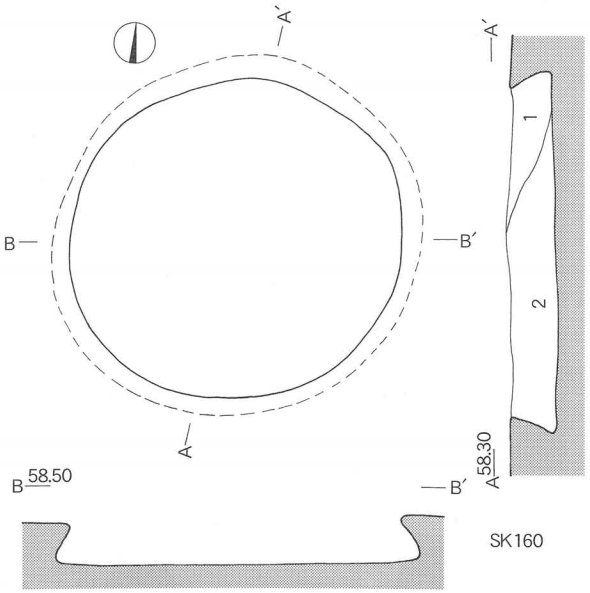


SK157
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。





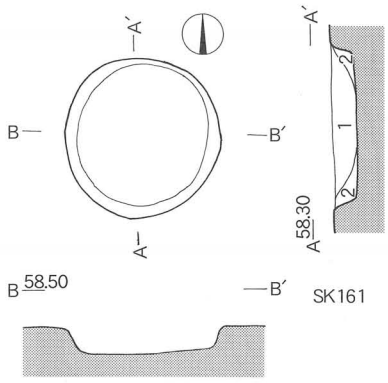
SK159
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



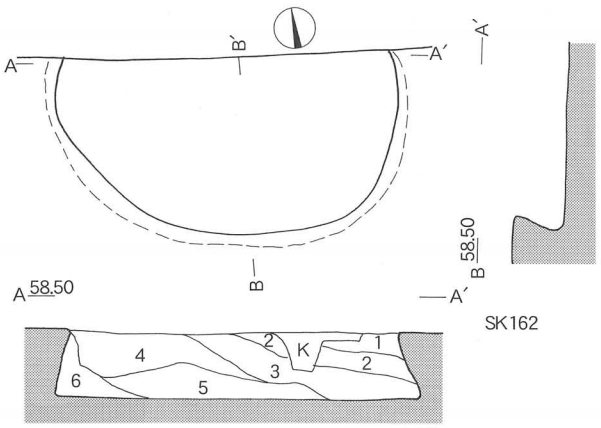
SK160
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第56図　土坑SK155・156・157・158・159・160実測図

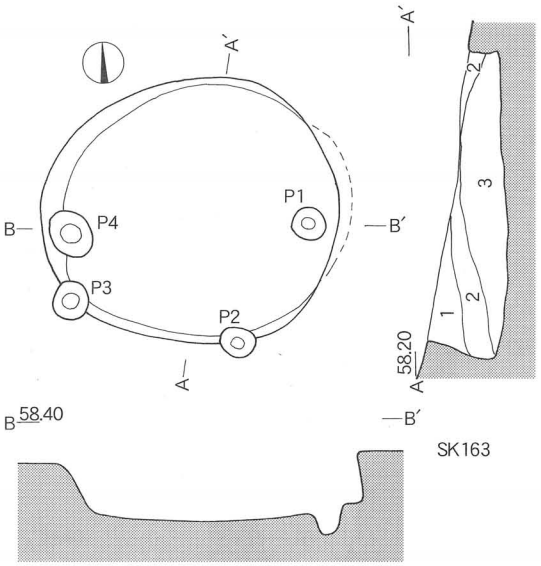
0　2m
(1/50)



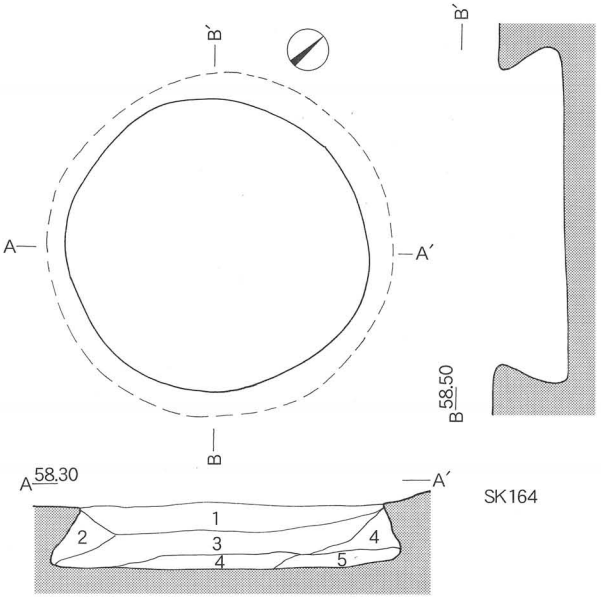
SK161
1．褐色土(10R4/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。



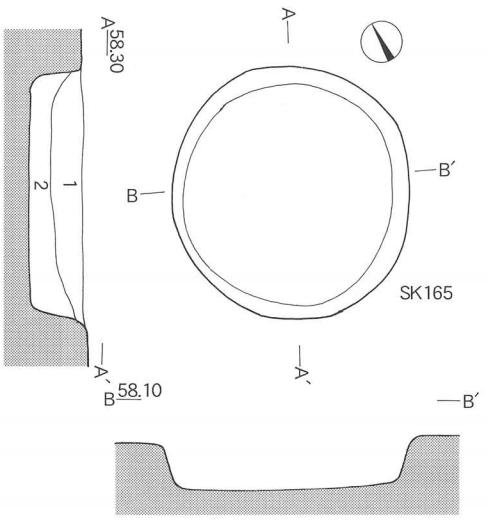
SK162
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/6)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
6．明黄褐色土(10YR7/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。



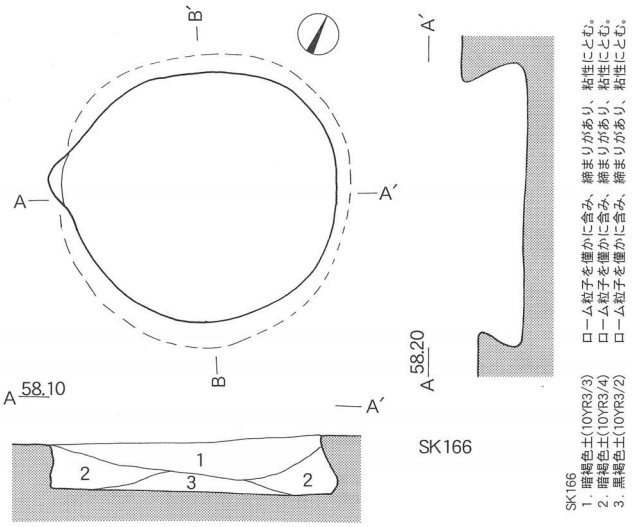
SK163
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



SK164
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子を多量に含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．褐色土(10R4/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
5．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



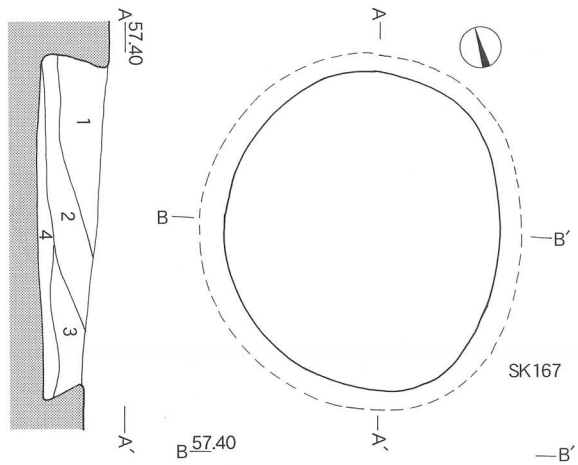
SK165
1．褐色土(10R4/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。

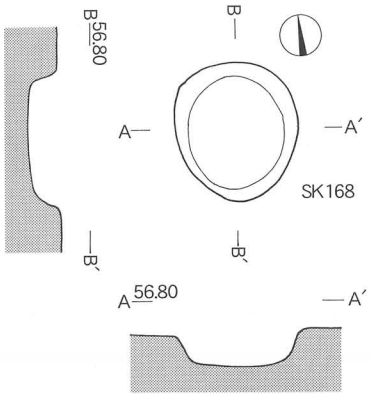


SK166
1．暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。

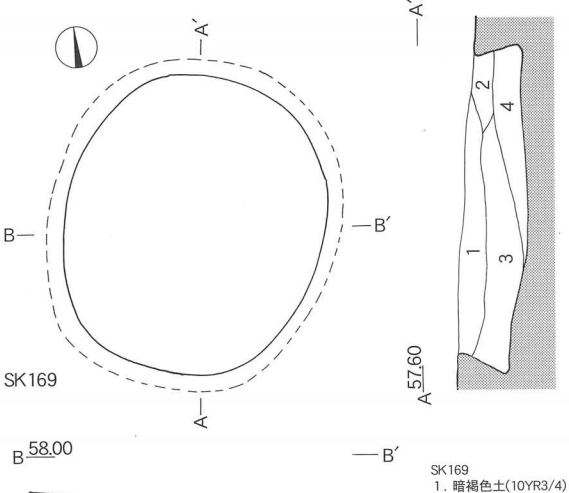
第57図　土坑SK161・162・163・164・165・166実測図

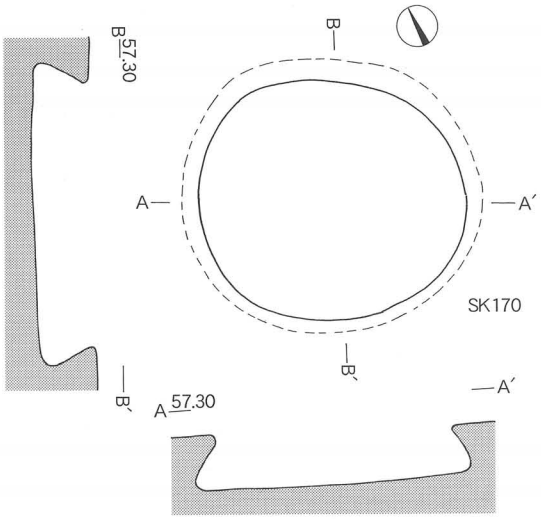
0　2m
(1/50)



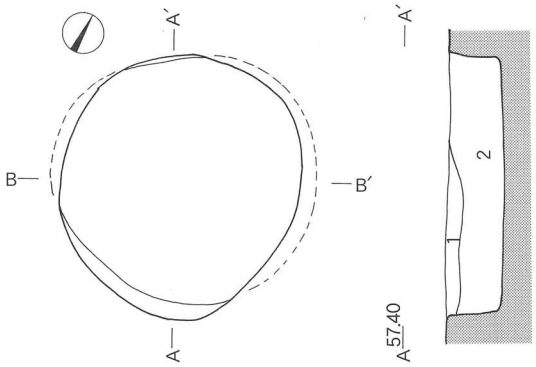


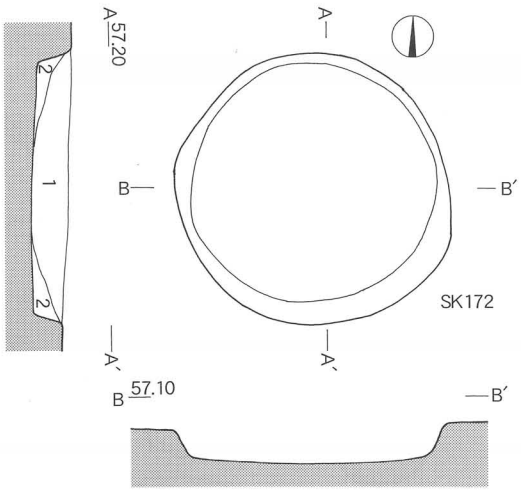
SK167
1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。





SK169
1．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
4．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。



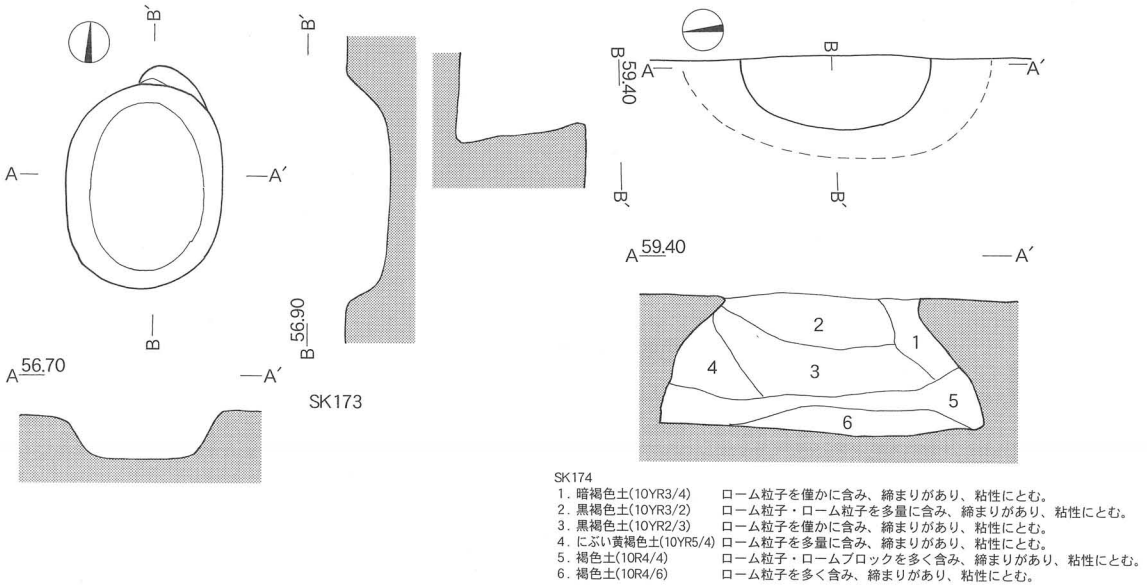


SK172
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

SK171
1．黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．褐色土(10R4/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

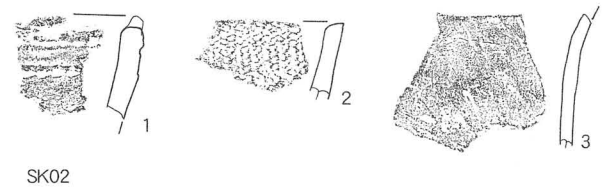
第58図　土坑SK167・168・169・170・171・72実測図

0　2m
(1/50)

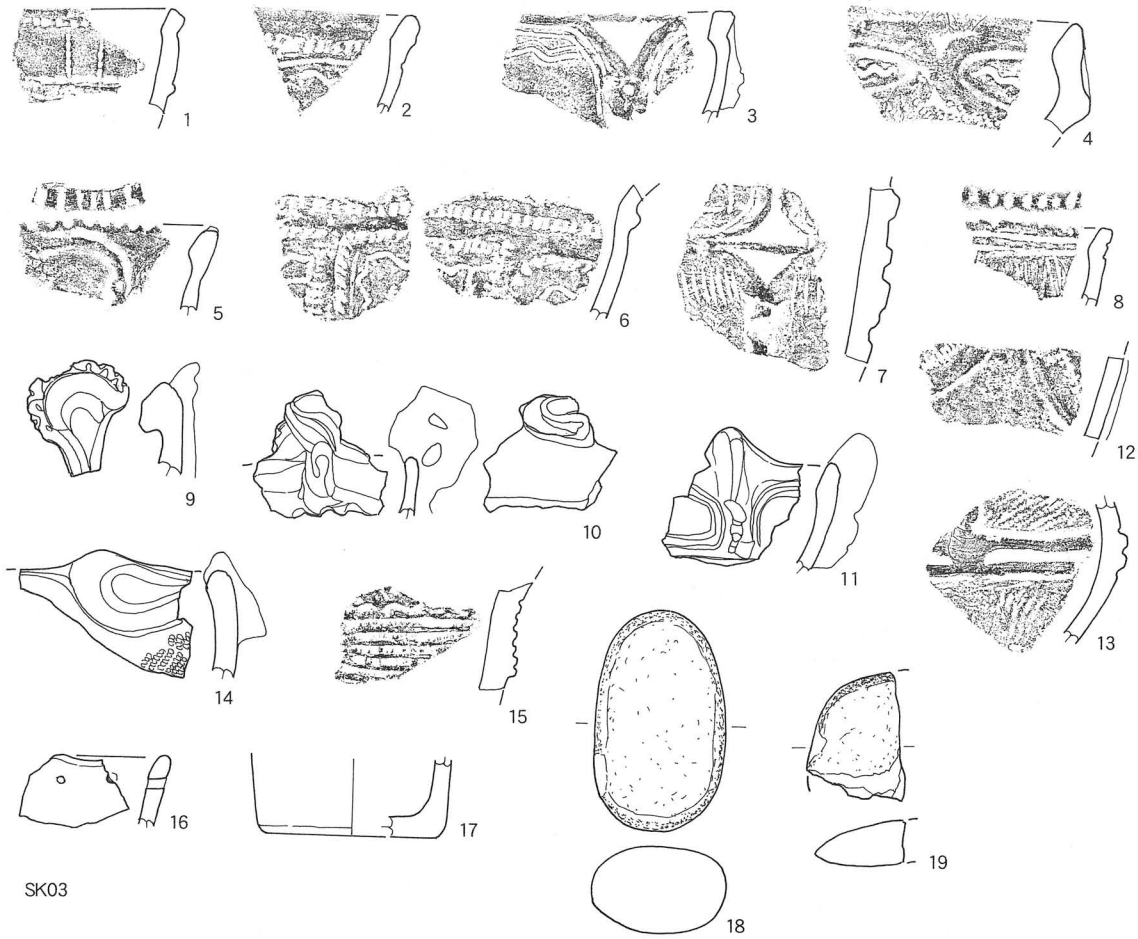


第59図　土坑SK173・174実測図

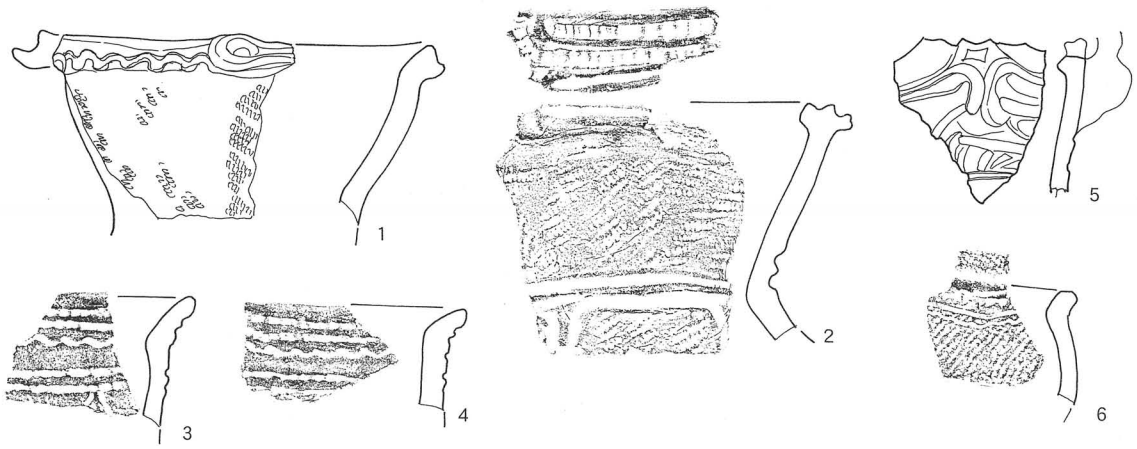
第60図　土坑SK01出土遺物



SK02



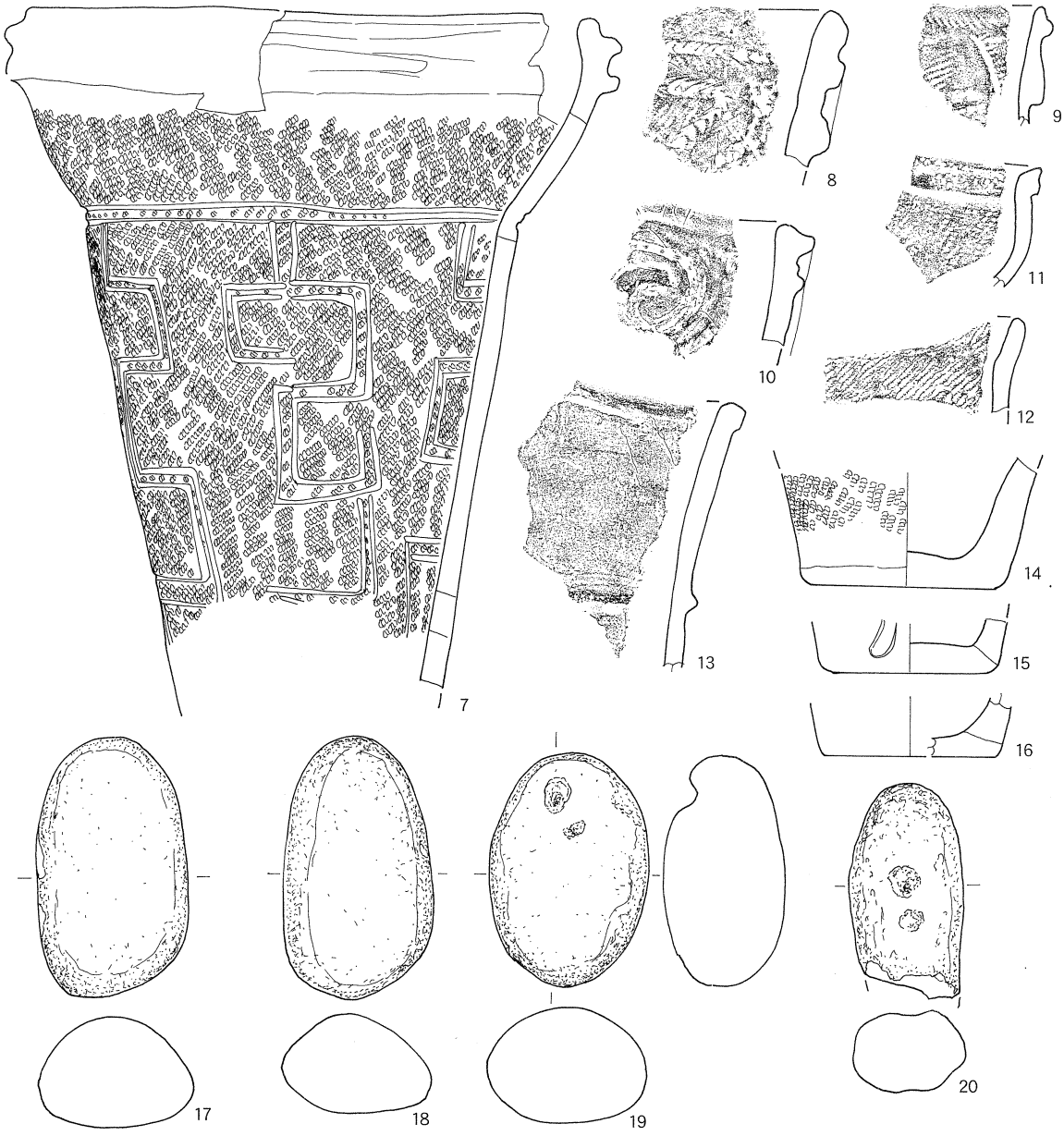
SK03



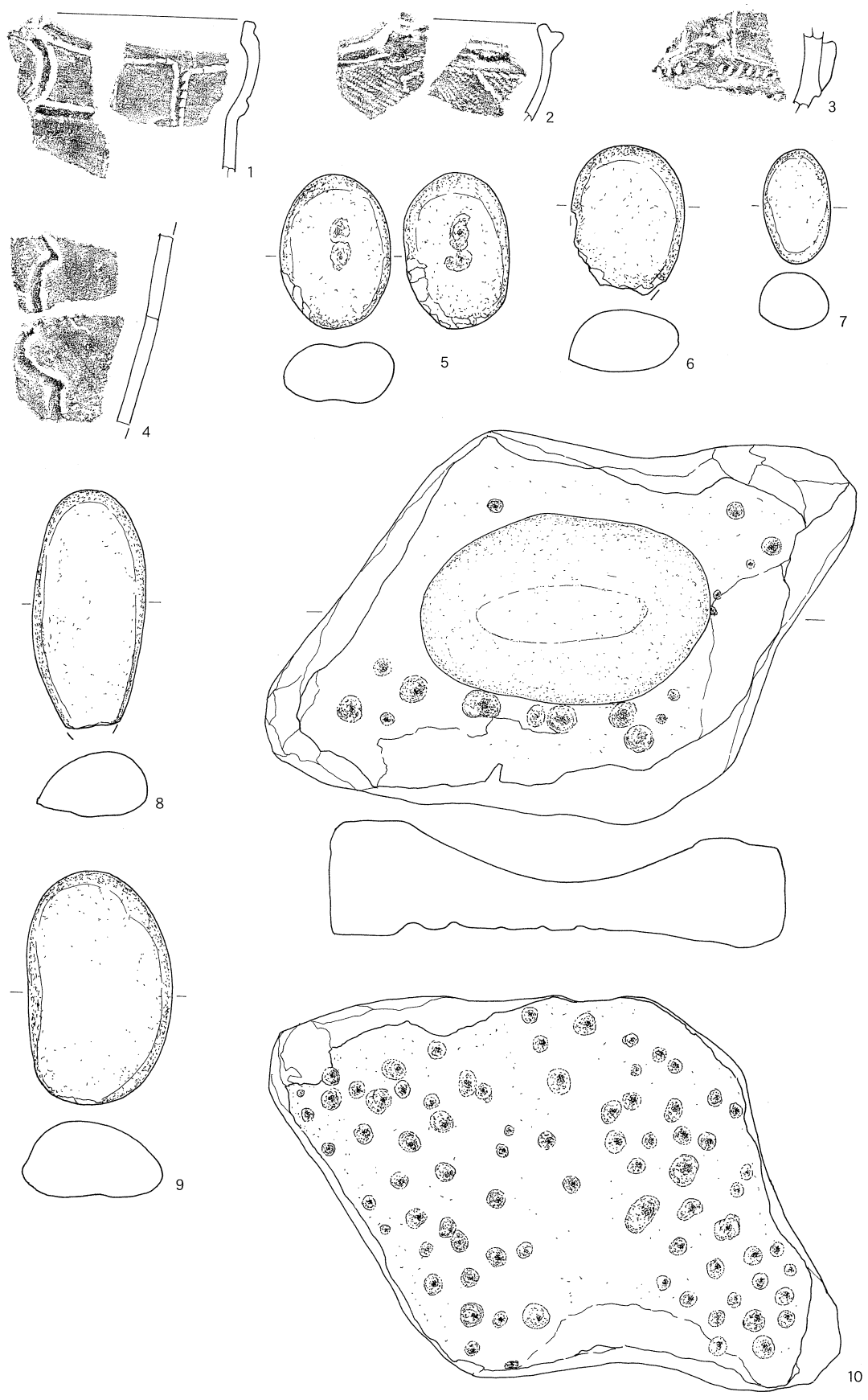
SK07(1)

第61図　土坑SK02・03・07(1)出土遺物

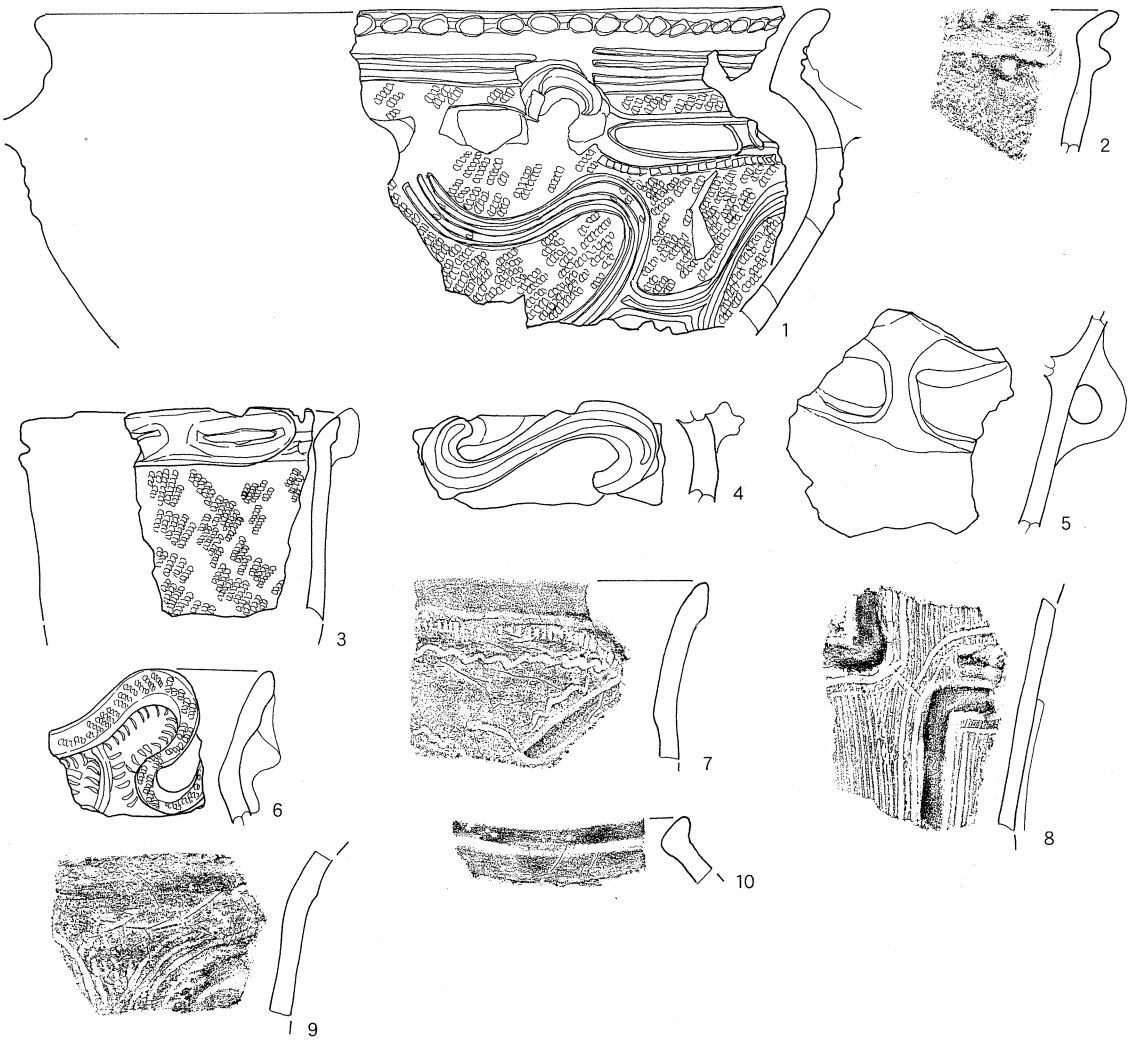
0　10cm
(1/4)

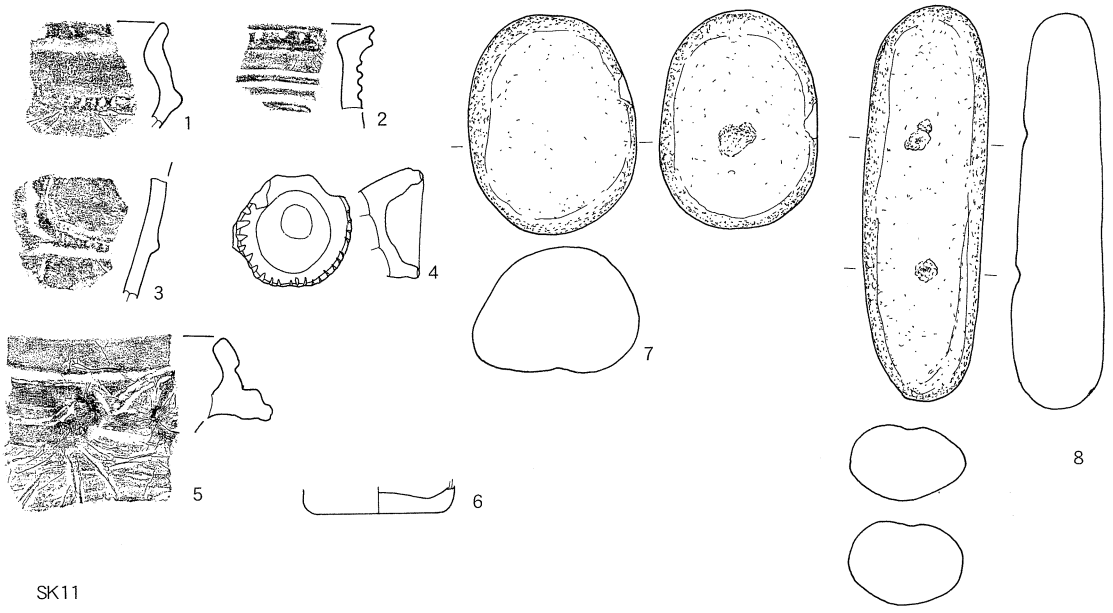


第62図　土坑SK07(2)・08出土遺物



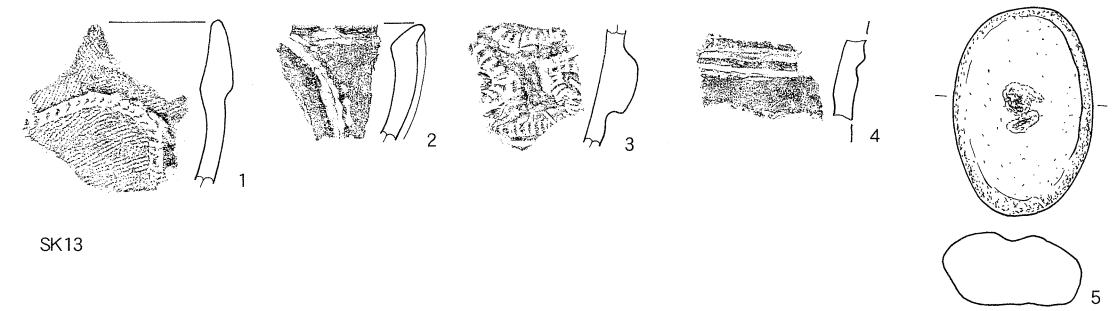
第63図　土坑SK09出土遺物



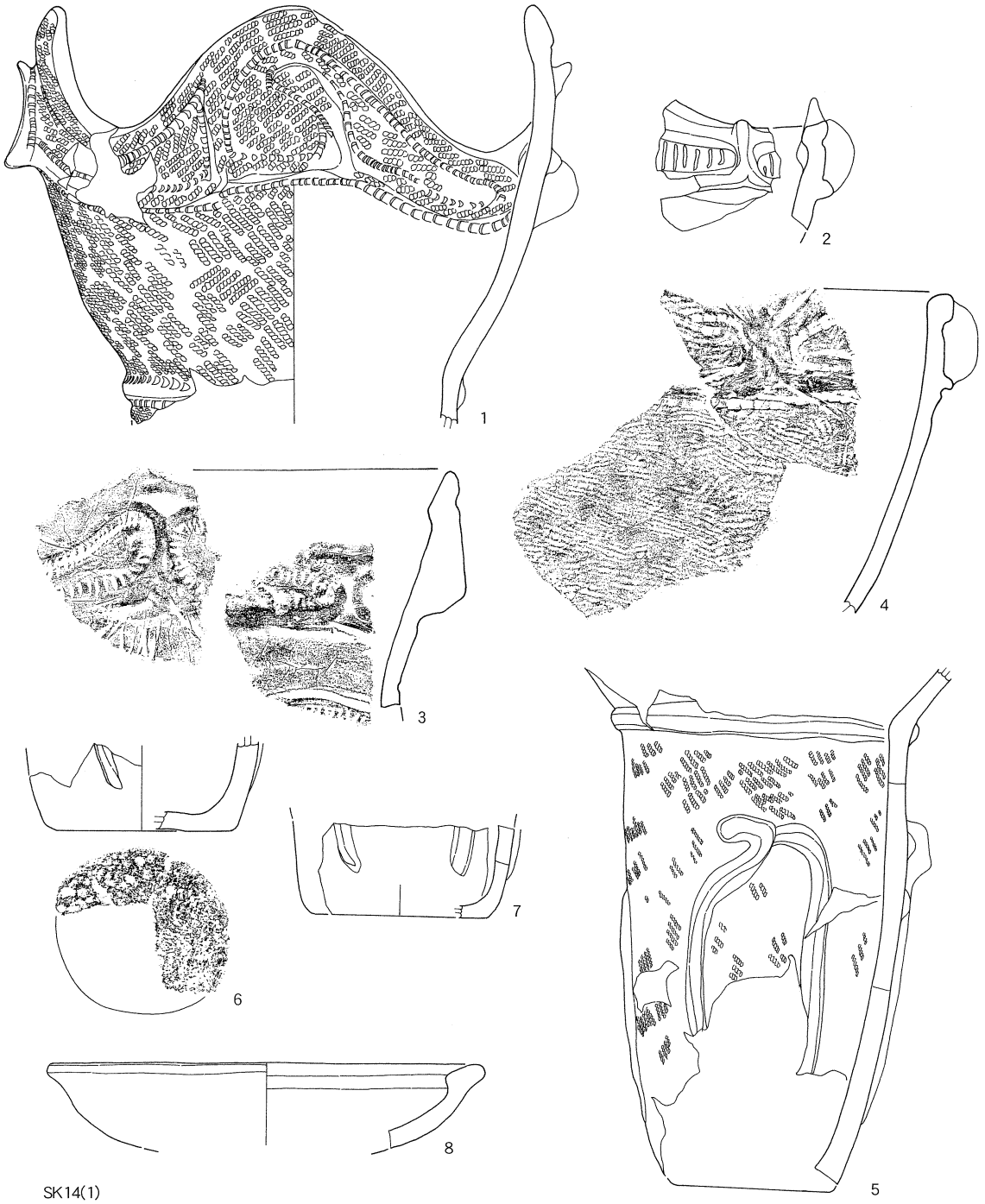


第64図　土坑SK10・11出土遺物

0　10cm
(1/4)



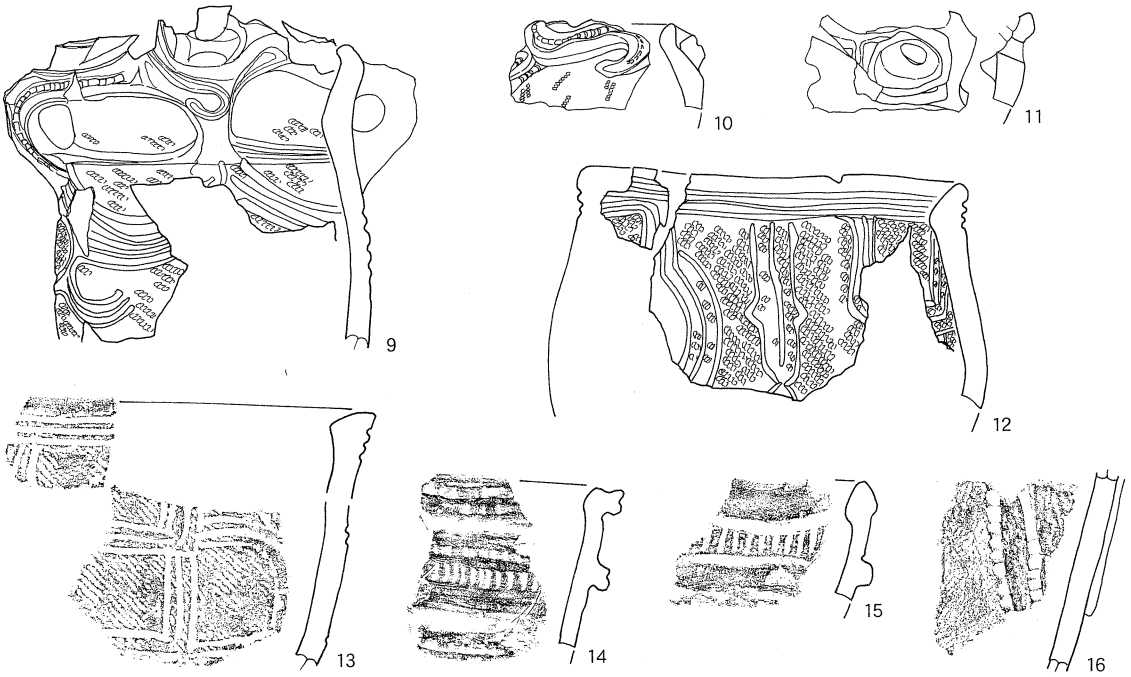
SK13



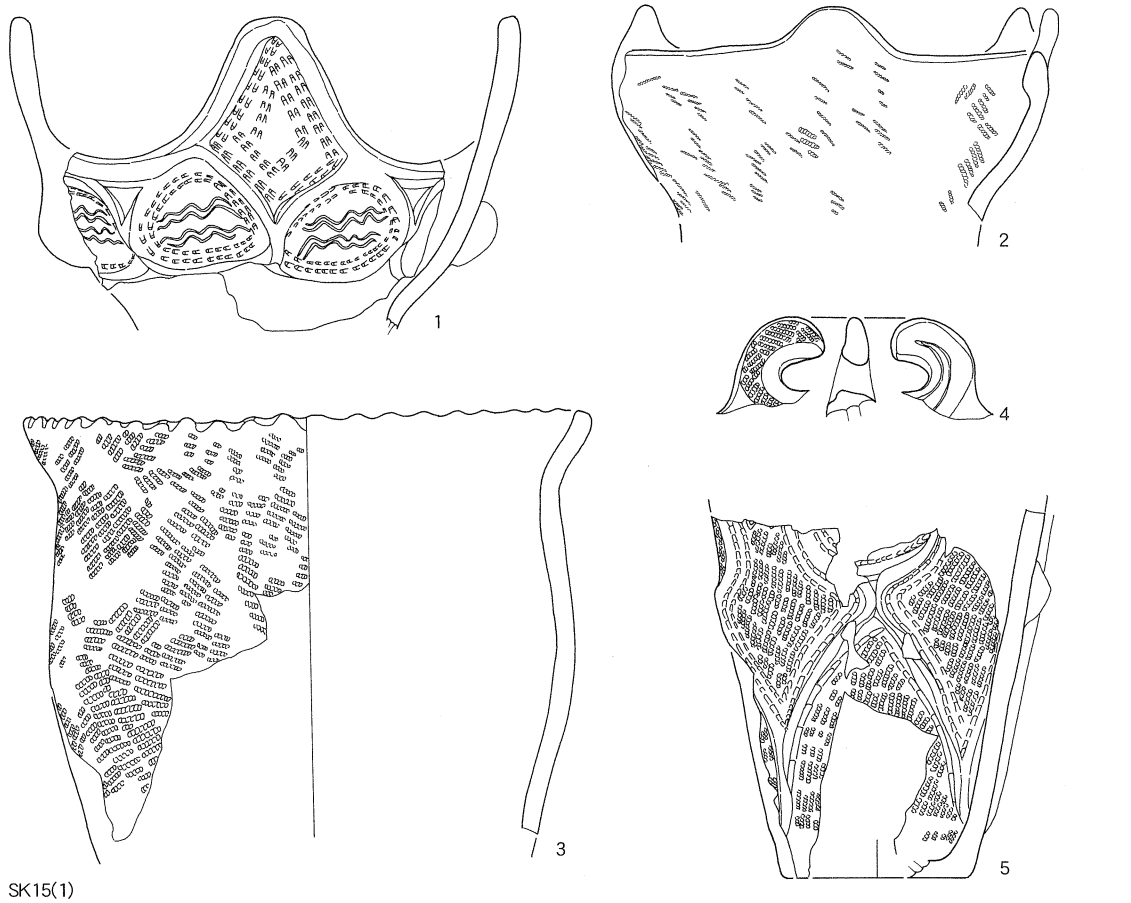
SK14(1)

第65図　土坑SK13・14(1)出土遺物

0　10cm
(1/4)



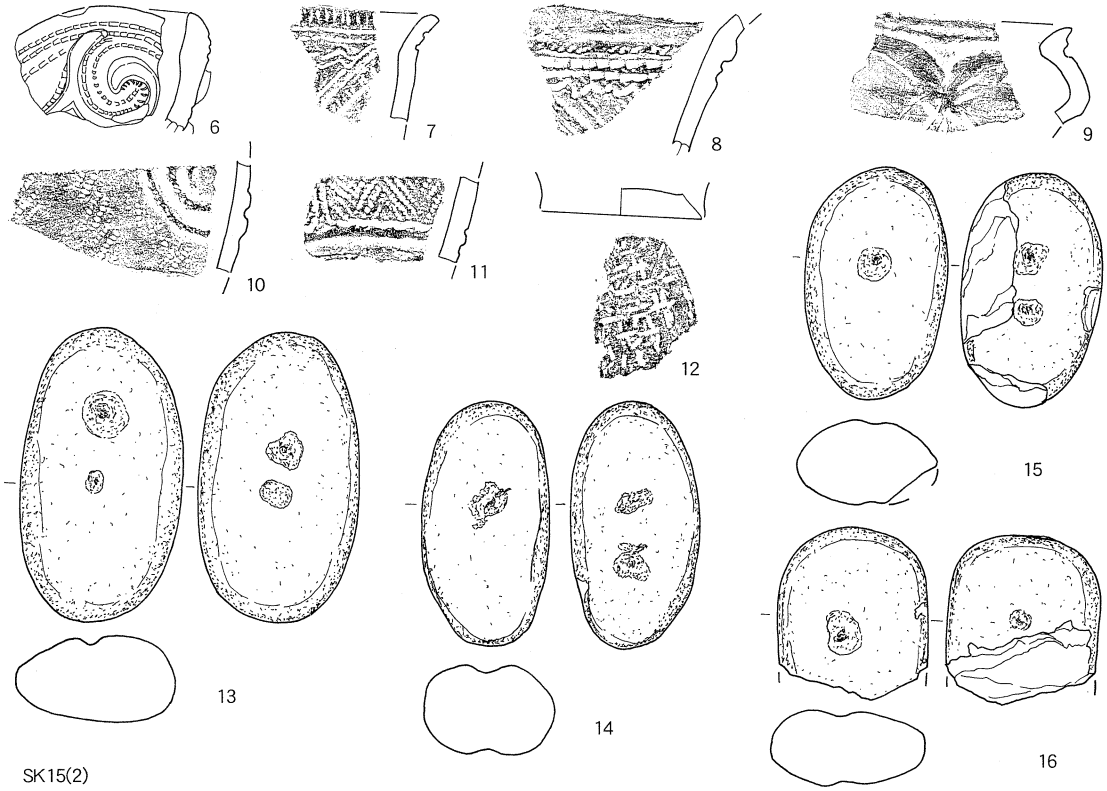
SK14(2)

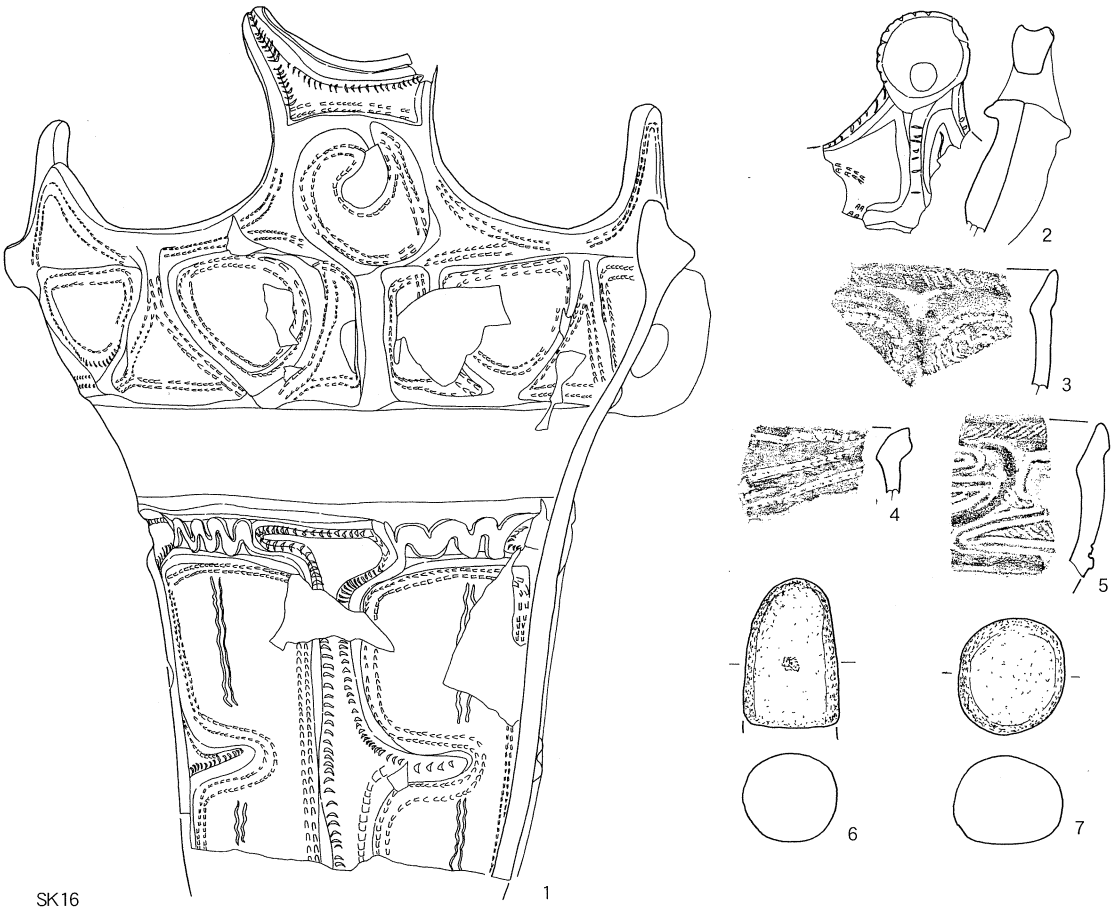


SK15(1)

第66図　土坑SK14(2)・15(1)出土遺物

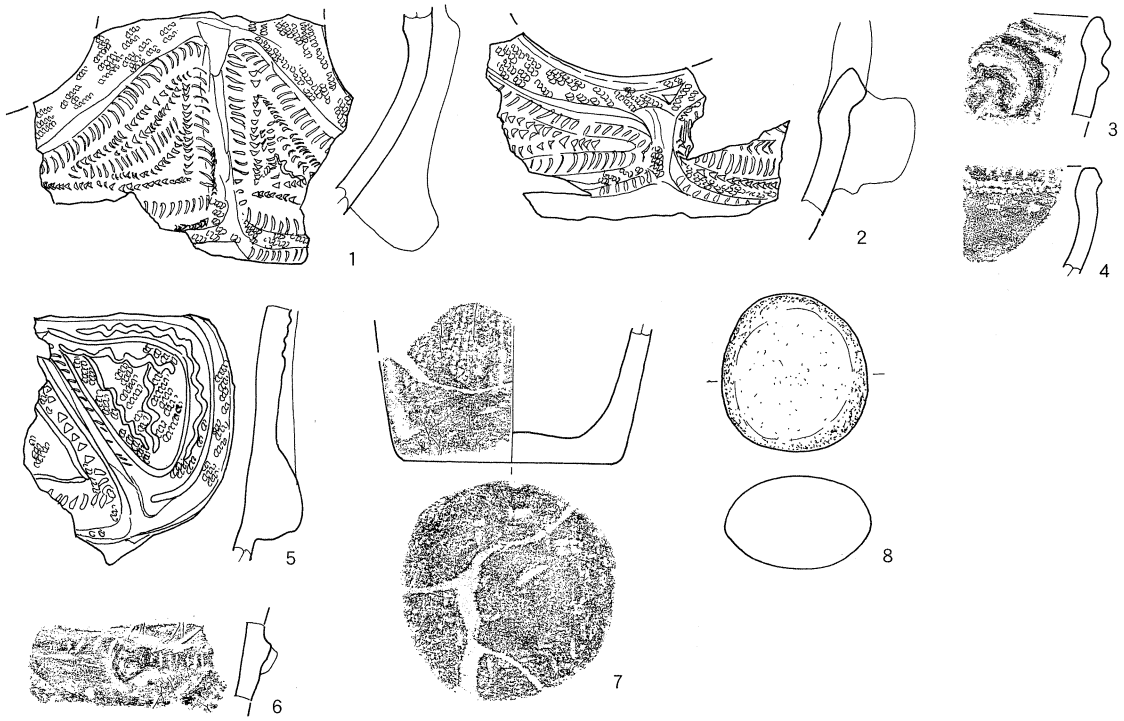
0　10cm
(1/4)



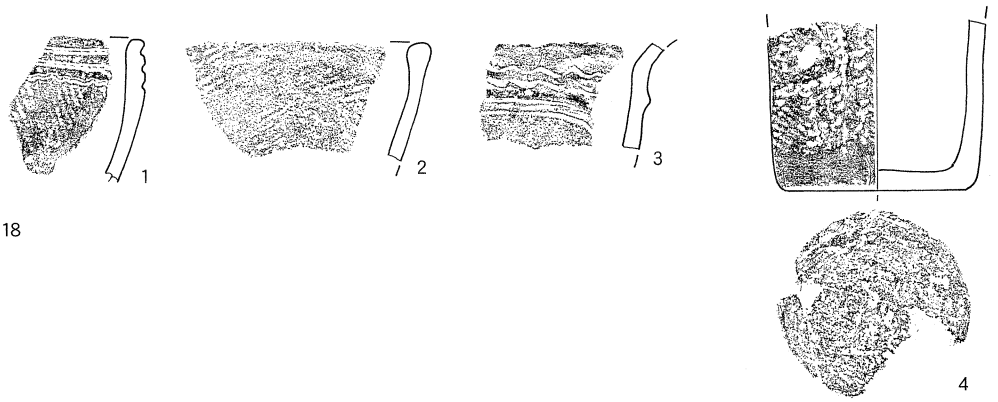


第67図　土坑SK15(2)・16出土遺物

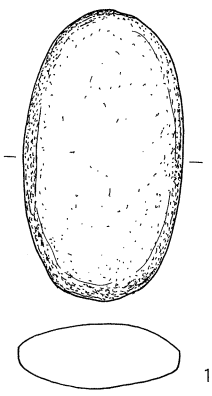
0　10cm
(1/4)



SK17



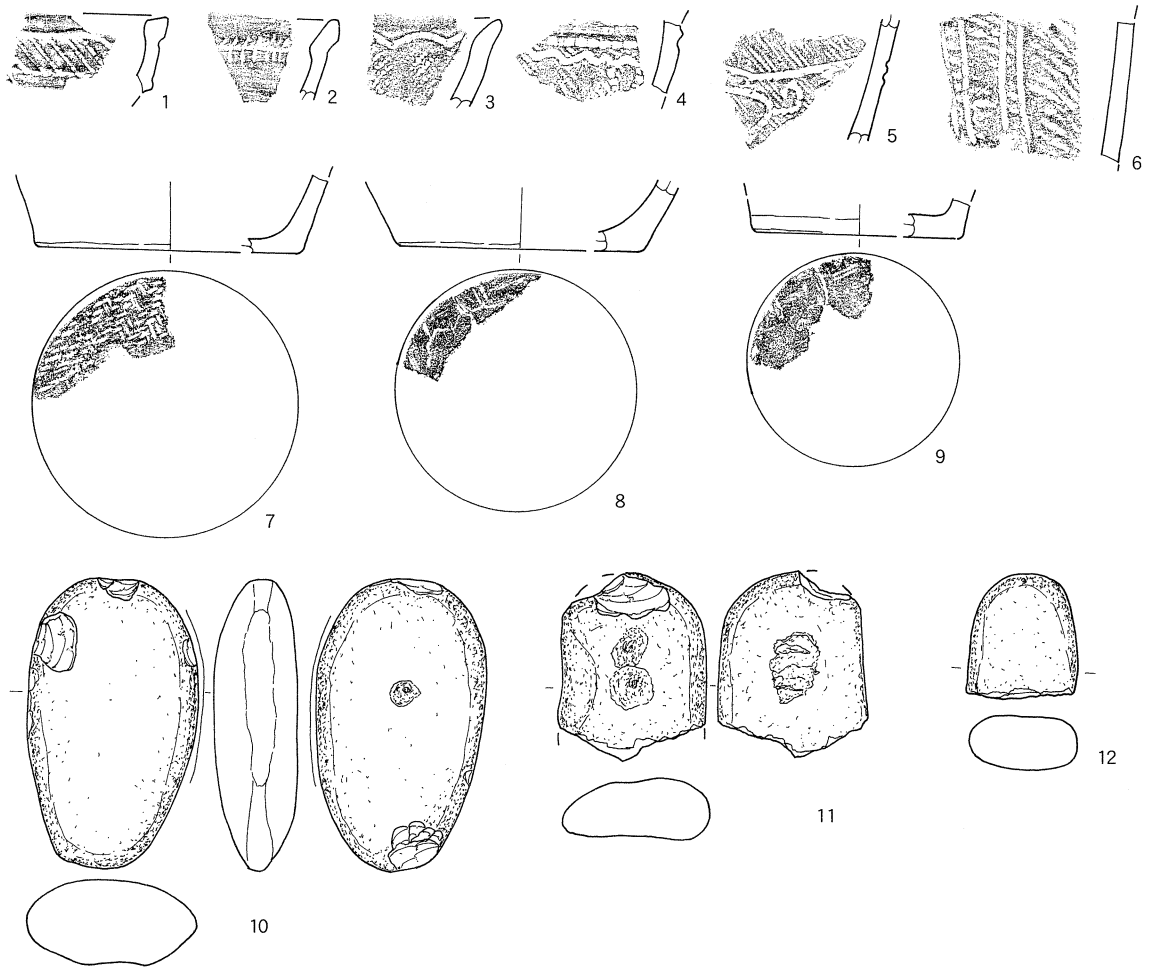
SK18

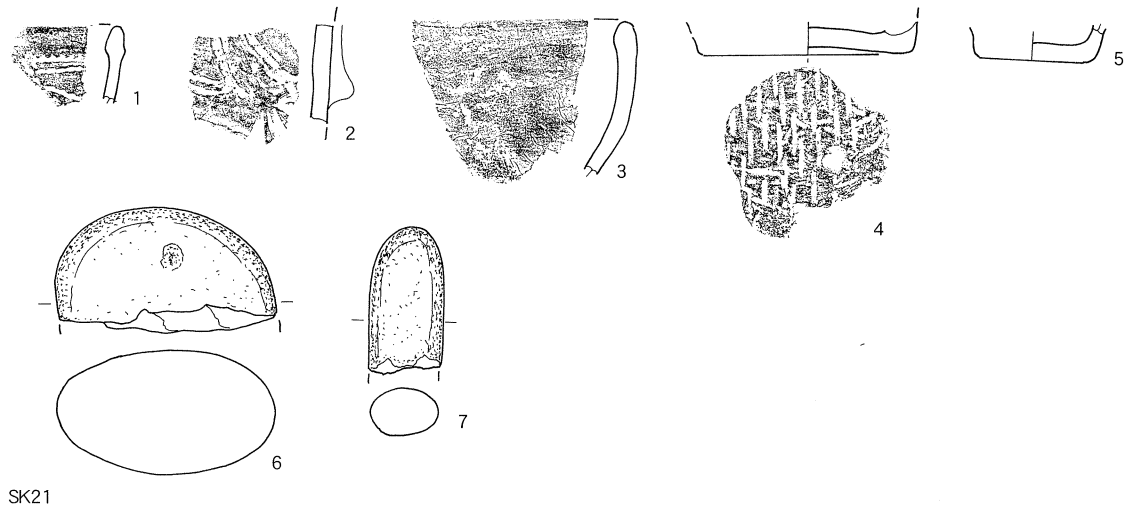


SK19

第68図　土坑SK17・18・19出土遺物

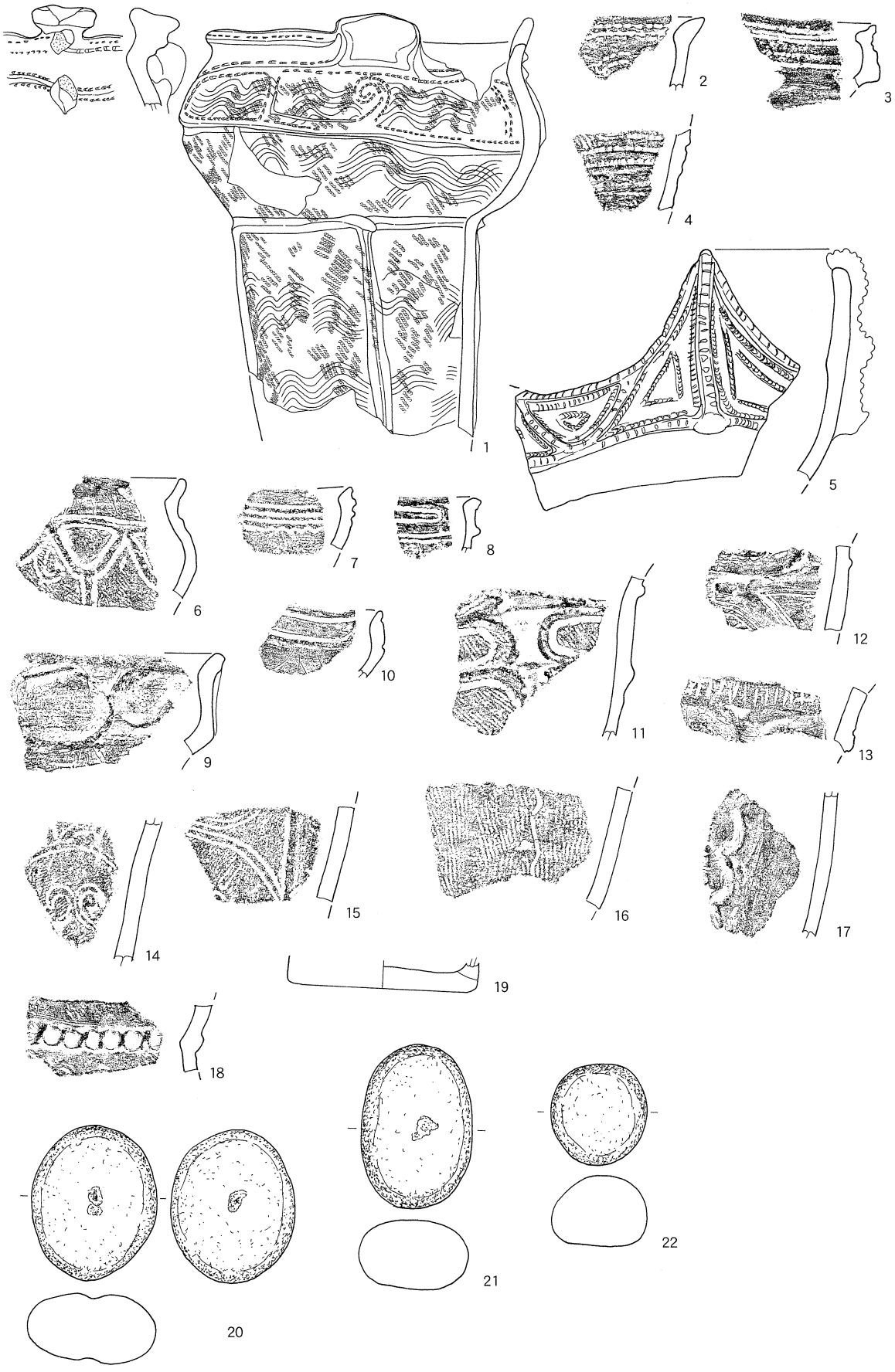
0　10cm
(1/4)





第69図　土坑SK20・21出土遺物

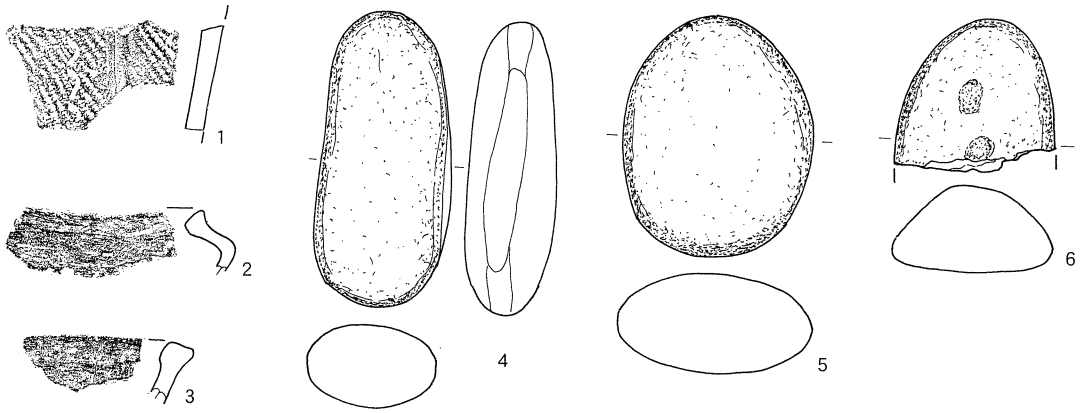
0　10cm
(1/4)



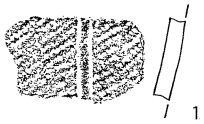
第70図　土坑SK22出土遺物

0　10cm
(1/4)

SK23

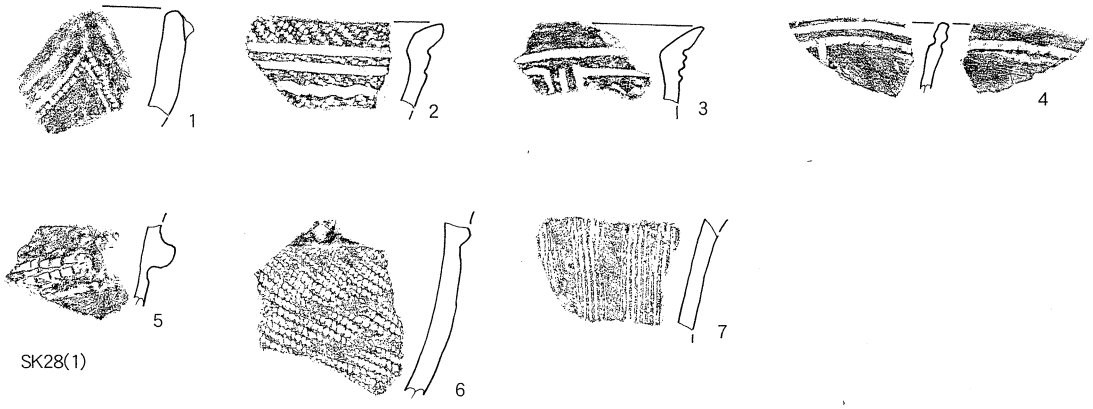


SK25



SK26

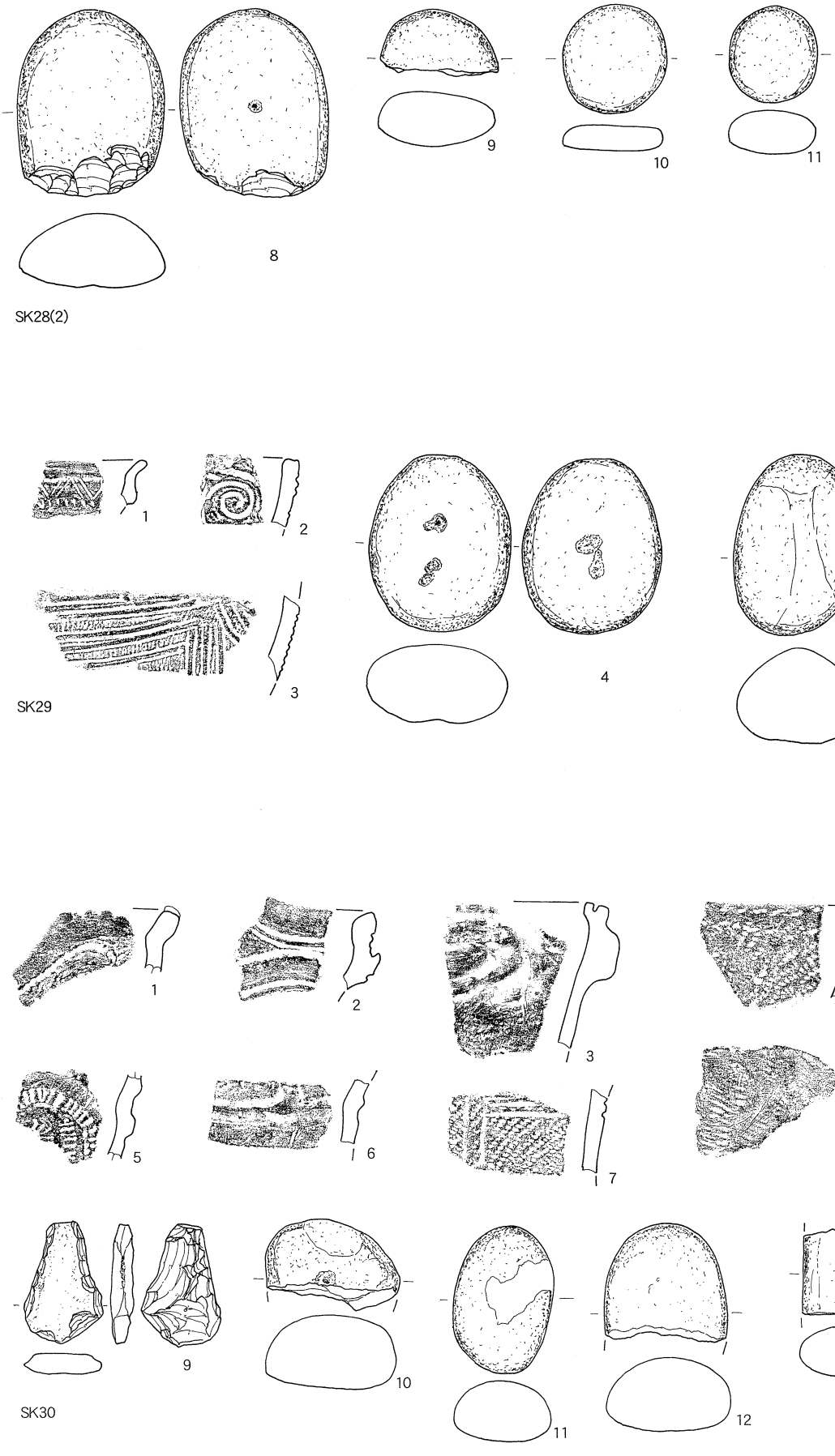
SK27



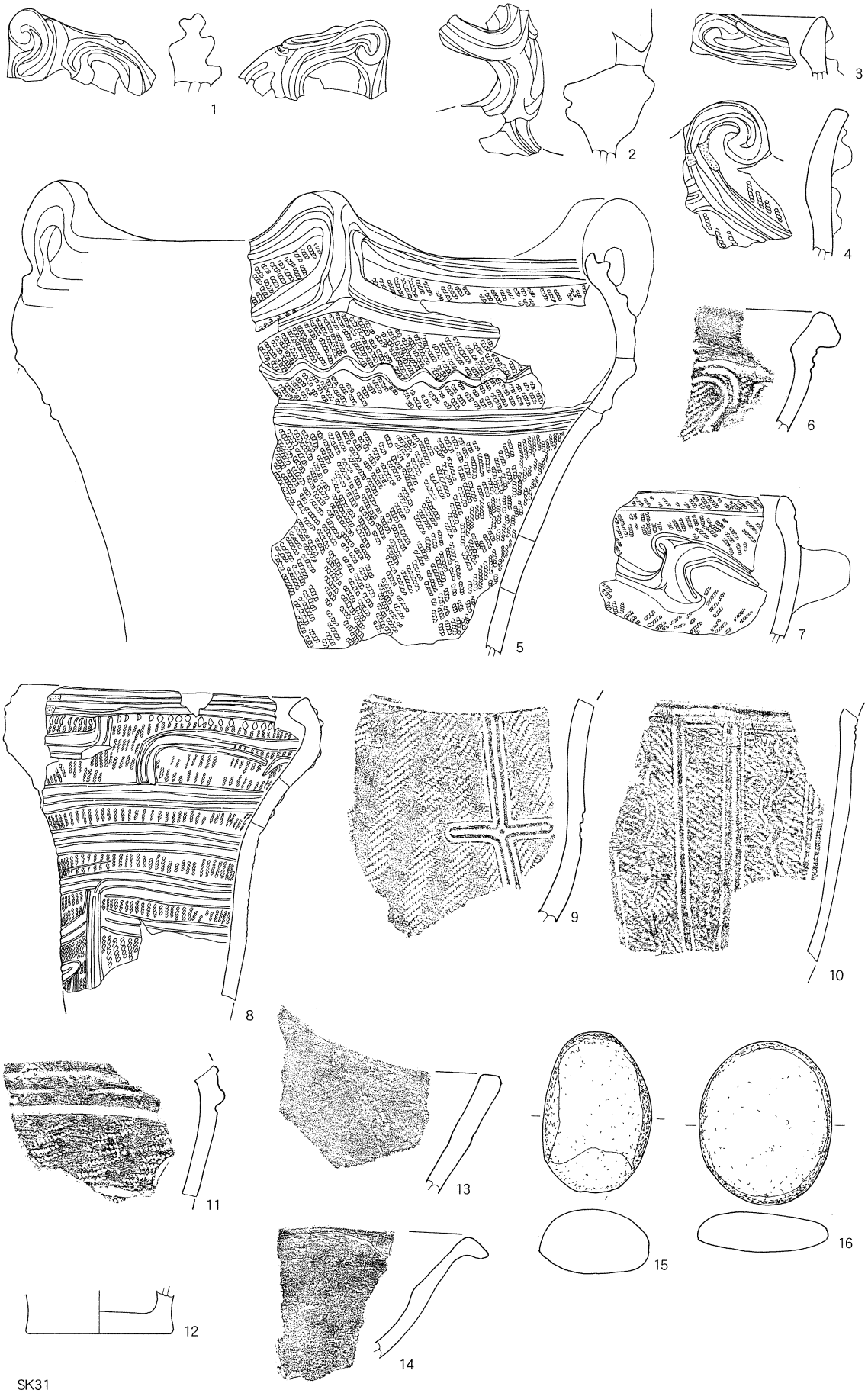
SK28(1)

第71図　土坑SK23・25・26・27・28(1)出土遺物

0　10cm
(1/4)

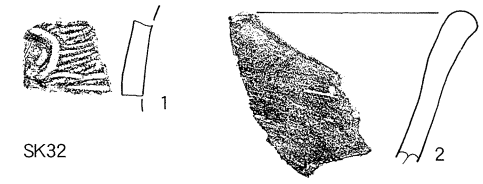


第72図　土坑SK28(1)・29・30出土遺物

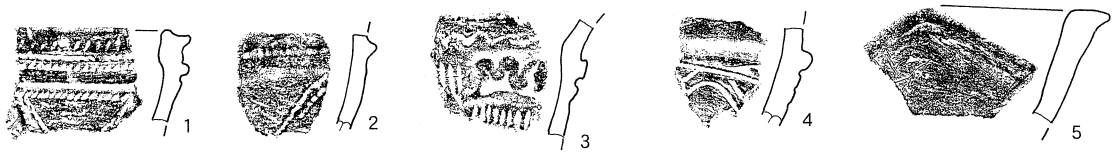


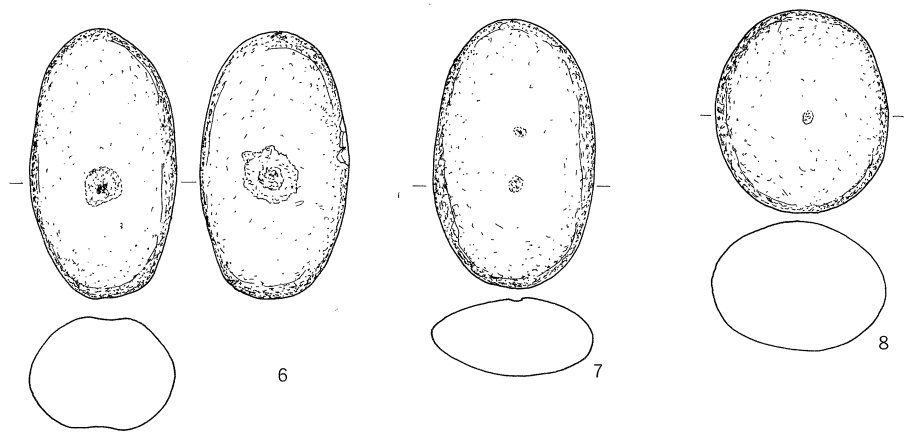
第73図　土坑SK31出土遺物

0　10cm
(1/4)

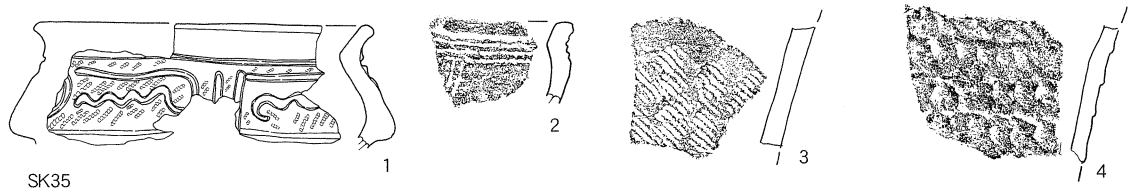


SK32

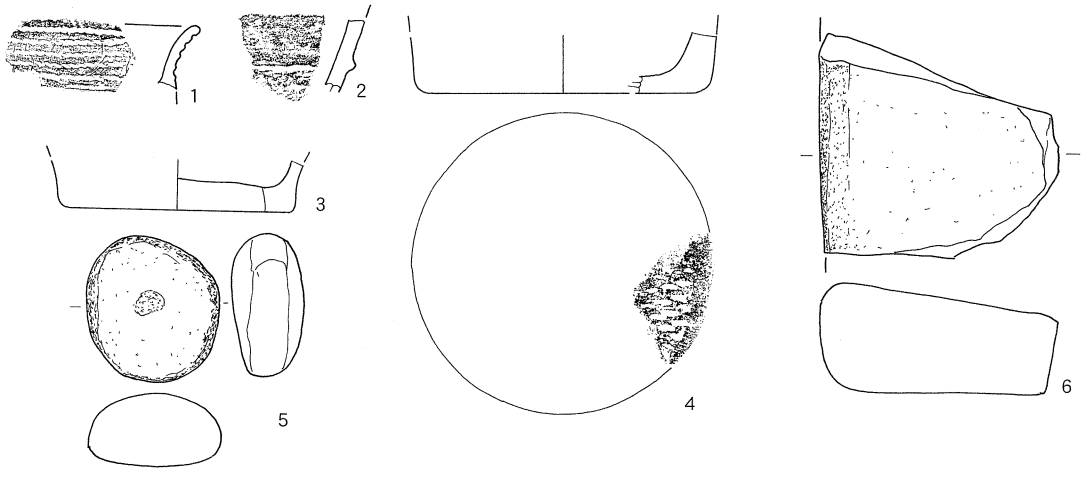




SK34



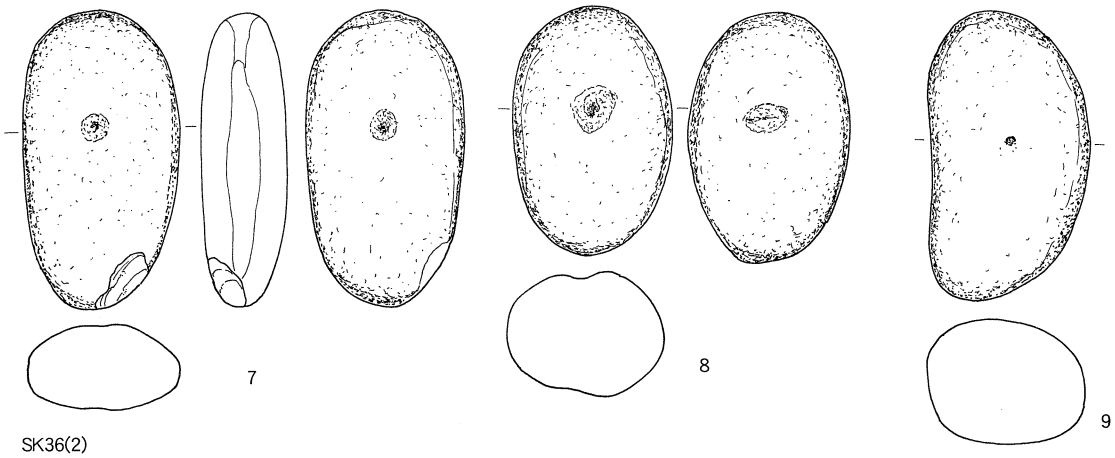
SK35

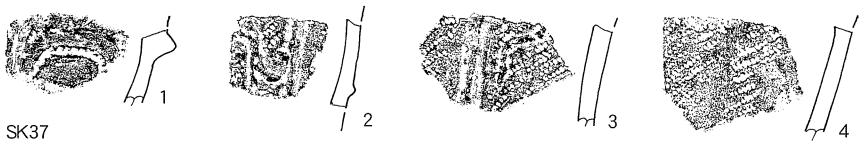


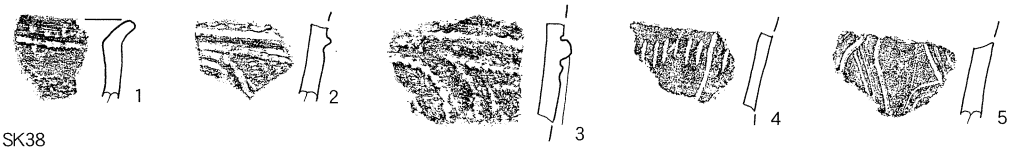
SK36(1)

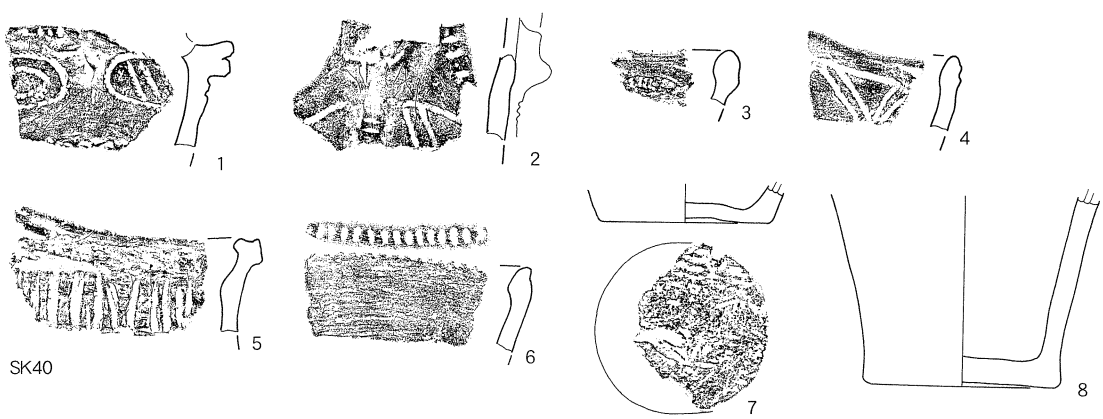
第74図　土坑SK32・34・35・36(1)出土遺物

0　10cm
(1/4)







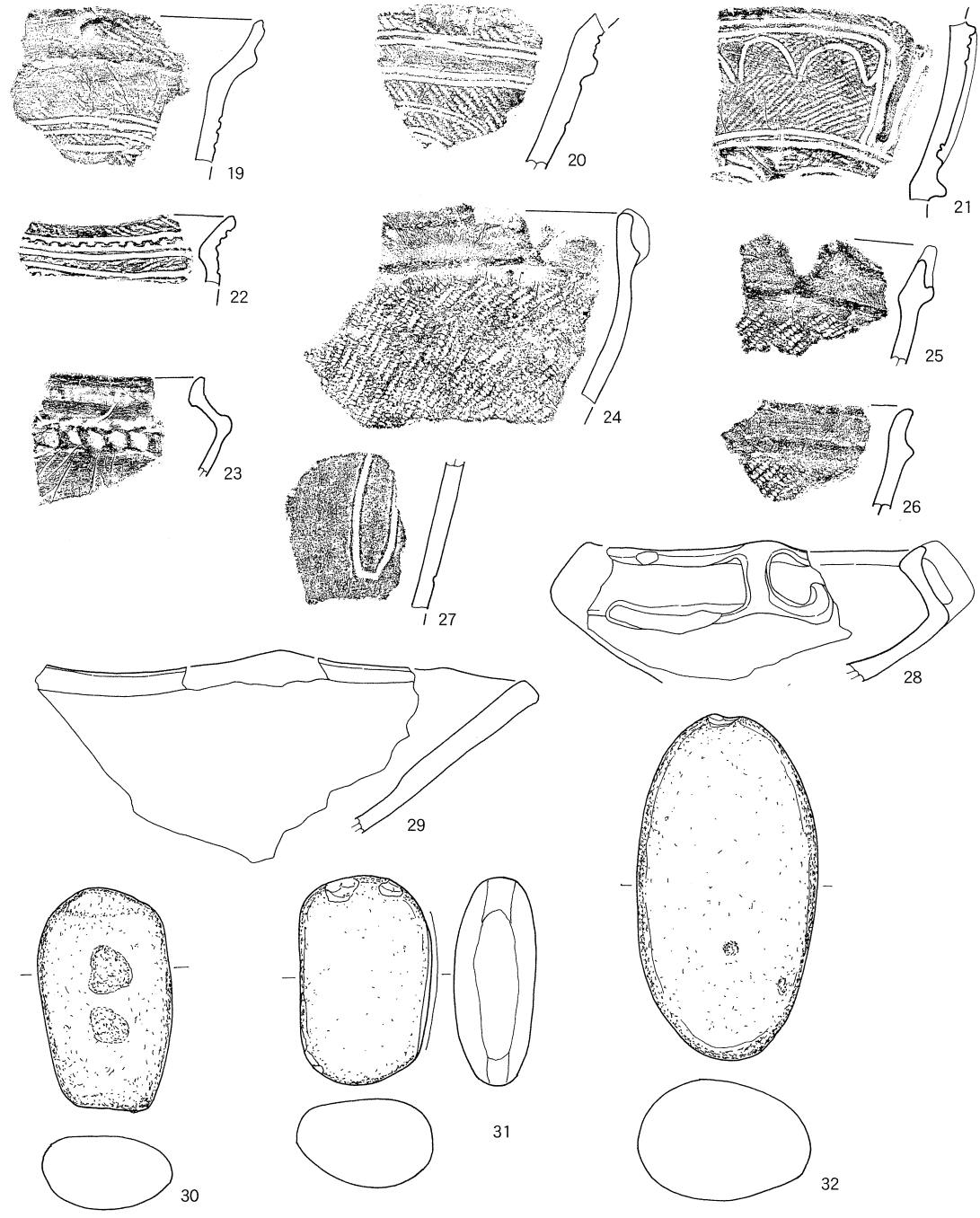


第75図　土坑SK36(2)・37・38・40出土遺物

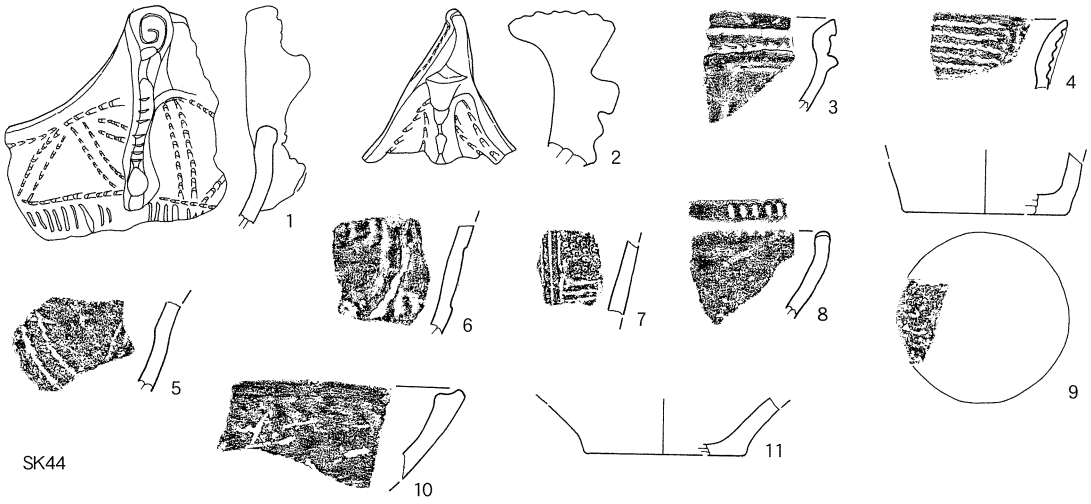
0　10cm
(1/4)

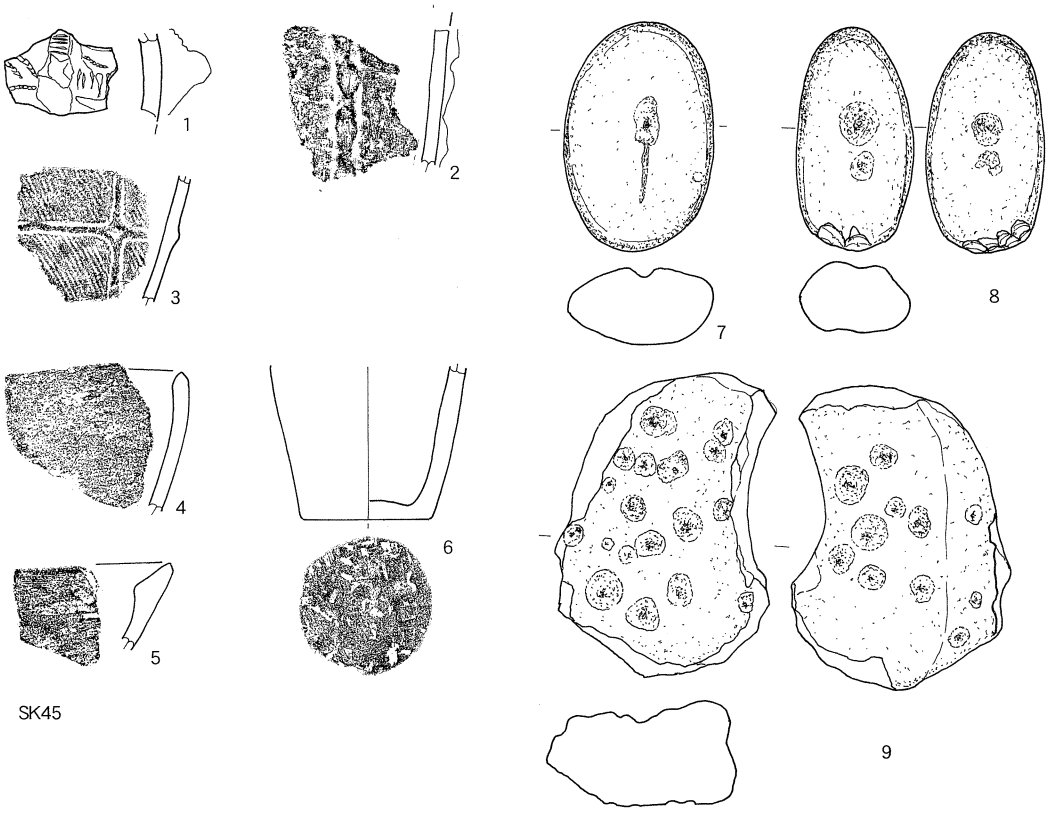
第76図　土坑SK42(1)

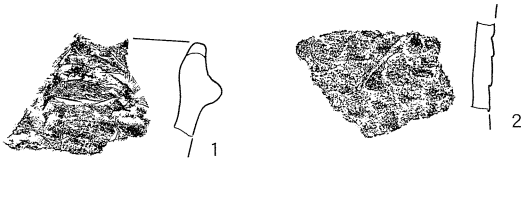
0　10cm
(1/4)



第77図　土坑SK42(2)・43出土遺物

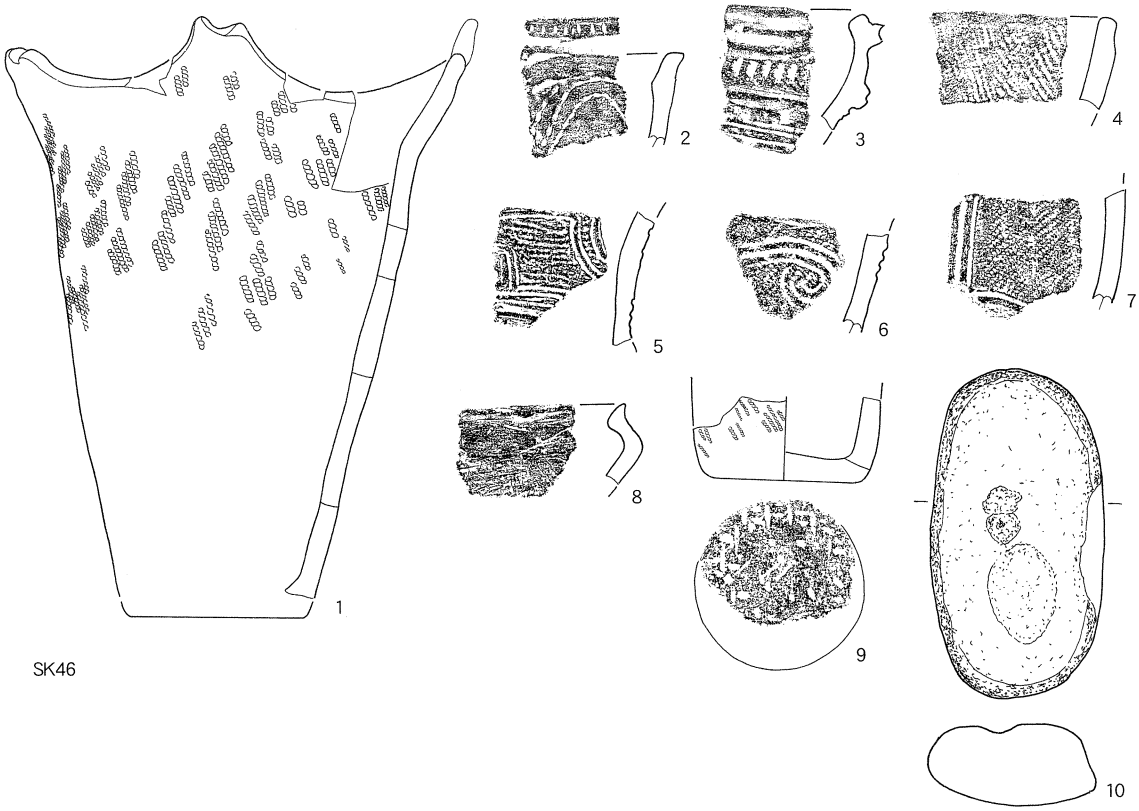


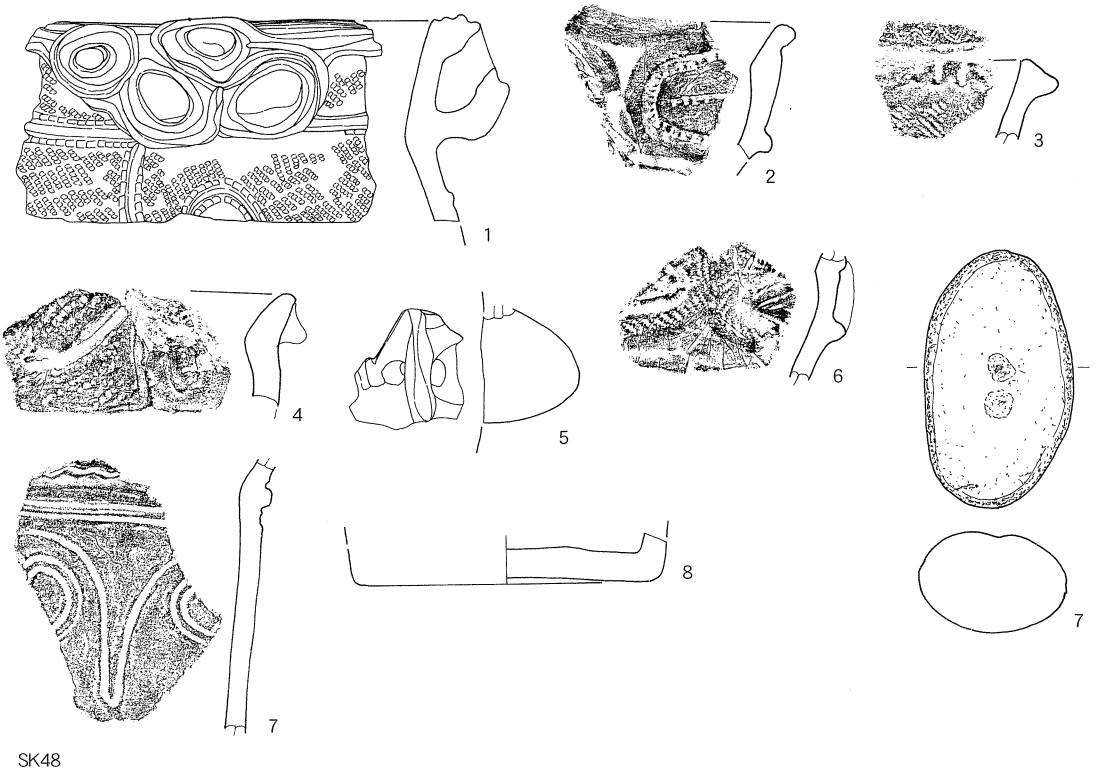




第78図　土坑SK44・45・47出土遺物

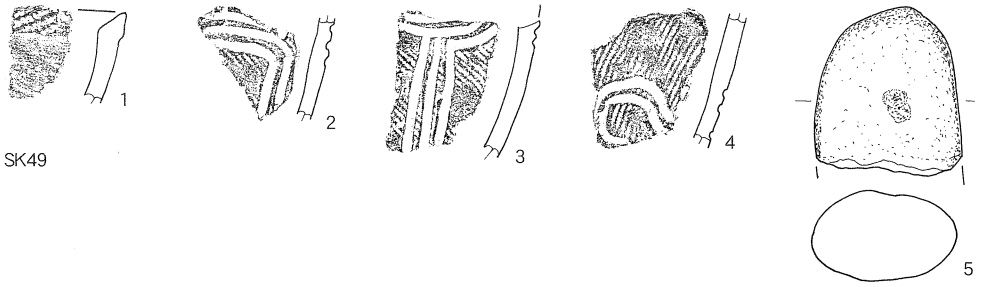
0　10cm
(1/4)



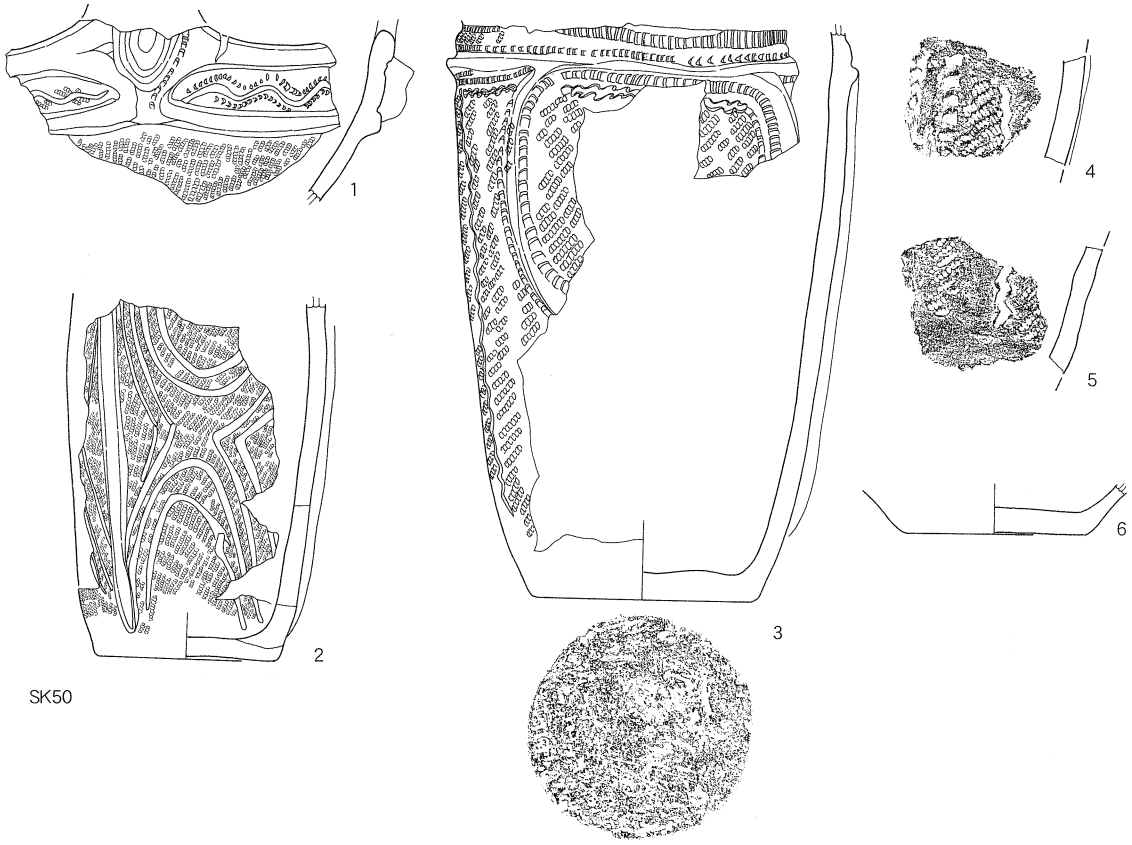


第79図　土坑SK46・48出土遺物

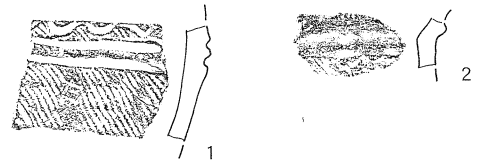
0　10cm
(1/4)



SK49



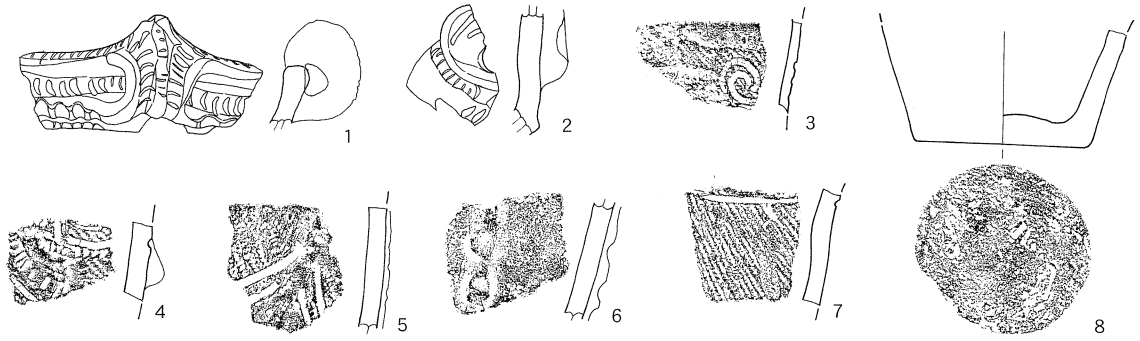
SK50



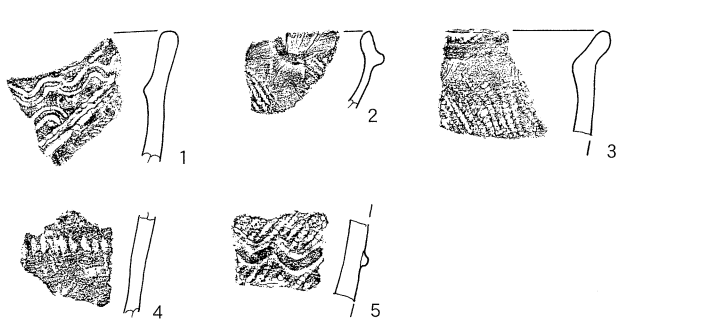
SK51

第80図　土坑SK49・50・51出土遺物

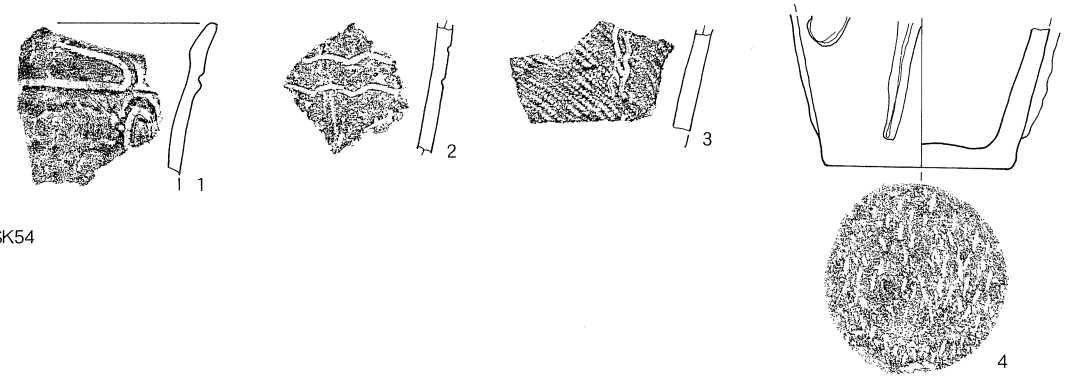
0　10cm
(1/4)



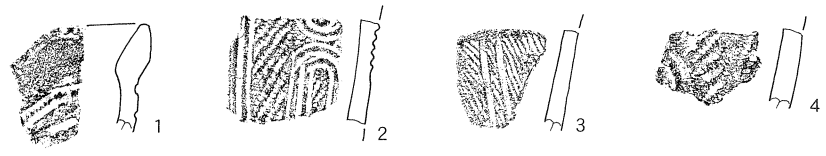
SK52



SK53



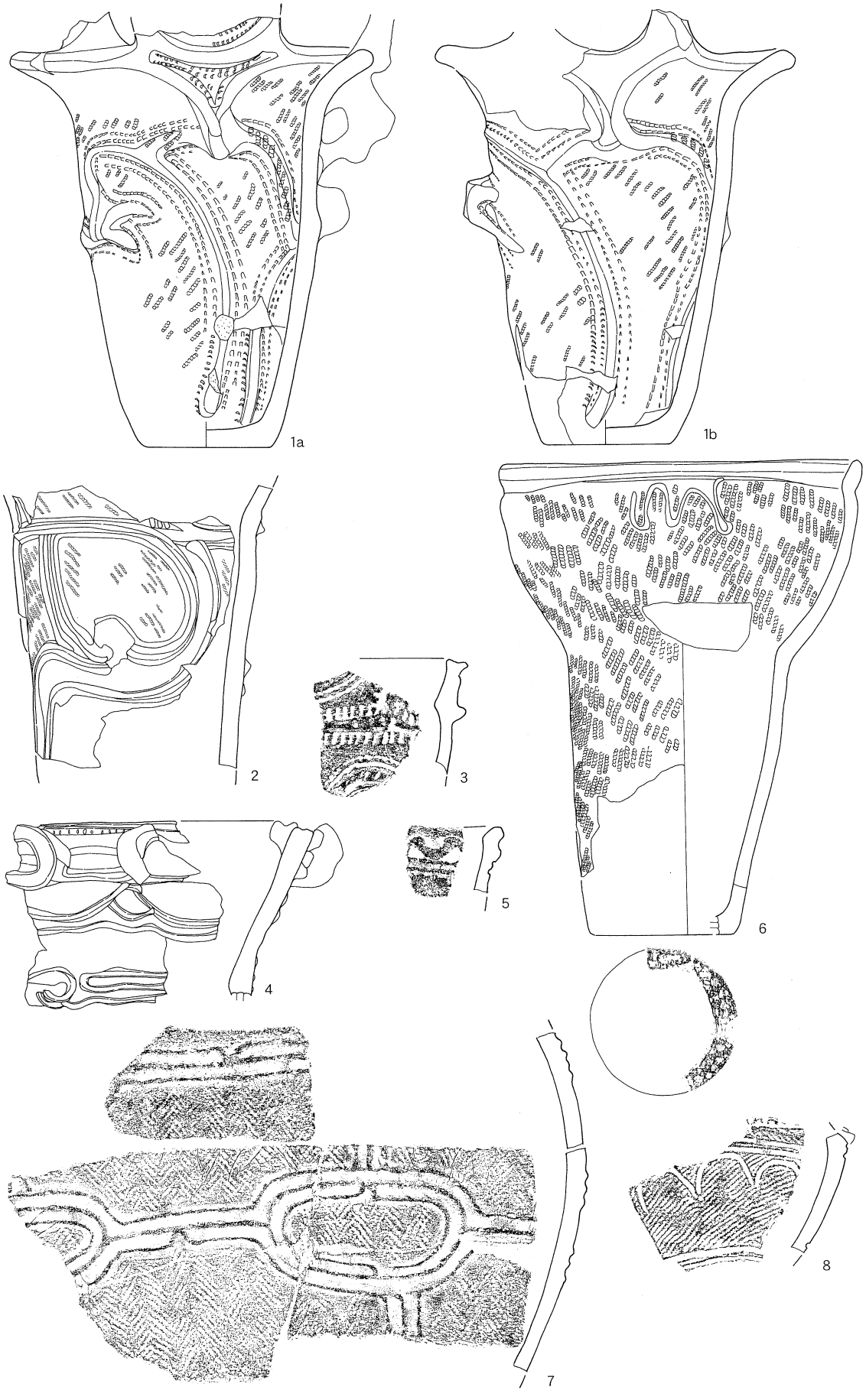
SK54



SK55

第81図　土坑SK52・53・54・55出土遺物

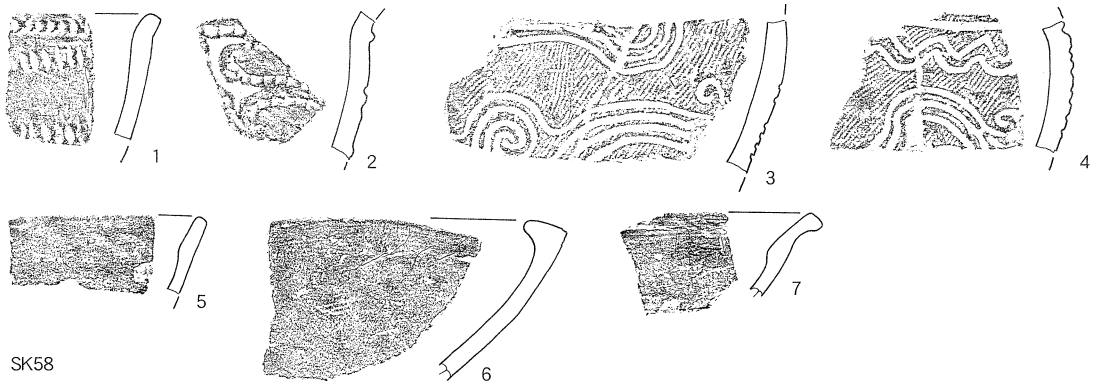
0　10cm
(1/4)

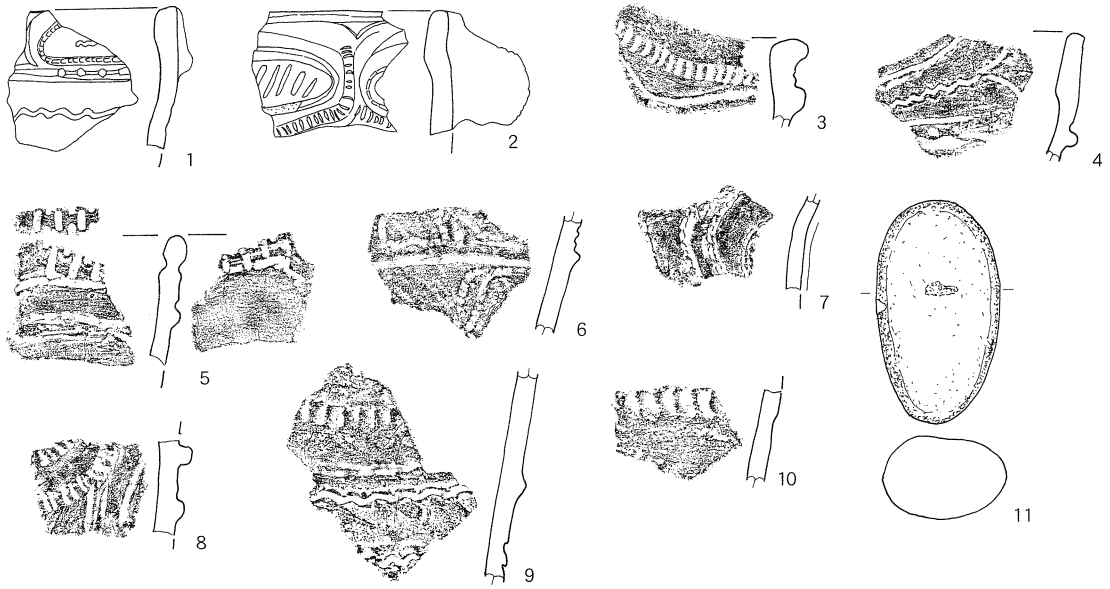


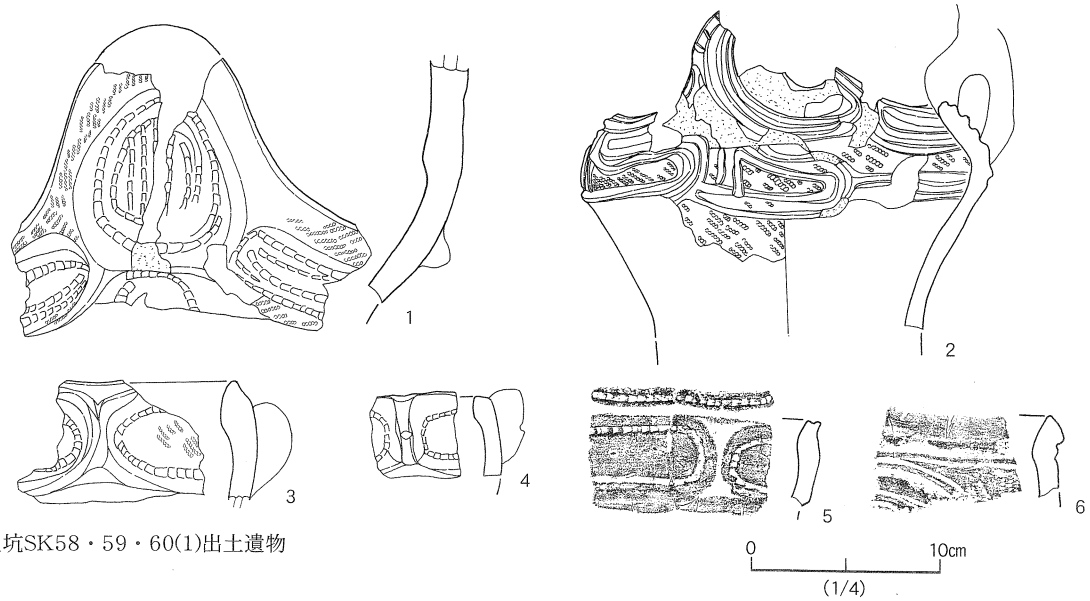
SK56

第82図　土坑SK56出土遺物

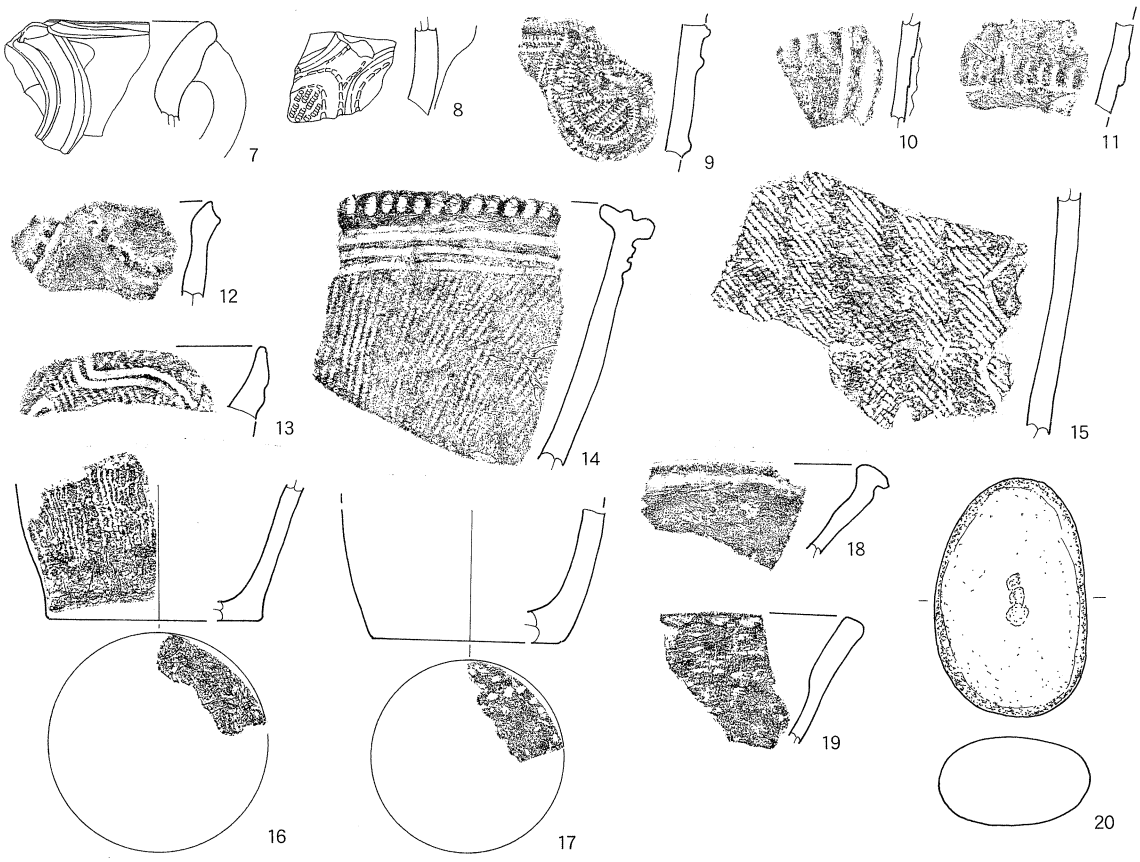
0　10cm
(1/4)

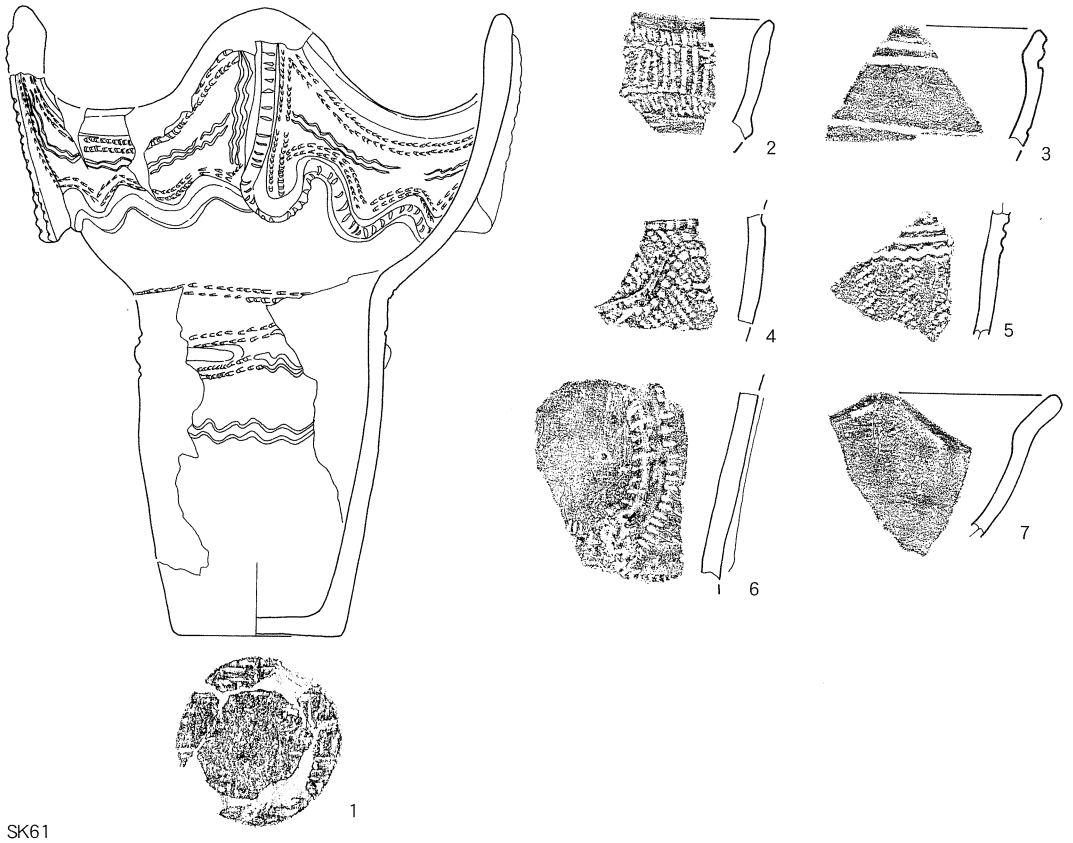






第83図　土坑SK58・59・60(1)出土遺物

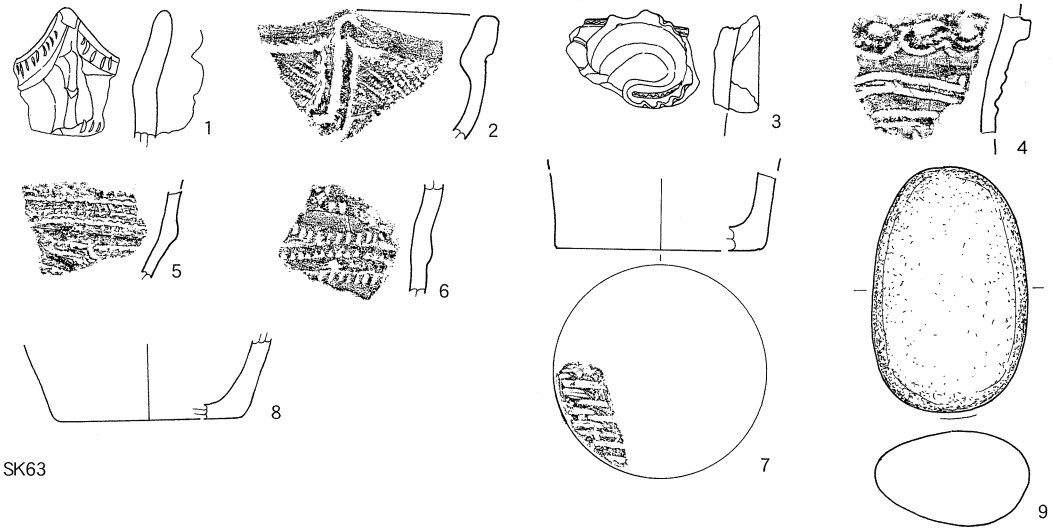




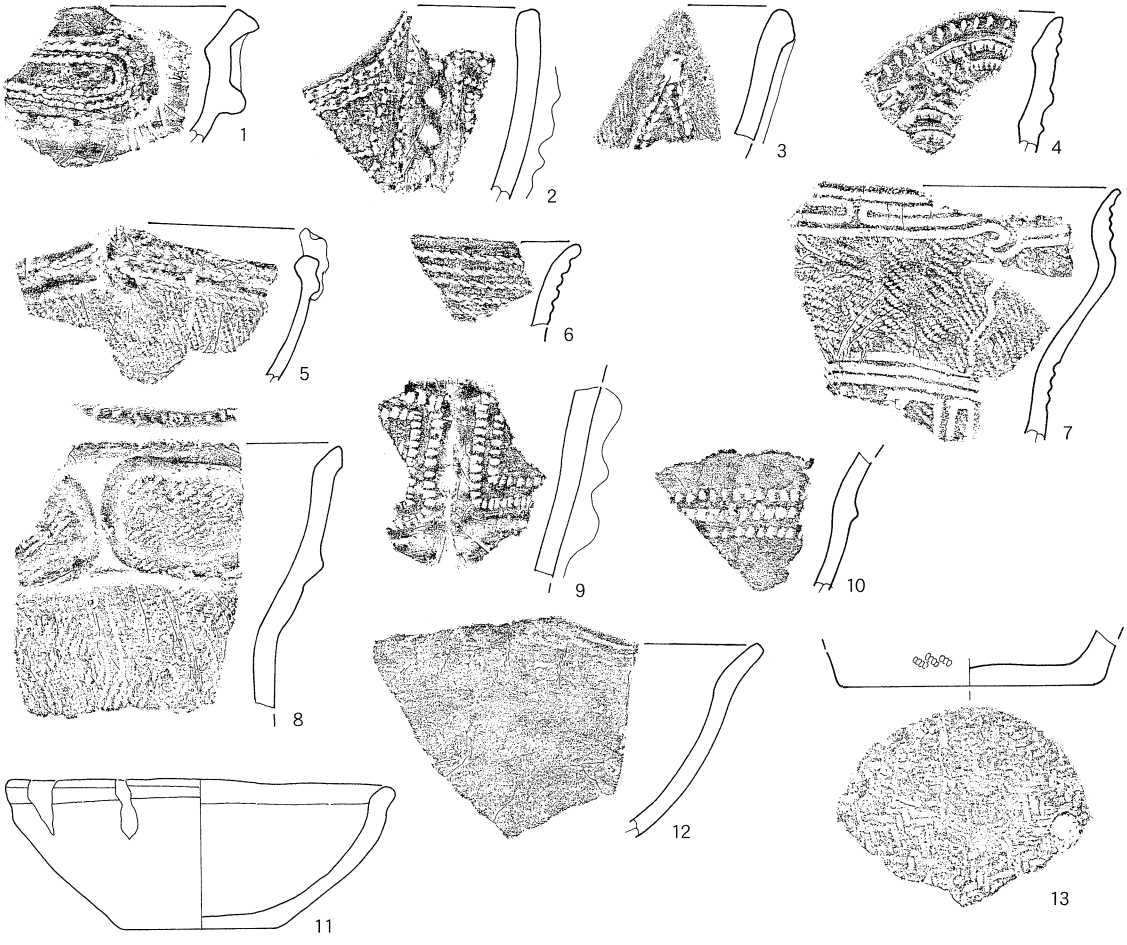
第84図　土坑SK60(2)・61出土遺物

0　10cm
(1/4)

SK62



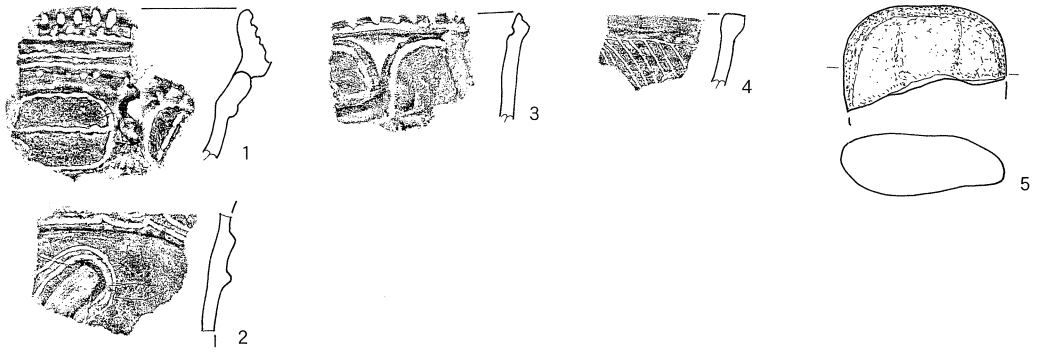
SK63



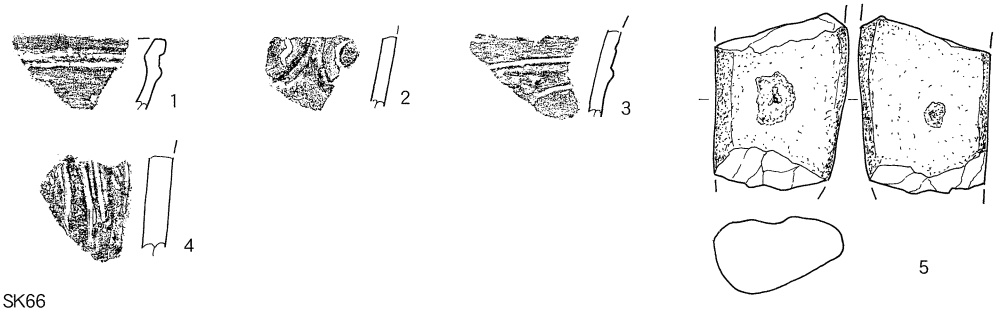
SK64

第85図　土坑SK62・63・64出土遺物

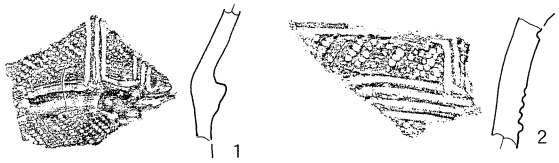
0　10cm
(1/4)



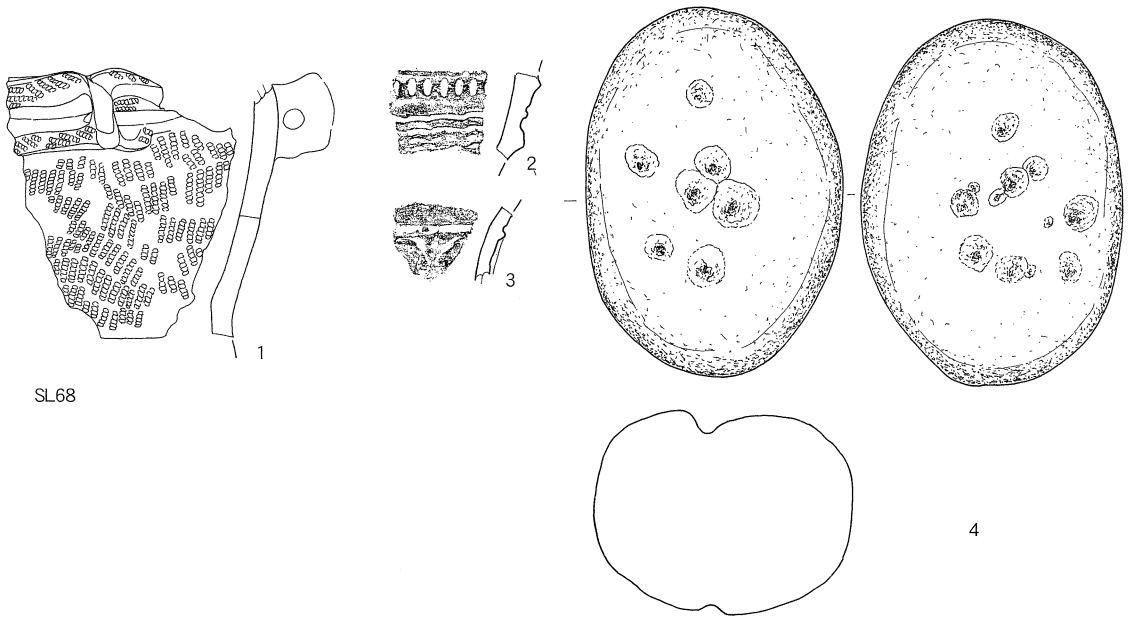
SK65



SK66



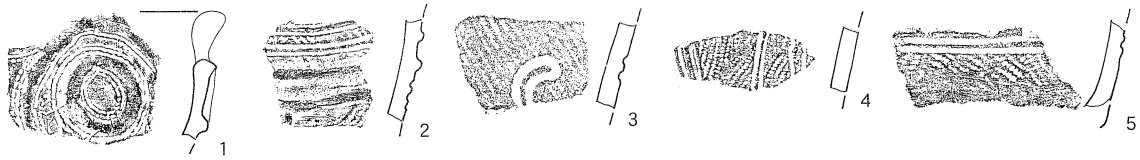
SK67



SL68

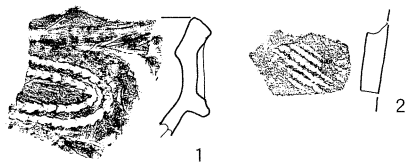
第86図　土坑SK65・66・67・68出土遺物

0　10cm
(1/4)

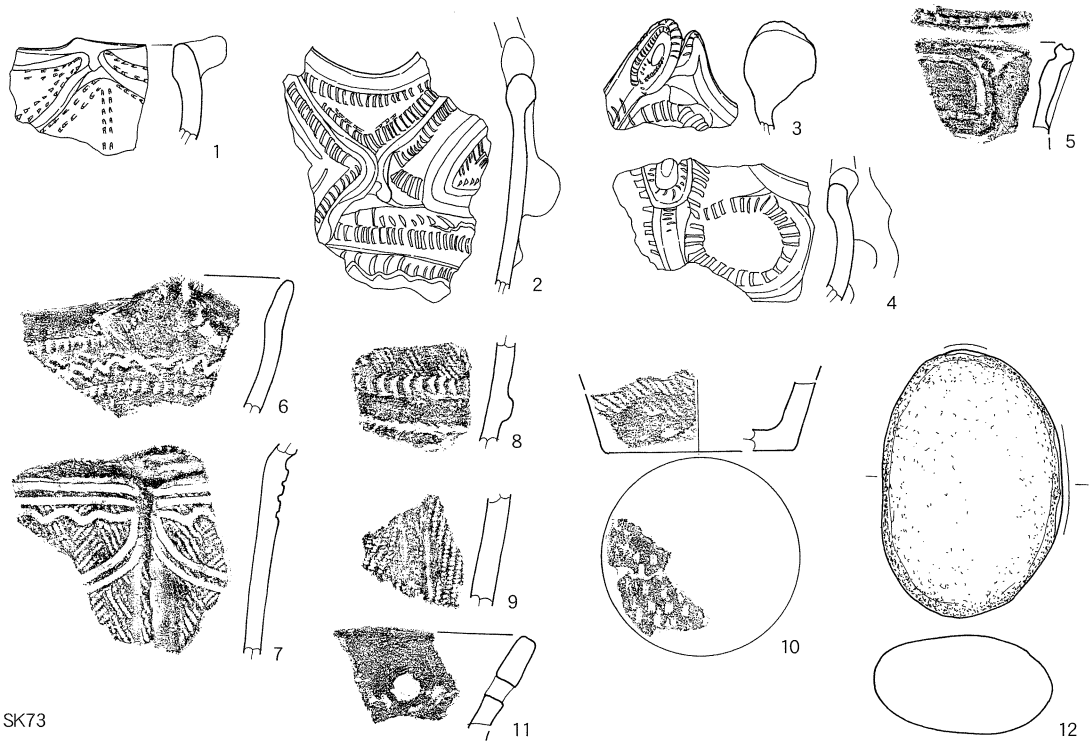


SK69

SK70



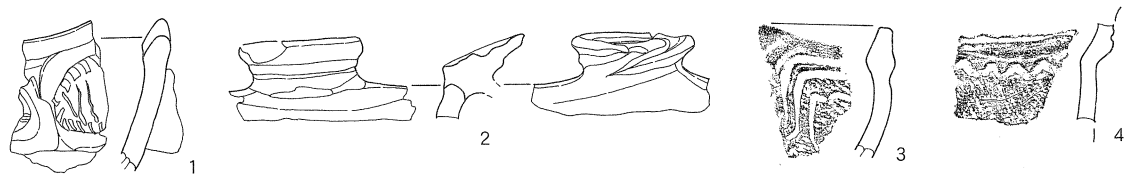
SK71



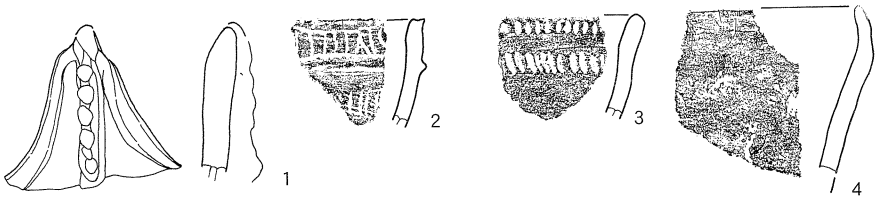
SK73

第87図　土坑SK69・70・71・73出土遺物

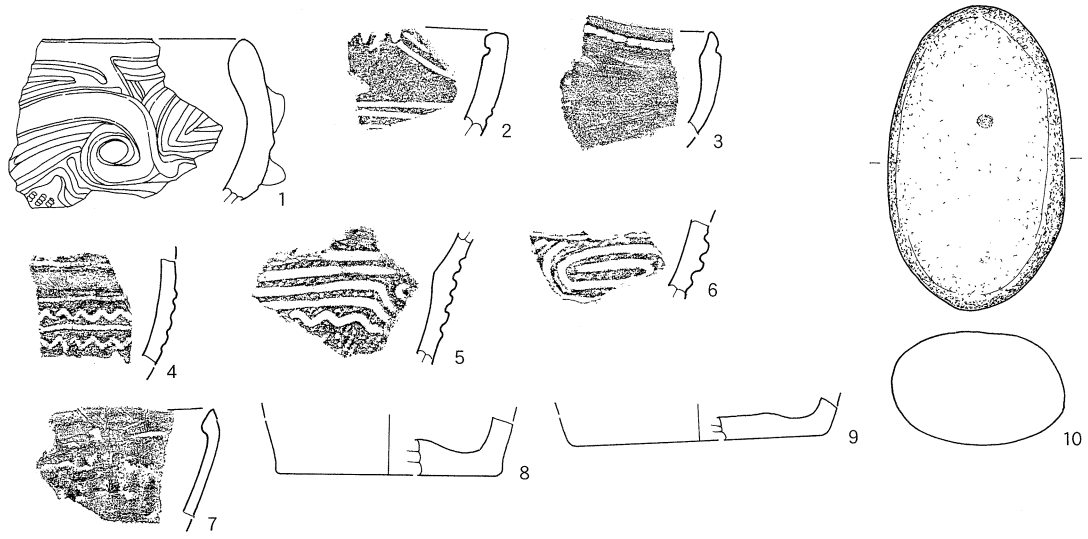
0　10cm
(1/4)



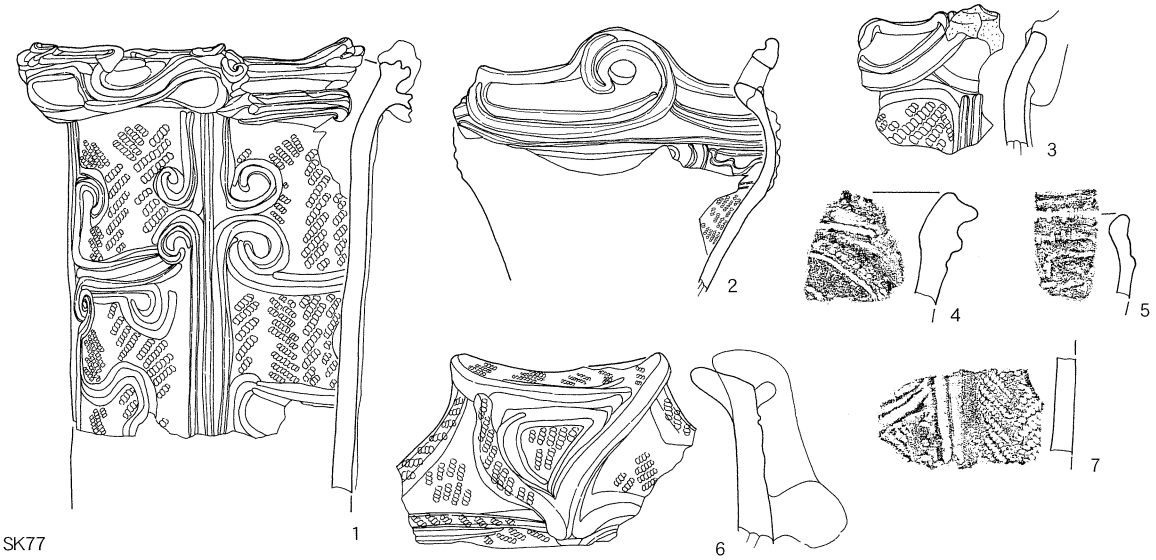
SK74



SK75



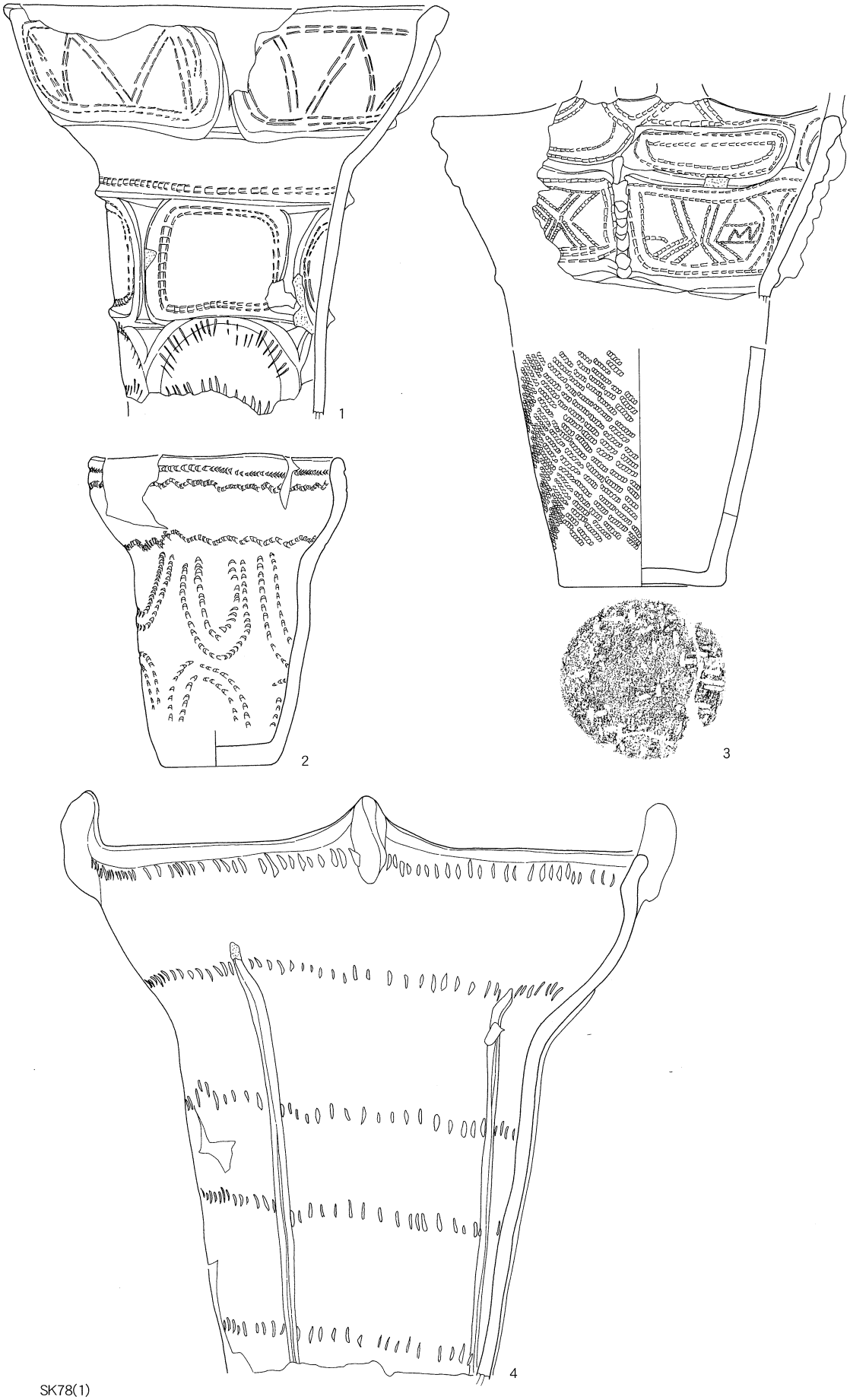
SK76



SK77

第88図　土坑SK74・75・76・77出土遺物

0　10cm
(1/4)

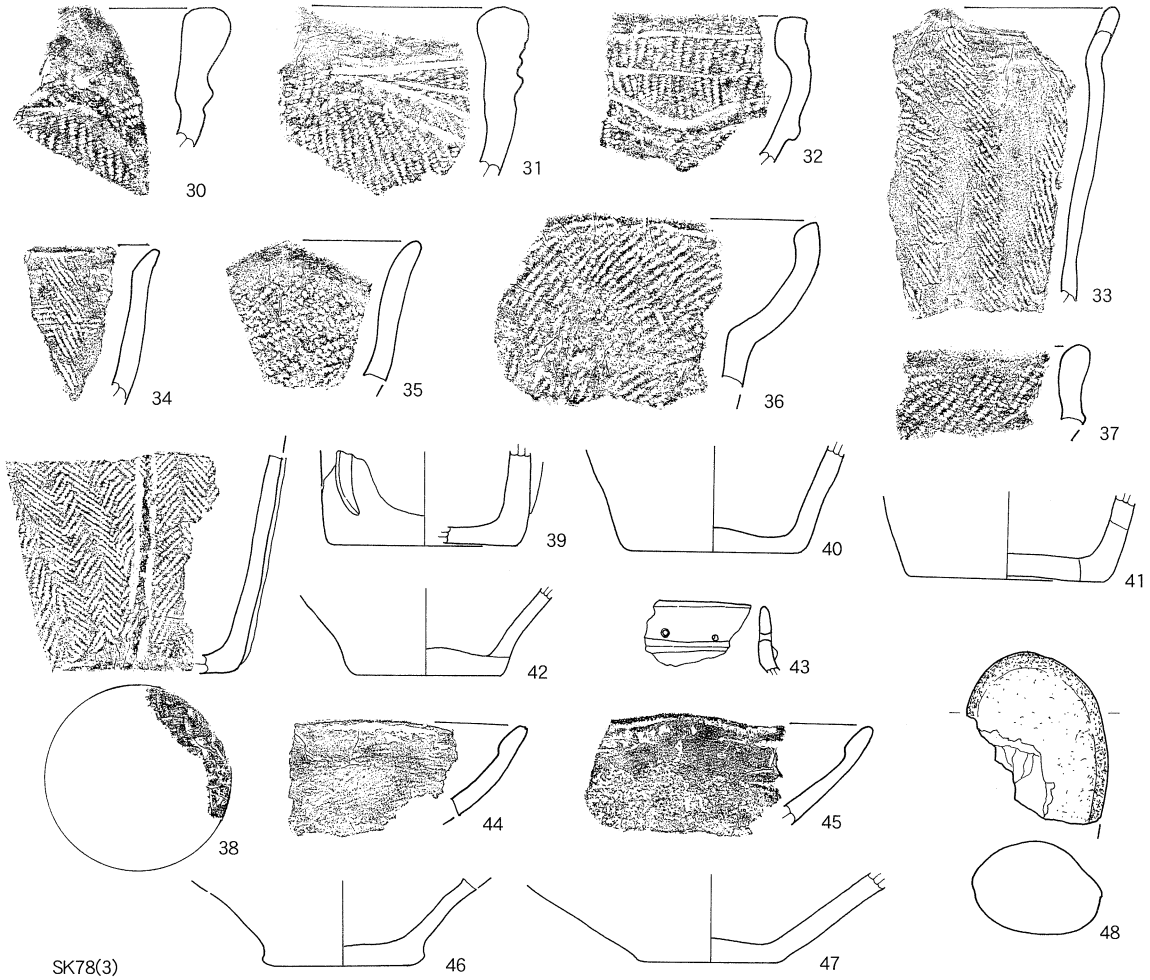


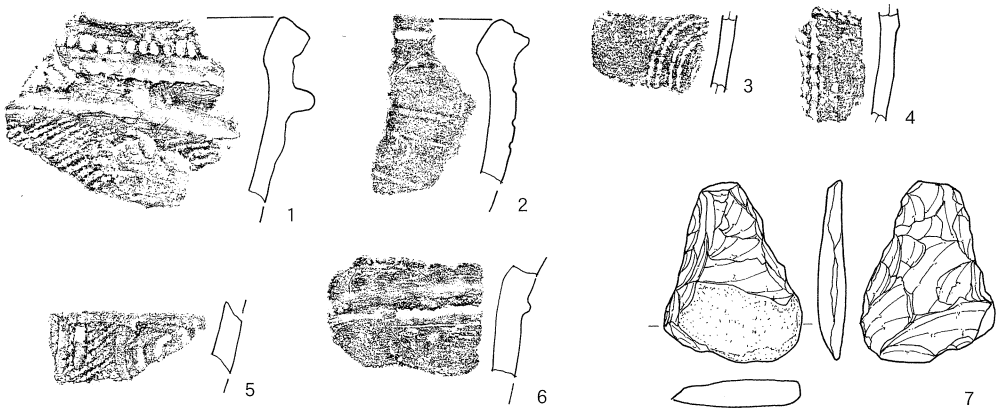
第89図　土坑SK78(1)出土遺物

0　10cm
(1/4)

第90図　土坑SK78(2)出土遺物

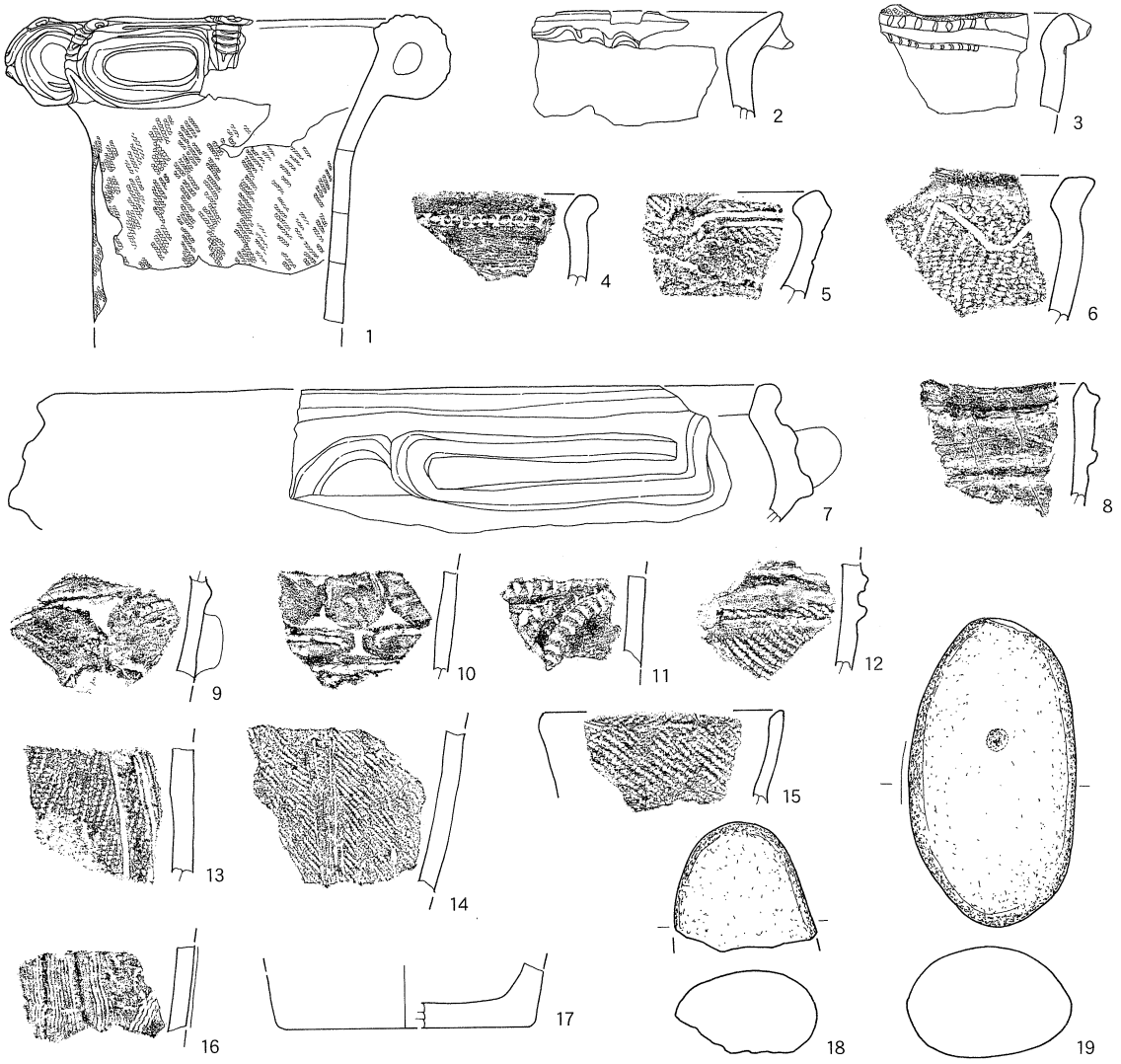
0　10cm
(1/4)





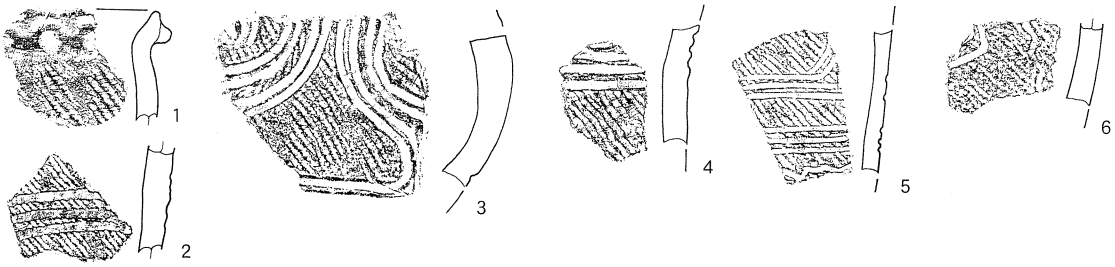
第91図　土坑SK78(3)・79出土遺物

0　10cm
(1/4)



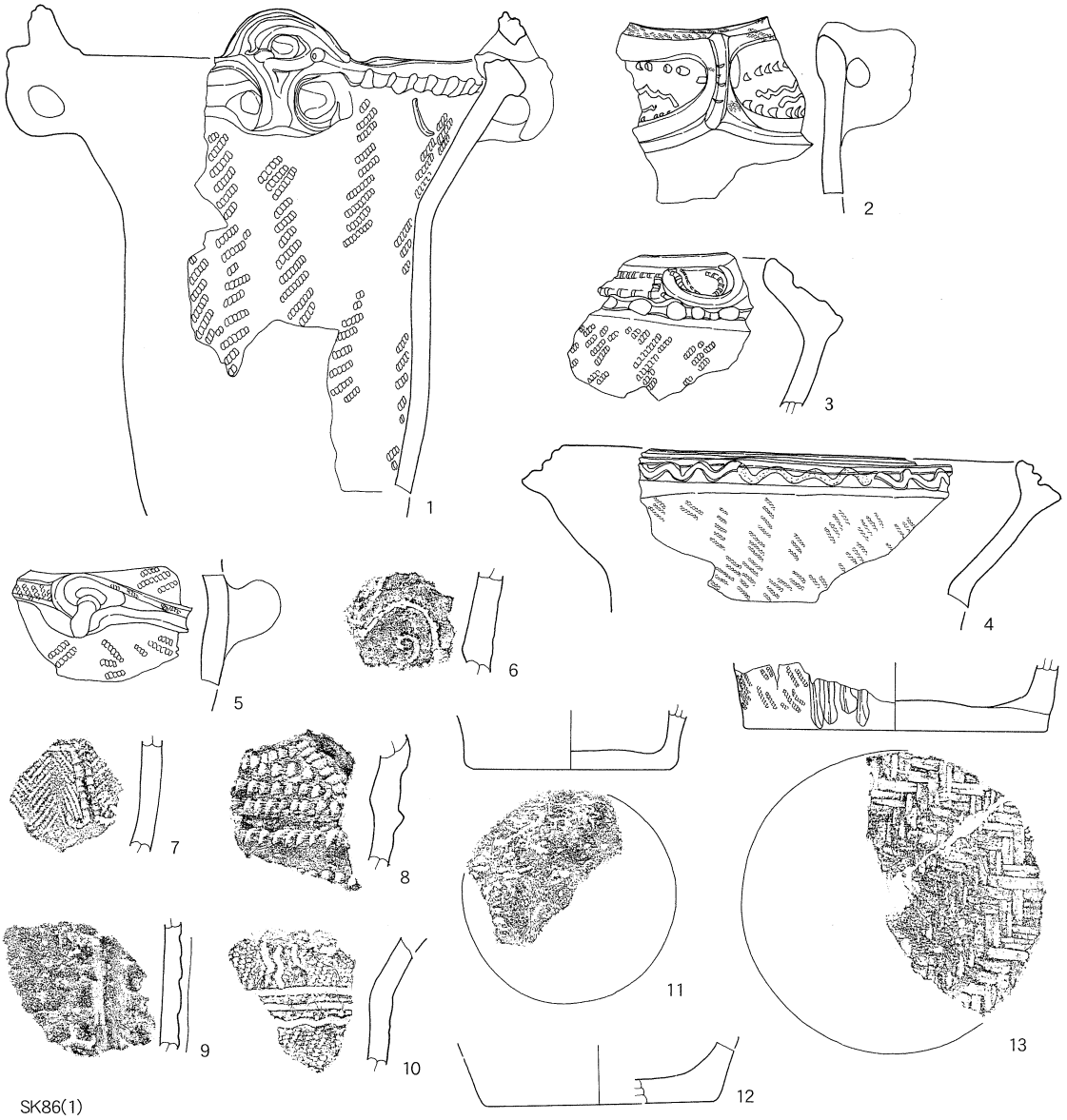
第92図　土坑SK80・82・83出土遺物

0　10cm
(1/4)



SK84

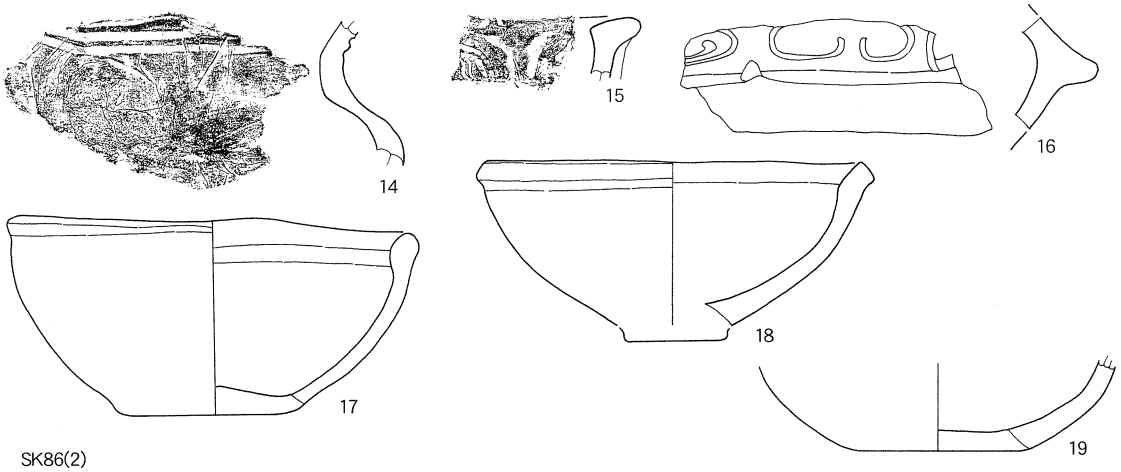
SK85



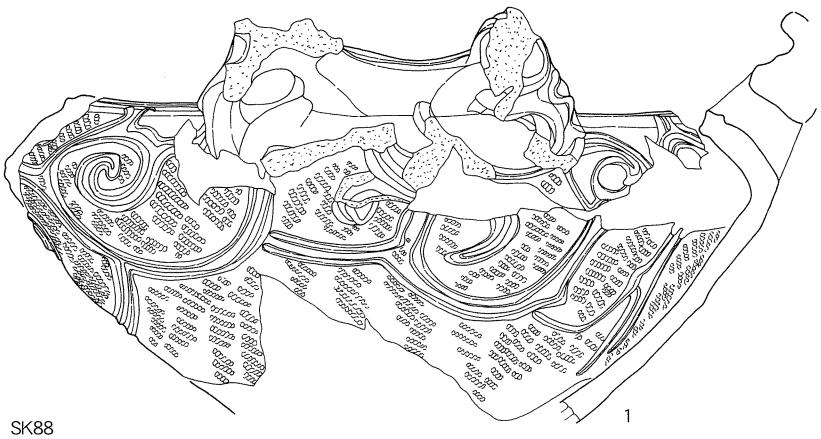
SK86(1)

第93図　土坑SK84・85・86(1)出土遺物

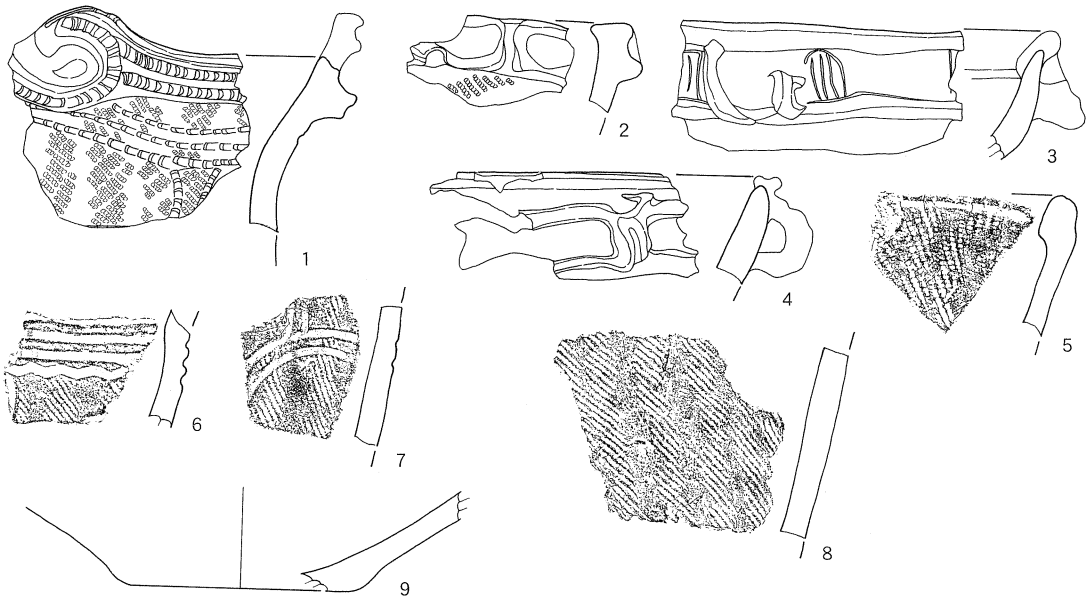
0　10cm
(1/4)



SK86(2)



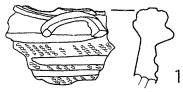
SK88



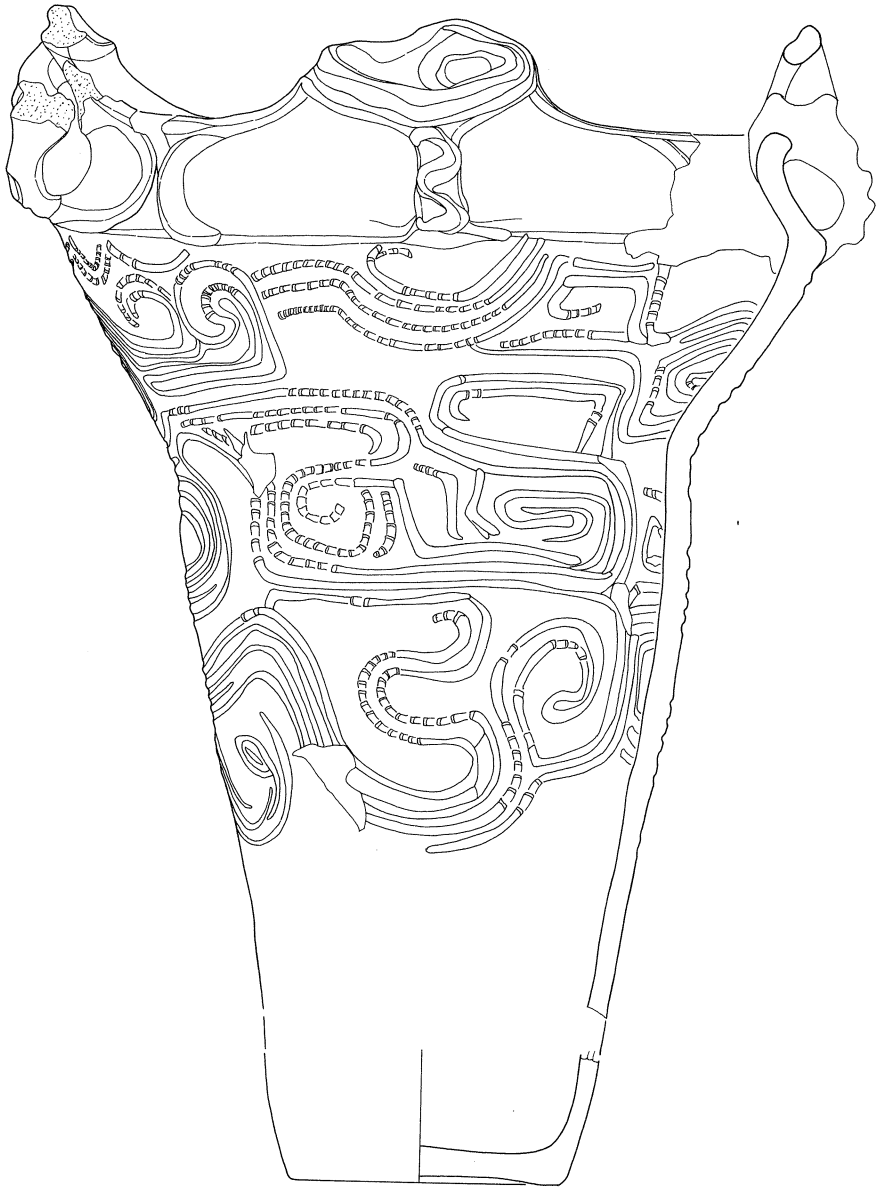
SK89

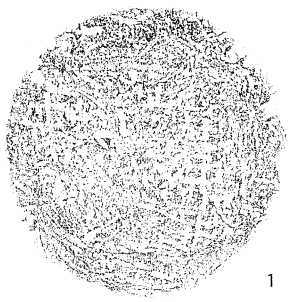
第94図　土坑SK86(2)・88・89出土遺物

0　10cm
(1/4)



SK90

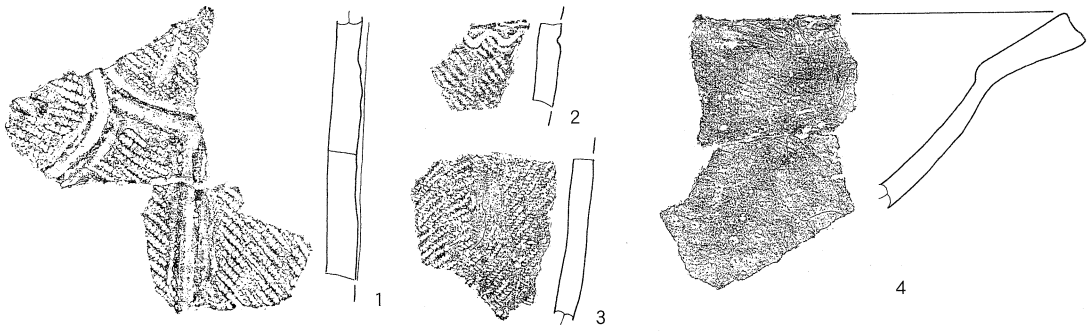




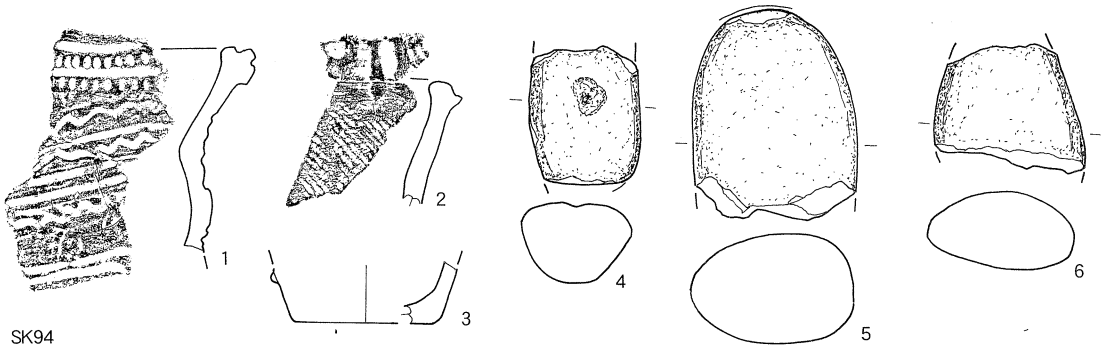
SK91

第95図　土坑SK90・91出土遺物

0　10cm
(1/4)

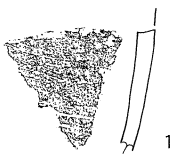


SK93

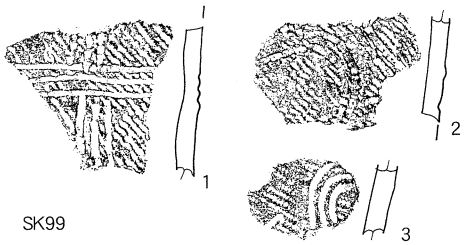


SK94

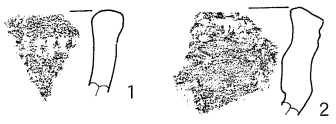
SK95



SK98

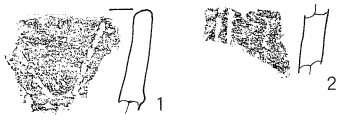


SK99



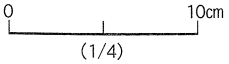
SK101

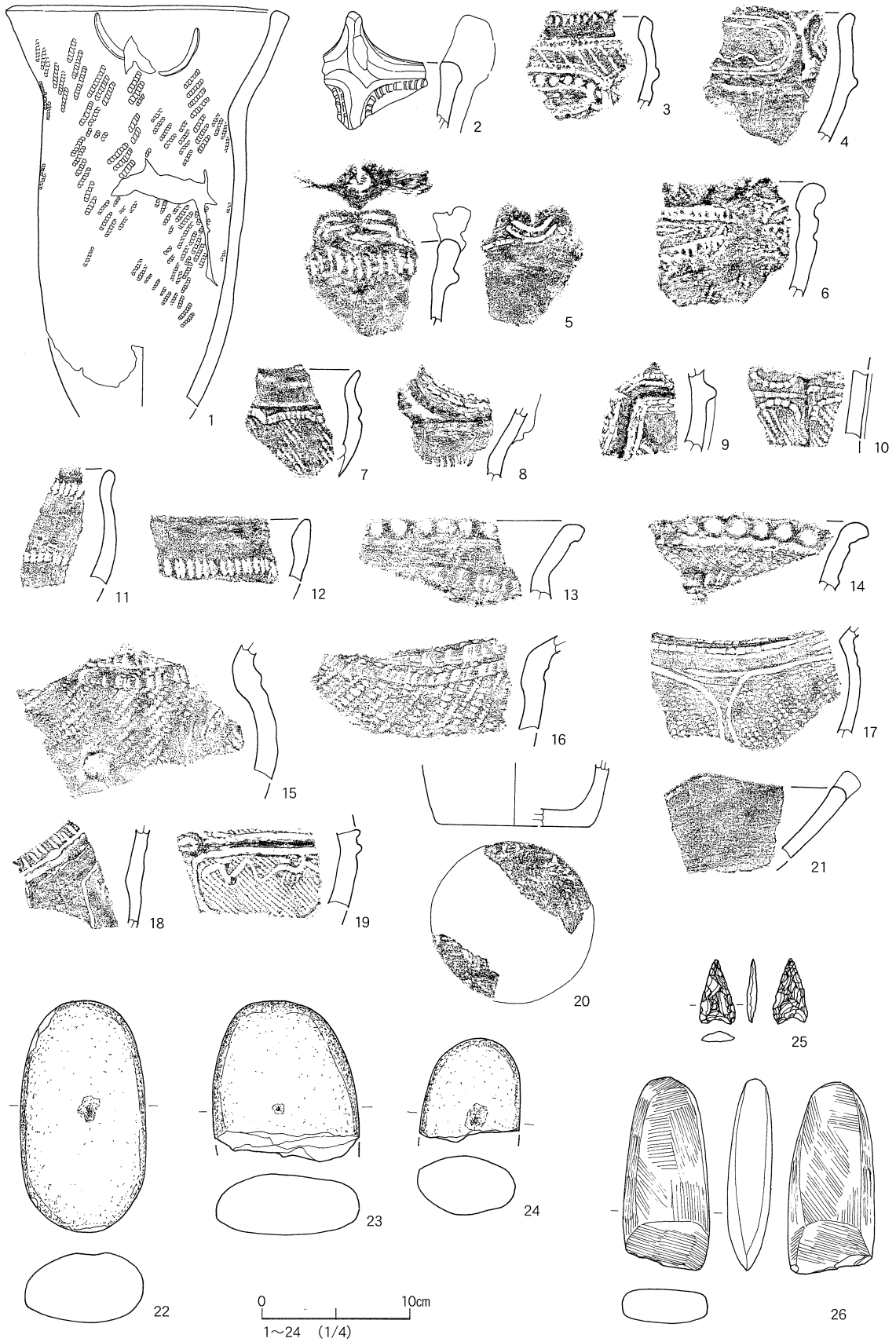
SK102



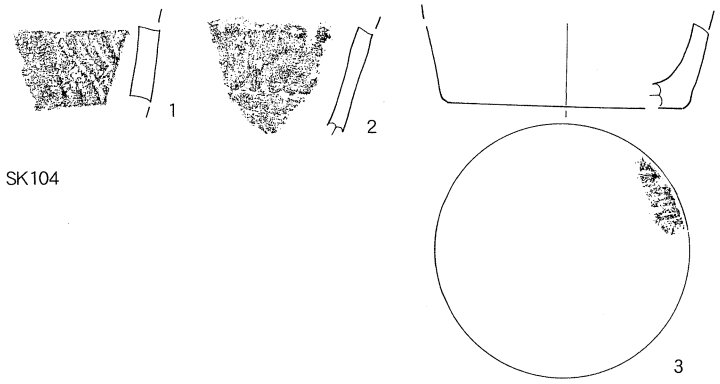
SK103

第96図　土坑SK93・94・95・98・99・101・102・103出土遺物

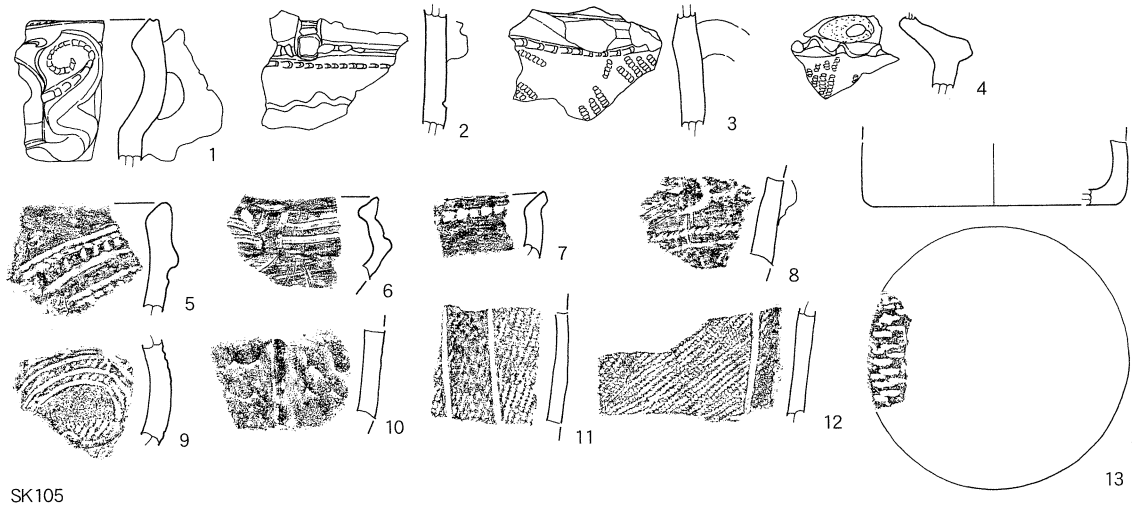




第97図　土坑SK100出土遺物

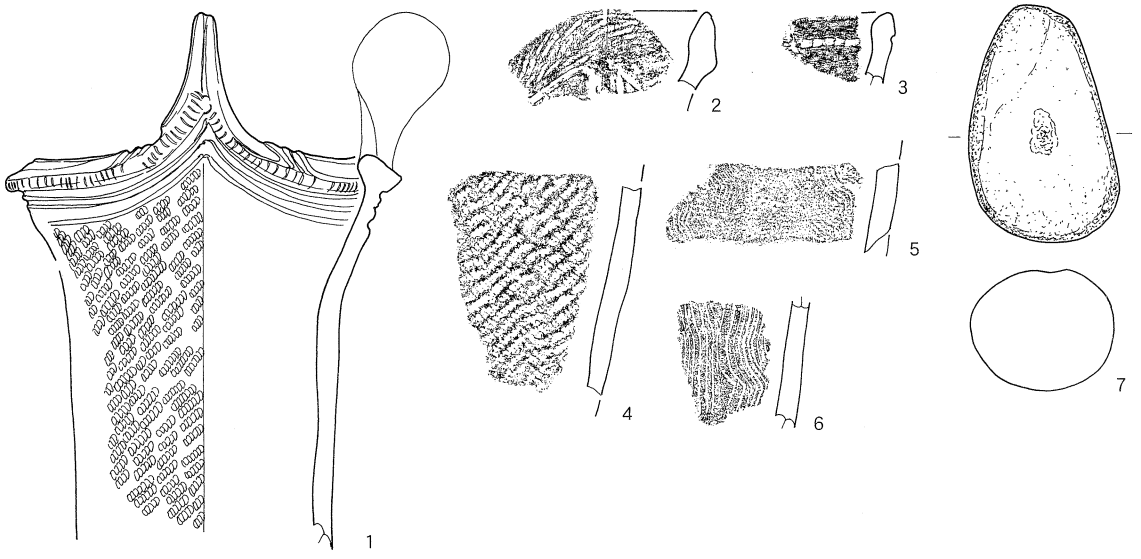


SK104



SK105

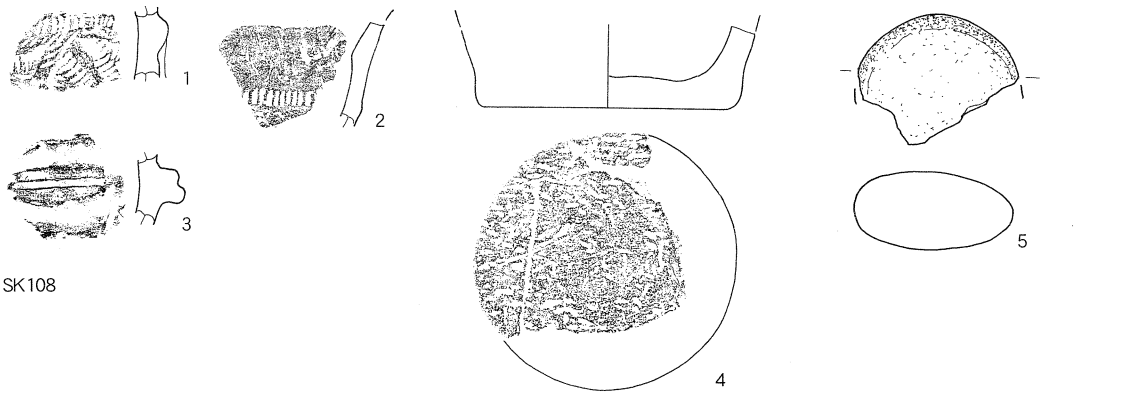
SK106



SK107

第98図　土坑SK104・105・106・107出土遺物

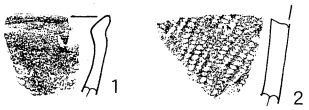
0　10cm
(1/4)



SK108

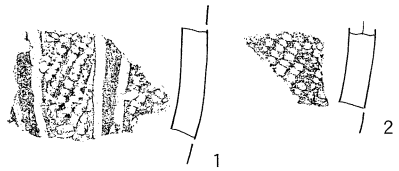
SK109

SK110

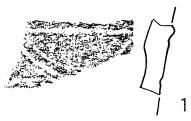


SK111

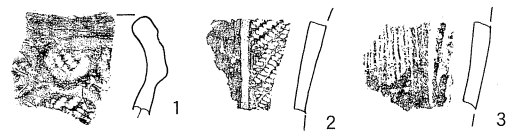
SK112



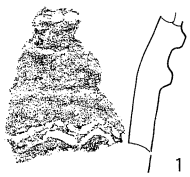
SK114



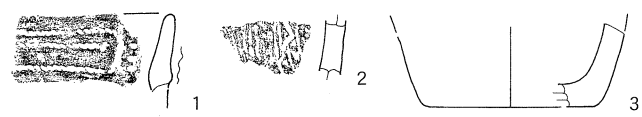
SK115



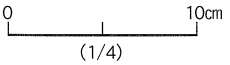
SK116



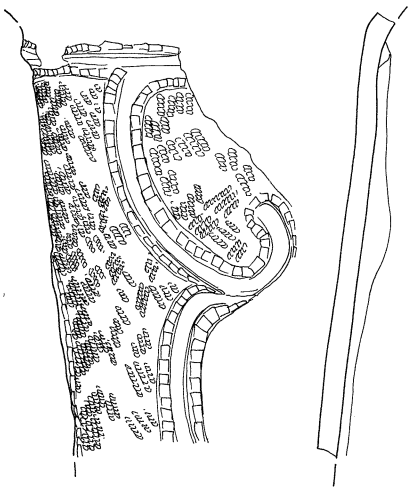
SK117



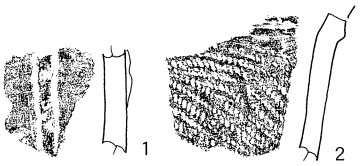
SK120



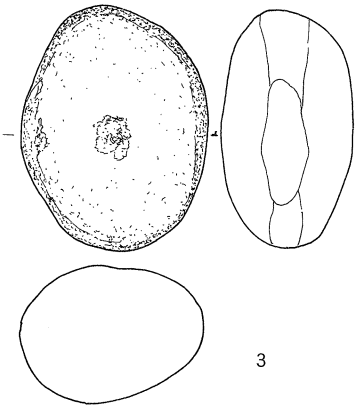
第99図　土坑SK108・109・110・111・112・114・115・116・117・120出土遺物

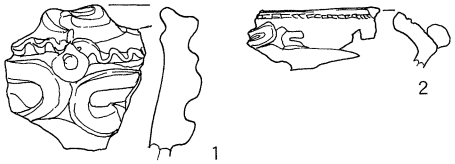


SK121

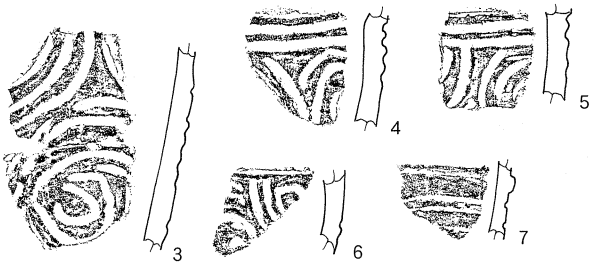


SK122





SK124



SK125

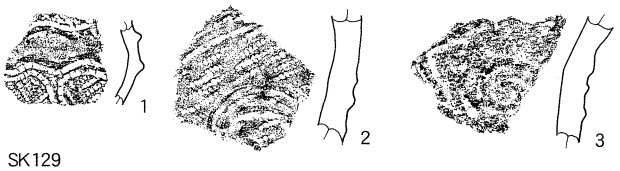
SK126

SK127

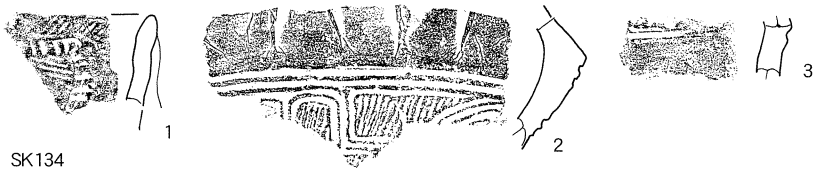
第100図　土坑SK121・122・124・125・127出土遺物

0　10cm
(1/4)

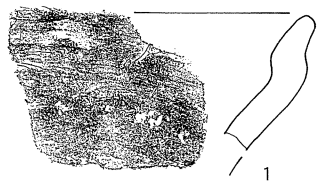
SK128



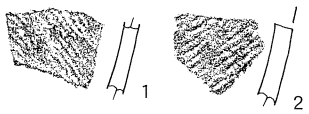
SK129



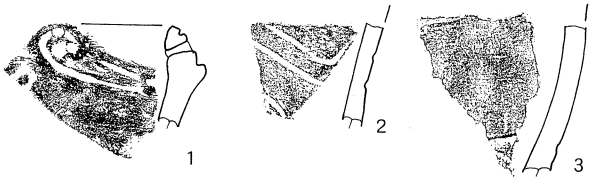
SK134



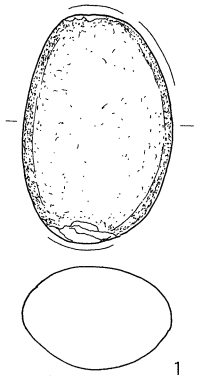
SK135



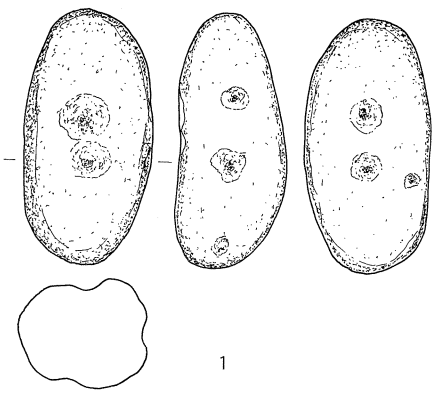
SK138



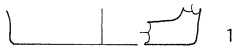
SK139



SK141



SK144

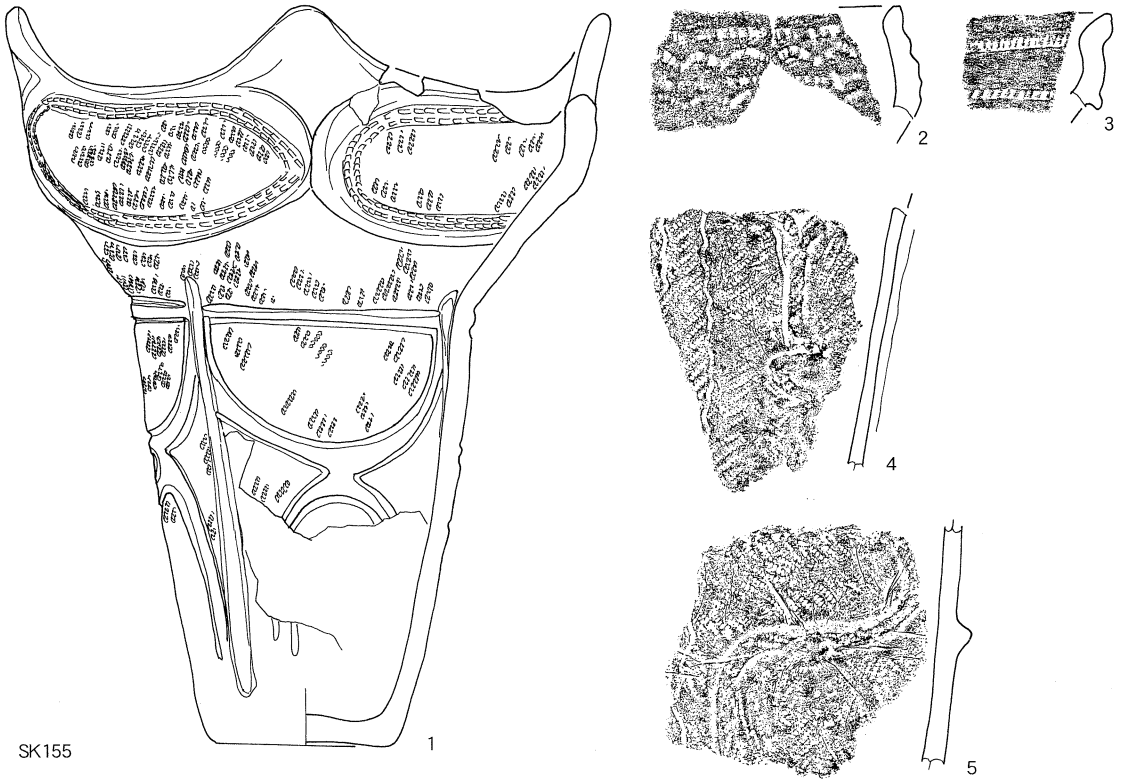


SK149

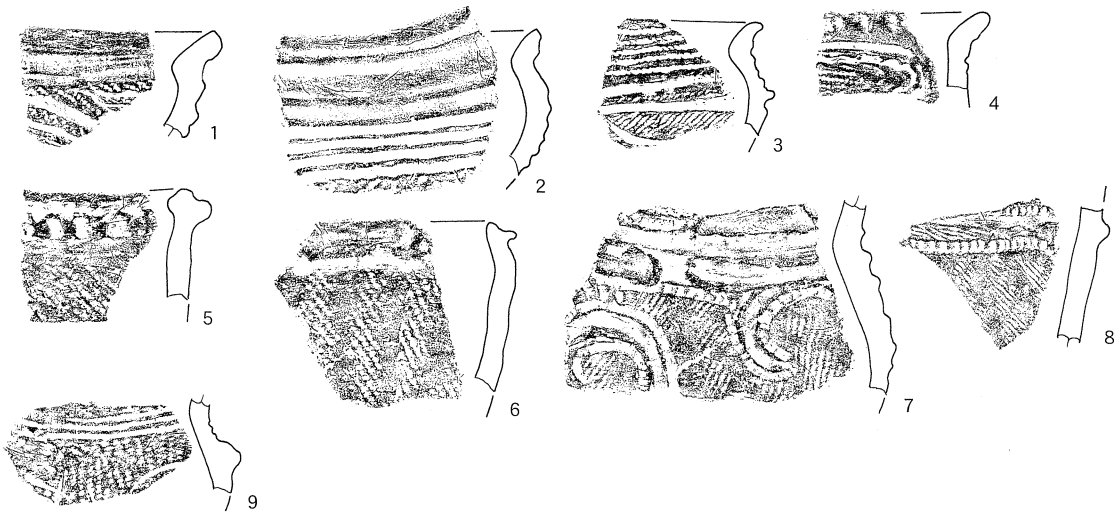
第101図　土坑SK128・129・134・135・138・139・141・144・149出土遺物

0　10cm
(1/4)

SK153



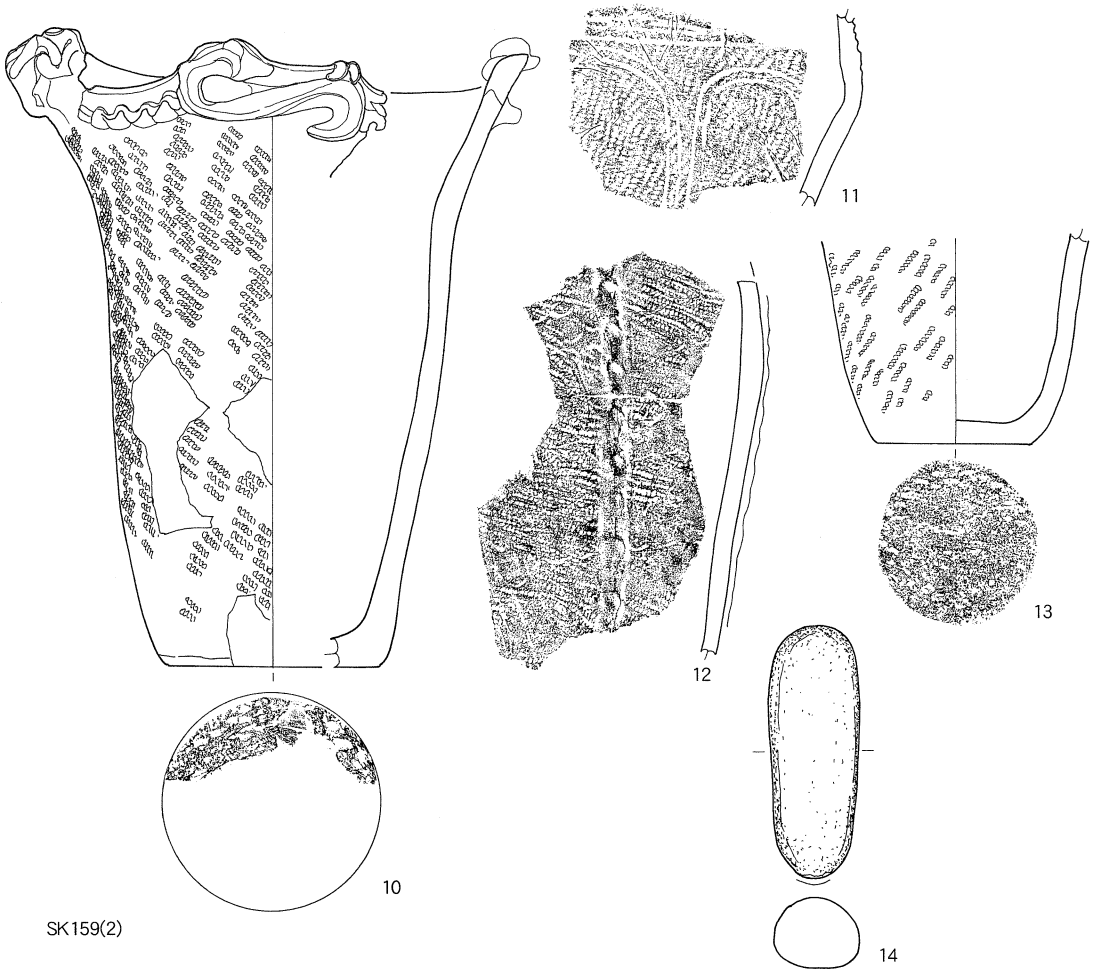
SK155

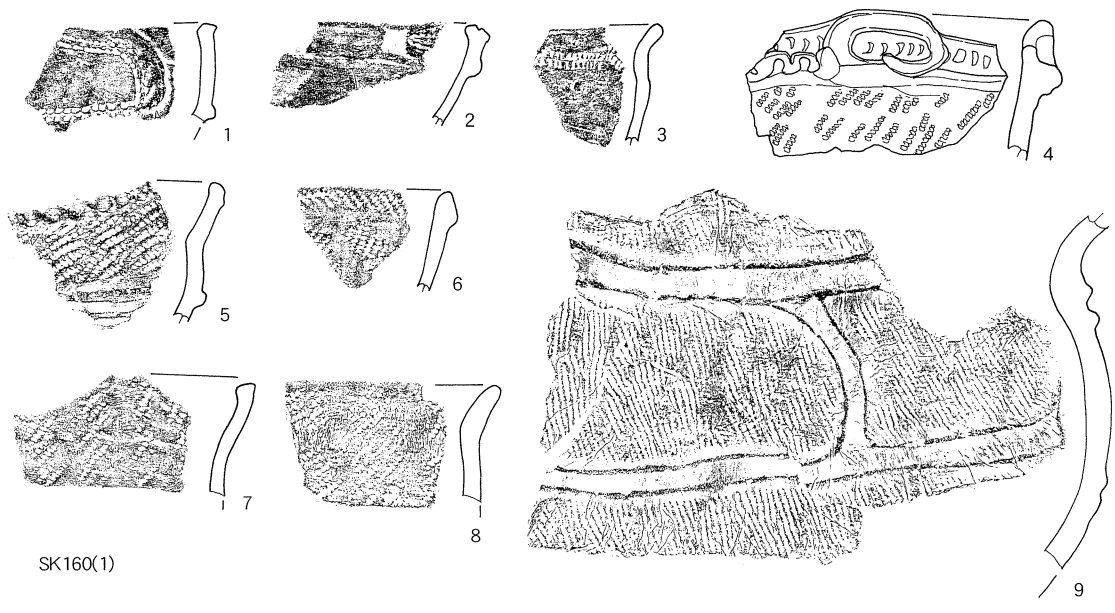


SK159(1)

第102図　土坑SK153・155・159(1)出土遺物

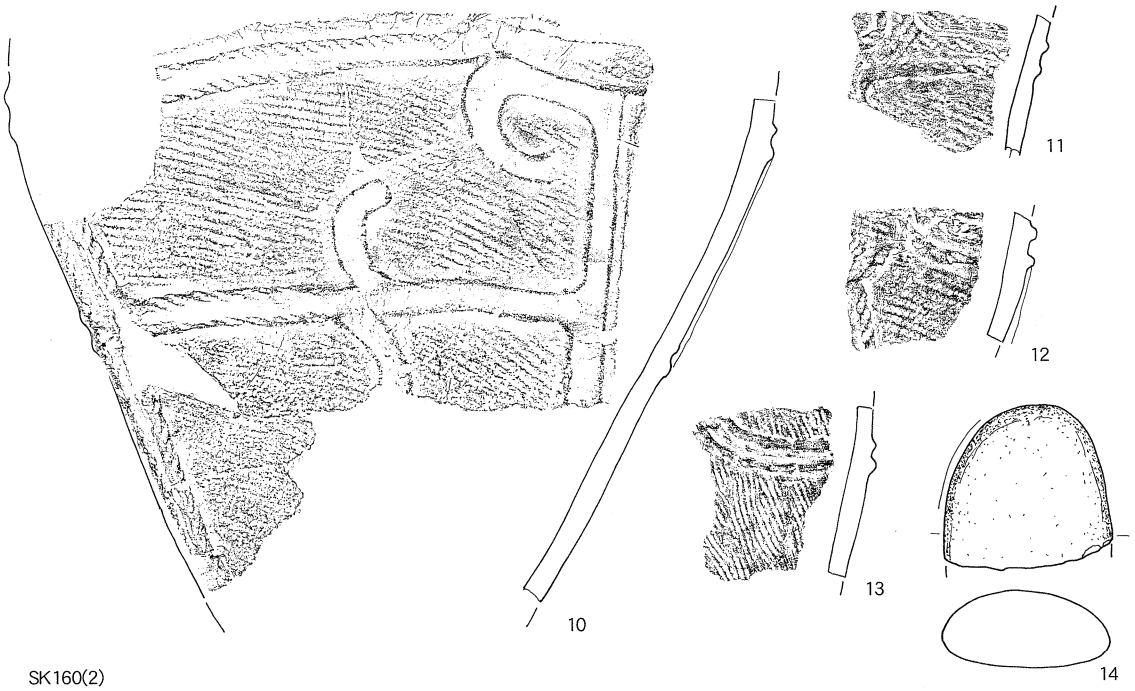
0　10cm
(1/4)

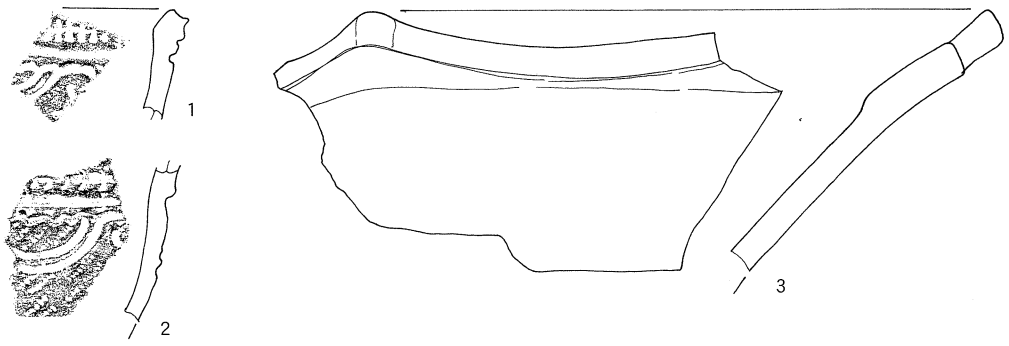


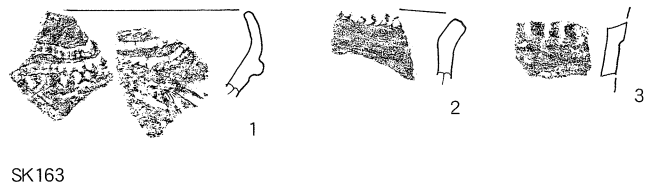


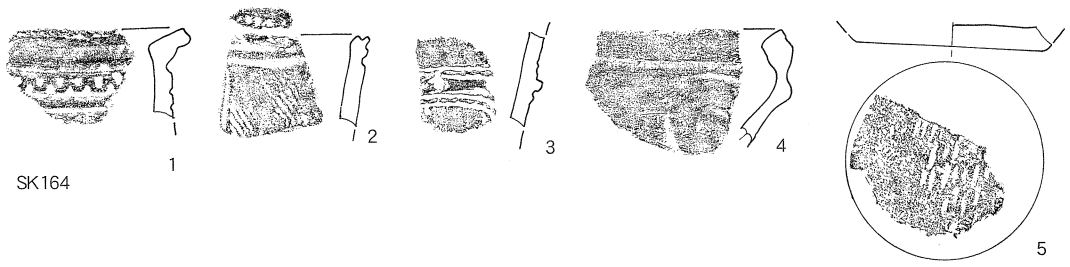
第103図　土坑SK159(2)・160(1)出土遺物

0　10cm
(1/4)

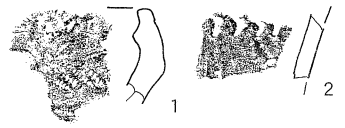






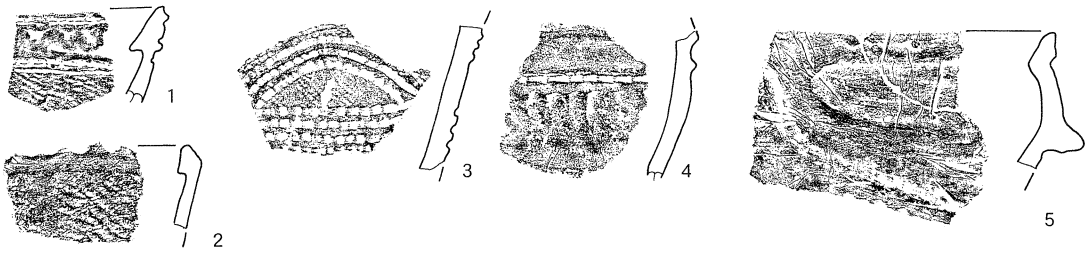


第104図　土坑SK160(2)・162・163・164出土遺物

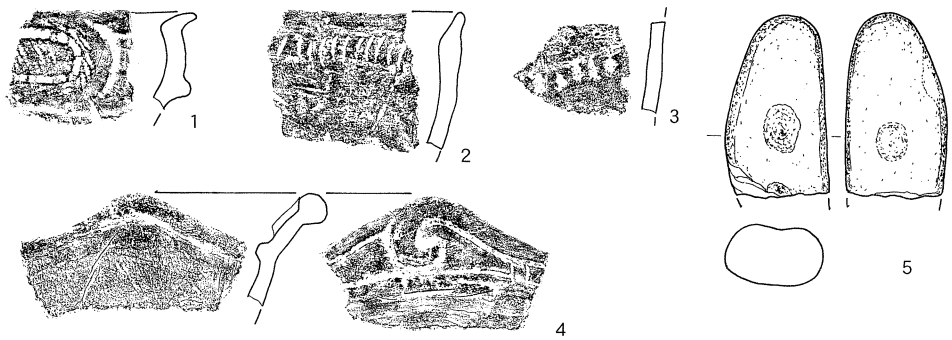


SK165

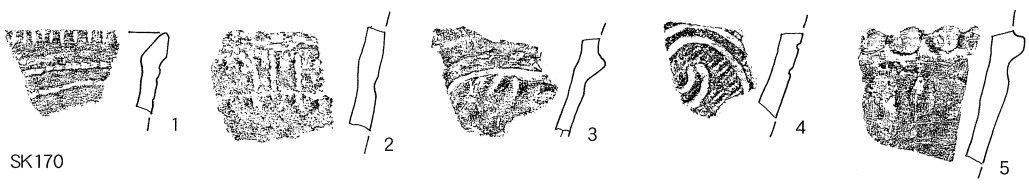
SK166



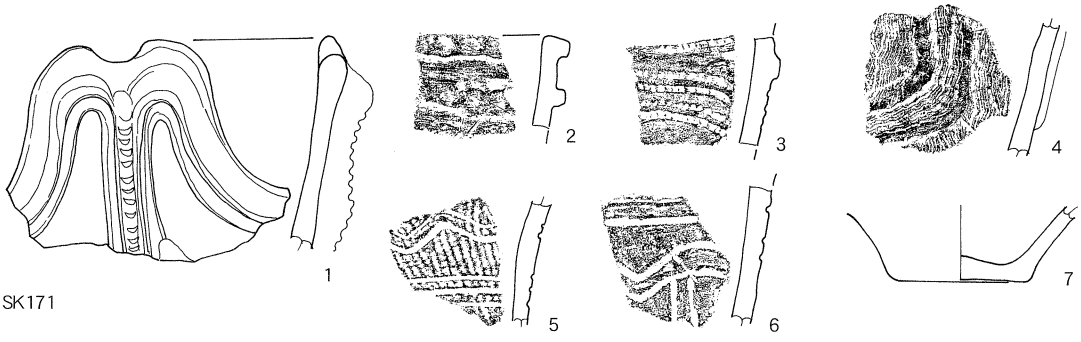
SK167



SK169



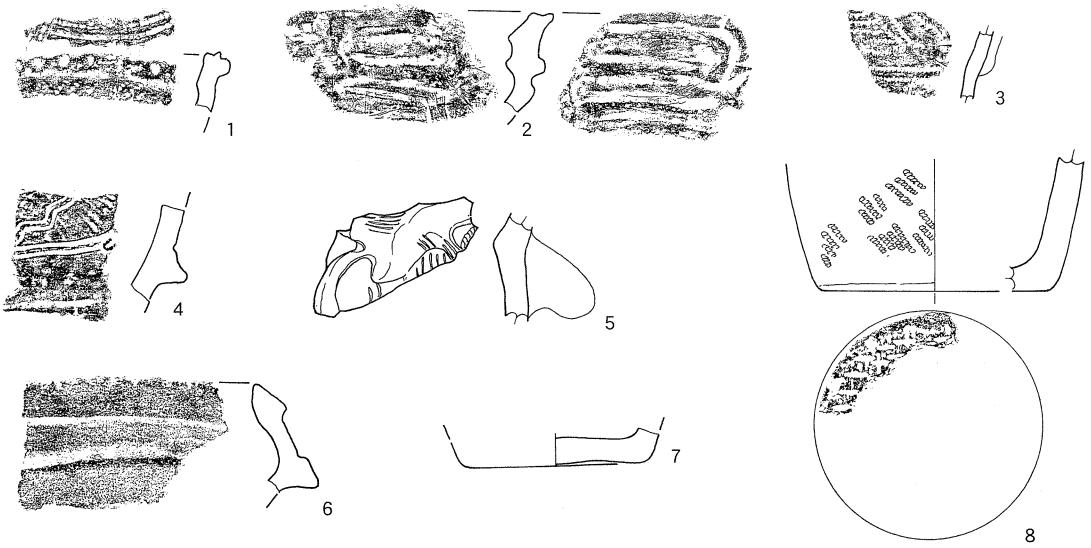
SK170



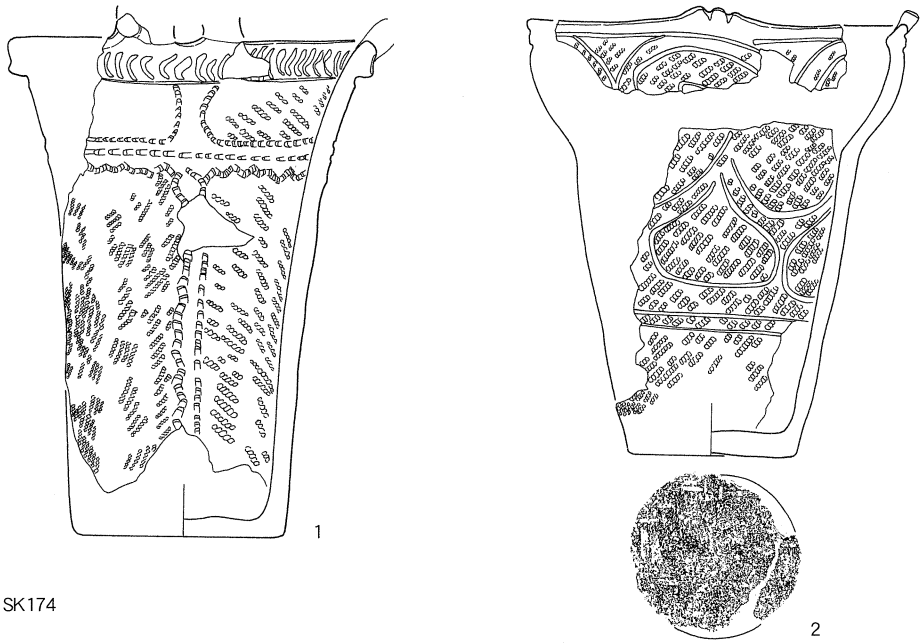
SK171

第105図　土坑SK165・166・167・169・170・171出土遺物

0　10cm
(1/4)



SK172



SK174

第106図　土坑SK172・174出土遺物

0　10cm
(1/4)

第５節　平安時代の遺構と遺物

1）住居跡SI02（第108～110図）

調査区の西端、Ⅱ区に位置する。立地する標高は54.55～54.93mの緩傾斜面で、規模は南北軸長3.43m、東西軸長3.72mを測り、主軸方位はＮ－22°－Ｗを示す。平面形はほぼ正方形を呈する。カマドは北壁中央に設置されており、壁面はほぼ垂直気味に立ち上がり、壁高は3.2～35.5cmを測る。床面はほぼ平坦で、多量のローム粒・ロームブロックを混入した褐色土を敷きつめ、貼床にしていた。貼床は、カマド前面から住居の中央部が顕著であったが、ほぼ全面硬化面が確認できる。柱穴はカマド前面に径31.0×38.0cm、深さ16.8cmの円形で、支柱穴であろう。なお、壁溝は検出されていない。覆土は３層に分層でき、レンズ状堆積を示す自然堆積である。

カマドは北壁のほぼ中央に設置され、遺存状況は比較的良好である。北壁面を50.0cm楕円形状に掘り込んで煙道部としている。規模は焚口部から煙道部までの長さ103.0cm、検出された両袖間の最大幅108.0cm、袖部溝築材は灰白色粘土で構築されている。火床部は長65.0cm、短径60.0cm、深さ3cmの円形を呈し、底面は被熱による赤化硬化している。カマド覆土は２層に分層しているが、燃焼部床面には２層黒褐色土が堆積し、その上部から煙道部下層にかけて１層黒褐色土層が堆積する。

住居掘形はほぼ全体を深さ４～８cm前後にわたり掘削していた。貼床はローム粒・ロームブロックを多量に含む褐色土である。

遺物は土師器・高台付坏。須恵器・坏、甕が出土している。遺物の出土量は全体的に少なく、いずれもカマド周縁の床面直上で出土している。

１・２は土師器・高台付坏である。ロクロ成形で、内面は入念なヘラミガキの後、黒色処理が施されている内黒土器である。３は須恵器・坏で、ロクロ成形である。４・５は甕の破片である。４は底部破片で、底部周縁はヘラケズリで整形されている。５は口縁部が大きく外反し端部で摘まみ上げられている。外面は縦位のタタキ調整。内面はナデ整形。これらはいずれも９世紀代に比定される。

第６節　中世以降の遺構

1）井戸跡SE01（第110図）

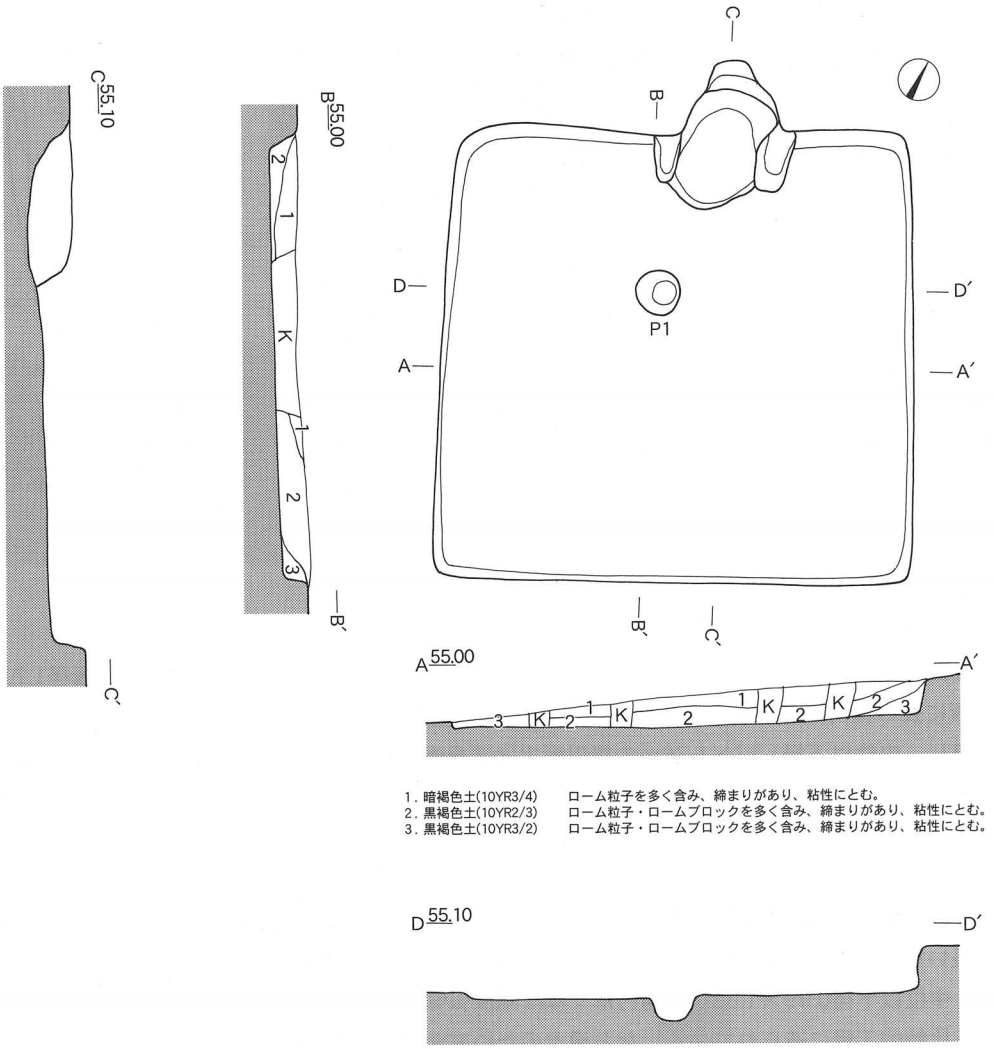
調査区の東側、Ⅱ区に位置し、立地する標高は58.00～58.07mのほぼ平坦部。規模は長径1.44m、短径1.24mを測り、平面形はやや東西に長い楕円形を呈する素掘りの井戸である。壁面は検出面から105.0cmまで外傾して立ち上がり横断面が漏斗状を呈し、中位以下径0.74×0.80mの円形でほぼ垂直気味の筒状に掘り込まれている。壁面には明瞭な掘削痕は認められず、比較的丁寧に造られている。なお湧水のため底面まで完掘することができなかったが、湧水層までは検出面から120cmである。同じく覆土の土層観察も湧水の関係で120cmまでである。少なくとも上層はレンズ状堆積を示す自然堆積である。

２）井戸跡SE02（第110図）

調査区の東側、Ⅱ区に位置し、立地する標高は57.76～57.80mのほぼ平坦部。規模は長径1.39m、短径1.37mを測り、平面形は円形を呈する素掘りの井戸である。壁面は検出面から110.0cmまで外傾して立ち上がり横断面が緩い漏斗状を呈し、中位以下径0.98×0.99mの円形でほぼ垂直気味の筒状に掘り込まれている。壁面には明瞭な掘削痕は認められず、比較的丁寧に造られている。なお湧水のため底面まで完掘することができなかったが、湧水層までは検出面から115cmである。同じく覆土の土層観察も湧水の関係で150cmまでである。少なくとも上層はレンズ状堆積を示す自然堆積である。

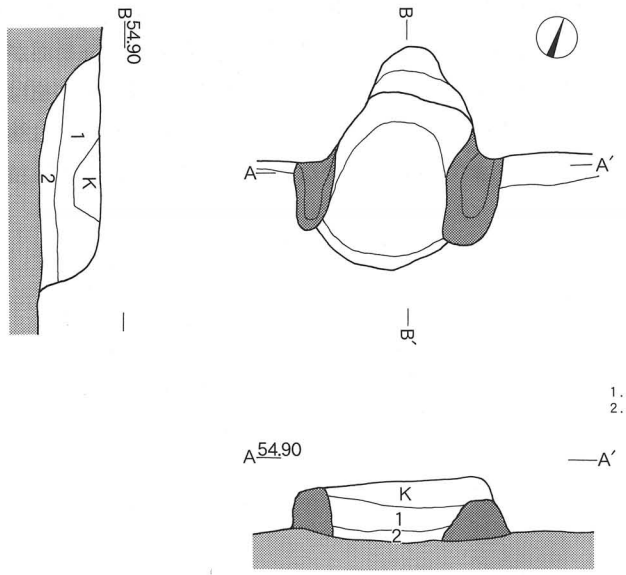
3）井戸跡SE03（第110図）

調査区の中央Ⅰ区に位置し、未調査区域の延びており、北側で土坑ＳＫ63を切っている。立地する標高は58.38～58.48mのほぼ平坦部。規模は長径1.90m、短径1.50mを測り、平面形はほぼ円形を呈する素掘りの井戸である。壁面は検出面から150.0cmまで外傾して立ち上がり横断面が漏斗状を呈し、中位以下径1.42×1.41mの円形でほぼ垂直気味の筒状に掘り込まれている。壁面には明瞭な掘削痕は認められず、比較的丁寧に造られている。なお湧水のため底面まで完掘することができなかったが、湧水層までは検出面から150cmである。同じく覆土の土層観察も湧水の関係で150cmまでである。少なくとも上層はレンズ状堆積を示す自然堆積である。



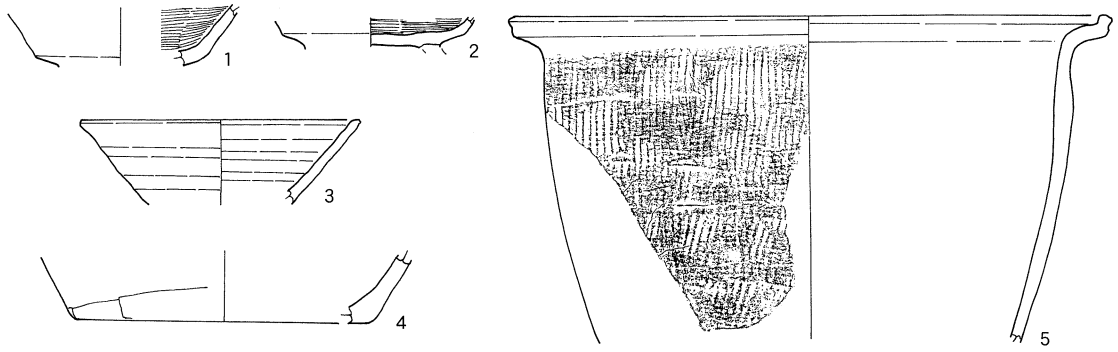
1．暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子を多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。
3．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第107図　住居跡SI02実測図



1．黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子・ロームブロックを僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。
2．黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子・焼土粒を僅かに含み、締まりがあり、粘性にとむ。

第108図　住居跡SI02カマド実測図



第109図　住居跡SI02出土遺物

4）井戸跡SE04（第110図）

調査区の中央Ⅱ区に位置し、立地する標高は56.60～56.65mのほぼ平坦部。規模は長径2.13m、短径1.71mを測り、平面形はやや東西に長い楕円形を呈する素掘りの井戸である。壁面は検出面から30.0cmまで外傾して立ち上がり横断面が漏斗状を呈し、中位以下径1.37×1.76mの楕円形でほぼ垂直気味の筒状に掘り込まれている。壁面には明瞭な掘削痕は認められず、比較的丁寧に造られている。なお湧水のため底面まで完掘することができなかったが、湧水層までは検出面から170cmである。覆土はレンズ状堆積を示す自然堆積である。

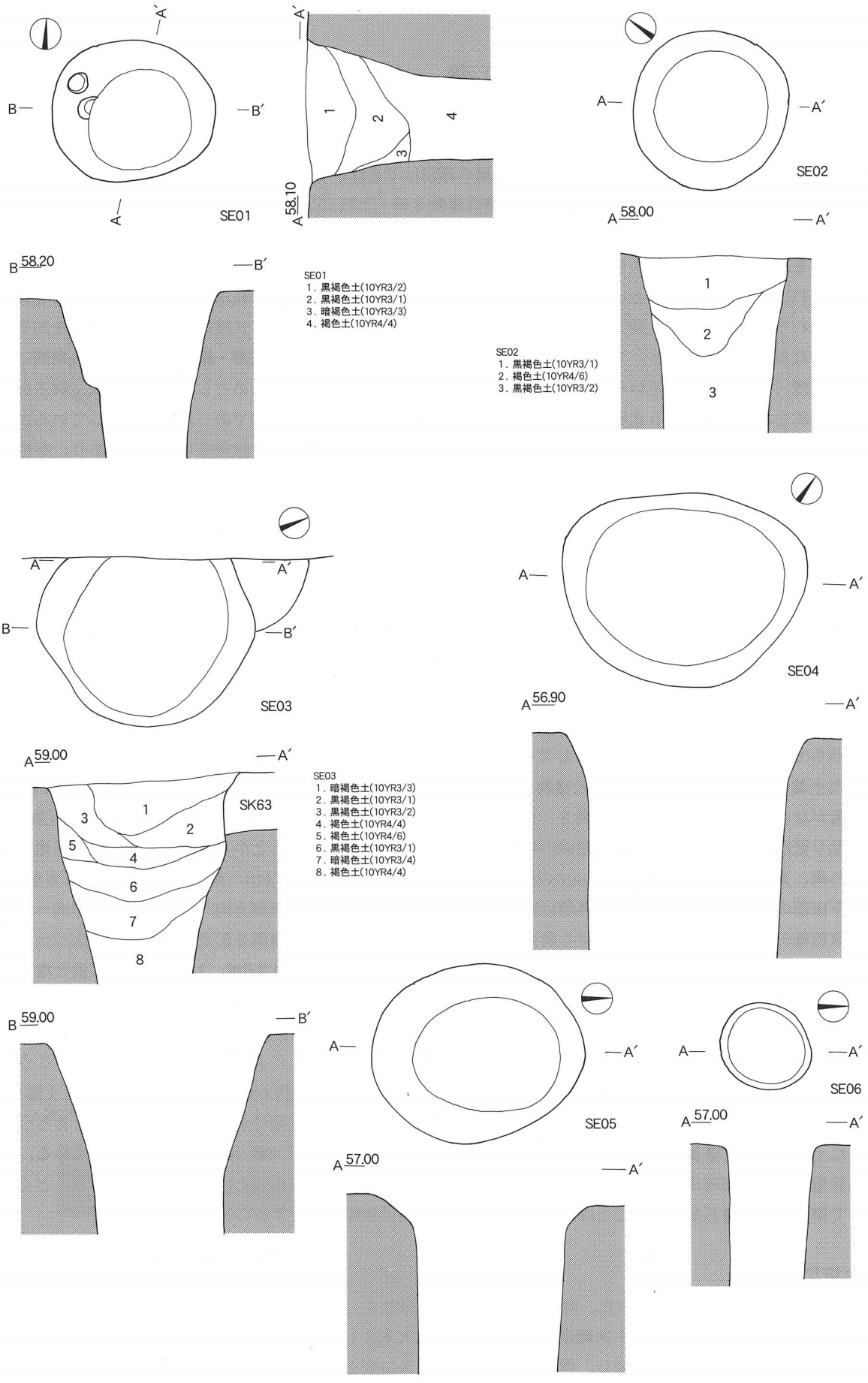
5）井戸跡SE05（第110図）

調査区の中央Ⅱ区に位置し、立地する標高は56.68～56.77mのほぼ平坦部。規模は長径1.88m、短径1.58mを測り、平面形は南北に長い楕円形を呈する素掘りの井戸である。壁面は検出面から40.0cmまで外傾して立ち上がり横断面が漏斗状を呈し、中位以下径0.99×1.33mの楕円形でほぼ垂直気味の筒状に掘り込まれている。壁面には明瞭な掘削痕は認められず、比較的丁寧に造られている。なお湧水のため底面まで完掘することができなかったが、湧水層までは検出面から150cmである。同じく覆土の土層観察も湧水の関係で150cmまでである。少なくとも上層はレンズ状堆積を示す自然堆積である。

6）井戸跡SE06（第110図）

調査区の中央Ⅱ区に位置し、立地する標高は56.78～5.81mのほぼ平坦部。規模は長径0.78m、短径0.77mを測り、平面形は小型の円形を呈する素掘りの井戸である。壁面は検出面から20.0cmまで外傾して立ち上がり横断面が漏斗状を呈し、中位以下径0.67×0.67mの円形でほぼ垂直気味の筒状に掘り込まれている。壁面には明瞭な掘削痕は認められず、比較的丁寧に造られている。なお湧水のため底面まで完掘することができなかったが、湧水層までは検出面から120cmである。同じく覆土の土層観察も湧水の関係で120cmまでである。少なくとも上層はレンズ状堆積を示す自然堆積である。

（小川　和博）



第110図　井戸跡SE01・02・03・04・05・06実測図

0　1m
(1/50)

第Ⅲ章　まとめ

1．はじめに

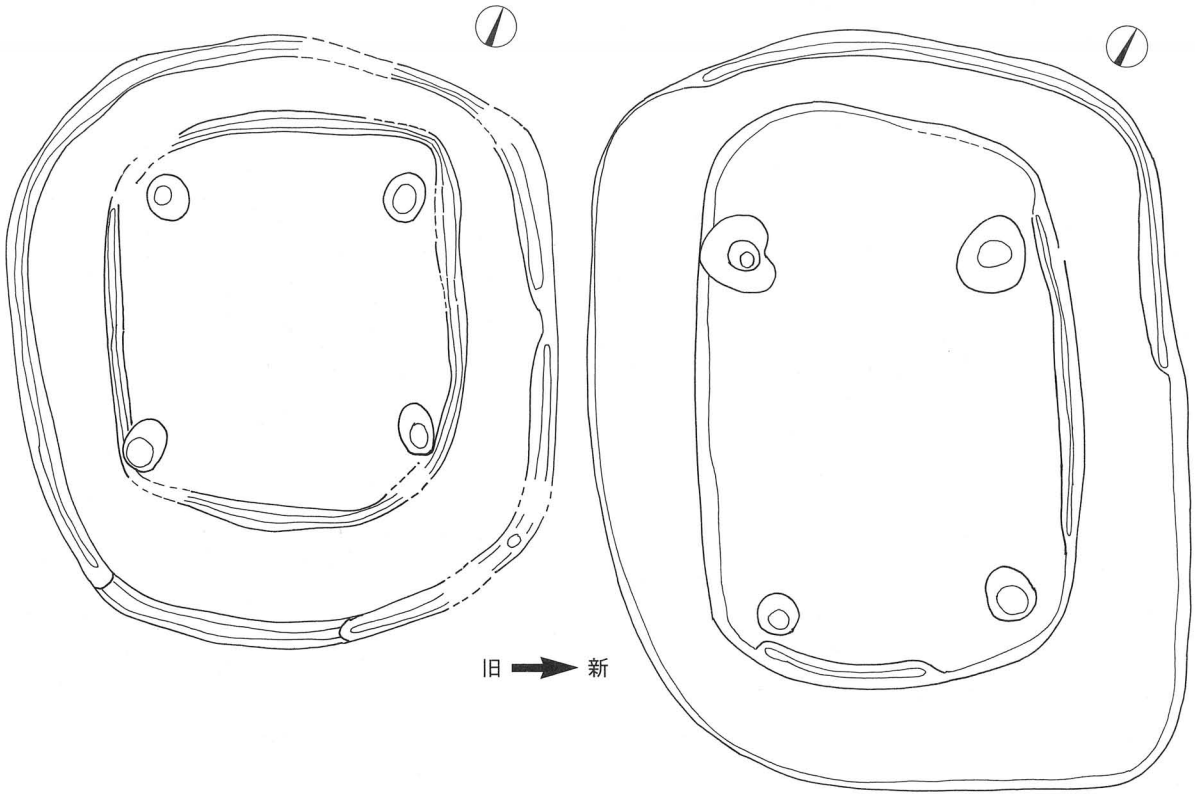
西塙遺跡における今回の調査では、遺構よび文化層の確認はできなかったものの旧石器時代の剥片が出土している。そして主となる縄文時代中期の住居跡１軒・有段竪穴建物４軒・土坑152基。平安時代の竪穴住居跡１軒。中世以降に比定される井戸跡６基、土坑20基。その他風倒木痕２基である。とくに縄文時代の遺構および遺物量の豊富さでは他の時期を圧倒している。しかも時期は中期中葉を主体に後半期においてはわずかな遺構・遺物を検出しただけであった。これは既に第１次調査というべき一昨年度に実施した隣接する地区との様相とは全く異なることを意味している。すなわち第１次では古く縄文時代前期前半大木１式期段階から晩期大洞Ｂ式段階まで幅広い時期を知ることができ、主となる時期も大木８ｂ、９ａ式期から中期末葉、後期前半期の称名寺式期・綱取式段階まで長期間にわたり安定した遺構・遺物を検出しているのに対し、今回ここでは大木７ｂ式期をはじめとし、大木８ａ式、阿玉台Ⅱ～Ⅳ式段階が主体となり、大木８ｂ式期は極端に少ないという比較的短期間の居住域であったことを示しているからである。距離にして100mに満たない同じ地続きの段丘上で、緩傾斜面の高位面が今回実施した箇所であり、下位面で丘陵縁辺部が前回調査区である。このことは谷部や山部といった見た目明瞭な景観に関係なく、時期における明確な住み分け、土地の区画が行われていたことが想定される。将来部分的にでも中間区域の学術調査を実施するのも意義があろう。

2．有段竪穴建物について

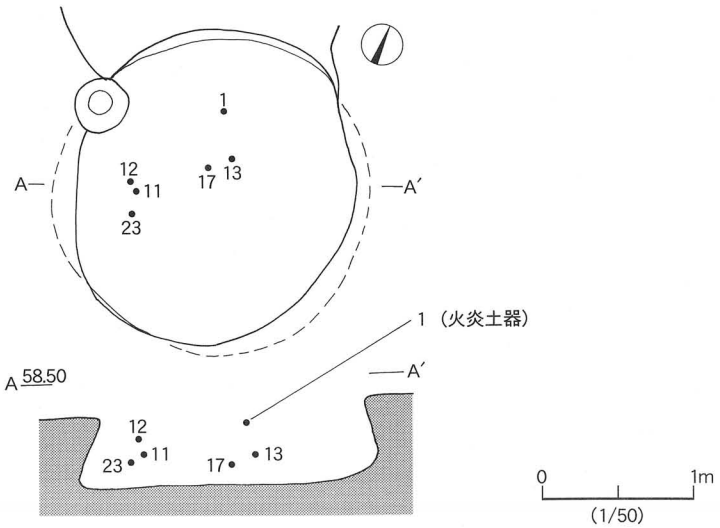
縄文時代の遺構のうち注目されているひとつが「有段式竪穴住居」「有段式竪穴遺構」等と呼称されている有段竪穴建物跡である。縄文時代中期中葉から後半にかけてとくに東部関東地方においてみられる特別な遺構である。これは床面が上下二段に掘り窪められた建物で、今回SI03・04・05・06の４軒を確認することができた。しかし、このなかでSI04は二段床面の上床部を確認できていない。しかし、すでに確認面において上床部が削平されたものと判断したからである。まず掘形がしっかりしていること、形状が長方形を呈していること、炉跡を検出できないこと、さらに出土遺物の少なさなどが有段竪穴建物とした根拠になっている。他の３軒は二段床面であることはもちろん、炉の設置がないなどSI04で検証した条件を一応備えている。ここで問題はSI06と呼称した重複建物である(第111図)。明確な貼り壁は確認できなかったが、壁溝の埋戻し、貼床行為が明瞭であることから新旧が判明した。旧建物跡は上床部の外周、東西軸5.72m、南北軸6.50mの隅丸方形。下床部外周東西軸3.71m、南北軸4.50mのほぼ方形を呈し、柱穴は下床部の４本隅柱である。新期外周は旧有段竪穴の外周南隅を起点に東側方向へ0.35m、北側方向へ1.50m拡張し、東西軸6.28m、南北軸7.91mを測る隅丸長方形。また下床部もやはり南隅を起点に東側方向へ0.22m、北方向へ1.10m拡張し、東西軸4.07m、南北軸5.97mの長方形である。面積では約12.5㎡、1.4倍前後の拡張となろう。なお、新期下床部の北西隅が掘り込まれて大きく歪んでいる。調査当初から壁面の状態が堅緻ではないことから北壁の一部が崩落したものではないかと判断した。掘形調査で30cm程内側に壁溝が検出できたことからも傍証可能であろう。また柱穴もやはり下床部の４本隅柱で、起点となった南隅には建て替えによる柱穴が集中していた。こうした拡張という有段竪穴建物としてはたいへん特異な形態をもつと同時に、出土遺物も特徴的である。まず出土土器も多く、阿玉台Ⅱ式から大木８ｂ式期と幅がみられるが、阿玉台Ⅳ式から大木８ｂ式期にかけて比定してよいであろう。またこうした土器のほかに多量の磨石類が検出されたことである。今回の調査では磨石類の出土は突出している。石器素材の供給地は眼下の那珂川であり、その量は無尽蔵である。石材の選択も安山岩と砂岩に集中しており、とくに作業痕として磨面のみの磨石が目立つことはこうした有段竪穴建物の機能を示唆することになる。

3．土坑について

縄文時代の土坑は152基確認された。時期的にみて幅広くはなく、阿玉台Ⅱ式期から阿玉台Ⅳ式期、大木８ａ式期に集中している。目立たないが第１次調査の主体でもあった大木８ｂ式期もみられ、また加曽利Ｅ３式の土坑も確認されている。大半の土坑は円形を呈し、壁面が内傾するフラスコ型もしくは袋型である。ここでも例外なく壁面が奥



第111図　有段竪穴SI06新旧実測図



第112図　土坑SK01出土遺物分布図(番号は挿図(第60図)番号と一致)

深く掘削されるフラスコ型が古く、若干掘り込みのある袋型が新期となる。いうまでもなくフラスコ型土坑では完形もしくは完形に近い深鉢の出土が多く、土坑SK78を典型とする。阿玉台Ⅱ式と大木８ａ式の土器が出土している。

なお、ここで注目しておきたい土坑として土坑SK01がある(第112図)。調査区の中央部に位置する径2m前後のやや大型のフラスコ型土坑である。確認面が耕作による撹乱を受けており、深さ50cmほどであるが、本来はその倍以上の１ｍを超えることは確かであろう。問題はこの覆土から火炎土器の1/4個体が出土したことである。底部から口縁部に至るまで復元実測することができ、県内においても良好な資料のひとつとなった。報文中でも記載したとおり、大きさは口径29.0cm、器高31.8cm、底径16.0cmを測る。口縁部が内彎するキャリパー形を呈し、口辺部に環状把手、口縁部下にも袋状突起を伴う橋状把手が付く。口辺部には鋸歯状突起が巡り、胴上部の隆帯横Ｓ字状文や懸垂文には刻目が施されている。火炎中期段階に相当するものと判断した。この出土位置は底面から37.5cm浮いた第一次埋没土上面である。しかし、この第一次埋没土が山形にならずほぼ平坦を呈していることから土坑廃絶後、時間を空けないで土器の廃棄行為が行われた結果であろうと推定した(小川他2005)。

４．収束

前回の第１次調査と比較して、同一丘陵上にもかかわらず、とくに居住区域の住み分けが行われていたことが判明した。これは住居跡だけではなく、それに伴う土坑の配置も明瞭に区画されていた。全体の様相はあくまでも未調査区域が広いことから即断はできないとしても、緩傾斜面の高位面が古期で、低位面が新期であることは明らかである。またそれは同時に有段竪穴建物の位置関係と相関的な様相を呈している。すなわち、高位面の外縁をこの有段竪穴建物が占め、その内側に土坑群を集中させる。その後、集落は土坑の構築と伴に河川に近い段丘縁辺部である低位面へと移動していく。この河川側がより長期にわたる集落構成を維持していくのに対し、今回調査した高位面では集落の中心部であったにもかかわらず、短期間で終焉してしまうという遺跡の動態をここにみることができる。

(小川 和博)

参考文献

鈴木素行2002「越の旅人自立篇-茨城県水戸市塙東遺跡の「火炎土器」について」新潟県立歴史博物館研究紀要３号
小川和博他2005「高ノ倉遺跡」常陸大宮市教育委員会
辻弘和他2009「西塙遺跡発掘調査報告書」常陸大宮市教育委員会・パスコ

写真図版

1. 調査区全景（西から）

2. 調査区全景（西から）

1. 調査区全景（北から）

2. 調査区全景（南から）

1. 調査区近景（Ⅲ区）

2. 調査区近景（Ⅰ区）

3. 調査区近景（Ⅰ区）

1. 調査区（Ⅱ区）

2. 調査区（Ⅱ区）

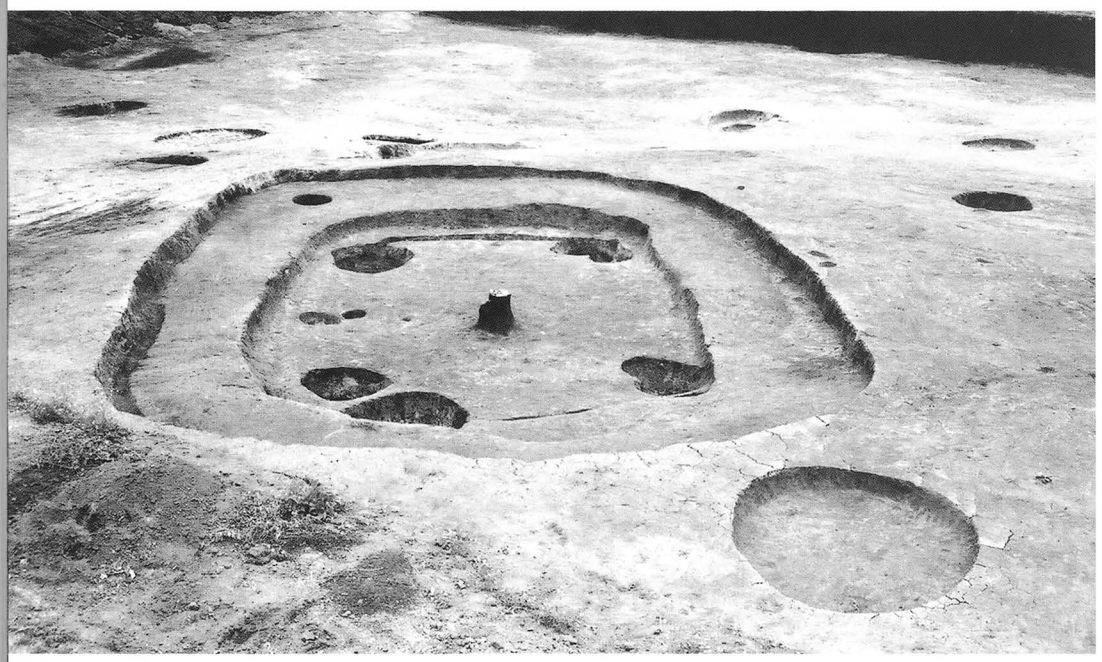
3. 調査区（Ⅱ区）

1. 住居跡SI01

2. 有段竪穴SI03

3. 有段竪穴SI04

1. 有段竪穴SI05



2. 有段竪穴SI06新期

3. 有段竪穴SI06旧・新期

1. 土坑SK29・30・35・37・38・40・43・44・47付近

2. 土坑SK45・46・56・69付近

3. 土坑SK49・52・54・55・63・70・108付近

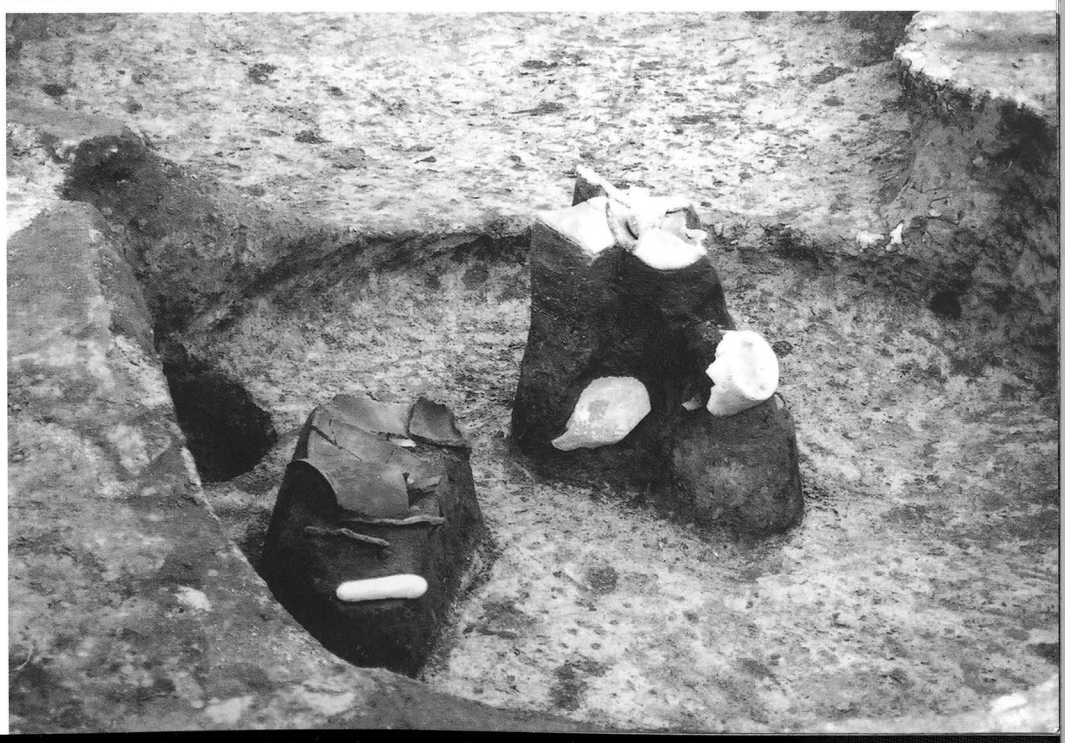
1. 土坑SK01・02・59・58・61・62付近

2. 土坑SK64～68付近

3. 土坑SK74～75付近

1. 住居跡SI01、土坑SK89・90・92・97・98付近

2. 土坑SK100・102・103・104・109付近



3. 土坑SK01

1. 土坑SK07

2. 土坑SK09

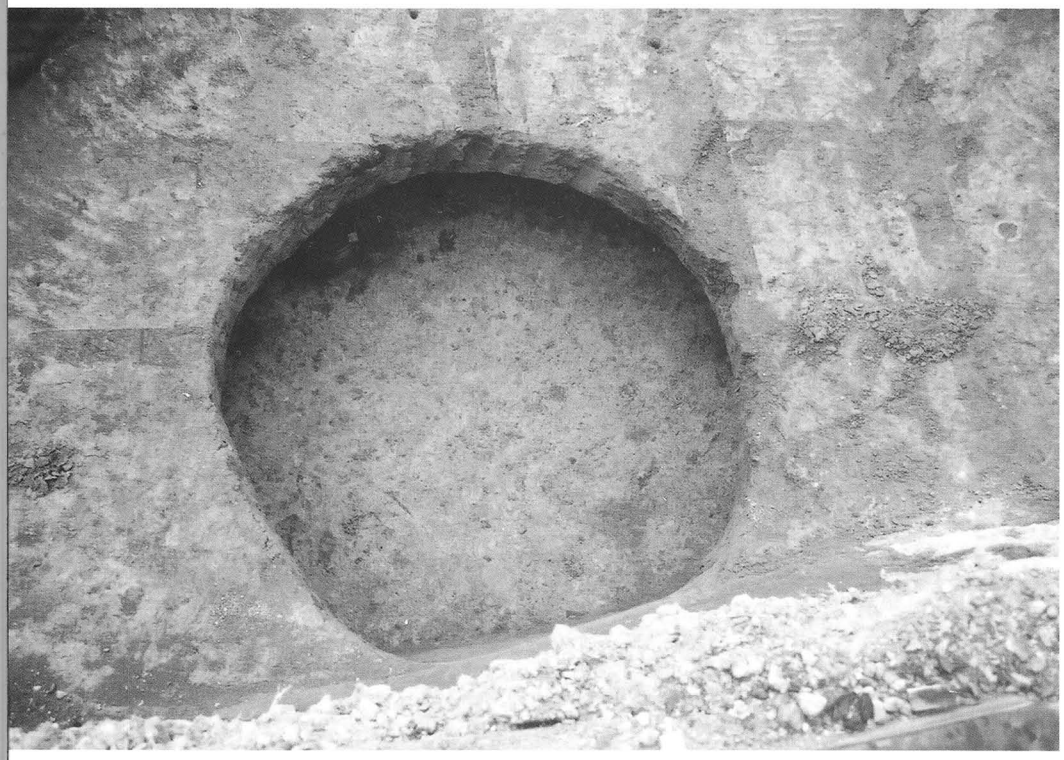
3. 土坑SK14

1. 土坑SK15

2. 土坑SK16(1)

3. 土坑SK16(2)

1. 土坑SK17

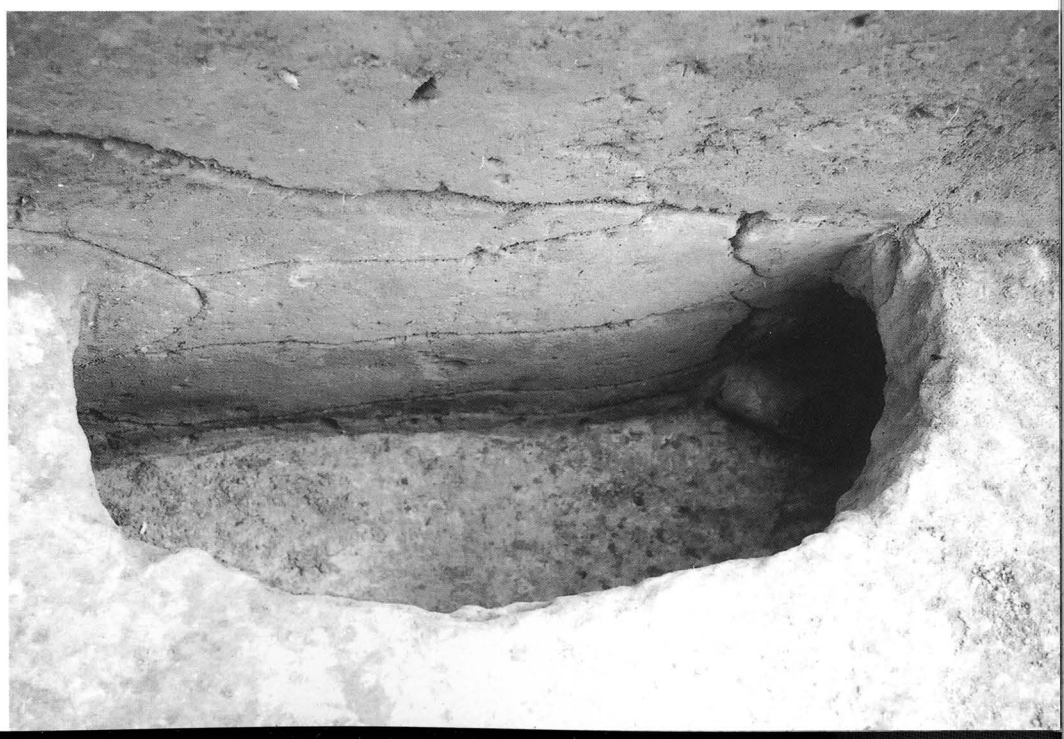


2. 土坑SK22

3. 土坑SK31

1. 土坑SK43

2. 土坑SK46



3. 土坑SK51

1. 土坑SK60

2. 土坑SK61

3. 土坑64

1. 土坑SK69

2. 土坑SK78

3. 土坑SK80

1. 土坑SK86

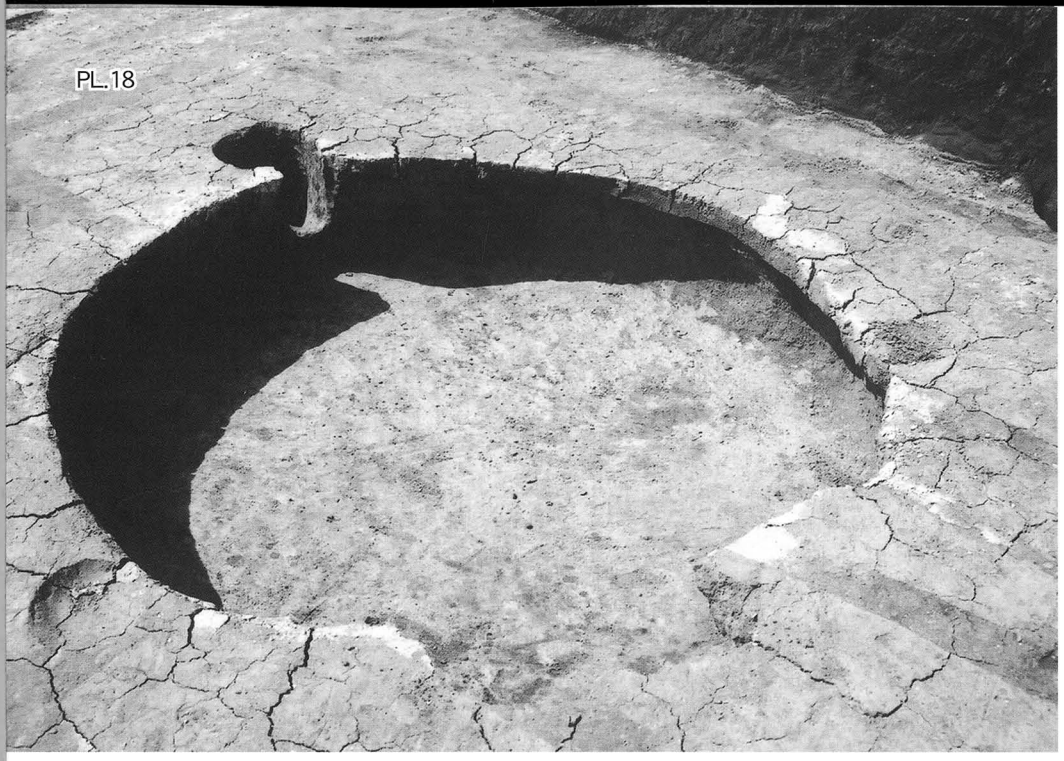
2. 土坑SK100

3. 土坑SK107

1. 土坑SK159

2. 土坑SK160

3. 土坑SK160・161・162付近



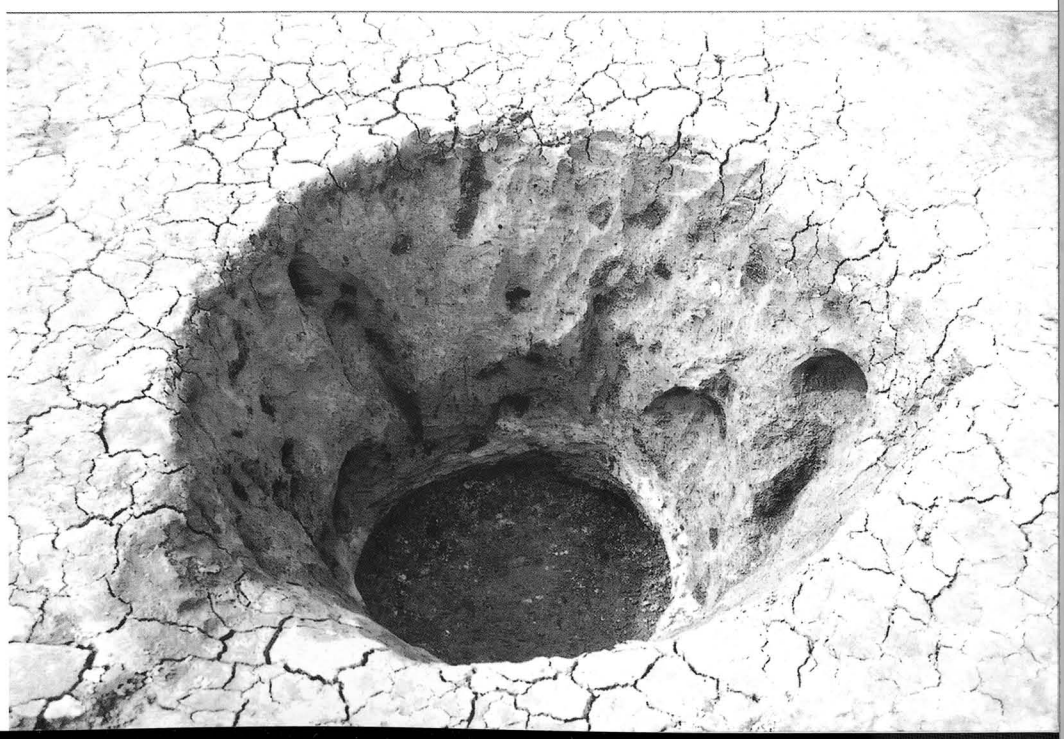
1. 土坑SK164

2. 土坑SK165

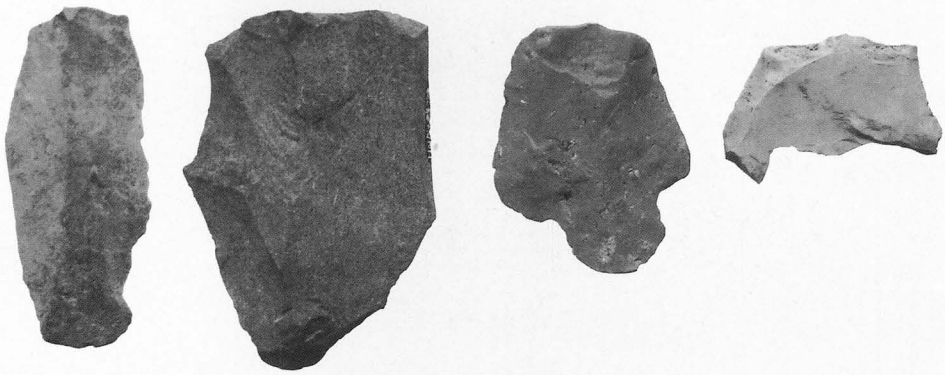
3. 基本層序

1. 住居跡SI02

2. 井戸SE02



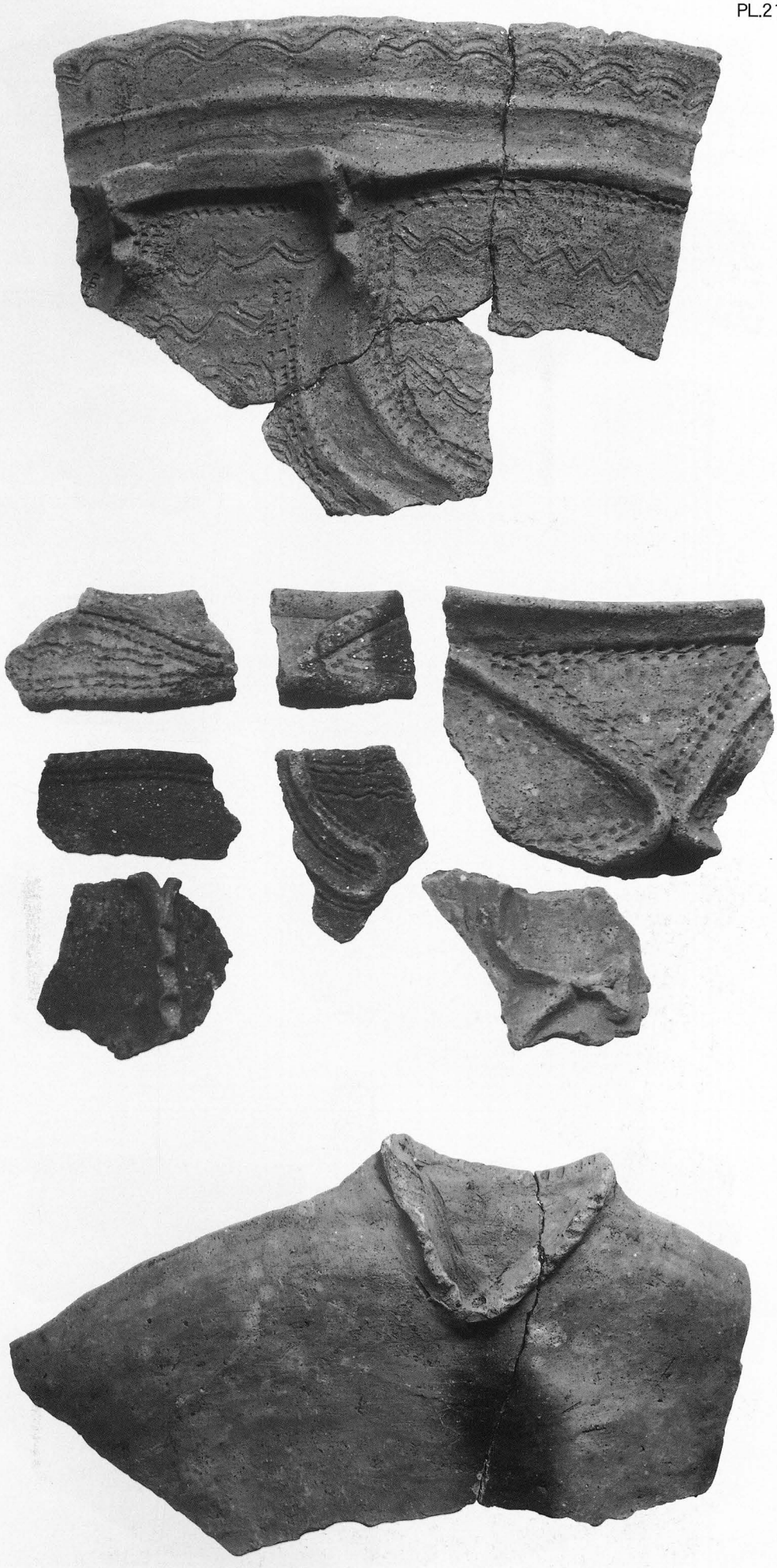
3. 井戸SE03



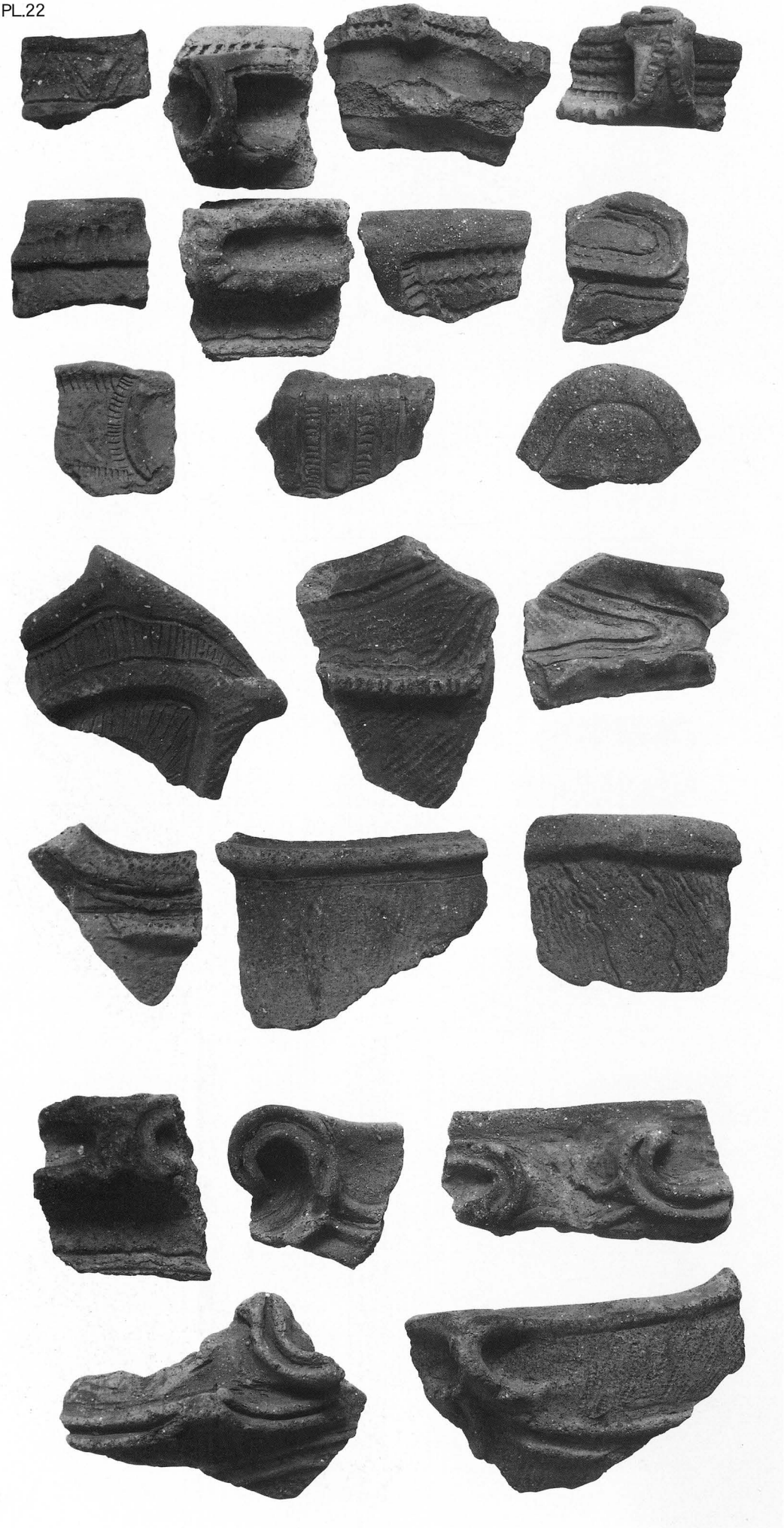
旧石器時代遺物

住居跡SI01

有段竪穴SI03



有段竪穴SI04

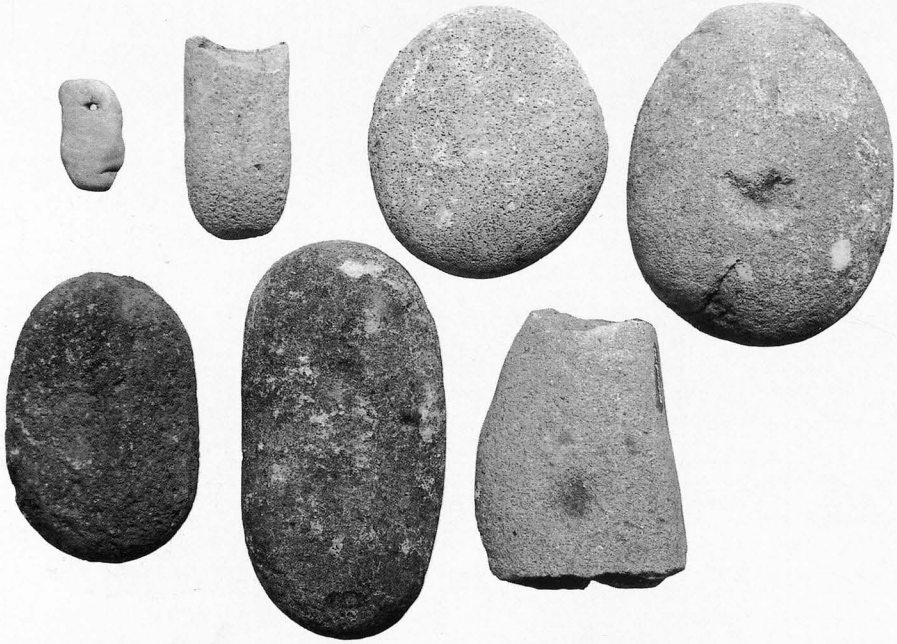


有段竪穴SI06(1)

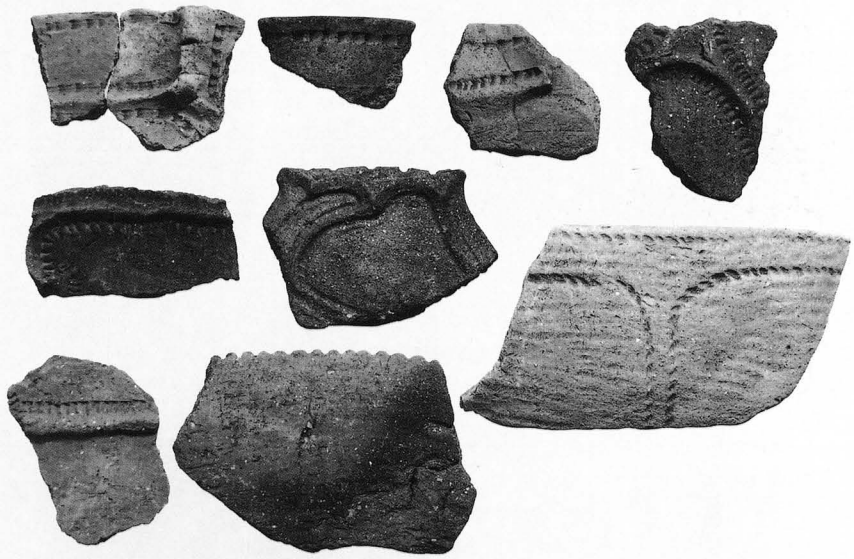
有段竪穴SI06(2)

有段竪穴SI03

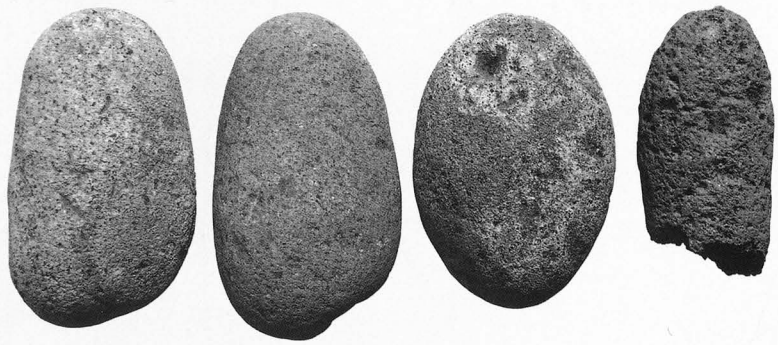
有段竪穴SI04



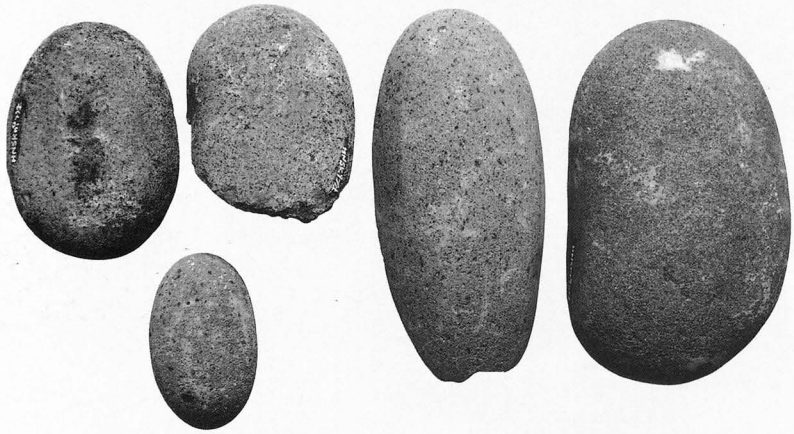
有段竪穴SI06

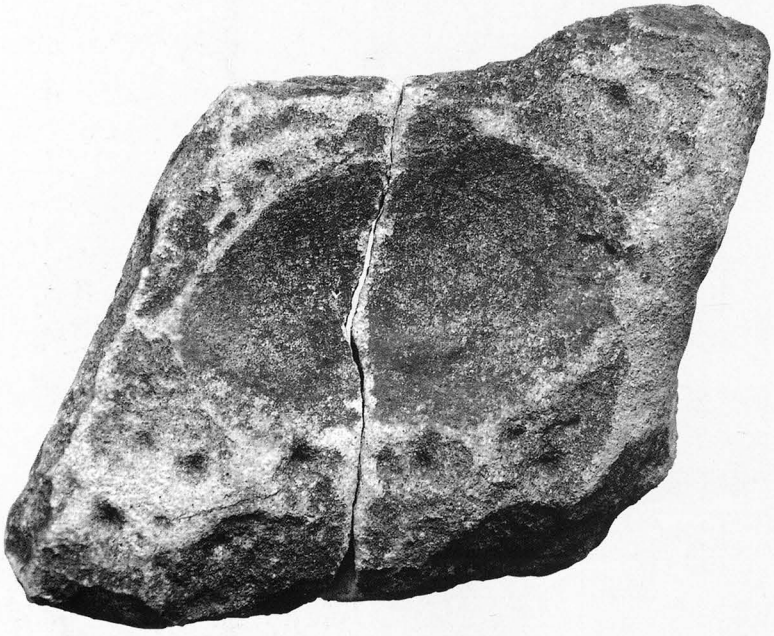


土坑SK01

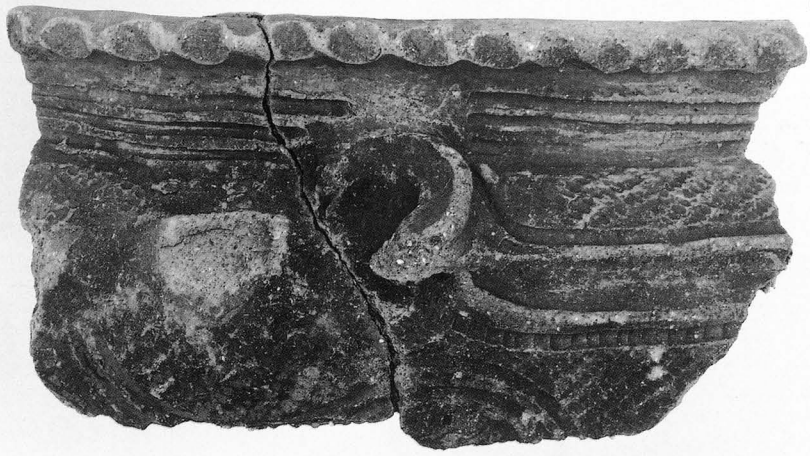


土坑SK07





土坑SK09



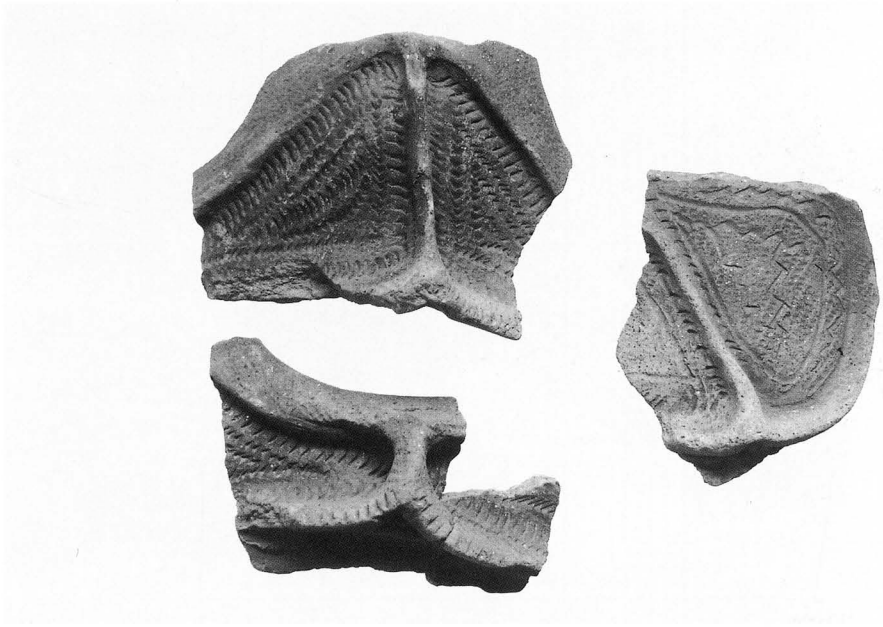
土坑SK10

土坑SK14(1)

土坑SK14(2)

土坑SK15

土坑SK16



土坑SK17

土坑SK22

PL.30

土坑SK30

土坑SK31

土坑SK34

土坑SK36

土坑SK42(1)

PL.32

土坑SK42(2)

土坑SK42
SK43（右端）

土坑SK45

土坑SK46

土坑SK48

土坑SK60(1)

土坑SK60(2)

土坑SK61

土坑SK64

土坑SK68(左)
土坑SK79(中)
土坑SK83(右)

土坑SK73

PL.36

SK77

SK78

SK78

SK78

SK78

SK78

土坑SK80

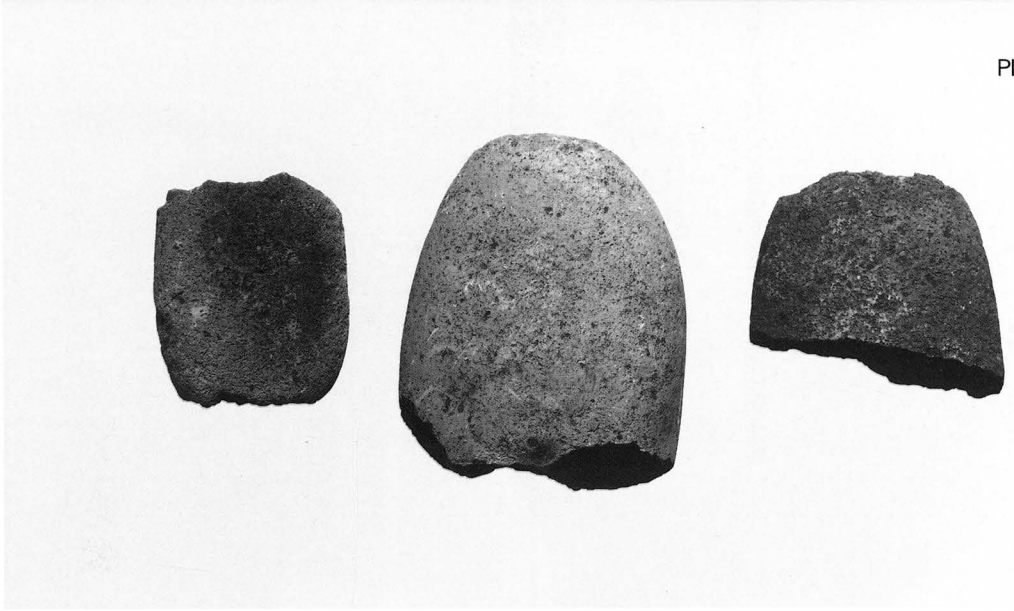
土坑SK86

PL.38

土坑SK88

土坑SK89

土坑SK91



土坑SK94

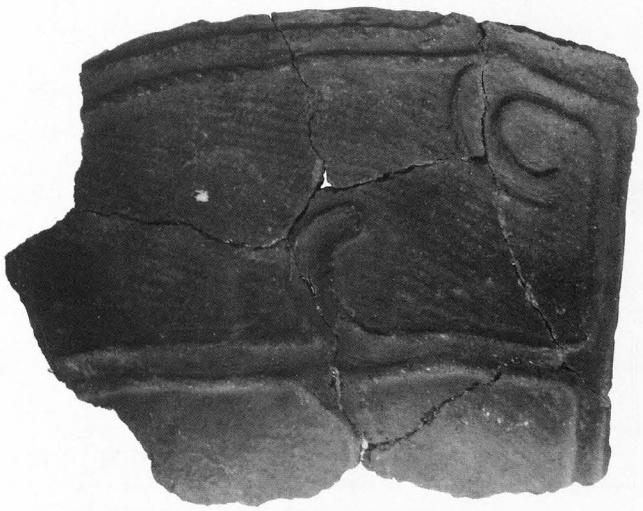
土坑SK100

SK107

SK121

SK155

SK159



土坑SK160

土坑SK174

住居跡SI02

報告書抄録

ふりがな	にしはなわいせき　はっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	西塙遺跡　発掘調査報告書
副 書 名	
編著者名	小川和博・大渕淳志
編集機関	有限会社 日考研茨城
所 在 地	〒300－0508　茨城県稲敷市佐倉3321－1　　TEL.029－892－1112
発行機関	有限会社　日考研茨城　　常陸大宮市教育委員会
所 在 地	〒319－2215　茨城県常陸大宮市中富町3135－6　　TEL.0295－52－1111㈹
発行年月日	平成21(2009)年９月30日

ふりがな 収録遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
にしはなわいせき 西塙遺跡	ひたちおおみやし 茨城県常陸大宮市 のぐち 野口2011－8他 17筆	344	081	36度 33分 06秒	140度 19分 45秒	20090206 ～ 20090430	7,650㎡	道路建設に伴う記録保存調査

遺跡名	種　別	主な時代	主　な　遺　構	主な遺物	特 記 事 項
西塙遺跡	集落跡	縄文時代 平安時代 中世	竪穴住居跡2軒、有段竪穴建物4軒、土坑174基、井戸跡6基	縄文土器、石器、土師器、須恵器	縄文時代中期の拠点的集落跡、平安時代の単独住居跡を検出し

要約

縄文時代中期中葉から後葉にかけての拠点的集落である。本調査区は昨年の継続調査で大規模集落であることが改めて確認された。今回集落の北側限界が把握できた。ここでは、竪穴建物5軒検出され、土坑群の周縁に展開しており、なかでも有段竪穴建物4軒の発見は特筆される。また土坑の多くはフラスコ型を呈し、土坑底面から完形に近い土器が多数出土している。この他に今回確認された縄文集落の周囲には、いわゆる離れ国分と称される平安時代の住居跡1軒と井戸跡を含む中世居住跡が検出された。

西塙遺跡

発行日　平成21（2009）年９月30日

編集者　有限会社　日考研茨城
茨城県稲敷市佐倉3321－1　TEL　029-892-1112

発　行　有限会社　日考研茨城
常陸大宮市教育委員会
茨城県常陸大宮市中富町3135－6　TEL　0295-52-1111

印　刷　有限会社　田　辺　印　刷
茨城県稲敷市佐倉3321－5